

大正十四年度直轄工事年報

内務省土木局

大正十四年度直轄工事年報目次

總論

第一	治水事業	一
第二	港灣改良事業	五
第三	復舊事業	七
第四	大正十四年度施行工事	七
第一章	河川改良工事	
第一	利根川改修工事	一三
第二	信濃川改修工事	三六
第三	吉野川改修工事	四四
第四	高梁川改修工事	五一
第五	渡良瀬川改修工事(利根川支川)	五六

第 六	北上川改修工事	六四
第 七	荒川改修工事	七一
第 八	阿賀野川改修工事	八六
第 九	最上川改修工事	九三
第一〇	雄物川改修工事	一〇〇
第一一	江合、鳴瀬兩川改修工事	一〇五
第一二	淀川改修増補工事	一一〇
第一三	千曲川改修工事(信濃川上流)	一二〇
第一四	加古川改修工事	一二八
第一五	岩木川改修工事	一三四
第一六	神通川改修工事	一三九
第一七	多摩川改修工事	一四九
第一八	阿賀川及阿武隈川改修工事	一五三

第一九	太田川改修工事	一五九
第二〇	富士川改修工事	一六四
第二一	圓山川改修工事	一七二
第二二	木曾川上流改修工事	一七八
第二三	斐伊川改修工事	一八七
第二四	信濃川上流改修工事(中越平野)	一九一
第二五	筑後川改修工事	一九六
第二六	天龍川改修工事	二〇〇
第二七	千代川改修工事	二〇四
第二八	蘆田川改修工事	二〇九
第二九	紀ノ川改修工事	二一三
第三〇	綠川改修工事	二一六
第二章	河川附屬物及水路維持	

第一 木曾川附屬物及水路維持……………二一九頁

第二 淀川附屬物及水路維持……………二二二

第三 利根、渡良瀬兩川維持……………二二六

第三章 砂防工事

第一 淀川流域砂防工事……………二二三

第二 桂川流域砂防工事(淀川支川)……………二三六

第三 大谷川流域砂防工事(利根川支川鬼怒川小支)……………二三八

第四 千曲川流域砂防工事(信濃川上流)……………二四一

第五 富士川流域砂防工事……………二四四

第六 神通川流域砂防工事……………二四八

第四章 港灣改良工事

第一 關門海峽改良工事……………二五一

第二 鹽釜港修築工事……………二五六

第三	新潟港修築工事	二六〇
第四	神戸港修築工事	二六七
第五	横濱港修築工事	二八四
第六	門司港修築工事	三〇一
第七	長崎港修築工事	三〇七
第八	清水港修築工事	三一二
第九	下關港修築工事	三二一
第一〇	敦賀港修築工事	三二八
第一一	高松港修築工事	三三三
第一二	境港修築工事	三四〇
第一三	今治港修築工事	三四四
第一四	鹿兒島港修築工事	三五一
第一五	小松島港修築工事	三五四

目次

第一六 伏木港修築工事……………三五八頁

第五章 復舊工事

第一 相模川外四箇川流域震災復舊砂防工事……………三六三

第二 横濱港震災復舊工事……………三七三

第三 利根、渡良瀬兩川水害復舊工事……………三八〇

口繪寫眞版(四面)

江戸川水堰及開門施工中ノ狀況 中之郷制水補修後ノ狀況 西原床固制水

下關港「ケーソン」進水ノ狀況

附錄 平面圖(別冊六十葉)

改修河川、港灣一覽圖 利根川(六葉) 信濃川 吉野川 高梁川(二

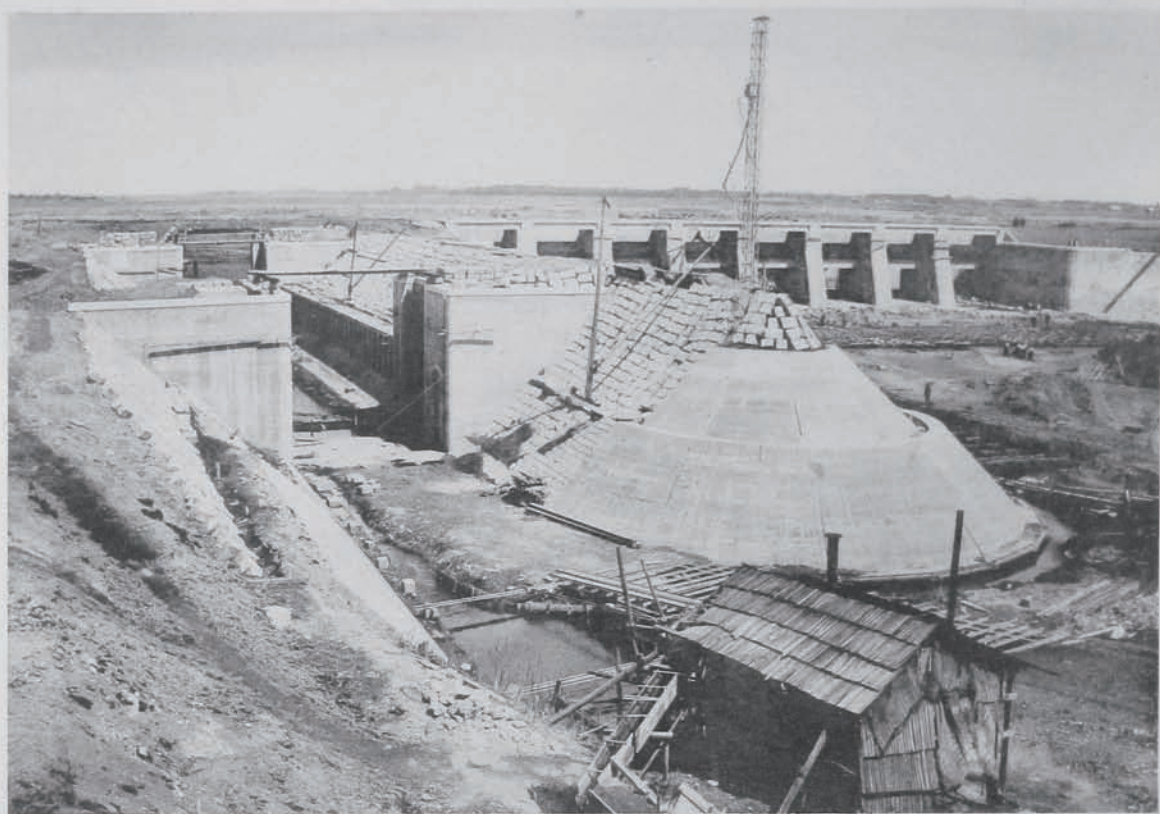
葉) 渡良瀬川 北上川 荒川(二葉) 阿賀野川 最上川 雄物川

江合、鳴瀬兩川 淀川改修増補 千曲川(三葉) 加古川 岩木川

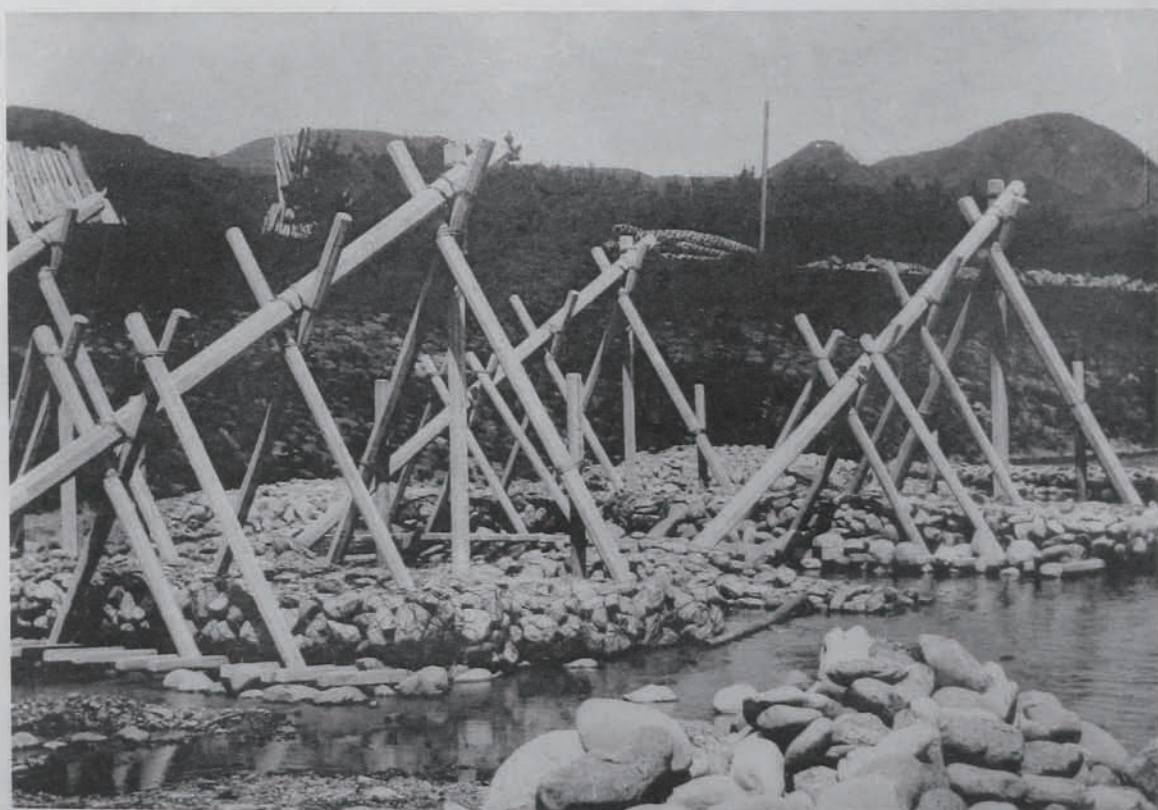
神通川 多摩川 阿賀川及阿武隈川(四葉) 太田川 富士川(二葉)

目次

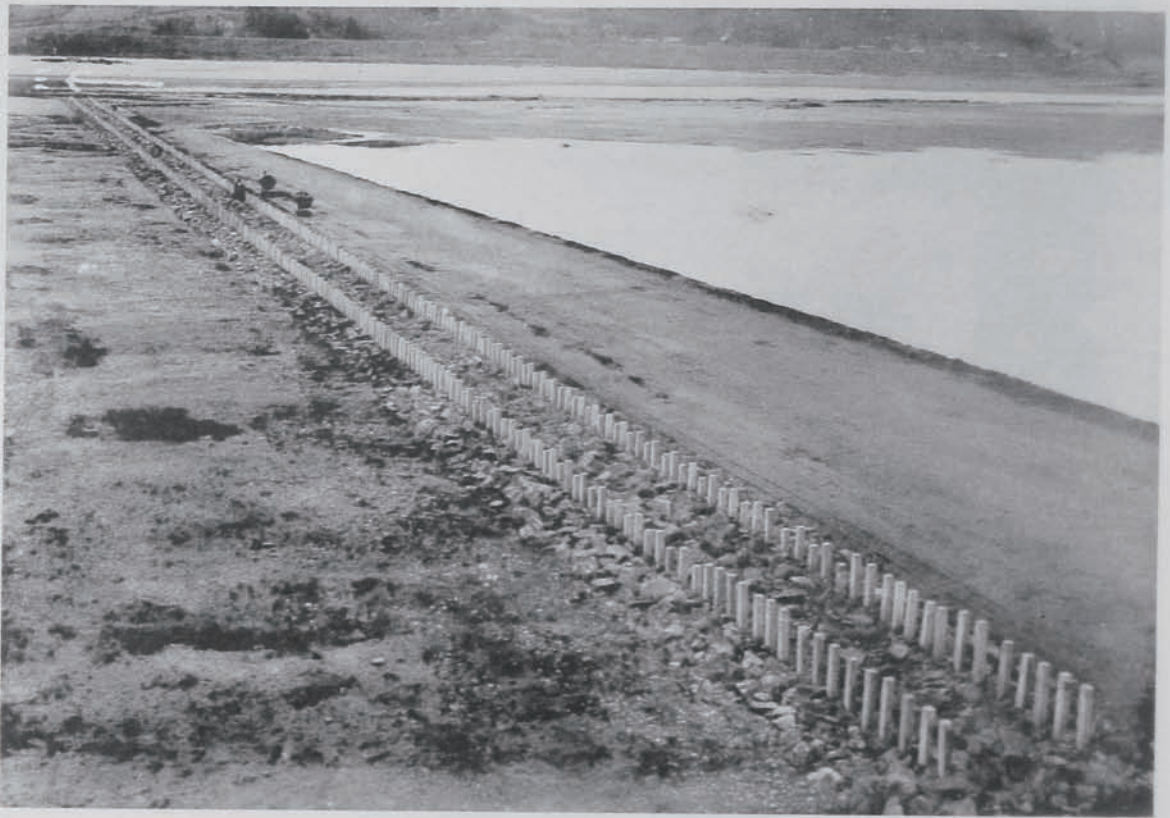
圓山川 木曾川上流 斐伊川 信濃川上流 筑後川 天龍川
千代川 蘆田川 紀ノ川 綠川
關門海峽 鹽釜港 新潟港 神戸港 橫濱港 門司港 長崎港
清水港 下關港 敦賀港 高松港 境港 今治港 鹿兒島港
小松島港 伏木港



江戶川堰及閘門施工中之狀況



（靜岡縣庵原郡富士川町大字岩淵）中之鄉制水補修後之狀況
 混凝土大壩一箇四組二箇所設



(村内河郡口淺縣山岡) 水 制 固 床 原 西
工 詰 石 打 抗 材 筋 鐵



況 狀 ノ 水 進 「シ ソ ー ケ」 港 關 下

大正十四年度直轄工事年報

總論

第一 治水事業

我國ハ古來水害多ク其損失價額モ年々數千萬圓ノ多キニ達スルヲ以テ政府ハ夙ニ治水ノ必要ヲ認メ河川ノ修築改良ニ努力セルコト久シ而シテ政府ガ始テ直轄工事ヲ施行シタル河川ハ淀川ニシテ其起工ハ實ニ明治七年五月ニ在リ次テ同八年六月利根川ノ工事ニ著手シ翌九年十一月ニハ信濃川ノ工事ヲ起シ同十一年三月ニハ木曾川、同十五年六月ニハ北上川、同年七月ニハ阿賀野川、同十六年八月ニハ富士川、同年十一月ニハ庄川、同十七年四月ニハ阿武隈川、同年七月ニハ最上川及筑後川、同年八月ニハ吉野川、同十八年三月ニハ大井川、同年六月ニハ天龍川ノ工事ヲ實施スルニ至リシガ是等十四河川ノ工事ハ専ラ低水工事及砂防工事ヲ施行シタリシモノニシテ明治十九年ニ至リ始テ淀川以外ノ河川ニ高水工事ヲモ併セ行フコトトシ夫々工事ヲ進行セシメタリ其後同二十九年四月ニ至リ法律第七十一號ヲ以テ河川法ヲ公布セラレタル結果、同法ニ依リ淀、筑後ノ兩川ニハ同年六月ヨリ高水防禦工事ヲ實施スル事トナリ續テ同三十年四月ニハ庄川、九頭龍川、同年九月ニハ利根川第一期工事、同三十九年四月ニハ遠賀川、同四十年四月ニハ淀川下流、吉野川、高梁川、信濃川分水工事、同四十一年一月ハ利根川第二期工事、同四十二年四月ニハ利根川第三期工事、同四十三年四月ニハ利根川支川渡良瀬川ノ改修工事ヲ施行スルニ至レリ然ルニ明治四十

三年ニ於テ全國各地方大水害ノ爲メ未曾有ノ悲惨事ヲ現出セルニ依リ政府ハ臨時治水調査會ヲ設ケ根本的治水ノ計畫ヲ樹立スル事トナリ同會ニ於テ決議シタル計畫豫算ヲ第三十七回帝國議會ニ提出シテ協賛ヲ得同四十四年度ヨリ該計畫通り事業ヲ遂行スルニ至レリ右計畫ハ河川改修ト砂防トノ二工事トシ河川ノ改修ハ河川法ニ依リ國ノ直轄事業トシテ改修ヲ爲スベキ河川ヲ六十五河川ト定メ之ガ施工時期ヲ二期ニ區別シ改修ノ利益ヲ可成的全國各地ニ均霑セシメントスルモノナリ其河川名即チ左ノ如シ

第一期河川

- | | | | | |
|-----|-----|------|-----|------|
| 利根川 | 信濃川 | 木曾川 | 淀川 | 九頭龍川 |
| 吉野川 | 庄川 | 高梁川 | 遠賀川 | 北上川 |
| 雄物川 | 荒川 | 阿賀野川 | 富士川 | 最上川 |
| 神通川 | 岩木川 | 加古川 | 綠川 | 斐伊川 |
- (以上二十河川)

第二期河川

- | | | | | |
|-----|---------|-----|-----|-----|
| 天龍川 | 阿武隈川 | 筑後川 | 那珂川 | 庄内川 |
| 中川 | 手取川 | 矢作川 | 大和川 | 吉井川 |
| 馬淵川 | 紀ノ川 | 大淀川 | 由良川 | 多摩川 |
| 關川 | 米代川 | 鳴瀨川 | 久慈川 | 菊池川 |
| 郷川 | 旭川 | 渡川 | 蘆田川 | 川内川 |
| 相坂川 | 千代川 | 鶴見川 | 大野川 | 球磨川 |
| 相模川 | 肱川 | 矢部川 | 狩野川 | 圓山川 |
| 肝屬川 | 太田川(静岡) | 豐川 | 白川 | 大分川 |

酒匂川 鈴鹿川 太田川(廣島) 名取川 仁淀川
 (以上四十五河川)

右ノ内第一期河川ハ大正十七年度迄ニ全部ヲ竣功セシメ第二期河川ハ第一期河川ノ工事期間内ニ調査ヲ行ヒ第一期河川改修工事ノ竣功ヲ俟チ改修ニ著手シ得ベキ準備ヲ爲スコトトシ又砂防工事ハ河川改修ノ計畫ニ伴ヒ直轄河川ノ流域ニ對シテハ國自ラ之ヲ施行スルヲ原則トシ地方行政廳ニ於テ施行スルモノニ對シテハ國庫ヨリ相當ノ補助ヲ與フルコトトセリ

以上ノ計畫ニ依リ明治四十四年度以降著々事業ノ進捗ニ努メタルモ大正二年度ニ至リ財政上ノ都合ニ依リ一部繰延ベノ不得止ニ至リタル爲メ第一期事業全體ノ完成年限ヲ一箇年度延長シ同十八年度迄ニ全部完成ノ事ニ變更シタルモ大正十年度ニ至リ第一期河川中既ニ竣功セルモノ三河川ト竣功ニ近ヅケルモノ數河川ニシテ未著手ノモノハ斐伊綠ノ二河川ニ過ギザルト一面ニハ河狀ノ變態産業ノ推移等治水計畫上更ニ調査ヲ必要トシタルヲ以テ第二臨時治水調査會ヲ慎重審議ノ結果既ニ國ニ於テ施行中ノ河川竝砂防工事ノ外ニ前記第二期河川其他ヨリ改修河川ヲ選定シ大正十一年度以降二十箇年度内ニ施工スルヲ適當ナリト認メ之レガ決定ヲ見タルモノ即チ左記河川是ナリ

- | | | | |
|--------------|--------------|-------------|------------|
| 鬼 怒 川(利根川支川) | 小 貝 川(利根川支川) | 信濃川上流(新潟縣下) | 犀 川(信濃川支川) |
| 野 洲 川(淀川支川) | 木 津 川(淀川支川) | 北上川上流 | 雄物川上流 |
| 最上川上流 | 天 龍 川 | 阿武隈川 | 筑 後 川 |
| 那 珂 川 | 庄 内 川 | 手 取 川 | 矢 作 川 |
| 大 和 川 | 吉 井 川 | 馬 淵 川 | 紀 ノ 川 |

總 論

大	久	川	相	豐	鈴	新	北	天	土										
淀	慈	内	模	川	鹿	宮	川	神	器										
川	川	川	川	川	川	川	川	川	川										
由	旭	千	肱	白	太	安	常	日											
良	川	代	川	川	田	倍	願	野											
川	川	川	川	川	川	川	寺	川											
					(廣島)														
關	渡	鶴	狩	大	名	菊	小	佐											
川	川	見	野	分	取	川	矢	波											
川	川	川	川	川	川	川	部	川											
米	蘆	大	肝	酒	仁	大	黑	那											
代	田	野	屬	旬	淀	井	部	賀											
川	川	川	川	川	川	川	川	川											

(以上五十七河川)

右ノ内第四十六帝國議會ニ於テ改修スベキ繼續事業トシテ協賛ヲ經タルモノハ天龍紀ノ、信濃上流、筑後、千代、蘆田ノ六河川ナリトス

斯ノ如ク政府ハ銳意河川改修工事ニ努力セリト雖モ其改修區域ハ利害ノ關係極メテ重大ナル部分ノミナルヲ以テ其上流又ハ支派川改修ノ如キハ自然之ヲ關係地方ノ經營ニ委ネザルベカラズ又第二期河川ノ改修ハ第一期河川工事ノ竣功後ニ非ザレバ著手スル能ハザルノ狀況ナルモ比年洪水頻リニ臻リ損害甚大ナルヲ以テ政府ハ益河川改修速成ノ緊要ナルヲ認メ關係府縣ニ於テ根本的改修計畫ノ調査ヲ了シ工事ニ著手スルニ於テハ國庫財政ノ都合ニ依リ相當補助ヲ與ヘ且場合ニ依リ明治三十年法律第三十七號ニ基キ内務大臣ニ於テ事業ヲ直接施行スルノ方針ヲ決定シ河川改良費トシテ大正六年度ヨリ江合、鳴

瀬兩川改修費中へ國庫ヨリ二分ノ一ヲ補助シ大正七年度ヨリ多摩川、信濃川上流、千曲川ノ改修工事ニモ亦工費ノ半額ヲ補助シ且其事業ヲ直接施行スルコトトナリ尙翌八年度ヨリハ太田川、阿賀川、阿武隈川ノ改修工事、同九年度ヨリハ圓山川ノ改修工事ニ對シ孰レモ半額ノ補助ヲ與へ且其工事ヲ全部直接施行スル事トナリシガ以上七河川トモ大正十二年度ヨリ他ノ河川ト共ニ直轄施行ノコトトナレリ

又淀川改修工事ハ大正六年九月三十日及同十月一日ノ大洪水ニ鑑ミ更ニ増補工事ヲ施行スルノ必要ヲ認メ大正七年度以降河川法第八條ニ依リ該工事ヲ直轄施行スルニ至レリ

第一期河川中既ニ完成ヲ告ゲタルモノハ淀川及同下流、利根川第一期、木曾川下流、庄川、九頭龍川、幹川及支川、足羽川、日野川、遠賀川ノ六流域ニシテ工事中ノモノハ淀川改修増補、利根川第二期及第三期(渡良瀬川、江戸川、中川ヲ含ム)、信濃川及同上流、新潟縣下、千曲川、木曾川上流、北上川、阿賀野川、富士川、最上川、筑後川、吉野川、高梁川、荒川上下流、雄物川、加古川、江合、鳴瀬兩川、岩木川、神通川、多摩川、阿賀、阿武隈兩川、太田川(靜岡)、圓山川、斐伊川、紀ノ川、千代川、蘆田川、綠川ノ二十六流域ナリ又砂防工事ノ竣功シタルハ吉野川及淀川支川野洲川ニシテ實施中ノモノハ淀川上流、同支川桂川、利根川支川大谷川、信濃川上流、千曲川、富士川、神通川ノ六河川ナリトス

第一 港灣改良事業

港灣改良工事ニ關シテハ明治初年以來或ハ直轄工事ヲ起シ或ハ國庫補助ヲ與へ之ガ助成ニ努力シタリシガ時運ノ急進ト共ニ港灣問題ハ益々重要ヲ加ヘタレバ明治三十三年六月勅令第二百六十二號ヲ以テ港灣調査會ヲ設ケ港灣ニ關スル重要事項ヲ審議セシメタリシモ同會ハ同三十六年ニ至リ各種ノ調査會

廢止ト共ニ一時廢絶シ其後同三十九年六月ニ至リ再ビ内務省ニ港灣調査會ヲ設置シ更ニ同四十年六月勅令第二百四十三號ヲ以テ港灣調査會官制ヲ定メラレ同會ニ於テ本邦ノ港灣ヲ三種ニ分チ第一ハ國ニ於テ修築スルモノ、第二ハ地方起工ノモノニ對シ國庫ヨリ相當補助ヲ與フルモノ、第三ハ地方ノ獨力經營ニ委ヌベキモノトニ區別シ即チ第一種港灣トシテハ横濱、神戸、關門海峽(下關、門司)、敦賀ノ五港ヲ選定シ第二種港灣トシテハ東京、伊勢灣内ノ一港、大阪、鹿兒島、長崎、境、新潟、船川(土崎ヲ含ム)、青森、仙臺(灣内ノ一港)ノ十港ト定メ其後伊勢灣内ノ一港トシテハ四日市港、仙臺灣内ノ一港トシテハ鹽釜港ヲ選定シ又名古屋港ヲ追加シ同九年ニ於テ清水、那覇ノ兩港ヲ同十年六月若松、高松、小松島、今治、伏木、伊萬里ノ六港ヲ加ヘ二十四港トセリ而シテ右ノ諸港灣中敦賀港ハ明治四十二年七月起工シ大正三年三月竣功セシモ其後第二期修築工事ヲ行フノ必要ヲ認メ同十一年度ヨリ起工ス又關門海峽改良工事ハ明治四十三年度ニ於テ起工シ又横濱港維持工事、神戸港防波堤築造工事、神戸港修築工事、門司港修築工事ハ大正八年度ヨリ起工シ、下關港ハ同十年度ヨリ起工シタリシガ其内横濱港維持工事、神戸港防波堤築造工事ハ同十年度ヨリ各修築工事ニ包含セラレ何レモ目下工事實施中ナリ又鹽釜港修築工事ハ工費二分ノ一ヲ補助セラレ同三年度ヨリ起工シ又新潟港修築工事ハ工費三分ノ一ヲ補助セラレ同六年度ヨリ起工シ又長崎修築工事ハ工費二分ノ一ヲ補助セラレ同九年度ヨリ起工シ又清水港修築工事モ工費二分ノ一ヲ補助セラレ同十年度ヨリ起工シ又高松港修築工事、境港修築工事ハ是亦工費二分ノ一ヲ補助セラレ同十一年度ヨリ起工シ今治港ハ今治市施行ヲ承ケ同十二年度ヨリ工費二分ノ一ヲ補助セラレテ續工シ小松島港及鹿兒島港モ同年度ヨリ起工シ伏木港ハ同十三年度ヨリ同一ノ補助率ニ依リ起工シ夫々工事實施中ナリ而シテ右補助港灣ノ工事ハ何レモ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行セルモノナリ其外四日市港ハ明治

四十三年度ヨリ、船川港ハ同四十四年度ヨリ、青森港ハ大正三年度ヨリ、大阪港、那覇港ハ共ニ同十一年度ヨリ何レモ工費二分ノ一ノ補助ヲ受ケ其府縣ニ於テ工事實施中ニ係レリ

第三 復舊事業

大正十二年九月一日關東地方ニ於ケル稀有ノ大震災ノ爲メ直轄事業其他ノ被リタル損害ハ多大ナルモノニシテ之レガ焦眉ノ急ト爲シ河川復舊工事トシテハ利根川及渡良瀬川、荒川、多摩川、富士川ノ五河川流域ニ對シ大正十二年度及同十三年度ノ兩年度ニ於テ應急施工シ又砂防復舊工事トシテハ相模川及酒匂川、早川、花水川、多摩川ノ五流域ニ對シ同十三年度以降十箇年度ノ繼續工事トシテ施工スルモノニシテ既ニ河川工事ハ豫定ノ如ク之ヲ完了シタリ尙横濱港ニ對シテハ同十二年度以降三箇年度施行ニ係リ其費額ハ從來ノ横濱港修築費ノ第三期工事ト共ニ横濱港復舊及修築費トシテ施工スルモノニシテ其復舊工事ハ本年度ヲ以テ完了シタルガ故ニ震災復舊事業トシテハ砂防工事ヲ剩スノミトナレリ又大正十四年八月中旬ニ於ケル近來稀有ノ出水ニ因リ利根川本流筋、派川、江戸川及支川、渡良瀬川ノ被害ニ對シ大正十四、十五ノ兩年度ニ於テ工費豫算五十九萬圓ヲ要シ之レガ復舊工事ヲ施行スルコトトナル

第四 大正十四年度施行工事

大正十四年度ニ於テ直轄工事ヲ施行シタルハ河川改良三十、河川附屬物及水路維持三、砂防六、港灣改良十六、復舊三、合計五十八工事ニシテ何レモ本省直轄ノ下ニ東京、横濱、仙臺、新潟、名古屋、大阪、神戸、下關ノ八土木出張所ニ於テ工事施行ノ任ニ當レリ而シテ是等ノ總工費豫算ハ河川改良工事費三億九千六百七十一萬一千五十五圓、河川附屬物及水路維持費七百一萬九千五百圓、砂防工事費三百八十九萬二千四百三十九圓、

港灣改良工事費一億五百二萬三千七百八十五圓、復舊工事費一千三百九十八萬八千七百七十五圓、合計五億二千六百六十三萬五千五百五十四圓ニシテ起工以來本年度迄ノ竣功額ヲ累算スレバ三億三百二萬七千七十圓ニ達シ其内本年度ノ竣功ニ屬スルモノ二千四百三十七萬一千八百八十五圓ナリトス而シテ本年度末竣功歩合ハ河川改良工事費ハ其總工費ノ五割五分九厘ニ當リ河川附屬物及水路維持費ハ同三割一分二厘、砂防工事費ハ同七割零分六厘、港灣改良工事費ハ同五割一分六厘、復舊工事費ハ同七割零分九厘ニシテ各工事ヲ通ジタル竣功歩合ハ五割七分九厘ニ當レリ

今以上ノ工事費ヲ各工事ニ區別シ更ニ其工事ノ著手順ニ依リ列記スレバ左表ノ如シ但シ前年報ニ比シ差違アルハ工事費豫算ヲ改訂セルト竣功セルモノヲ除キタルト新規著手ノ分ヲ加ヘタルト正誤ヲ爲シタルモノアル等ニ因ル又表中「×」ハ直營所出石材及採集砂利價額、「△」ハ製作品又ハ評價品價額、「□」ハ管理者負擔額、「○」ハ縣負擔額、「●」ハ民間負擔額、「○」ハ無償品使用見積額、「▲」ハ捨土出願者負擔額、「■」ハ寄附物品評價額「*」ハ保管轉換品價額、「●」ハ鐵道省依託工事費ヲ示ス

河川	工事名	工費豫算	竣功			殘高	竣功歩合
			前年度迄竣功高	本年度竣功高	合計		
利根川改修工事(東京)	信濃川改修工事(新潟)	六三、四〇三、二一七	五七、三一九、一一〇	一、六九九、九二一	五九、〇一九、〇三二	四、三三四、〇八六	〇・九一五
			一、〇九八、八〇一	三五、八〇一	一、四五六、〇〇二		
			一、〇九八、八〇一	三五、八〇一	一、四五六、〇〇二		
			一、〇九八、八〇一	三五、八〇一	一、四五六、〇〇二		
吉野川改修工事(大阪)	二二、五四一、九〇五	二二、六〇三、四〇六	二二、〇九八、八〇一	三、八六九、九八八	二二、九九〇、三九五	五五一、五一〇	〇・九七七
			一、〇九八、八〇一	三、八六九、九八八	二二、九九〇、三九五		
			一、〇九八、八〇一	三、八六九、九八八	二二、九九〇、三九五		
			一、〇九八、八〇一	三、八六九、九八八	二二、九九〇、三九五		
高梁川改修工事(大阪)	一、二二〇、一六二、八八五	一、二二〇、一六二、八八五	一、二二〇、一六二、八八五	四、九二二、三三九	一、二二〇、一六二、八八五	六二八、四九八	〇・九四八
			一、二二〇、一六二、八八五	四、九二二、三三九	一、二二〇、一六二、八八五		
			一、二二〇、一六二、八八五	四、九二二、三三九	一、二二〇、一六二、八八五		
			一、二二〇、一六二、八八五	四、九二二、三三九	一、二二〇、一六二、八八五		
高梁川改修工事(大阪)	七、九二六、〇八七	七、九二六、〇八七	七、九二六、〇八七	二、〇五二、二六八	七、七六九、四六九	一五六、六一八	〇・九八〇
			七、九二六、〇八七	二、〇五二、二六八	七、七六九、四六九		
			七、九二六、〇八七	二、〇五二、二六八	七、七六九、四六九		
			七、九二六、〇八七	二、〇五二、二六八	七、七六九、四六九		

事	工	良	改
圓山川改修工事(大阪)	五、九一一、〇〇〇	*〇〇□X	二、一二七、四〇六 二、一二二、二五五 一、一六、六七四 一、一七四、二四二
富士川改修工事(東京)	一、二〇〇、〇〇〇	△	三、一四、二四八 三、一四、二四八 三、一四、二四八 三、一四、二四八
太田川改修工事(名古屋)	四、八四三、〇〇〇	△△	四、六三、二二三 三、〇一、二七九 三、〇一、二七九 三、〇一、二七九
阿賀川及阿武隈川改修工事(仙臺)	一、三、九二八、一一〇	△△	四、五九、四一五 四、五九、四一五 四、五九、四一五 四、五九、四一五
多摩川改修工事(東京)	七、七六二、〇〇〇	△△	四、〇七、二六四 四、〇七、二六四 四、〇七、二六四 四、〇七、二六四
神通川改修工事(新潟)	九、一一二、五〇〇	△△	四、〇九、九九四 四、〇九、九九四 四、〇九、九九四 四、〇九、九九四
岩木川改修工事(仙臺)	一〇、四〇〇、〇〇〇	△△	四、一六、四六七 四、一六、四六七 四、一六、四六七 四、一六、四六七
加古川改修工事(大阪)	七、八五〇、〇〇〇	△△	二、九一、三四六 二、九一、三四六 二、九一、三四六 二、九一、三四六
千曲川改修工事(新潟)	一、二、一〇四、〇〇〇	△△	二、八六、六 二、八六、六 二、八六、六 二、八六、六
淀川改修増補工事(大阪)	一、二、〇一三、〇五一	△△	二、二、二、六三六 二、二、二、六三六 二、二、二、六三六 二、二、二、六三六
江合、鳴瀬兩川改修工事(仙臺)	六、四七四、〇〇〇	△△	四、一八、九五三 四、一八、九五三 四、一八、九五三 四、一八、九五三
雄物川改修工事(仙臺)	一、一、七〇〇、〇〇〇	△△	五、一三、四、一七二 五、一三、四、一七二 五、一三、四、一七二 五、一三、四、一七二
最上川改修工事(新潟)	一、五、〇〇〇、〇〇〇	△△	六、三、七、八、八七二 六、三、七、八、八七二 六、三、七、八、八七二 六、三、七、八、八七二
阿賀野川改修工事(新潟)	一、二、〇〇〇、〇〇〇	△△	八、七、九、九、九六四 八、七、九、九、九六四 八、七、九、九、九六四 八、七、九、九、九六四
荒川改修工事(東京)	五、三、一、四四、〇〇〇	△△	一、〇、七、一、三、一二九 一、〇、七、一、三、一二九 一、〇、七、一、三、一二九 一、〇、七、一、三、一二九
北上川改修工事(仙臺)	一、三、三、三二、〇〇〇	△△	一、〇、九、八、八、一八八 一、〇、九、八、八、一八八 一、〇、九、八、八、一八八 一、〇、九、八、八、一八八
渡良瀬川改修工事(東京)	一、一、四〇〇、〇〇〇	△△	二、五、四、七、七、九 二、五、四、七、七、九 二、五、四、七、七、九 二、五、四、七、七、九

防砂	河川及水路 附屬物 維持	河川改良工事			工費豫算	竣功高			殘高	竣功
		小	計(三〇)	大		前年度	本年度	合計		
木曾川上流改修工事(名古屋)	木曾川附屬物及水路維持(名古屋)	三九六、七二一、〇五五	二二〇、二二一、三八九	一三三、八五四、六四七	二、三三三、九七六、〇三六	一六二、七三五、〇一九	〇・五五九	二〇、〇〇〇、〇〇〇	〇・二〇五	
斐伊川改修工事(大阪)	淀川附屬物及水路維持(大阪)	六、二〇〇、〇〇〇	七五九、八七九、一八八	二四九、六四二	四、一〇六、四三二	一五、八九三、五六八	〇・〇五八	六、二〇〇、〇〇〇	〇・〇五八	
信濃川上流改修工事(新潟)	利根、渡良瀬兩川維持(東京)	六、六〇〇、〇〇〇	四〇三、三三四	七〇、七四六	一、七八、一四七	五、八三八、二八二	〇・〇二七	六、六〇〇、〇〇〇	〇・〇二七	
筑後川改修工事(下關)	淀川流域砂防工事(大阪)	一、三三〇、〇〇〇	五七四、五二二	二九一、六一〇	八六六、一三二	一〇、四八七、四六二	〇・〇七四	一、三三〇、〇〇〇	〇・〇七四	
天龍川改修工事(名古屋)	桂川流域砂防工事(大阪)	六、六〇〇、〇〇〇	四〇三、三三四	七〇、七四六	一、七八、一四七	六、五六六、八一	〇・〇〇五	六、六〇〇、〇〇〇	〇・〇〇五	
千代川改修工事(大阪)	大谷川流域砂防工事(東京)	五、六六〇、〇〇〇	五七四、五二二	二九一、六一〇	八六六、一三二	六、五六六、八一	〇・〇〇五	五、六六〇、〇〇〇	〇・〇〇五	
蘆田川改修工事(下關)	計(三二)	四、七二〇、〇〇〇	一、七三七、七三五	四五〇、七三三	二、一八八、四六八	一六二、七三五、〇一九	〇・五五九	四、七二〇、〇〇〇	〇・五五九	
紀ノ川改修工事(大阪)	淀川流域砂防工事(大阪)	四、〇〇〇、〇〇〇	五七四、五二二	二九一、六一〇	八六六、一三二	一六二、七三五、〇一九	〇・五五九	四、〇〇〇、〇〇〇	〇・五五九	
綠川改修工事(下關)	防砂	四、〇〇〇、〇〇〇	三三四、〇五一	五三、〇四一	三九三、〇九二	二六〇、九〇八	〇・六二七	四、〇〇〇、〇〇〇	〇・六二七	

事	工	良	改	灣	港	事	工
鹿兒島港修築工事(下關)	今治港修築工事(神戸)	境港修築工事(大阪)	高松港修築工事(神戸)	敦賀港修築工事(名古屋)	下關港修築工事(下關)	清水港修築工事(横濱)	長崎港修築工事(下關)
二、八〇五、六〇〇	二、八一七、〇〇〇	一、六九〇、一〇〇〇	二、〇六〇、〇〇〇	三、一九〇、〇〇〇	三、三六三、七一九	五、七〇二、一〇〇〇	二、三三三、二〇〇〇
△	×	○△×	×	△×	△	●	△
二、三三、二九四	二、七三、七五〇 二、三三、六一三	四二四、九八四 四一、三二六 一一	一、〇〇六、七四〇 二、七九〇	三、八四、七二一 三、六八五	一、二六八、六一〇 六、九五五	三、〇五五、九〇六 一四、九四八	一、七七〇、三二三 五、五六五
△	×	○△×	×	△×	△	●	△
二九七、五九八 一六八八	一四六、三〇八 八、一三六	一六八、四七〇 一三五、六二四 一九、一一七 三七	二八九、四五七 一〇〇、五五六	三一、二、二四一 四二、四五一	三三五、一〇七 七、〇三二	七八九、九六五 九五、七二五	二、三一、七四六 六、四四三
△	×	○△×	×	△×	△	●	△
三二〇、八九二 一六八八	四二〇、〇五八 三一、七四九	五九三、四五四 七六、九五〇 一九、一一七 一五	一、二九六、一九七 一三、三四六	六九六、九六二 四二、二一四 一三、一一六	一、六〇三、七一一 一三、九八七	三、八四五、八七一 一一〇、六七三	二、〇〇三、〇六九 一、〇〇〇、〇〇八
二、四八四、七〇八	二、三九六、九四二	一、〇九六、六四六	七六三、八〇三	二、四九三、〇三八	一、七六〇、〇〇〇	一、八五六、二二九	三、二五、一三一
〇・一一四	〇・一四九	〇・三五二	〇・六二九	〇・二一八	〇・四七七	〇・六七四	〇・八六〇
關門海峽改良工事(下關)	鹽釜港修築工事(仙臺)	新瀉港修築工事(新瀉)	神戸港修築工事(神戸)	横濱港修築工事(横濱)	門司港修築工事(下關)	長崎港修築工事(下關)	清水港修築工事(横濱)
一、三、一一二、〇一一	五、一九七、二〇〇	二、一七四、九三六	三、五、六八、六〇一	一、二、八〇〇、〇〇〇	四、九三五、三二〇	二、三三三、二〇〇	五、七〇二、一〇〇〇
△	△	△	△×	△×	△	△	●
一〇、七九四、九三〇 四七三、〇八九	三、〇三三、四九七	一、七九二、一一五	一、七、〇八六、八二七 二、〇四〇、六七八 二、〇四〇、六七八	二、六六八、九二二	三、二五八、二〇四 三、四七一、三	一、七七〇、三二三 五、五六五	三、〇五五、九〇六 一四、九四八
△	△	△	△×	△×	△	△	●
六五七、七一九 四二、五三七	二、五三、四八六	三、七八、四五三	一、九七四、三九八 二、四六、七〇〇 六九五、八一〇 九〇七、五九六	九〇七、五九六	三、二一、三一〇 二、五三五	二、三一、七四六 六、四四三	七八九、九六五 九五、七二五
△	△	△	△×	△×	△	△	●
一、一、四五二、六四九 五一五、六二六	三、二八五、九八三	二、一七〇、五六八	一、九〇六、二二五 一、一八九、七〇〇 二、七三六、四八七 三、五七六、五一八	三、五七九、五一八 三七、二四八	二、〇〇三、〇六九 一、〇〇〇、〇〇八	二、〇〇三、〇六九 一、〇〇〇、〇〇八	三、八四五、八七一 一一〇、六七三
一、一、四四、六四七	一、六五九、三六二	一、九一一、二一七	一、六一〇、七、三七六 一、〇一七、三七六	九、二二三、四八二	一、三五五、八〇六	一、三五五、八〇六	三、二五、一三一
〇・七〇六	〇・八七三	〇・六三二	一・〇〇〇	〇・五四二	〇・七二五	〇・七二五	〇・八六〇
計(六)	計(六)	計(六)	計(六)	計(六)	計(六)	計(六)	計(六)
三、八九二、四三九	二、五四九、五七〇	一、九八、二二二	二、七四七、七九二	二、七四七、七九二	一、一四四、六四七	一、一四四、六四七	〇・七〇六
千曲川流域砂防工事(新瀉)	富士川流域砂防工事(東京)	神通川流域砂防工事(新瀉)					
七五六、六〇〇	一、四〇一、〇〇〇	二、九四、八三九					
四四三、二〇三	一、〇〇五、〇四二	一、六一、四九九					
三九、六〇四	五二、〇八〇	一、六、八九二					
四八二、八〇七	一、〇五七、一二二	一、七八、三五五					
二、七三、七九三	三、四三、七八八	一、一六、四八八					
〇・六三八	〇・七五五	〇・六〇五					

工 事 名	工 費 豫 算		竣 功 高			殘 高	步 竣 功 合
	前年度迄竣功高	本年度竣功高	合 計	期分厘			
港良 灣工 改事	小 計(一六)	一〇五、〇二三、七八五	四六、九三三、一五七	七、二六七、八九〇	五四、二〇一、〇四七	五〇、八二二、七三八	〇・五一六
小松島港修築工事(神戸)		三、〇一一、〇〇〇	七〇、七七九	九七、八〇八	一六八、五八七	二、八四二、四一三	〇・五六〇
伏木港修築工事(新潟)		四、六六九、〇〇〇	二〇、五五五	一〇六、二二八	一二六、七八三	四、五四二、二一七	〇・〇二七
復 舊 工 事	小 計(三二)	一三、九八八、七七五	七、三八六、四九九	二、五二七、二二八	九、九一三、七二七	四、〇七五、〇四八	〇・七〇九
相模川外四河川流域(東京)		四、五五〇、〇〇〇	一九五、九四六	四四二、二七八	六三八、二二四	三、九一一、七七六	〇・一四〇
震災復舊砂防工事		八、八四八、七七五	七、一九〇、五五三	一、八〇五、八二八	八、九九六、三八一	—	一・〇〇〇
横濱港震災復舊工事(横濱)		五九〇、〇〇〇	—	二七九、一二二	二七九、一二二	三一〇、八七八	〇・四七三
利根渡良瀬兩川水害(東京)							
總 計(五八)		五二六、六三五、五五四	二七八、七二八、三五〇	二四、二九八、七二〇	三〇三、〇二七、〇七〇	二二三、六〇八、四八四	〇・五七九

第一章 河川改良工事

第一 利根川改修工事

(東京土木出張所)

緒言

本工事ハ明治三十三年度ヨリ大正十八年度ニ至ル三十箇年度繼續事業トシテ總工費六千三百四十萬三千百十七圓四十八錢五厘ヲ以テ群馬縣佐波郡芝根村以下千葉縣海上郡銚子町海口ニ至ル二百籽及派川江戸川竝中川ノ改修工事ヲ施行スルモノトス

本工事ハ當初工費五百八十一萬四千二百二十六圓四十八錢五厘ヲ以テ第一期工事トシテ下流部タル千葉縣香取郡佐原町以下海ニ至ル間ヲ及五十一萬六千圓ヲ以テ埼玉縣大里郡妻沼町以下海ニ至ル間竝江戸川流頭附近ノ低水工事トヲ明治三十三年度ニ著手シ同四十二年度ニ於テ第一期工事ハ一旦竣功(低水工事ハ大正十一年度ニ竣功)シタリシガ先是八百二十一萬四千七百七十五圓ヲ以テ第二期工事トシテ茨城縣北相馬郡取手町、千葉縣香取郡佐原町間ヲ同四十年年度ニ著手シ續テ七百八十一萬一千九百十六圓ヲ以テ同四十二年度ヨリ其上流タル群馬縣佐波郡芝根村、茨城縣北相馬郡取手町間ヲ第三期工事トシテ著手シタリ此工費合計二千二百三十五萬六千八百十七圓四十八錢五厘ナリ然ルニ適々同四十三年ノ夏期ニ至リ稀有ノ出水ニ遭遇セシテ以テ第一期、第二期及第三期ノ既定計畫ニ擴張ヲ加ヘ増工事ヲ施スノ必要起レルト派川江戸川ヲ改修スルノ得策ナルヲ認メタルニ依リ工費一千三百二十萬圓ヲ追加(工費合計三千五百五十五萬六千八百十七圓四十八錢五厘)シ大正八年度ヲ以テ竣功期限トシ工事實施中ノ處其後精

確ナル調査ノ結果再ビ既定工費ニ増額ノ必要ヲ生ジタルト江戸川改修工事ノ爲メ同支川庄内古川ノ流路ヲ遮斷スル事トナリシヲ以テ之ヲ中川ニ注流セシメ(庄内古川ハ中川ノ附帶工事トシテ管理者ニ代リ國ニ於テ施行ス)且中川ノ改修工事ヲ行ハンガ爲メ同五年度以降工費七百三十八萬五千三百十五圓ヲ追加シ(工費合計四千二百九十四萬二千百三十二圓四十八錢五厘)施工年限ヲ四箇年度延長シ大正十二年度迄ニ竣功セシムル事トナリ引續キ施行中ノ處大正三年以來歐洲戰亂ノ餘波ヲ受ケ諸物價及勞銀ノ昂騰著シク爲メニ工費ニ不足ヲ生ジタルト第三期中川及低水工事ニ於ケル一部追加改修ノ必要ニ因ル工費トヲ合シ、二千七十六萬八千二百圓ノ増額方ヲ要求セシ所同十一年度以降ノ低水工事ハ利根、渡良瀬兩川維持工事ニ包含セラルルコトトナリタルヲ以テ右低水工費ヲ控除シタル二千四十六萬九百八十五圓ヲ追加セラレ竣功期限ヲ大正十六年度トシ前記ノ如ク總工費六千三百四十萬三千百十七圓四十八錢五厘ヲ以テ施行スル計畫ナリシガ其後更ニ施工年限ヲ二箇年度延長シ大正十八年度迄ニ施行スルコトトナレリ

河狀並計畫ノ大要

利根川ハ流域面積一萬五千七百六十二方籽ニシテ一府六縣ニ互リ流路總延長四千四百二籽五(内幹川三百二十二籽)航路延長八百五十二籽(内幹川二百七十四籽)ニ及ビ特ニ派川タル江戸川ヲ經テ沿川各地ト帝都トノ聯絡ヲ有ス灌溉區域十一萬七千六百七十七町步(内幹川三萬三千六百六十六町步)水害區域十三萬七千七百七十五町步(内幹川十二萬一千九百四十四町步)ニ上リ從來本川ノ最大洪水ハ約十年ニ一回ト稱セラレシガ近時著シク其度數ヲ増加シ明治二十三年、同二十九年、同三十一年、同三十五年、同三十九年、同四十年、同四十三

年、大正三年等大水害頻ニ臻リ以上八箇年ヲ平均スルモ實ニ三千四百七十八萬四千二百九十五圓ノ損害ヲ被レルノ狀況ニシテ最近非常ニ水害ヲ減少シタリト雖モ尙大正元年乃至同十年ノ平均水害損失額ハ三百七十萬九百九十八圓ノ多キニ達ス而シテ是等ハ農作物及堤防等ノ損害ノミヲ積算シタルモノニシテ其間接ノ被害タル交通、商業、衛生等數字ニ計上シ得ベカラザルモノニ至リテハ殆ント測知スベカラザルモノアリ若シ夫レ權現堂ヨリ上流右岸堤ノ破壞ヲ見ンカ洪水帝都ヲ襲フニ至ルヲ以テ本川ノ水災關係ハ古來最モ重大視セラレタルモノナリ蓋シ洪水ノ原因種々アルベシト雖モ河狀不良ニシテ堤塘薄弱、流積不足加フルニ漸次河床ノ埋沒ヲ來タシタルニ由因スルナランカ依テ本計畫ニ在テハ本川ノ流量ヲ左ノ如ク定メ之ヲ快疏スルノ河積ヲ保タシメ以テ洪水ヲ防禦セントスルニ在ルナリ

群馬縣佐波郡芝根村以下江戸川合流點ニ至ル 五、五七〇（支川渡良瀬川ノ流量ハ同川計畫ニ述ブルガ）
（如ク利根川最高水位ニ影響無キモノトス）
 江戸川ヘ分流 二、二三〇

江戸川ヘ分流以下鬼怒川合流點ニ至ル 三、三四〇

鬼怒川合流點以下海ニ至ル 四、三一〇（鬼怒川洪水量ノ内利根川最大高水流量ニ影響スルモノヲ九百七十四粒トス）

本川ノ堤防ハ右ノ流量ヲ標準トセル水位以上一米五乃至一米八ノ高サヲ保タシムルモノナリ元來五千五百七十立米ノ水量ハ本川ニ於テ五年乃至十年毎ニ襲來スル最大高水ヲ標準トセルモノナレドモ明治四十三年ノ洪水ノ如キハ六千九百六十粒ニ及ベルガ故ニ如斯場合ニ處スルガ爲メ前記ノ流量ヲ標準トセル水位以上尙零米九ノ増水ヲ見ルモノトシテ築堤ハ尙零米六乃至零米九ノ餘裕ヲ存セシムルモノトセリ

今各區ニ就キ改修計畫ヲ述ブレバ第三期改修區域ニ屬セル上流タル群馬縣佐波郡芝根村大字沼ノ上以

下埼玉縣大里郡妻沼町間ハ急流部ニシテ高水勾配五百分ノ一乃至一千五百分ノ一同上妻沼町以下茨城縣猿島都境町間ハ緩流部ニシテ二千二百分ノ一乃至三千三百分ノ一同上境町以下北相馬郡取手町間ハ鈍流部ニシテ五千五百分ノ一乃至一萬分ノ一ヲ有セシムル事トセリ幅員ニ於テハ前記沼ノ上以下邑樂郡永樂村大字赤岩ニ至ル間ハ利根川高原部ヨリ初テ平地ニ出デタル部分ニシテ所謂汎濫部ニ屬シ其河幅ハ廣大ニシテ砂礫ノ沈澱多ク洪水毎ニ流路ヲ變ジ舊堤ハ斷續不同且河狀最モ險惡ノ部分タリ故ニ本改修計畫ニ於テハ大略現川ヲ中心トシテ五百四十五米ノ河道ヲ設ケ法線内ハ掘鑿ヲ施シ所要ノ斷面ヲ與ヘ尙兩岸ニ三百六十四米ノ堤外地ヲ存セシメ游水區域トシ以テ危險性ノ河川ニ備ヘタリ然レドモ群馬縣佐波郡島村附近並同縣新田郡尾島町大字前小屋附近ハ屈曲甚シク流路モ數派ニ岐レ所謂亂流區域ナルヲ以テ在來ノ河身ニ關セズ計畫法線ヲ定メ不規則ヲ匡正シ禍根ヲ斷ツ事トセリ又埼玉縣大里郡中瀨村及同郡明戸村大字石塚同郡秦村附近ハ論所堤ヲ控ヘ數百年來水論絶ユルコト無キ箇所ナルヲ以テ何レモ新堤ヲ築造シテ水害ノ根源ヲ絶ツ事トシ其結果福川吐口ニハ逆水樋門ヲ設置スル事トセリ

烏川ハ殆ンド幹川ニ直角ヲ成シ合流スルガ爲メ幹川ノ水流ハ八丁河原ニ衝突シ次デ八斗島ヲ襲フノミナラズ烏川ハ幹川ノ爲メ流路ヲ支ヘラルルヲ以テ幹川ノ流身ヲ左方ニ轉ズル様法線ヲ選定シ前記赤岩以下千葉縣東葛飾郡福田村大字三ツ堀間ハ大體五百四十五米ノ河幅ヲ標準トシ法線ヲ規定セリ此區間ハ河狀比較的良好ナルヲ以テ可及的現川ニ依リ幅員ノ足ラザル部分ハ之ヲ擴張シ河積ノ足ラザル部分ハ掘鑿ヲ行ヒ河幅ニ餘地アル部分ハ舊態ニ委ネ河積ニ餘裕ヲ與フル方針ヲ採レリ其結果群馬縣邑樂郡富永、梅島、千江田ノ各村、埼玉縣北埼玉郡井泉、村君、大越ノ各村、茨城縣猿島郡新郷村大字中田、靜村大字塚崎、長須村、中川村大字蕙打、千葉縣東葛飾郡關宿町、川間村等ノ地先ハ何レモ引堤ヲ爲ス事トナレリ派川權現

堂川ハ分派點ニ於テ締切り專ラ赤堀川ヲ擴張シテ本川ト爲シタリ

木ノ崎地先ハ中利根川中著名ナル狹窄部ニシテ河幅僅ニ百二十三米六、河狀大屈曲ヲ成セルヲ以テ直路ヲ開鑿スル事トシタリ前記三ツ堀以下取手間ハ宛然游水地ノ如ク兩岸遠ク一千六百三十米乃至三千二百七十米ヲ隔テテ丘陵ニ依リ圍繞セラレ勾配極メテ緩ナルヲ以テ高水法線ヲ八百十八米ト定メ新堤ハ可成舊堤ヲ擴築シ游水地ノ働キヲ減殺セザル方針ヲ採レリ又鬼怒川ハ幹川ニ直角ヲ爲シテ合流シ幹川ノ洪水ヲ支ヘ其排除ヲ阻ム事大ナルヲ以テ吐口ヲ引下ゲ逆水ノ影響ヲ減少セシムルコトトセリ而シテ堤塘高ハ計畫洪水位上川俣鐵橋上流ハ一米八、其下流ハ一米五ト爲シ馬踏七米三、表裏二割法トシ川裏ニハ馬踏ヨリ一米八ヲ下リテ幅三米六ノ小段ヲ設ケ其レ以下ヲ三割法ト爲シ川表ハ馬踏ヨリ四米五下リテ相當前小段ヲ設クルコトトセリ

第二期改修區域ニ屬スル前記取手町以下佐原町ニ至ル間ハ河幅五百四十五米ヲ標準トシテ河道ヲ規定セルモ茨城縣北相馬郡布川町千葉縣東葛飾郡布佐町間ノ狹窄部ノ如キハ河幅ノ擴張ヲ許サザルニ依リ此部分ハ土砂ヲ浚渫シテ河積ヲ補フコトトシ茨城縣北相馬郡取手町字片井野村大字小堀間同縣稻敷郡生板村大字藤藏川岸ヨリ長戸川合流點ニ至ル間及千葉縣香取郡滑河町地先竝茨城縣稻敷郡金江津村、十余島村間、香取郡東大石村大字川尻ヨリ同村大字飯島ニ至ル各箇所ハ孰レモ新川ヲ開鑿シテ河道ヲ改メ流心ヲ匡正シ派川將監川ハ締切りテ廢川ト爲シ長戸川ト本川トノ合流點ニハ水門ヲ設ケ印旛沼ヘノ逆流ヲ遮斷シ霞ヶ浦沿岸ノ汎濫ヲ防止スル爲メ橫利根川合流口ニ閘門ヲ設置スル等ノ計畫ナリシガ明治四十三年八月ノ洪水ハ遙ニ同二十九年第一期、第二期共同年ノ出水ニ基キ流量三千七百五十立米トシテ計畫シタルモノノ水位ヲ超エタルヲ以テ既定計畫ヲ變更シ且追加スル必要ヲ生ジ洪水流量ハ之ヲ四千

三百十立米ト爲スノ可ナルヲ確メタリ然レドモ既ニ施行中ノ築堤ハ動カシ難キモノアリ高水波ノ推移上既定河幅ハ之ヲ變更スルノ不得策ナルヲ認メ上流ヨリ豊住村迄計畫高水位ヲ更ニ零米九ヲ高メ其レヨリ漸次減少セシメ下流佐原町附近ニ至リ從來ノ計畫高水位ニ合セシメ築堤ハ之ヲ擴大シ下流第一期改修部内ハ約零米三ノ嵩置ヲ施行スルコトトセリ又當初計畫ニ於テハ在來ノ堤塘ニシテ明治二十九年程度ノ出水ニ耐ユベキモノト認メタル所ハ其加工ヲ除キタレドモ追加計畫ニ於テハ之ヲ編入セリ即チ左岸取手町ヨリ金江津村ニ至ル間右岸千葉縣東葛飾郡我孫子町ヨリ印旛郡木下町ニ至ル間及右岸同縣香取郡佐原町ヨリ同郡津宮村ニ至ル間はナリ

要スルニ茨城縣北相馬郡取手町以下同郡小文間村ノ一部ヲ除キ總テ堤塘ヲ擴築又ハ新築連結セシメ遺ス所無カラシム又千葉縣香取郡橘村同縣海上郡椎柴村間ハ第一期改修區域ノ下流ニ位スレドモ改良河川ニ伴フ河潮兩水ノ關係大出水ノ影響ニ依リ水路ニ淺所ヲ生ジタルヲ以テ此部分ヲ浚深シ佐原町地内小野川口ニハ水門ヲ設ケ逆水ヲ防止スルコトトセリ支川小貝川ハ當初其合流點ニ逆水門ヲ築設スルノ計畫ナリシガ其後調査ノ結果之ヲ廢止シ上流茨城縣北相馬郡相馬町常磐線鐵道橋以下約七軒八ヲ改修スルコトトシ内上流半部ハ縣ノ施行ニ委ネ下流半部ハ國ニ於テ施行スルコトトナレリ然シテ幹川筋堤塘ハ其高ヲ計畫高水位上一米五ト爲シ馬踏五米五表裏共二割法ニシテ川表ハ馬踏ヨリ二米川裏ハ一米八ヲ下リテ各三米六ノ小段ヲ設ク但シ川裏小段以下ハ三割法ト爲シ尙法先ニ約三米六ノ餘地ヲ存セシメタリ支川小貝川堤塘ハ表小段及川裏ノ餘地ヲ廢シタル外幹川堤塘ト同形トス

江戸川改修區域ハ茨城縣猿島郡五霞村山王地先ヨリ開鑿シテ新川ヲ通ジ利根本川ト分流セシメ其流頭ニハ床固工ヲ施シ洪水ノ注入積ヲ規定シ尙低水路ニ開閉自在ノ洗堰ヲ設ケ其低水量ニ節制ヲ加フルト

同時ニ洪水量・一部ニモ亦節制ヲ加フルノ具タラシム蓋シ江戸川ノ最大洪水量ハ二千二百三十立米ナルヲ以テ其大部ヲ洪水敷ヨリ放流セシメ殘餘ヲ低水路ニ依ラシムルコトトシ洪水敷ニ於ケル流量ノ如何ニ依リ低水路ヨリスルモノヲ加減シ得ベカラシム低水時ニ於テ節制ヲ加フルノ要ハ本流利根川ト江戸川トノ間ニ存セル既往水位ノ關係ヲ改修後ニ於テモ尙保有セシメントスルニ外ナラズ又低水路ニハ閘門ヲ設ケ水運ノ便ニ資スルモノトス

江戸川河道ノ現状ハ大體良好ニシテ甚シキ迂曲無キヲ以テ流末ヲ除ク他ノ部分ハ全ク現川ニ沿ヒ或ハ左岸ニ或ハ右岸ニ河幅ヲ擴張スルコトトシ堤防ハ多ク舊堤ヲ利用シテ之ヲ増築シ又川床ヲ掘鑿シテ所要ノ河積ヲ與フルモノトス而シテ本川ノ低水路ハ利根沿岸ヨリ帝都ニ通ズル航路トシテ船舶ノ往來頗ル頻繁ナルヲ以テ成ルベク從來ノ低水路ニ觸ルルヲ避ケ堤外地洪水敷ノ掘鑿モ亦水位以上零米九ニ止ムルモノトシ以テ所要ノ河幅ヲ定メタリ如斯ニシテ流頭ヨリ下流行徳迄ハ全然現川ニ沿ヒ改修ヲ加フルモ行徳以下ハ流路迂回スルヲ以テ稍直線ニ新川ヲ開鑿シテ海ニ注ガシム而シテ行徳ニ於ケル現川遮斷口ニハ閘門ヲ設ケ既往航通ノ便ヲ保タシメ又洗堰ヲ設ケテ航行、灌漑ニ必要ナル水量ヲ通ズルモノトス而シテ河幅ハ流頭以下千葉縣東葛飾郡川間村大字東金野井迄ハ二百五十四米五、同所以下同郡野田町迄ハ二百三十六米三、野田町以下海口ニ至ル迄ハ四百米トス又堤高ハ計畫高水位以上一米五ト爲シ馬踏ハ五米五、表法ハ右岸二割五分、左岸二割ニシテ川裏ハ馬踏ヨリ一米五ヲ下リテ幅三米六ノ小段ヲ設ケ小段迄ヲ二割其レ以下ヲ三割法トス

中川改修區域ハ埼玉縣南葛飾郡松伏領村大字下赤岩以下東京府南葛飾郡奥戸村大字上平井迄延長二十三軒五地勢平坦ナルヲ以テ利根川本流其他ノ洪水ノ餘波ヲ被ラザル限リ本川自身ニ水害ヲ起スコト無

シト雖モ庄内古川外二惡水路ノ併合ニ依リ改修ノ必要ヲ生ジタルモノニシテ是等ノ流量ヲ新ニ増加スルモ現在ノ高水位ヲ昂メズ且沿岸ノ排水ニ惡影響ヲ與ヘザルコトヲ目的トス依テ現河底ヲ浚渫スルコト流心ニ於テ零米九乃至一米五トシ河積ヲ補充スルモノトシ只埼玉縣北葛飾郡古川町竝同縣南埼玉郡潮止村地先ハ甚シク屈曲セルヲ以テ直通ニ開鑿シテ新ニ河道ヲ設クルモノトス河幅ハ元荒川合流點迄ヲ百一米八トシ其下流ヲ百四十五米四トセリ而シテ築堤ハ前記吉川町及潮止村新水路ノ兩岸ニ新設スル外ハ二三箇所ノ移堤又ハ増築ニ止メ其他ハ大體舊堤ヲ其儘利用スルモノトス

庄内古川ハ江戸川右岸地方ノ諸惡水ヲ集メタル河川ナルガ江戸川改修ニ伴ヒ之ニ接觸セル十軒二餘ノ附替ヲ要スルニ至レルモノナレドモ同川ニ竝行施設スルヨリハ寧ロ近距離ノ中川ニ流落セシムル方水利上竝工費節約上得策ナルヲ認メ且其上流權現堂川ニ注グ羽生領(島川)及島中領ノ兩惡水路ノ改修ヲ要スルモノアルヲ以テ中川改修ノ附帶工事ト爲シ管理者ニ代リ國ニ於テ施行スルモノトス

施工狀況

第一期工事竝低水工事ハ既ニ竣功セルヲ以テ茲ニハ目下施工中ノ第二期第三期江戸川及中川ニ於ケル工事ノ概要ヲ記述スベシ

第二期改修工事ニ於テハ第一期工事ニ使用シタル諸機械ヲ其儘充用シ得ルノ便宜ヲ有シタルヲ以テ幸ニ施工準備ニ幾多ノ日子ヲ要セザリシガ土地ノ買收ニ在テハ明治四十年七月以降佐原安食滑河取手河原代ノ各町村ニ收用事務所ヲ設ケ大正三年度迄前後九箇年度ヲ費シ殆ンド全部買收スル事ヲ得タリ其後小許ノ追加買收ヲ爲シ其總段別一千四百八十四町九畝步此買收金額百五十九萬二千二百九十五圓地

上物件移轉料五十萬五千六百五十圓ナリトス而シテ其工事施行ニ關シテハ明治四十二年一月佐原町及安食町ニ工營所ヲ設ケ滑河町上流ハ安食同所以下ハ佐原ニテ分擔セシガ大正二年四月兩所ヲ合併シ安食町ニ改修事務所ヲ置キ全區域ヲ管セシム其後年ト共ニ功程益々進捗セシガ同六年度以降漸次戰時ノ好景況ニ伴ヒ物價ノ騰貴ト勞力ノ不足トニ依リ大ニ其功程ヲ妨ゲラレ又同十二年度ニ於テハ九月一日ニ於ケル大震災ニ因ル被害アリ更ニ本年八月中旬ニ於ケル稀有ノ出水ニ因ル被害等相次ギ是等復舊工事ノ爲メ改修工事ノ進捗ヲ阻碍セラレタルハ遺憾トスル所ナリ而シテ起工以來本年度迄ノ竣功高ハ築堤土運搬(利用土ヲ含ム)一千八百七十二萬三千六百七十二米、浚渫土量(利用土ヲ含ム)三千七十七萬八百三十七立米、護岸制水延長二萬五千八百九十一米、特種工事三箇所、附帶工事(直轄施行)六十一箇所トス本年度ニ於テハ取手町以下若松村ニ至ル七十九籽ノ間ニ取手、安食、佐原ノ三工場ヲ置キ其下ニ數箇所ノ見張所ヲ設ケ築堤四箇所、土量十三萬八百五十三立米、浚渫土量二千四百二十八立米、護岸制水七箇所延長四千六百六十八米、附帶工事八箇所ヲ施工シ工費合計八萬八千五百八十二圓ヲ支出シ外ニ附帶工事戶田井排水機、鐵管繼足工事ニ對シ國庫補助額一萬二千圓ヲ支出セリ今地方別ニ施工ノ概況ヲ述ブレバ取手新水路附近ノ新低水路開鑿工事ハ大正五年度ニ其附近兩岸ノ築堤工事ハ同十二年度迄ニ何レモ竣成シ中峠人力掘鑿ハ約八割ノ功程ヲ見ルニ至リ又新水路ニ沿ヒ施設スベキ取手、青山竝下流相野谷ノ各制水ハ略竣成シ湖北制水ハ漸ク七割ノ竣功ヲ告ゲ永年亂流ナリシ河道ハ漸次改善ノ域ニ進ミツツアルナリ

木下附近ニ於テハ布佐、布川狹窄部ノ切取擴張工事及低水路ノ機械浚渫工其他兩岸築堤工事ハ同十二年度迄ニ竣成シ護岸制水工亦大約其施工ヲ終リ本年度著手ノ竹袋護岸ハ其一割ヲ竣成セリ

安食附近ニ於ケル新川開鑿工事及印旛水門等ノ主要工事ハ曩ニ竣成シ右岸長戸川締切ヲ含メル安食築堤其他兩岸築堤ハ何レモ前年度迄ニ完成シ安食制水ハ前年度ヨリ續工シテ沈床二千百籽ヲ施工シ約七割ノ功程ヲ進メ十里護岸ハ六割ノ進捗ヲ見、十角坑樋ハ基礎工事竝ニ樋管本體混凝土工ノミヲ竣ヘ未竣功ニ終リシモ同十五年夏季出水期迄ニハ略竣成スルニ至ルベシ

佐原附近ニ於テハ横利根閘門及小野川水門等ノ主要工事ハ曩ニ竣成シ横利根川締切築堤ニ添ヘル長三百五十五米ノ横利根護岸ハ同十二年度ヨリ續工シ本年度ニ於テ竣功セシメタリ

小見川附近ニ於テハ既ニ第一期工事ニ於テ竣功セル堤塘ニ嵩置ヲ施行スル追加工事ニシテ右岸大倉左岸佐津ノ兩築堤竝下流左岸大倉築堤ハ前年度ヨリ續工竣功セシメ更ニ本年度著手セル右岸豊倉築堤ハ略四割ヲ竣成セリ

支川小貝川ニ於テハ前年度起工ニ係ル神ノ浦護岸竝本年度著手セル大留締切護岸ハ何レモ本年度内ニ竣功シ管理者施行ニ係ル戸田井排水機鐵管繼足工事モ亦本年度竣功セルヲ以テ本川ニ於ケル各種工事ハ全部竣成セリ

第三期改修ハ明治四十二年度ニ施行準備ヲ爲シ同四十三年度ニ田中村、同四十四年度ニ稻戸、井村ニ各工營所ヲ設置シ土地買収ニ關係無キ現河川ノ浚渫ヲ施工セリ而シテ土地買収ハ明治四十四年一月以降取手、木間ケ瀬、栗橋、赤岩及境ニ各收用事務所ヲ置キ大正五年度迄約六箇年度ヲ費シ大部分ノ買収ヲ了シ其後少許ノ追加買収ヲ爲シ其總段別三千五百二十三町七段四畝歩此買収金額三百七十萬九千二百三十三圓、地上物件移轉料百三十八萬四千六百十八圓ヲ支出セリ

本工事ハ計畫掘鑿土量三千三百五萬八千立米、築堤土量一千五百五十八萬二千立米ノ大土工ナルヲ以テ

銳意機械ノ整備ヲ圖リ掘鑿機十六臺、機關車十七臺、浚渫船大小七隻、木造工業船二百十四隻、三十疋軌條約十五籽、十五疋軌條五十三籽、六疋軌條八十五籽、三立米積土運車七百六十六臺、零立米六積トロ二千三百三十八臺、其他附屬諸機械ヲ備ヘ大正元年度ヨリ全區域ヲ三分シテ尾島、栗橋、田中ニ各區事務所ヲ設置シ專心功ヲ急ギタル結果同六年度末ニ於テ略ボ成功ニ近ヅキタルヲ以テ同七年五月三區ヲ合併シ栗橋町ニ第三期改修事務所ヲ置キ殘工事全部ヲ統轄スル事トセリ斯クテ同十年度ニ於テ殆ンド完成シ其後ハ整理、掘鑿、堤防補修等ニ努メシガ同十二年九月一日ニ於ケル大震災ニ因ル被害竝十四年八月ニ於ケル兩度ノ大出水ニ因ル被害等相踵ギ改修工事ノ進捗ヲ阻碍セラレタルハ遺憾トスル所ナリ而シテ本年度迄ノ竣功累計ハ築堤土量二千七百九十六萬四千三百六十三立米、利用土ヲ含ム、浚渫土量四千五百九十五萬二千八百七十六立米、利用土ヲ含ム、護岸制水延長十萬八千四百十七米、特種工事四箇所、附帶工事直轄施行六十八箇所ナリトス

本年度ニ於テハ沼ノ上以下取手ニ至ル百七籽八ノ間ニ沼ノ上、男沼、千江田、栗橋、木間ケ瀬、田中ノ六工場ヲ置キ其下ニ若干ノ見張所ヲ設ケ主要工事權現堂川ノ締切其他特種工事ヲ合セ八箇所ヲ施行シ工費九萬一千五百六十二圓ヲ支出セリ今其概況ヲ述ブレバ

沼ノ上、赤岩間ハ掘鑿、築堤及附帶工事ハ凡テ竣功セリ然レドモ利根川ノ急流部ニ屬スルヲ以テ數年來幾多ノ護岸制水施工セラレ新設護岸ト之ニ舊護岸トヲ加フレバ其延長四萬五千百十米トナリ正ニ河岸延長ノ七割九分ニ當リ水衝リ強キ箇所及常水路ノ新堤ニ接近セル所ハ悉ク防禦セララルニ至レリト雖モ尙沼ノ上、山王堂、八斗島、長沼、前河原、間々田、古海、赤岩ノ各地先等ハ水流護岸ニ激衝シ脚部危險ナルヲ以テ更ニ根固及床固ヲ増補スルノ必要アルベシ

赤岩境間ニ於テハ主要工事タル權現堂川ノ締切工事ヲ大正十四年七月著手シ河水ノ減ズルヲ俟チ十一月廿三日ヨリ先ヅ水止工事ヲ施工シ翌月十日之ヲ完成セリ該工事ハ同十五年度夏季出水期迄ニ竣功セシムル豫定ニテ水止工完成後ハ專ラ使用土砂ノ搬入ニ努メ年度内六分通り竣功セシメ尙堤防前小段ニ施工セル石張沈床護岸ハ九分通り竣功シ護岸前面ニ施工セル鐵筋材杭打上置ノ床固制水ハ年度内完成セリ又權現堂川ノ航行及灌漑用水ノ爲メ同川ヲ横切リテ施設スベキ堰堤工ハ締切工事ノ進捗ニ伴ヒ大正十四年度ヨリ著手シ其土運搬ハ七分通り竣功セリ

其他該區域ニ於ケル掘鑿築堤特種工事及附帶工事ハ完成ヲ告ゲ護岸制水ハ新舊ヲ合セ延長三萬七千九百米ニ及ビ酒卷以下塚崎ニ至ル水衝リ強キ箇所ハ悉ク防禦セラレ又制水ノ施工ニ依リ大越地先ノ亂流モ亦著シク改善セララルニ至レリ

境取手間ニ於ケル掘鑿築堤及附帶工事ハ全部完成シ剩スハ護岸制水ノミトナレリ本年度ハ前年度未竣功ノ小山護岸竝休工中ナリシ川間護岸ヲ施工シ何レモ竣功セシメタリ

江戸川改修ハ明治四十四年四月施工準備ニ著手シ大正二年四月松戸町及野田町ニ土地收用事務所ヲ置キ買收協議ヲ開始セシガ其成績良好ニシテ大正四年三月迄ニ殆ンド全部ノ買收ヲ了シ其後少許ノ追加買收ヲ爲シ總段別一千七十六町四段五畝二十步此買收金額二百九萬一千六百十二圓地上物件移轉料百十九萬六千九百三十四圓ヲ支出セリ而シテ工事施工ノ爲メ大正三年十二月野田町ニ改修事務所ヲ設置シ同年度ニ於テハ築堤及掘鑿ノ幾分ヲ施工シタルニ過ギザリシガ同四年度以降漸次功程ヲ進メ本年度迄ニ築堤土量一千四百七十萬二千九百四十七立米利用土ヲ含ム浚渫土量一千四百四十一萬三千四百七十六立米護岸制水延長三萬八千七百三米特種工事四箇所附帶工事直轄施工三十三箇所ヲ施工セシガ其

間同十二年九月一日ニ於ケル大震災及同十四年八月ニ於ケル大出水等ニ因ル被害ノ爲メ工事ノ進捗ヲ
阻碍セシハ遺憾トスル所ナリ

本年度ニ於テハ江戸川筋關宿町及逆川筋五霞村以下海ニ至ル延長約五十九軒ノ間ニ山王、野田、市川、流山、
關宿、松戸ノ六工場ヲ置キ其下ニ若干ノ見張所ヲ設ケ各工事ヲ施工セリ其竣成高ハ機械及人力ヲ用ヒ掘
鑿土量六十六萬一千五百十五立米此工費十七萬八千八百十五圓築堤土量百四十六萬二千四十二立米利用
土百三萬八千九百九十一立米ヲ含ム此工費二十三萬八千三百三十九圓護岸制水八箇所延長二千三百八十一
米此工費四萬一千三百十二圓及前年度ヨリ繰越トナレル特種工事關宿閘門、關宿洗堰ノ二箇所ト本年度
著手セル關宿高水路床固工事トノ三箇所ヲ施工シ工費十萬九千八百五十一圓ヲ支出セリ

附帶工事ハ前年度ヨリノ繰越ニ係ル利根運河堤防擴築及五箇村落樋管改築ノ二箇所ヲ竣成セシメ本年
度著手ノ新田用水路樋管改築及堰柵新設工事ハ未竣功ニ終レリ又管理者施行ニ係ル京成電氣軌道變更
竝江戸川橋、葛飾橋改築ノ三工事ニ對シ補助ヲ爲シタルモノ十三萬五千圓ナリトス

中川改修ハ大正五年度創業直ニ測量調査等ノ施工準備ニ著手シ翌六年度ヨリ土地買收ニ關係無キ部分
ヨリ工事ヲ開始セリ而シテ土地買收ハ大正八年九月新宿町ニ收用事務所ヲ置キ買收調査ヲ爲シ同九年
度迄ニ其大部分ヲ買收シ同十一年度ニ至リテ完了セリ其總段別百三町一段二畝步此買收金額四十八萬
四千八百一十一圓地上物件移轉料十三萬三千六百二十四圓ヲ支出セリ本工事ハ當初江戸川改修事務所ノ
所管ナリシガ大正八年十一月分立シテ府下龜青村ニ改修事務所ヲ設置シ銳意施工ニ努メ起工以來築堤
土量(利用土ヲ含ム)三十萬二千四百四十六立米、浚渫土量四百八萬四千九百六十九立米ヲ竣成セリ
上記浚渫土量ハ計畫土量三百七十二萬立米ニ比シ三十六萬餘立米ヲ超過シ尙今後約四十萬立米ノ土量

ヲ殘セルモ次年度ニ於テ略竣成ノ見込ナリトス

本年度ニ於テハ増林村以下本田村ニ至ル二十五軒七ノ間ニ吉川、龜有ノ二工場ヲ置キ浚渫船五隻(九月ヨ
リ四月ヨ
ト爲)ヲ以テ本田村、水元村、潮止村、彦成村、及吉川町地先ノ低水敷ニ於テ土量三十三萬八千五百立米ヲ浚渫
シ人力ヲ以テ潮止村及四條村地先高水敷ニ於テ一萬六千九百七十三立米ヲ掘鑿セリ築堤ハ潮止新水路
ノ呑口ニ於ケル舊川締切箇所ヲ施工シ未竣功ニ終レルモ其他ノ築堤ハ前年度迄ニ全部竣成シ護岸ハ庄
内古川合流口ニ於テ一箇所ヲ施工セリ

又本川筋附帶工事ハ何レモ前年度迄ニ竣功シ剩スハ京成電車橋ノ橋脚補強工事ノミトナレリ

本年度ノ功程ハ浚渫土量三十五萬五千四百七十四立米此工費九萬九千三百八十七圓、築堤一箇所此工費
三千三百六十九圓、護岸制水一箇所此工費四千二百六十圓、工費合計十萬七千十六圓ナリトス

庄内古川外二惡水路附替工事ハ中川改修附帶工事ノ一ナレドモ其實ハ中川改修促進ノ因ヲ爲シ且工事
ノ規模大ナルヲ以テ其施工ニ相當準備ヲ要シ大正六年度ニ於テ幸松村ニ土地收用事務所ヲ設ケ所要土
地ノ買收(管理者負擔)ヲ爲シ工事ハ大正七年度ヨリ著手セリ本年度ニ於テハ幸松、島川ノ二工場ヲ置キ下
流部ニ於テ一萬七千立米ヲ浚渫シ幸松、豊野、川邊及櫻井村地先ノ庄内古川現水路ニ於テ人力ヲ以テ七萬
四千立米ヲ吉田村新水路ニ於テ二萬立米ヲ掘鑿シ行幸堤ノ上流人力掘鑿ハ前年度ヨリ續工シテ十二萬
立米ヲ掘鑿セリ築堤ハ前年度ト同ジク松伏領並吉田村新水路掘鑿ニ伴ヒ施工シ又雜工事ハ水路一箇所、
橋梁三箇所ヲ施工シ内橋梁二箇所ハ竣成セルモ其他ハ未竣功ニ終レリ

斯クテ庄内古川ハ吉田村大字上宇和田地先權現堂堤防以下ハ大略竣功シ權現堂川及島川筋ニ於テハ權
現堂川ガ上流川妻ニ於テ締切完成セシモ下流西關宿ニ於テ締切トナラザル關係上掘鑿其他工事ニ著手

シ得ザルモ翌年度ニハ締切完成ト共ニ一氣ニ工ヲ進メ他工事ト並行竣功セシムル豫定ナリトス
本年度ノ工程ハ浚渫土量二十三萬一千二百八十六立米此工費四萬八千四百圓築堤土量二萬百十三立米
此工費三千三百四十二圓橋梁其他ノ雜工事四箇所此工費五千三百九十五圓工費合計五萬七千三百三十七
圓ナリトス

石材斫出事業ハ本改修工事ニ使用スル石材ヲ直營斫出スル事業ニシテ大正五年度迄ハ概ネ銚子及岩舟
産ヲ購入使用セシモ兩地トモ採石規模狭少ナルト運搬能力不充分ノ爲メ動モスレバ納期ヲ遲延シ急速
ノ所要ニ應ズルコト能ハザルヲ以テ大正五年度ニ於テ栃木縣下都賀郡小野寺村ニ岩舟工場ヲ設ケ其裏
山ヨリ石材ヲ斫出シ専用軌道ニ依リ之ヲ藤岡町赤麻沼沿岸ニ搬出シ夫レヨリ舟運ニ依リ渡良瀬川及利
根川筋川俣以下ノ所要地ニ供給スルノ方針ヲ以テ設備ヲ整ヘ大正六年度ヨリ斫出ヲ開始シタリシガ舟
運ノ關係上同十年度ヨリ搬出地ヲ石川沼沿岸ニ變更シ本年度ハ水害復舊用ヲ併セ一萬二千八百四十立
米ヲ配送セリ而シテ起工以來ノ總數量ハ二十七萬一千八百八十三立米トナレリ

砂利採集事業ハ生産地ノ關係上便宜渡良瀬川改修事務所ニ於テ擔當スルコトトシ大正七年九月事務ヲ
開始シ其當初ハ地方採集者ヲシテ請負ハシメシモ到底需要ヲ充タシ難キ狀況ニ鑑ミ同九年度ニ於テ其
經營方法ヲ擴張シ思川筋穂積村地先砂利洲ヨリ直營採集シ輕便軌道ニ依リ五噸機關車ヲ以テ同村乙女
河岸迄陸送シ之ヲ所要工區ニ配送スルノ計畫ヲ定メ續工シ來リシガ同十二年度ヨリ更ニ高座口迄延長
シ渴水期ニ於ケル船積場トシ本年度ハ七千五百七十七立米ヲ配送セリ而シテ起工以來ノ總數量ハ九萬三千
八百十一立米トナレリ

機械工場ハ千葉縣野田町所在江戸川改修事務所隣地ニ野田機械工場、東京府下龜青村中川改修事務所隣

地ニ龜有機械工場ノ二工場ヲ置キ改修工事用諸機械器具ノ製作及修理ヲ爲サシメ外ニ茨城縣古河町所
在渡良瀬川改修事務所々屬古河機械工場ヲシテ(合同修理ヲ爲サシメ)年度末ニ於テ精算シ各負擔額ヲ定
ム)之ニ當ラシメタリ

本年度ニ於ケル本川竣功額ハ百六十九萬九千九百二十一圓ニシテ起工以來ノ總竣功額ハ五千九百一萬
九千三十一圓ナリ之ヲ總工費豫算六千三百四十萬三千百十七圓ニ比較スルトキハ約九割二分ノ竣功タ
リ今其工事竣功表ヲ示セバ左ノ如シ但シ退轉手當七千三百五十七圓ハ本表竣功額ニ之ヲ包含セズ表中
「*」ヲ附シタルハ利用土坪「x」ハ直營所出石材及同採集砂利價額「△」ハ製作品及評價品價額「□」ハ管理者負擔
額「◎」ハ縣負擔額「○」ハ無償品使用見積額「▲」ハ捨土出願者負擔額ヲ示ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	* 二〇三、〇六四、一七五 * 四〇、七〇〇、〇八一	六、一四九、六四二 四、一六六、六二五	* 一、七四三、四七六 * 一、〇九二、五二四	三、四七二、六一四 六、八五四、一四一	* 二、三、八〇七、六五一 * 四一、七九二、六〇五	六、四九六、九〇三 一、〇〇〇、二二〇	〇・九七 (割合)
浚渫費	* 一〇四、四三三、九六三 * 一、一八六、六二五	一、一四八、三、四一五 五、一三〇、四四五	* 一、〇一九、四一七 * 一、三四、八三三	二、七八、五四七 二、三、九三三	* 一〇五、四三三、四一〇 * 一、二二五、三三〇	一、一、七六〇、九六二 七、五、三三三、五五	〇・九六
護岸制水費	一六五、一四三	四、〇一五、七六〇 八、九七三、三三〇	七、八六八	一〇、四〇三、八九七 五、〇三〇、八九九	一、七三三、〇一一	四、一、一九、八四七 九、四七、七三六	〇・八三
特種工事費	未竣功	△x 二、一五二、六八八 三、四八〇、五二六	未竣功	一、二、八四六 七、七五五、八一一	未竣功	二、二、六五、五三四 三、四六四、〇八四	〇・五七
障害物除却費	未竣功	△x 八、六九九	未竣功	一、〇三三、五一七 七、六〇六、三三七	未竣功	二、〇、五二、九八八 一、二、二四、二一四	〇・八六
附帯直轄施行	未竣功	〇◎□△x 一、九四九、四七一 一、〇九一、一六五 九、〇五、七六二	未竣功	一、〇三三、五一七 七、六〇六、三三七 七六一	未竣功	二、〇、五二、九八八 一、二、二四、二一四 〇、二〇、〇一一	〇・八六

第一期改修及低水工事

更ニ本表ノ竣功額ヲ各改修別ニ示セバ次ノ如シ

工事	管理者施行	材料採集費	用地費	船舶及機械費	測量費	營繕費	施行中諸費	亡失毀損其他	共濟組合給與金	低水工事費(諸費共)	總計
	未竣功										
	四三	六六、三三五、〇二〇									
	四九一、四八六	九七九、七三五	一一、七三三、八六六	一一、四二一、六九七 九〇〇、五〇六	一八四、二九〇 八〇五	△ 六七二、八八六 六五	× 四、三五六、八三五 一五七				▲〇◎□△× 五七、三一九、一一〇 一一、〇六八、一五四 〇九、九七九、一四〇 二六、六一八、一四〇 五九、〇七〇、六二 五一、七七九、九
	未竣功										
	三一										
	一四七、五〇〇	七一、〇八六	四三五	二九一、三〇八 五四、一四六	四、五五七 六七	△ 八、六九四	× 二一五、七八九				▲〇◎□△× 一、六九九、九二一 一三、五五八、〇一八 七六、〇六一、三 二、九三三、七一
	未竣功										
	四三四	六六、三三五、〇二〇									
	六三八、九八六	一、〇五〇、八二一	一一、七三三、三〇一	一一、七一三、〇〇五 九五、四六五、二	一八八、八四七 八七〇二	△ 六八一、五八〇 六五	× 四、五七二、六二四 一五七				▲〇◎□△× 五九、〇一九、〇三 一一、三三四、三三 二、三二四、九七二 七九、二七五、〇二 七五、六六六、〇〇
	〇・九二										
	一〇〇										

種別	竣功		金額	竣功		種別	竣功	
	數量	高		數量	高		數量	高
本 築堤費 浚渫費 工事費 特種工事費 障害物除却費	*	三、二一四、七〇六	五、一六、二六四	一、〇〇〇 <small>類分</small>	船舶及機械費	二、八七一、七三二	一、〇〇〇 <small>類分</small>	
	二、四八五、七一五	一、三〇、二〇三	一、〇〇〇	測量費	三〇、〇九二	一、〇〇〇		
	箇所 五	二〇、四四六	一、〇〇〇	營繕費	一〇六、二六八	一、〇〇〇		
	一〇、一六四	一九一	一、〇〇〇	施行中諸費	二五四、五四六	一、〇〇〇		
	箇所 一	四八七、一四九	一、〇〇〇	低水工事費(諸費共)	六八八、七八五	一、〇〇〇		
附帶 直轄 工事 管理者 施行 費用	一箇所	四八七、一四九	四、二六四	一、〇〇〇	總計	六、五一九、一五一	一、〇〇〇	
用地費	四、四六一	六三五、五二四	一、〇〇〇	一、〇〇〇	總計	一、九六九	一、〇〇〇	

第二期改修

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		竣功
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本 築堤費 浚渫費 工事費 特種工事費 障害物除却費	*	二、八九八、二〇四	*	五、一、一四〇	一、四、七六八、一八五	二、九四九、三四四	〇、九八 <small>類分</small>
	*	二、二二七、三二六	*	一、〇四五	三、九六五、二、二、二	二、二二八、三七三	〇、九八
	一、九六四、九七五	八六八、〇二〇	四、一六八	二、四、六六一	一、九、六五二、二、二、二	八九二、六八一	〇、八六
	一、一八六、二二五	四三、六六九	×	二、六五三	一、一八、六二五	四六、三二二	〇、八六
	箇所 三	三八二、七〇二	×	二、六五三	二、六五三	四六、三二二	〇、八六
竣工	一、七、二一四	三、六五五	竣工	一、七、二一四	一、七、二一四	三、六五五	一、〇〇〇

第三期改修

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
附直轄施行	竣功 六〇	四一、二、八一五	竣功 一	一、七三六	竣功 六一	四二、四、五五一	〇・九九
工事管理施行	竣功 一一	六〇、〇四〇		二、〇〇〇	竣功 一一	七二、〇四〇	
材料採集費		五四、三九三				五四、三九三	
用地費	一四、八四〇・九〇〇 ^段	二、〇九七、九四五			一四、八四〇・九〇〇 ^段	二、〇九七、九四五	
船舶及機械費		二、四一四、六五九		一一、四八七		二、四二六、一四六	
測量費		三五六、九五九		六三八		三五七、五八九	
營繕費		六〇、五四〇		一、五七〇		六一、一一〇	
施行中諸費		八四、四六五		一、二五三		八五、七一八	
亡失毀損其他		一、二七、七二〇		二、〇八七		一、二五〇、八〇七	
共濟組合給與金		四、〇七九		一、三七九		五、四五八	
總計		一、三、二四〇、五七四 六、七六、四二二 三、三三二、〇三三		一、三九、三五八 二、六五三 一七、六三八		一、三、三七九、九三二 六、七六、八七五 三、四九、二二五	〇・二一
本築堤費	* 二、七二三、九六七 * 二五、〇五〇、八二四	一、二九六、四二二 二、〇五六	* 一八九、五七二	五四、七三三 六四七	* 二、九一三、五三九 * 二五、〇五〇、八二四	一、三三五一、三三三 二、〇三三	〇・九九
工濬費	* 四五、八一八〇三八	四、一五九、二三五	* 一三四、八三八		* 四五、八一八〇三八 * 一三四、八三八	四、一五九、二三五	〇・九九

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
護岸制水費	一〇七、〇九八 <small>米</small>	三、二二六、九五八 <small>円</small>	一、三一九 <small>米</small>	三三、八五三 <small>円</small>	一〇八、四一七	二、二六〇、八一四 <small>円</small>	〇・九九 <small>割分</small>
特種工事費	三 <small>箇所</small>	二一六、二二九	一 <small>箇所</small>	二、九九五	三 <small>箇所</small>	二一九、二二四	〇・九九
障害物除却費	二五、七二九 <small>粒</small>	二、七九四			二五、七二九 <small>粒</small>	二、七九四	一・〇〇
直轄施行	六八 <small>箇所</small>	二二六、八六一			六八 <small>箇所</small>	二二六、八六一	一・〇〇
管理者施行	五	七二、一六〇			五	七二、一六〇	一・〇〇
材料採集費		五五六、二〇一				五五六、二〇一	
用地費		五、〇九三、八五一				五、〇九三、八五一	
船舶及機械費	三五、二三七、四〇〇 <small>段</small>	三、五六一、二五〇		一四、四二一	三五、二三七、四〇〇 <small>段</small>	三、五六一、二五〇	
測量費		九七、五四八				九七、五四八	
營繕費		五一、七五二		六四〇		五二、三九二	
施行中諸費		一、三七〇、一五六		二、七四八		一、三九二、二四〇	
亡失毀損其他		四六七				四六七	
共済組合給與金		一、六二八		九二四		二、五五二	
總計		一九、〇二二、七三三		一三、一四〇、九〇九		三二、一六三、六四二	〇・三〇

江戸川改修

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	* 二、四七一、八九四 一〇、七六九、〇一四	一、四一五、七〇一 二、一七〇、一四一 四、四二五、八四二	* 一、〇四三、三〇五 一〇、三八九、九五一	二、三八、〇三九 六、二〇七、七八一	* 二、八九四、九四五 一、八〇八、〇〇二	一、六五三、七四〇 八、三七一、〇〇四 四、四二五、八四二	〇・九〇 別分
	米		米		米		
浚渫費	一三、七五一、九六一	二、七三二、三八一 三、四四五、	六六一、五一五	一七八、二一五	一四、四一三、四七六	二、九〇〇、四九六 三、四四五、	〇・九〇
	米		米		米		
護岸制水費	三六、三三二	九二〇、七八二 三三二、八五七	二、三八一	三四一、三二二	三八七、〇三三	九六二、〇九九 三五四、四七四 三、七〇四	〇・六〇
	箇所		箇所		箇所		
特種工事費	未竣功	△X 一、〇八九、三一三 八八八、三九九	未竣功	△X 一〇九、八五一 三七、五四八	未竣功	△X 一、一九九、一六二 一、一五〇、八三七	〇・四〇
	竣功	〇□△X 二七七、〇一八 三三三、八三一 一一五、〇〇〇 一九五、八一八	竣功	〇□△X 二二三、三五九 九四七、七七七 四、三七七、七七七	竣功	〇□△X 三〇〇、三七七 四、七七七、七七七 一一九、四六八 一九五、八一八	〇・七〇
附帶直轄施行	竣功	三	竣功	二	竣功	三	
	未竣功	二〇	未竣功	三	未竣功	二〇	
工事管理者施行	竣功	三〇五、七六五	竣功	一三五、〇〇〇	竣功	四四〇、七六五	
	未竣功	三六九、一四一	未竣功	七一、〇八六	未竣功	四四〇、二二七	
材料採集費	一〇、七六四、五二〇	三、二八八、一一一	四三五	三、二八八、五九六	一〇、七六四、五二〇	三、二八八、五九六	
	段				段		
船舶及機械費	△	二、六三五、五一七 三、七三〇、三〇〇	△	二、二四、五八九 五〇、二九三	△	二、八六〇、一〇六 四、二二三、三三〇	
	費		費		費		
測量費	△X	三五、五六一	△X	一、九二七、六七七	△X	三七、四八八	
	費		費		費		
營繕費	△	二四七、二四五	△	三、一三一	△	二五〇、三七六	
	費		費		費		
施行中諸費	△	一、二六八、四〇八	△	一、三六、一五四	△	一、三〇四、五六二	
	費		費		費		

第一章 河川改良工事 (利根川改修工事)

中川改修

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤費	* 二二、一六二、七六粒	二二、一八九	* 五三、五三三粒	三三、三六九	* 二八、一六、二七六粒	二六、五五八	〇、九九
浚渫費	三、七二九、四九五	一、〇七二、三四一	三五五、四七四	九九、三三七	四、〇八四、九六九	一、一七〇、八二八	〇、九二
護岸制水費	箇所	一〇、七二、〇六三	箇所	四、二六〇	箇所	四、二六〇	〇、一一
附帶直轄施行	未竣功	九八四、〇六三	未竣功	六八、四二二	未竣功	一、〇五二、四八五	
工事管理者施行	未竣功	四二二、九二六	未竣功	五四、四九三	未竣功	四七六、六七六	
用地費	竣功	九〇、〇六二	竣功	七六、一	竣功	九〇、〇六二	〇、九一
船舶及機械費	段	六八、四三五	段	五〇〇	段	六八、四三五	
合計	二	一〇、八七三	一	五〇〇	三	一一、三七三	
合計	〇〇〇、〇〇〇	九三八、五四九	〇〇〇、〇〇〇	三、三二五	〇〇〇、〇〇〇	九七九、三六〇	

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
總計							〇、二四
亡失毀損其他		八二		八、九〇〇		八、九八二	
共濟組合給與金		一六、九二六		八、九〇〇		二五、八二六	
總計		一四、四九一、九四九		一、七七一、八九八		一五、六六三、八四七	
總計		一三、八五七、〇九四		五、三九三、三七八		一四、五三〇、四七二	
總計		一、五〇三、〇九四		四、九七五、七七八		一、五〇三、〇九四	
總計		四一九、九一四、六六九		三、七七八		四一九、九一四、六六九	
總計		二五、五一一、四六九		七、七八八		二五、五一一、四六九	

總計	測量費	營業繕費	施行中諸費	共濟組合給與金
▲○○□△ 四、〇 四、〇 五九二二七四 一〇五二五四 三五〇一九六 〇二六八八六 四八二四二三	△ 六、三 七四 七九五	七、六 六四	三三六、〇 四五	四八、〇 五九
▲○○□△ 二、五 二、五 二二、七 四、三 四、二 五、二 五、六	△ 四、〇 二〇	三、一 〇一	三、五、四 二四	一、五 六二
▲○○□△ 四、三 四、三 七九二七七〇 七五二五九九 二、〇、六 二、八、六 三、八、七 五九二七七九	△ 六、七 七六 五	一〇、七 六五	三、七、一、四 六九	四、九、六 二一
▲○○□△ 〇 〇 七				

第二 信濃川改修工事

(新潟土木出張所)

緒言

本川ハ航路改良及洪水防禦ノ目的ヲ以テ河身工事ハ新潟縣長岡市以下新潟市ニ至ル約七十九軒ヲ工費百九十二萬五千餘圓、砂防工事ハ本川上流長野縣犀曲兩川流域ニ於テ十一萬餘圓、合計二百三萬五千餘圓ヲ以テ明治九年度乃至同三十八年度ノ二十九箇年度間ニ於テ一旦施行ヲ了シタルモ尙治水ノ要アルニ依リ更ニ同四十年年度ヨリ大正九年度ニ至ル十四箇年度繼續事業トシテ工費豫算一千三百萬圓(内新潟縣負擔額三百四十九萬三千圓)ヲ以テ起工セシガ時局ノ影響ト再度ノ地亡トニ因リ豫算ニ不足ヲ生ジ大正八年度ヨリ同十二年度迄五箇年度間ニ於テ一千十四萬一千九百五圓(内新潟縣負擔額二百五十三萬六千圓)ノ増額ヲ受クルト共ニ施工期間ヲ同十四年度迄繰延ベラレシガ大正十二年九月一日ノ關東大震災ニ依リ更ニ一箇年度ヲ延長セラレタリ然ルニ同十三年十一月前回地亡箇所ニ於テ第三回ノ地亡突發シ之ヲ除去スベク更ニ本年四月四十萬圓(内新潟縣負擔額十萬圓)ノ追加増額ノ認可ヲ受ケ總工費豫算二千三百五十四萬一千九百五圓(内新潟縣負擔額六百十二萬九千圓)ヲ以テ大正十五年度ニ竣功セシムルノ豫定トナレリ

本工事ハ左岸新潟縣三島郡與板町、右岸同縣南蒲原郡中之島村以下三島郡寺泊町海岸ニ至ル新水路ノ開鑿並新潟市信濃川河口ノ改修工事ヲ施行シ洪水ノ汎濫及河口ノ埋塞ヲ防禦セントスルニ在ルナリ

河狀並計畫ノ大要

本川ハ流域面積一萬二千二百六十二方籽ヲ有シ長野、群馬、新潟ノ三縣ニ互リ幹川ノ流路延長三百六十九籽、航路延長六百九十九籽(内幹川百八十三籽)灌溉段別七萬六千三百二十一町步(内幹川一萬二千百三町步)水害區域六萬二千九百三町步(内幹川一萬九千八百七十七町步)ニシテ廣大ナル越後平野ヲ貫流スルヲ以テ灌溉ノ利甚ダ大ナリト雖モ水災モ亦實ニ甚シキモノアリ彼ノ明治二十九年ノ出水ノ如キハ各所ニ破堤ヲ見、沿岸平野一帶ハ水底ニ葬ラレ被害住民ハ爾來數年間立ツ能ハザルノ疲弊ニ陥リシコトアリ尙本川沿岸ハ惡水停滯ノ害ヲ被ルコトモ亦大ニシテ明治三十八年ノ如キ格別ノ出水無カリシ場合ニ於テスラ其損害莫大ニシテ中、西、南ノ三蒲原郡ニ於ケル冠水段別ハ田三萬一千八百三十九町步、畑九千四百六十六町步ニ達シ其損失額四百三十六萬四千四百八十六圓ニ及ベリ今信濃川全川ノ大正元年乃至同十年ノ平均水害損失價額ヲ調査スルニ百八十二萬三千二百八十三圓ニシテ就中大正二年ハ四百三十三萬三千百圓、同三年ハ五百七十二萬七千七百三十三圓、同六年ハ三百四十八萬五千七百九十圓ヲ見タリ)

上述ノ如ク惡水ノ被害ニ至テハ殆ンド毎歲脱ガレズ其損害亦實ニ揣ルベカラザルヲ以テ是等ノ除害ヲ見ルベク本工事ヲ計畫セルモノニシテ本川中流部ノ最モ北海ニ近接セル箇所即チ新潟縣三島郡大河津村ヨリ寺泊町ニ至ル間ニ延長十籽餘ノ一大新水路ヲ開鑿シ本川ノ最大流量タル毎秒五千五百六十五立米全部ヲ新川ニ導キ之ヲ北海ニ放流シ大河津村以下本流筋五十五籽ニ互ル沿岸一帶ノ水災ヲ根絶セシムルニ在リ而シテ大河津村舊川分派口ニハ洗堰ヲ設ケテ航通及灌溉ニ必要ナル平水量ヲ送り且同所ニ閘門ヲ設置シテ航行ノ便ヲ保タシム其洗堰以下ノ本川水位ハ常ニ低水ニ保タル結果沿岸破堤ノ憂無

キハ勿論惡水ノ停滯モ亦改善セラレ從テ本流及支流ノ修堤費ヲ輕減セラルベシ素ヨリ洗堰以下ニモ支川ノ合流スルモノ無キニ非ラザルモ是等ノ水量ハ本流ニ比スレバ僅少ナルガ故ニ本川ノ流量ヲ絶チタル後ハ何等ノ危懼損失等無ク流下スルヲ得ベク仍ホ從來洪水毎ニ惱メル河口新潟港埋塞ノ患害モ亦改修後ハ大ニ減少スルヲ得ベシ

大河津ニ於ケル新川ハ起點(十四町杭ノ位置)ニ於テ堰堤ヲ築キ其高ヲ本川既往ノ流出狀態ニ於テ洗堰以下ニ約四百十七立米ヲ通ズベキ水位ヲ標準トシテ之ヲ規定シ(洪水敷川床上約一米二)河幅七百二十七米ノ内洪水敷ノ部河幅五百四十五米ハ固定堰トシ出水ノ際ハ越流セシメ低水敷幅百八十二米ハ可動堰トシ出水ノ際ハ取拂ヒ得ベカラシム而シテ新川ハ海岸ニ近クニ從ヒ落差ヲ有スルヲ以テ同所以下ハ漏斗形ニ河幅ヲ縮メ海口ニ至リ二百七十三米ト爲シ水面勾配ヲ上流ニ於テ二千分ノ一、中流ヲ八百分ノ一、下流ヲ五百分ノ一トシ堰堤ヨリ上流舊川ヲ利用シ改修ヲ加フル部分ハ三千八百三十六分ノ一ト爲ス而シテ同所ノ河幅ハ舊川ニ準ジ之ヲ定メタリ新川ノ築堤ハ掘鑿土ノ利用上其體積ヲ大ニシ馬踏十四米五兩法二割トシ最高水位以上一米五ノ餘裕ヲ與ヘシメ同水位以上零米六ノ點迄石張護岸工ヲ施行スルコト
リセリ

新潟港ノ改良モ亦河口ノ整理トシテ本計畫ノ一部ニ屬セリ即チ本計畫ニ於テハ大河津以下本川ノ高水流量ヲ遮斷セル結果河口ハ甚シキ濁水ノ流下ヲ見ルコト無ク從テ既往ニ比シ埋塞少カルベキヲ以テ河口ニ充分ノ水深ヲ與フルコトトシ幅員百八十二米、水深低水面下七米六ニ浚、深ヲ加フルノ計畫ヲ立テタリ又河口ニ於テ左岸舊突堤ヲ増築シ以テ防波、防砂及導水ノ目的ニ供セントス
増築突堤ノ總延長ハ一千五百十七米ニシテ之ヲ三箇ノ區間ト頭部トニ分ツ地元ニ近キ區間ハ多少其構

造ヲ異ニセルモ大體一箇ノ重量零噸五乃至五噸一ノ天然石ヲ以テ舊突堤ヲ基礎トシテ上幅九米一、兩側一割五分法ニ高サ低水面ニ達スル山形ヲ造リ其上ニ幅七米三、高三米六ノ混凝土直壁ヲ築造シ更ニ其海側ニ於テハ一箇ノ重量二十五噸及十四噸ノ混凝土塊ヲ投入シテ其全部ヲ包被シ河側ニ於テハ十四疋塊ヲ以テ其一部ヲ包被スルヲ以テ規定ノ斷面トセリ

右ノ外河口工事トシテ突堤根元ヨリ上流一千百八十二米ノ左岸ヲ保護スル爲メ沈床根杭及石張ヲ以テ護岸工ヲ施シ尙西突堤尖端ニ燈臺ヲ新設スルモノトス

施工狀況

本工事ハ明治四十年年度ノ創業ニシテ起工以來三回ノ地辻ト時局ノ影響ニ因ル諸物價ノ暴騰トニ基キ材料勞力ノ供給不如意且手戻工事ノ爲メ不尠支障ヲ招キタリシモ銳意工事ノ進捗ニ努メ掘鑿、築堤、浚渫、護岸、閘門、洗堰、堰堤、突堤、燈臺ノ諸工事ヲ實施セリ本年度モ亦掘鑿、浚渫ニ力ヲ注ギ浚渫船五隻ト人力トヲ用ヒ工事ノ進捗ニ努メ掘鑿土十八萬六千八百十三立米、浚渫土六十八萬二千七百一立米ヲ處理セリ今其施工ノ概要ヲ左ニ記述スベシ

掘鑿工事ハ本年度モ亦主トシテ第三回地辻ノ箇所ニ力ヲ注ギ人力掘鑿、出水時ノ搔キ流シ自然流下ノ三工法ヲ以テ除却ニ努メ本年度内ニ十八萬六千八百十三立米ヲ處理ス浚渫工事ハ河口ニ於テ前年度ト同様、ポンプ式、浚渫船浦賀丸、大阪丸、阿賀丸ノ三隻竝、バケツト式、浚渫船榛名號ヲ使用シタルモ大阪丸ハ八月以降、浦賀丸ハ十月以降、新潟港修築工事ニ從事シ榛名號ハ前年度遭難ノ後ヲ受ケ七月五日迄修理ニ日子ヲ費シタリ而シテ其浚渫土量ハ六十八萬五百三十五立米ニ達セリ尙上流ナル閘門、洗堰ノ前後ハ洪水毎

ニ土砂沈滞シ航行通水共ニ支障ヲ來スヲ以テ前年度ニ引續キ「プリストマン」式浚渫船ヲ使用シ一方閘門々扉ノ陝隘ナル箇所ハ人力ヲ以テシ前者ニ於テ一千九百二十八立米三、後者ニテ二百三十七立米七、合計二千百六十六立米ノ浚渫ヲ施行セリ

河口濬筋ハ大河津分水工事ノ效果ニ因リ四月雪解出水ノ際ト雖モ水深ニ殆ンド影響無カリシガ四月三、四兩日ニ互ル出水ノ爲メ一時二十七糶ヲ淺メ七日ニハ四米四ヲ示セルモ日毎ニ深サヲ増シ同月二十五日後恢復シ四米七ニ達シ五月八日ニハ四米八トナレリ同十四日以後七月二十一日迄四米九ヲ保チ其後九月十三日迄五米同日ヨリハ五米一ノ深度ヲ示シ爾後十二月末迄其水深ヲ維持セリ

築堤工事ハ前年度ニ殆ンド竣功シ未竣功ノ箇所ハ僅ニ左岸舊堤ト新堤トノ接續點約七十三米ノ工事ノミナリキ然レドモ該箇所ハ築堤通水後堤體ニ何等異狀ヲ認メザルヲ以テ其儘打切り竣功セシメタリ又締切堤防ハ前年度ヨリ引續キ護岸ノ基礎洗却ノ虞レアルニ依リ捨石工ヲ施シ割石五百七十六立米、川石三百三十九立米ヲ投棄セリ

護岸工事ハ專ラ固定堰下流ノ左岸低水敷ニ實施シ該堰ノ溢流ヨリ起ル被害ノ輕減ニ努メ捨石三千四百六十立米ヲ了セリ此外早向川放水路ノ一部ヲ施シタルニ過ギズ

堰堤工事ハ前年度ト同様自在堰下流川床ノ異動ヲ防止センガ爲メ捨石約一千五百九十立米ヲ實施セリ突堤工事ハ既ニ竣功セルモ冬季荒波ノ爲メ捨石ノ沈下移動多ク其被害ハ遂ニ直壁ニ及ビ其儘放置セバ突堤破壊ノ危険アルヲ以テ海側ニ捨石ヲ増補シ且直壁ト海側捨石トノ間隙ニ場所詰混凝土塊百九十一個場所詰コトトシ「ゴライアス」機關車「タイタン」ヲ使用シ捨石一千百四十六立米(十四噸)混凝土塊百九十一個場所詰混凝土七十三立米六ヲ施工ス元付堤モ亦數年來ノ激浪ニ因リ捨石ノ沈下甚シク之レガ爲メ既成張石ヲ

破壊シ直壁ヲ傾倒セシメントスル惧レアルヲ以テ捨石ヲ増補スルコトトシ本年度ニ於テ混凝土塊三十立米(十四噸塊五個)割石百五十立米(百十二疋)以上ノモノヲ投入セリ又元付堤ニ接續スル砂岸缺壞ノ防止ヲ目的トシテ施工セル缺止工ハ前年度ニ竣功セシモ冬期捨石ノ沈下甚シク從ツテ杭木折レ其被害全延長ノ過半ニ及ビタルヲ以テ各岸ノ保護上割石三百七十六立米ヲ補填セシ爲メ本年度冬季ニ於テモ海岸ノ缺壞ヲ免ルルニ至レリ

防砂堤工事ハ第三回地之土量除却工法ノ一部ヲ變更シ土量十七萬四千立米ヲ輕運車ニ依リ直ニ附近河中へ投棄流下セシメ工事ノ速成ニ努メタル結果新水路吐口ニ隣接ノ寺泊港内ニ土砂流入ノ虞レアルヲ以テ之レガ防止策トシテ同港北部ニ本堤ヲ築設スルモノニシテ本年八月施工準備ニ取掛リ十月末ヨリ石材採取ニ意ヲ注ギ年度内ニ於テ漸ク一千三百六十五立米ヲ採取スルニ至レリ

魚梯工事ハ魚族(主トシテ鮭、鱒)ノ分水路浜上ヲ便ナラシムル爲メ自在堰左端二十二米三ノ箇所ニ於テ築設セルモノニシテ翌年三、四月ノ融雪時迄完成スベク十一月工ヲ起セシガ屢々出水ノ爲メ一時作業意ノ如ク進捗セザリシモ冬季ハ比較的寒氣緩ナリシヲ以テ三月十五日全ク其工ヲ了シタリ

採石工事ハ以上諸工事ニ要スル石材ヲ全部野積海岸ヨリ採取シ人力ニ依リ凡ソ一千三百米迄運搬ノ上直チニ五合積土運車ニ積込ミ機關車ヲ用ヒ需用現場へ配給セリ而シテ年度内採取量ハ五千二百二十四立米トス

機械工場ハ本年度モ亦渡部、河口ノ兩工場ニ於テ專ラ土工器械、船舶等ノ修理ヲ爲セリ
附帶工事ハ直營施行ノモノ無ク左記二補助工事アルノミナリ

眞野代用水取入口樋管新設工事ハ管理者中之島村長ノ自營ニ係リ大正十二年七月五日著手シ同十三年

九月十二日完成シ本年五月八日竣功認可ヲ得タリ

郷本川改修工事ハ前年度ヨリ引續キ管理者新潟縣知事ノ自營ニシテ目下工事中ニ係リ竣功スルニ至ラ

ズ

本年度ニ於ケル本川竣功額ハ三十八萬六千九百八十九圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ二千二百九十九萬三百九十五圓ナリ之ヲ總工費二千三百五十四萬一千九百五圓ニ比スレバ約九割八分ノ竣功タリ今其工事竣功表ヲ示セバ左ノ如シ但シ退職手當五千三十三圓七十錢ハ本表竣功高ニ之ヲ包含セズ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿費	二七、九二二、四八〇粒	八、〇七二、二〇四圓	一八六、八一三粒	五三、九二二圓	二八、一〇九、二九三粒	八、二二五、一六六圓	〇・九八八
浚渫費	七五、一〇、四二六	五〇、二九六一	六八二、七〇一	六四、八二二	八、一九三、一二七	五六七、七八四	一〇〇
築堤費		七八五、一五三		一、七五九		七八六、九二二	一〇〇
舊堤取拂費		一一七、三九三				一一七、三九三	一〇〇
護岸及制水費		一四、七〇、〇〇〇		一、三、二九四		一五四、〇一六	一〇〇
床固費		一〇、九五〇				一〇、九五〇	一〇〇
閘門費		二〇八、四三七				二〇八、四三七	一〇〇
洗堰費	洗堰 一	一、五五七、〇四四		六、三八九	洗堰 一	一、五六三、四三三	一〇〇
防砂堤費				二、八四五		二、八四五	一〇〇
魚梯費				一、三三一一		一、三三一一	一〇〇
突堤費		九三二、五一五		一九、五三三		九五二、〇四八	一〇〇
燈臺費		一四、一三九				一四、一三九	一〇〇
其他							
合計							

總計	附帶工事費	採石費	自在堰及洗堰運轉費	用地費	運搬費	船舶及機械費	施行中諸費
二二、六〇三、四〇六	七六八、八六二	三三七、九一四	一〇〇、〇一一	九三〇、〇三八	九二、〇一八	六、一〇三、〇二三	二、〇二一、〇三三
三八六、九八九	三、一〇一	八、〇八三	三、九五七	一〇九	六、九四八	一一五、一四〇	七三、七七五
二二、九九〇、三九五	七七一、九六三	三四五、九九七	一三、九六八	九三〇、一四七	九八、九六六	六、二一八、一六三	二、〇九四、七九七
〇・九八							

第三 吉野川改修工事

(大阪土木出張所)

緒言

本工事ハ明治十六年七月測量ニ著手十八年二月ヨリ改修工事ヲ施行シ同二十年度ヨリ工費總額七十萬九千五百八十八圓、竣功年限十箇年度ノ豫定ニテ德島縣名西郡第十村(今ハ藍畑村ノ大字)以下別宮川筋ノ航路ヲ改良スルノ目的ヲ以テ工事ヲ續行セシニ偶二十一年七月及九月ノ洪水ニ因リ西覺圓村(今ハ藍畑村ノ大字)外數箇村ノ堤防決壊シタルガ爲ニ地方人民改修工事ノ中止ヲ希望セシヲ以テ遂ニ二十二年度限リ施行ヲ見合ハスニ至レリ其後同四十年年度ヨリ大正十年年度ニ至ル十五箇年度繼續事業トシ工費豫算八百萬圓(内德島縣負擔二百七萬五千圓)ヲ以テ左岸德島縣阿波郡林村字西林、右岸同縣麻植郡川田村以下海ニ至ル約三十九軒間ニ工事ヲ施行スルコトナリ大正十年年度ヲ以テ竣功ノ豫定ナリシガ大正八年度ニ於テ時局ノ影響ト第十堰以上ノ無堤部ニ堤防ヲ新設スル等ノ爲メ工費百三十九萬圓ヲ増額シ四箇年度ヲ延長セラレシガ十一年度ニ於テ更ニ八十萬圓ヲ十二度ニ於テ八十萬圓ヲ十三、十四ノ兩年度ニ於テ百二萬六千二百八十五圓ヲ増額セラレ結局工費總額一千二百一萬六千二百八十五圓ヲ以テ著々進捗中ノ處恰カモ十二年九月關東大震災ノ不幸アルヤ經費緊縮ノ餘波ヲ受ケテ更ニ一箇年度ヲ繰延ルノ已ムナキニ至リタレバ明十五年度ヲ以テ成功ノ豫定ナリトス

河狀並計畫ノ大要

本川ハ徳島高知及愛媛ノ三縣ニ亙ル一大河川ニシテ流域面積三千六百五十方糎ヲ有シ流路延長一千四百糎(内幹川二百四十糎)航路延長二百四十糎(内幹川百十糎)灌溉段別三百四十六方糎(内幹川八十四方糎)水害區域二千二百八十方糎(内幹川九百八十八方糎)ナリトス

河口ヨリ大凡四十糎ノ地點ナル徳島縣阿波郡林村字西林ハ本川ノ山間部ヨリ平地部ニ移ル處ニシテ同所以上ハ平地無キニ非ラザルモ小區域ニ屬シ水災ノ及ブ範圍亦大ナラザレドモ西林以下ハ海口ニ至ル迄平地次第ニ擴張展開シ本川ハ其中間ヲ貫流シ沿岸ハ霞堤若クハ無堤ノ狀況ナルヲ以テ一朝高水ニ際會センカ上記ノ平野一面ニ洪水汎濫シ非常ノ損害ヲ被ルヲ例トス加之本川ノ流量ハ非常ノ巨量ニ上リ水勢モ亦急ナルヲ以テ損害ノ及ブ處一層甚シキモノアリ就中麻植郡川島町大字川島附近ニ在リテハ對岸ニ善入寺島アリ之ヲ擁シテ本川兩分シ然モ同島面積四方糎九ハ頭部ニ水勢ヲ殺グノ堤防アルモ下方ニ堤防ノ設ケ無キヲ以テ高水ノ際ハ同島ヲ中心トシテ兩川合同シ茲ニ一大游水部ヲ形成スルガ故ニ同所ノ被害ハ特ニ著シキモノアリ又下流名西郡藍畑村大字第十以下ハ廣大ナル平野ヲ控ヘナガラ河川ハ殆ンド自然ノ狀態ニ放置セラレ適堤防無キニ非ラザルモ水勢衝突部ニ限ルヲ以テ洪水ハ各所ヨリ侵入シ平野ノ全部ハ浸水ヲ見ルノ狀態ニシテ最近十箇年間ノ平均水害損失價額九十四萬四千四百十九圓内大正元年二百六十八萬九千五百五十三圓同四年百七萬七千四百一圓ナリ

本計畫ハ高水防禦ヲ目的トシテ改修ヲ行フモノニシテ先ヅ河狀最モ不良且水災ノ及ブ範圍ノ廣大ナル第十以下ニ一大改良ヲ加ヘントスルモノナリ即チ別宮川ヲ以テ放水路ト爲スノ案ヲ立テ第十ニ於テ本流ヲ遮斷シ同所以下海口ニ至ル迄十四糎ニ亙リ別宮川筋ニ對シ新ニ法線ヲ定メ屈曲ヲ匡正シ河幅ヲ規定ス河幅ハ起點ニ於テ之ヲ七百二十米トシ海口ニ至リテ一千二百七十米ニ擴張スレドモ尙此河幅ニテ

規定ノ流量ヲ流下スルニ下足ノ断面ハ河身ニ浚渫及掘鑿ヲ加ヘ以テ最大流量一萬四千立米ヲ快疏スルノ河幅ヲ具備セシムルモノナリ而シテ別宮川ニ改良ヲ加ヘテ放水路ト爲セシ所以ハ同川ハ第十以下稍直線ニ海ニ通ジ勾配急ナルヲ以テ現状ニ在リテモ廣濶ナル河幅ヲ有シ河床低ク河積大ナルニ反シ本流ハ迂曲ヲ極メ勾配緩ナルヲ以テ漸次埋没ヲ來シ河狀不良ナルヲ以テ事實上ノ本流タル別宮川ニ依リテ高水ヲ疏通セシムルヲ適當ト認メタレバナリ然レドモ同川ハ第十堰ノ低水位ヲ絶ツアリテ航行ハ從來本流ニ依リシヲ以テ改修計畫ニ於テモ此點ニ關シテハ既往ノ慣行ヲ保存セシムルコトトセリ但シ現在ノ分流口ハ河床高ク低水ニ於テ淺游ヲ感ジ且航行ニ不便ナルヲ以テ少シク上流ニ之ヲ附換ヘ取入口ニ水門ヲ設ケ洪水時ニハ之ヲ閉鎖スルモノトス併シ全然洪水ヲ遮斷シ低水ノミヲ通ズルトキハ下流ニ於テ鹹水ノ害ヲ醸ス恐レ無キニ非ラザルヲ以テ洪水時ニ在リテハ時々二百八十立米以內ノ水量ヲ流下シ其患害ヲ防グコトトセリ

第十ヨリ上流ハ大體ニ於テ現状ニ委ネ舊堤ニハ一齊ニ嵩置ヲ行フモノトス而シテ其霞堤ノ部分ハ地方ノ狀況ニ鑑ミ適宜締切ル事アルベシ又上流水災ノ中心地タル善入寺島ハ之ヲ買收シテ河川敷ニ編入シ障害物ヲ取拂ヒテ游水地ノ作用ヲ完全ナラシメ沿岸竝下流ノ水災ヲ輕減スルノ策ヲ採レリ

第十堰ヨリ上流阿波郡林村大字西林ニ至ル區間ハ當初ノ計畫ニ依レバ左岸柿島村、右岸川島町以下ハ在來ノ堤防ニ對シ擴築ヲ施スコトトナリ居タルモ無堤地ニ對シテハ上流西林ノ市街裏洪水漲溢部ニ築堤スルノ外何等ノ計畫無カリシヲ以テ洪水ニ際シテハ依然汎濫ニ委スルノ外無キ状態ナルノミナラズ下流改修部トノ權衡上ニ於テモ相當區間ニ堤防ヲ新設スルト同時ニ右支川田川ノ改修ヲ行フコト最モ緊要ナルヲ認メタルニ依リ之レガ計畫ヲ立テ追加工事トシテ施行スルコトトセリ

本川ノ堤防ハ第十以下ハ馬踏ヲ七米三トシ高水位上二米七ノ高ヲ保タシメ表裏ノ法ヲ三割トシ川裏法ニハ中腹ニ幅一米八ノ小段ヲ設ケ第十ヨリ上流ハ馬踏ヲ五米五トシ高水位上一米八ノ高ヲ保タシメ兩法ヲ二割トシ川裏法ニハ幅一米八ノ小段ヲ設ク

徳島市ヨリ新町川ヲ經テ新川タル別宮川ニ出テ更ニ榎瀬江古川ヲ經テ板野郡撫養町ニ通ズル航路ハ現狀ヲ維持シ尙洪水ノ際別宮川ヨリ上託兩川ニ對スル浸水ヲ防グ爲メ新堤ノ兩川ヲ横斷スル所ニ水門ヲ設置ス

施工狀況

本年度施行ノ主ナル工事ハ築堤浚深護岸ノ三種ニシテ外ニ附帶工事トシテ橋梁及樋門ヲ施行セリ

築堤工事ハ前年度ヨリ繼續施行セルモノノ内改修區域タル上流終端ノ兩岸ニ對位セル川田堤(麻植郡川田村)及西林堤(阿波郡林村)ト善入寺川左岸ナル柿原堤(阿波郡柿島村)トハ早ク竣工シ八幡第二築堤(阿波郡八幡町)ハ土量稍多キト水害ノ爲メ幾分手戻ヲ生ゼシカバ一部翌年度へ繰越セリ阿波郡伊澤村地内伊澤谷川、大久保谷川、同郡市場町地内日開谷川ノ各流點附近ハ浸水區域廣大ナラザレドモ洪水ニ際シ水勢ノ衝ニ當リ被害尠カラザルヲ以テ正面ノ水勢ヲ防遏スル目的ヲ以テ局部毎ニ築堤ヲ施設スルコトトナリ夫々伊澤堤及市場堤ヲ起工セリ

既成堤防ノ手入補修ハ本年度ニ於テモ續行シ尙右岸山瀬堤及川島堤中高水位ノ實況ニ鑑ミ高サノ餘裕稍々不足ノ箇所アリシカバ其嵩置ヲ企テ工事中ニ在リ

浚深ハ前年度ニ續キテ第十運河ニ施行シ略既定ノ功程ヲ舉ゲシモ樋門ヨリ土砂ノ流入シテ多少堆積ス

ルモノアルヲ免レザレバ尙暫ク繼續施行セン

護岸工事ハ前年度ヨリ繰越ノ別宮川筋新居護岸(名東郡新居村)幹川筋川田、西林、柿原第三ノ護岸、善入寺川筋八幡第二護岸、合計五箇所中新居ト八幡第二トハ僅少ノ未成部ヲ殘シ其他ハ悉ク竣功セリ

本年度著手ノモノハ別宮川筋ニ高崎護岸(名東郡新居村)追補、鮎喰川筋ニ上助任護岸(同郡加茂村)吉野川筋ニ山瀬護岸(麻植郡山瀬町)追補、山瀬第二護岸(岸同上)川田舊護岸補修、市場護岸(阿波郡市場町)伊澤護岸(同上)西林第二護岸(同上)合計八箇所トシ内上助任、山瀬追補伊澤ノ三者ハ竣工シ市場及西林ハ漸ク年度末ニ著手セルモノナリ

水害ニ因リテ破損セル既設護岸ノ修繕トシテ別宮川筋ノ高崎護岸(名東郡新居村)古川第二護岸(板野郡應神村)川田川筋ノ川田川護岸(麻植郡川田村)ニ補修ヲ行ヒ又吉野川筋右岸名西郡藍畑村大字西覺園及左岸板野郡一條町地内ニ於テ高水ニ際シ堤防ニ滲透水アルヲ見シカバ堤裏護岸ヲ施シタリ

附帶工事ハ川田川橋梁、西林第一及第二樋門、柿原樋門、川田用水引入暗渠竝補助井戸ノ四箇所ニシテ何レモ前年度ノ著手ニ係リ本年度ニ入リテ竣工セリ本改修工事ニ屬スル附帶工事ハ之ヲ以テ全部落著シタルモノトス

本改修工事ハ明治四十四年九月起工以來十四箇年餘ヲ經過シ其間計畫通り進捗ヲ遂ゲ餘ス所一箇年度ヲ以テ完成ノ域ニ達セリ而シテ本年度ニ於テハ曾テ調査中ニ在リシ阿波郡市場町及伊澤村ノ築堤工事決定シテ其施行ニ著手シ工事中ノ八幡第二堤ト共ニ近ク竣工ノ運ニ在リ之レニ依リテ左右兩岸ヲ通ジテ築堤工事ノ終結ヲ告グルモノトス

護岸工事ハ大體普及 姿ニアレドモ仍ホ所々ニ増設或ハ補修ヲ要スルモノアリ地形及水勢ノ變化等ヲ

考察シテ緩急ヲ謀リ漸次其完成ヲ期シツツアリ

土工用大型機械ノ使用ハ前年度ヲ以テ終了シ以來土砂ノ掘上運搬ハ人力及馬力ニ依レリ隨ツテ機械ノ修繕モ著シク減少シ僅ニ輕便土工器械ノ手入ニ止マルヲ以テ本年度末ニ至リ徳島機械工場ヲ閉鎖シタリ

本年度中最大ノ出水ハ九月十八日ニ起レリ佐野塚量水標(第十堰下)水位最高八米ニ達シ計畫高水位ニ對シ一米ノ下位ニ在リ大正七年七月ノ洪水ト略同程度ナレドモ築堤工事完成ノ效果ニ依リテ殆ント汎濫ノ被害ヲ見ザリキ當時工事上ノ被害ノ主ナルモノヲ舉グレバ築堤土砂ノ流失セルモノ約八千七百立米護岸石張ノ破壊セルモノ約三千方米トス

本年度ノ竣功額四十九萬一千二百三十九圓起工以來本年度迄ノ累計ハ一千百三十八萬七千七百八十七圓ニシテ總豫算一千二百一萬六千二百八十五圓ノ約九割五分ニ當レリ其内譯左表ノ如シ但シ*ハ貫土土量ニシテ「」ハ管理者負擔額「」ハ無償品使用見積額

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	* 四、〇四三、二六六 六、三四九、五五四	一、五六八、三五二 四	* 三、九一六、二一六	一〇三、一八一 四	* 四、二八一、三八二 六、三四九、五五四	一、六七一、五三三 四	〇・九九 〇・九九
掘鑿費	九、五八七、七九三	五六六、四三二			九、五八七、七九三	五六六、四三三	〇・九八
浚渫費	一、七九四、七七七	五八九、八八一			一、七九四、七七七	五八九、八八一	一・〇〇
護岸制水費	二九七、五九九 米	六九六、六六八	八、八一〇 米	一八五、一三四 七六	三、八五六九 米	八八一、八〇二 七六	〇・九九
特種工事費	〇 箇所	一、〇八九、六八七 一、五〇六、六〇七	〇 箇所	一三、六一四	〇 箇所	一、〇八九、六八七 一、五〇六、六〇七	〇・九〇

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
用地費	一、四五二・〇〇〇 段	三、二七五、〇六〇 円	一、四〇〇・〇 段	一、二、六二一 円	一、一、四六六・〇〇〇 段	三、二八七、六八一 円	—
附帶工事費補助	二箇所	一四五、五四〇 一六二、三〇〇	五箇所	六二、七八二 一〇、七七七	二箇所	二〇八、三三二 一、六二、三〇七	一・〇〇
船舶機械費	—	二、一三九、五四八	—	五七、五四八	—	二、一九七、〇九六	—
施行中諸費	—	八二五、三八〇	—	五六、三五九	—	八八一、七三九	—
總計	—	一〇、八九六、五四八 一四八、〇三〇 一六、六八三	—	四九一、二三九 二〇、七七七 七、六七七	—	一一、三八七、七八七 一五〇、一〇七 一六、七五九	〇・九五

第四 高梁川改修工事

(大阪土木出張所)

緒言

本工事ハ明治四十年度ノ創業ニ屬シ大正六年度ニ至ル十一箇年度繼續事業トシテ左岸岡山縣吉備郡總社町大字湛井右岸同縣同郡秦村以下海ニ至ル間ヲ改修スルモノニシテ總工費豫算四百七十八萬三千三百七十圓(内岡山縣負擔百三十七萬一千圓)ヲ以テ工事ニ著手シタリシガ大正五年八月一川主義ヲ採リ一部改修計畫ヲ變更シタル結果吉備郡川邊村地内小田川落口ニ導流堤ヲ築造シ都窪郡中洲村地内ニ山腹ノ切取ヲ必要トスルニ至リタルノ外大正五年十一月高梁川東西用水組合工事ヲ附帶工事トシテ許可セラルルヤ其一部ハ本省直轄トシテ施工スルコトトナリシト其外築堤護岸ノ追加施設ヲ必要トスルニ至リタル等ノ爲メ當初豫定ノ功費年限ニテ竣功困難トナリシニ加ヘ偶大正六年度以來歐洲大戰ノ影響ヲ受ケ諸物價、勞銀ノ漸次昇騰シタルヲ以テ同八年四月豫算六十五萬圓ヲ増額セラレタルガ其後物價騰貴ノ爲メ尙多額ノ不足ヲ告グル見込ヲ以テ同十年四月以來三度豫算増額施工年度ヲ延長シ現在總豫算七百九十二萬六千八十七圓(内岡山縣負擔二百十五萬七千圓)トナリ大正十三年度竣功ノ豫定トナリシモ大正十二年九月ノ關東大震災火災ノ結果一箇年分ヲ繰延ベ同十四年度ヲ以テ竣功ノ豫定トナリ本工事ハ全部完成ヲ告ゲタリシガ尙附帶工事ニ少許ノ増工事ヲ施行スルコトトナリ同十五年度上半期ヲ以テ完成セシメントスルモノナリ

河狀並計畫ノ大要

本川ハ廣島及岡山ノ兩縣ニ互リ流域面積二千四百八十方籽ヲ有シ流路延長一千百八十籽(内幹川百十籽)航路延長百六十籽(内幹川八十籽)灌溉段別百六十三方籽、水害區域二百二方籽トス而シテ本川ノ水源地方ハ酸化花崗岩質ノ禿山多キヲ以テ豪雨ノ際ハ土砂一時ニ流下シ流量モ亦甚大ニシテ流路爲メニ埋塞シ諸所ニ破堤ヲ見、沿岸ニ浸水スルコト頗ル多シ彼ノ明治二十六年ノ水害ノ如キハ堤防護岸ノ破損ハ縣費復築費ノミニテモ七十萬圓ニ上リ作物其他ノ諸損耗又四百七十萬圓ニ達シ其後同三十二年ニ於テモ亦總額百八十五萬餘圓ノ水害ヲ見タルコトアリ

本改修計畫ハ本流分派點以上每秒六千四百立米、支川小田川同一千三百九十立米、分派後ノ本流同六千九百六十立米ノ最大流量ヲ快疏スルニ足ルベキ河積ヲ保タシメ以テ洪水ヲ防禦セントスルモノナリ即チ本川ハ河口ヨリ約十二籽ノ地點ナル岡山縣吉備郡川邊村字南山ニ於テ小田川ヲ合流シ又直ニ山ヲ擁シテ二派ニ分流ス分派後ハ平地最モ多ク其水害ノ波及スル所モ亦甚大ナルニ依リ此部分ノ改修ハ最モ重要ノモノナリトス而シテ分派後ノ河川ニ對シテハ治水計畫上一川主義ヲ採リ西派ハ分流口ニ於テ之ヲ遮斷シ都窪郡清音村大字古地以下同郡中洲村大字酒津迄東派ニ依リ酒津以下ハ西派ニ導クコトトセリ堤防ハ努メテ舊堤ヲ利用シ必要ニ應ジテ河幅ヲ擴張シ以テ上記ノ最大流量ヲ快疏スルニ足ラシム幅員ハ上流部約五百四十五米、河口一千二百七十米トス

支川小田川ニ對シテハ導流堤ヲ築造シ幹川トノ合流點ヲ引下ゲテ平水位ノ低下ヲ圖ルモノトス而シテ小田川合流點ヨリ上流ハ在來ノ儘ニテ相當河積ヲ有スルヲ以テ之ニ依リテ改修ヲ加フルコトトシ舊堤

ヲ擴張シ亦迂曲甚シキ部分ハ之ヲ匡正シ約五百四十五米以上ノ河幅ヲ保タシムルモノトス堤防ハ馬踏七米二(東派締切堤ハ九米一)川裏法二割五分、川表二割ニシテ川表ニ在テハ中腹以下張石護岸ヲ施工ス

施工狀況

本工事ハ明治四十年創業者以來本年度迄十九箇年度ノ星霜ヲ經タリ此間施工ノ狀況ニ依リ自ラ之レヲ左記ノ四期ニ區分スルコトヲ得ベシ

第一期 (自明治四十年度至同四十三年度) 實施上ノ調査期

第三期 (自大正九年度至同十二年度) 直營附帶工事施行期

第二期 (自明治四十四年度至大正八年度) 築堤工事期

第四期 (自大正十三年度至同十五年度) 改修完了期

第一期ハ實施設計資料トシテ專ラ測量調査ニ從事セシニ過ギザルモ第二期ニ至リ本川改修ノ主要工事タル堤防築造ニ著手シ之レガ使用土砂ハ主トシテ河敷内ニ堆積セル土砂ヲ用ヒ概シテ下流ヨリ工ヲ起シ順次上流ニ及ボスコトトセリ堤腹石張竝堤脚護岸ニ用ヒタル石材ハ一少部分ヲ購入セシニ止マリ其大部ハ中洲村地内新川敷トナルベキ山嶽掘鑿ヨリ生産セルモノ又ハ工事場附近ヨリ直營採石工場ニ依リテ得タルモノナレバ極メテ安價ニ且豊富ニ花崗石ヲ使用シ得タルハ他ニ其類例ヲ見ザルトコロナルベシ

本期間末ヲ以テ堤防工事ハ凡テ九分通りノ成工ヲ告ゲタリ而シテ本川改修ノ主張タルベキ東派締切工事ハ大正五年十一月附帶工事トシテ認可セラレタル高梁川東西用水組合工事ノ内本省ニ於テ直營施工スルコトトナリタル數多ノ特種工事ト密接ナル關係ヲ有シ且至難ナル大工事タルノミナラズ其施工箇

所ハ僅々四料ノ範圍内ニ數多ノ建設工事點在シ彼是相關聯シテ之レガ施工ニハ定マレル順序アルベキヲ以テ後日ニ讓ルコトトセリ

本改修工事ニ於テ使用スル勞働者ハ主トシテ土著ノ農民ナルガ故ニ從ツテ勞力ノ供給ハ一年ヲ通ジテ一定セズ農事ノ繁閑ニ伴ヒ其消長アリト雖モ起工以來概ネ出役人夫ニ不足ヲ訴フルコト無カリシモ歐洲大戰以來勞銀漸騰シテ人夫ノ減少著シキヲ以テ大正六年以來數回ニ互リテ之レガ増額ヲセシモ元來賃格ヲ以テ直ニ民間營利事業ト人夫職工ノ爭奪ヲ爲スハ到底堪へ得ザル所ナレバ常ニ彼レニ比シ多少低位ニ在リシ爲メ充分ナル人夫數ヲ得ルコト能ハズ殊ニ大正八年度ニ於テハ勞銀ノ昂騰愈甚シク己ムヲ得ズ臨機増額又ハ勤務獎勵法ヲ設ケテ出役ヲ促シタリシモ尙常ニ不足勝ナリシヲ以テ充分ナル工程ノ進捗ヲ見ル能ハザリシハ遺憾トスル所ナリキ

第三期ニ於テハ酒津以下新川敷内ニ於ケル舊堤取拂、山地掘鑿等通水ノ準備ヲ爲スト共ニ專ラ直營附帶工事ノ進捗ニ努力セリ偶本年度初期ヨリ世上ノ景氣ハ急轉シ民業頓ニ衰へ特ニ地方的副業タル花菴賃業甚シク不振ノ状態トナリ出役人夫漸次増加スルニ至リタルヲ以テ一氣呵成ノ方針ヲ採リ銳意事業ノ速成ヲ期シ本期間ノ終リニ於テハ直營附帶工事ハ勿論東派締切堤竝新川敷内掘鑿工事等著シク進捗シ將ニ完成ノ域ニ達セントスルニ至レリ

第四期中大正十四年度ニ於テ施行シタル主ナルモノハ堤外地掘鑿、流末ナル乙島導、流堤及護岸制水工事竝附帶工事、高梁川東西用水組合委託工事、前年度竣功シタル貯水池堤防ノ増補工事ナリトス

而シテ本年度末ヲ以テ附帶工事ノ一部殘工事ヲ剩スノ外改修本工事ハ全部完成ヲ告ゲタリ即チ茲ニ本年度竣功高ノ主ナルモノヲ記スレバ築堤一千百六十四圓、掘鑿九萬五千八百三十一立米此工費二萬四千

九百六十九圓、護岸制水三千四百八十九米此工費八萬四千四百三十圓ナリトス而シテ本改修工事本年度ノ竣功額ハ二十萬五千二百六十八圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計七百七十六萬九千四百六十九圓ナリ故ニ總工費七百九十二萬六千八十七圓ノ九割八分ニ當レリ其内譯ハ左表ノ如シ但シ築堤土量ニハ貫土々量ヲ含ミ〇ハ無償品見積價額ヲ示ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤費	五、六〇九、六二三 粒	一、七〇三、七七一 〇	一、一六四、門	一、七〇三、七七一 〇	五、六〇九、六二三 粒	一、七〇三、七七一 〇	一・〇〇
掘鑿費	二、二四五、四三九	六七一、三四一	九五、八三一	二四、九六九	二、三三一、二七〇	六九六、三一〇	一・〇〇
工濬費	四六、九八四	六、三七七	三、四八九 米	八四、四三〇	四六、九八四	六、三七七	一・〇〇
事護岸制水費	二一、三五四 段	九一七、五六一	三、四八九 米	八四、四三〇	二四、八四三 米	一、〇〇一、九九一	一・〇〇
用地費	四六、二	一、五一二、二八〇	三、四八九 米	八四、四三〇	四六、六二二 段	一、五一二、二八〇	一・〇〇
附帶工事費補助		一、七四九、九七六 四六一		五五、八一三		一、八〇五、七八九 四六一	〇・九〇
船舶及機械費		六四五、四三三		一三、五一七		六五八、九五〇	
施行中諸費		三五八、六二六		二五、三七五		三八四、〇〇一	
總計		七、五六四、二〇一 一七、九一一		二〇五、二六八		七、七六九、四六九 一七、九一一	〇・九八

第五 渡良瀬川改修工事

(東京土木出張所)

緒言

本工事ハ明治四十三年度ノ創業ニシテ總工費七百五十萬圓ヲ以テ大正八年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ起工セシガ大正四年度末ニ至リ第三十七議會ノ協賛ヲ經テ施行年限ヲ延長シ大正十年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシ同時ニ年度割ヲモ更正シ大正五年度以降實施シ來タリシガ偶大正七年度ニ至リ時局ノ影響ヲ受ケ物價竝勞銀ノ昂騰ヲ來シタルヲ以テ工費八十萬圓ヲ増額シ年度割ヲ更正シ其施行年限ヲモ三箇年度延長スル所アリシガ爾後物價竝勞銀ノ騰貴益高潮ヲ來シ既定工事ニテハ到底之ヲ支辨シ難キニ至リシヲ以テ更ニ同十年度ニ於テ六十萬圓ヲ同十一年度ニ於テ百萬圓ヲ同十二、十三ノ兩年度ニ於テ百五十萬圓ヲ追加シ前後四回ノ増額ヲ經テ總工費ヲ一千四百四十萬圓トセリ然ルニ大正十一年度末ニ至リ一般事業繰延ト共ニ更ニ施行年限ヲ一箇年度延長シ大正十四年度迄ニ施行スル事トナレリ其施行區域ハ幹川筋ニ在リテハ左岸栃木縣足利郡毛野村、右岸同縣同郡梁田村以下利根川合流點ニ至ル間、支川旗川ハ右岸栃木縣足利郡富田村、左岸同縣同郡吾妻村以下、支川秋山川ハ左右岸同縣安齋郡植野村以下、支川思川ハ左右岸同縣下都賀郡穗積村以下、支川巴波川ハ左岸同縣下都賀郡寒川村、右岸同縣同郡部屋村以下各渡良瀬川合流點ニ至ル間ナリトス

河狀 竝計畫ノ大要

渡良瀬川ハ源ヲ朽木縣上都賀郡足尾町大字足尾大嶽山ニ發シ足尾及群馬縣山田郡大間々ノ兩町ヲ過ギ下流桐生市ニ至リテ桐生川ヲ入レ足利市以下袋旗、矢場、秋山等ノ支川ヲ合セ朽木縣下都賀郡藤岡町及群馬縣邑樂郡海老瀬村ヲ經テ茨城縣猿島郡古河町ニ至リ更ニ思川ヲ合シ同郡新鄉村大字中田地先ニ至リテ利根川ニ注グ其流域ハ朽木、群馬、埼玉、茨城ノ四縣下ニ互リ面積三十六萬八千六百ヘクタールヲ占メ流路延長八百二十九軒、内幹川百六軒、航路延長幹支川ヲ合セテ百三十七軒、灌溉段別一萬九千五百ヘクタール、水害區域四萬五千五百ヘクタールヲ有セリ而シテ足利市以下ハ平地部ニ屬セリト雖モ其上流部ハ霞堤又ハ無堤部多ク高水毎ニ浸水ヲ免レズ其堤塘アル部分ト雖モ其纖弱ナルト河積狹小ニシテ流積ヲ存セザル爲メトニ因リ一朝洪水ニ際會セバ溢流崩壞ヲ來シ頻年水災ヲ醸サザル無ク殊ニ下流思川合流部附近一帶ハ利根川ノ逆流ヲ受ケ利根、渡良瀬、思、巴波ノ各川高水赤麻沼ヲ中心トシテ停滯シ附近一帶ノ平地ヲ水底ニ浸シ堤塘各所ニ破壞シ堤内ノ耕地數萬ヘクタールヲ舉ゲテ泥海ニ化スベク加之其湛水期間頗ル長期ニ互レルガ爲メ其慘害ノ波及スル所揣リ難キモノアリ今既往大出水ニ於ケル實際被害高ヲ示セバ明治二十九年ハ百六十二萬圓、同三十一年ハ二百五十萬圓、同三十五年ハ百八十四萬圓、同三十九年ハ百六十六萬圓ニシテ少クトモ百六拾萬圓ヲ下ラザルナリ

本改修計畫ハ主トシテ高水防禦ヲ目的トシ傍ラ關係地方ノ水利改善ヲ企畫セリ其計畫ニ採用シタル流量ハ每秒時本川二千五百立米、思川一千七百立米ナリトス

朽木縣足利郡毛野村以下同郡下都賀郡藤岡町ニ至ル延長二十軒ノ現川ハ河身迂曲、陝隘且兩岸堤外地ニハ土砂洪積シ到底前記ノ流量ヲ疏通スルノ河積ヲ有セズ堤塘亦薄弱而カモ各支川ノ流末ハ無堤トシテ開放セラレ洪水各所ニ汎濫溢流セルヲ以テ改修法線ヲ規定シ河幅ヲ起點ニ於テ百八十二米トシ漸次擴

張シテ四百十八米ニ達セシメ無堤部ニ堤塘ヲ築設シテ汎濫ヲ防止シ河身ヲ掘鑿シテ適當ニ河積ヲ與ヘ以テ高水ノ疏通ヲ圖リ兩岸堤塘ヲ擴張シテ其安全ヲ期シ藤岡町以下ハ迂曲セル現川ヲ廢シ同町高地ノ狹窄部ニ於テ上下二米四ノ落差ヲ有セル箇所ヲ開鑿シテ敷幅百六十四米ノ新川ヲ通ジ直ニ赤麻沼ヲ中心トセル游水地ニ流下セシムル事トセリ

赤麻沼ハ之ヲ擴張シテ游水作用ヲ大ナラシムル爲メ舊谷中輪中竝思巴波ノ兩流末ニ於ケル低地部ノ舊堤ヲ撤去シテ游水地域ニ編入シ其周圍ニハ堅牢ナル築堤ヲ施工シ廣袤三千五百ヘクタールノ面積ヲ包容シ以テ赤麻沼ノ最高水位(堀口標五米九四)ニ於テ約一億六千六百九十六萬立米ノ水量ヲ收容スルヲ得セシメ利根、渡良瀬及思巴波ノ兩支川ノ合同流量ヲ緩和シテ五千六百立米ニ低減スルノ作用ヲ爲サシムル事トセリ之レ蓋シ渡良瀬、思等ノ各支川ハ利根川ニ比シ水源近キガ故ニ其最高水位ハ利根ノ水位未ダ高カラザル間ニ赤麻沼ニ注ギ夫レヨリ利根川ニ流下シ後利根ノ高水ハ徐々ニ増進シテ赤麻沼ニ逆流シ其偉大ナル自然ノ作用ニ依リテ利根、渡良瀬合流點以下ノ流量ヲ輕減セルノ状態ナルヲ以テ此水利關係ニ稽ヘ渡良瀬及思兩川ノ高水疏通ノ速カナラシムルト共ニ赤麻沼ヲ擴張シ以テ其自然ノ調節作用ヲ從來ニ比シ倍々顯著ナラシメ以テ利根ノ流量ヲ緩和シ三川合同流量ヲシテ前記ノ程度ニ止メントスルニ在リ

思川ハ右岸栃木縣下都賀郡穗積村附近ノ開放部ニ新タニ堤塘ヲ築設シテ汎濫ヲ防ギ其下流ナル同郡間々田町以下ノ法線ヲ規定シテ改修ヲ加ヘ尙同郡野木村高座口地先以下新水路ヲ開鑿シ巴波川亦同郡部屋村以下新川ヲ開鑿シテ直路赤麻沼ニ導ク事トシ又古河町以下利根川合流點ニ至ル間ニ於ケル渡良瀬川ハ迂曲屈折セルヲ以テ新ニ河幅五百四十五米ヲ有セル直路新川ヲ開鑿スル事トセリ之レ破堤防禦ノ

外游水地ノ效果ヲ一層有効ナラシメントスルモノナリ

渡良瀬川及思川ノ堤塘ハ上流部ハ共ニ馬踏ヲ五米五、内外法ヲ二割トシ高水位上一米五ノ高サヲ保タシメ堤裏ニハ適宜小段ヲ設ケ藤岡町以下游水地ノ周圍堤ハ馬踏七米三、外法ヲ三割、内法ヲ二割トシ表裏ニ小段ヲ設ケ古河町以下利根川合流點ニ至ル間ノ堤防ハ馬踏七米三、内法を三割、外法ヲ二割トシ堤裏ニ小段ヲ設ケ游水地周圍堤ト共ニ堤高高水位以上一米八ノ高サヲ有セシムル事トセリ

施工狀況

本工事ハ明治四十三年度創業ト共ニ直ニ施工準備ニ著手シ翌四十四年度ヨリ土地買收調査ヲ開始シ以後大正五年度ニ至ル六箇年度ヲ經テ殆ント所要土地ノ買收ヲ了レリ其施工ハ大正元年度ニ於テ先ヅ古河町以下新川ノ開鑿工事ニ著手シ逐次游水地周圍堤ノ築設及藤岡町新川ノ開鑿竝思、巴波ノ新川附替工事等主トシテ下流部ニ於ケル諸工事ノ速成ヲ圖リ大正五年度ニ至リ古河町以下ノ新川竝高座口以下ニ於ケル新思川ヲ貫通シ更ニ大正七年度ニ至リ部屋村以下新巴波川竝藤岡町新川ノ開鑿ヲ了リ各之ガ疏通ヲ見茲ニ始メテ藤岡町以下ノ游水地周圍堤及下流部ニ於ケル各重要工事ハ竣功セシヲ以テ其後ハ主トシテ藤岡町上流竝思川筋高座口ヨリ上流部ニ於ケル施工ヲ促進セシメ下流部ノ殘工事及游水地方面ハ大正十一年度迄ニ於テ殆ント之ヲ完成セリ

本川上流部ハ大正八年度ニ於テ旗川左岸ノ論所開放部竝右岸矢場川流末部ヲ閉塞シ同九年度ニ於テ野堀、才川ノ二樋門ヲ同十年度ニ於テ尾名出流ノ二樋門竝之ニ接續セル旗川右岸ノ新堤ヲ築設シ同十二年度ニ於テ秋山川ヲ附替へ舊川流末開放部ヲ閉塞シ更ニ前年度ニ於テハ支川袋川ノ逆水門樋及其接續堤

塘ノ施工ト共ニ開放部ヲ閉塞シ茲ニ從來無堤ナリシ各支川流末部ハ全部閉塞ヲ了リ復タ汎濫ノ憂無キニ至レリ

思川筋鹽澤地先新堤竝游水門樋等ハ是亦年度内ニ竣成シ餘スハ僅ニ既成諸工事ノ修補ノミトナレリ斯クテ起工以來築堤土量運搬一千四十四萬二千三百三十一立米、浚深土量一千五百五十一萬八千四百九十九立米、護岸制水百四十八箇所、特種工事三箇所、附帶工事四十箇所ヲ施行シ工費合計五百四十九萬四千六百四十四圓ヲ支出セリ

本改修事務所ハ茨城縣猿島郡古河町ニ設置シ其下ニ梁田、袋川、早川田、船津川、藤岡、乙女、古河ノ七工場ヲ置キ各工事ヲ擔當セシメシガ各工事ノ進捗ニ伴ヒ大正十五年一月各工場ヲ併合シテ船津川、古河、乙女ノ三工場トセリ又改修事務所隣地ニ古河機械工場ヲ置キ本工所用諸機械器具ノ製作及修理ニ當ラシメ傍ラ利根川改修工所用竝岩舟石材斫出所ニ屬スルモノノ修理及製作ヲ兼行セシメ更ニ砂利採集事業ノ爲メ思川筋乙女地先ニ思川工場ヲ置キ之レガ經營ニ當ラシメタリ以下少シク本年度内施工ノ狀況ヲ述ベントス

藤岡町新川以下游水地周圍堤及其下流利根川合流口ニ至ル間竝巴波川方面ハ既ニ竣成シ大正十一年度以降別途維持費ヲ以テ修補工事ヲ開始セル區域ニ屬シ改修工事トシテハ既設工事ノ追加工タル古河町附近堤防ノ修補及利根川合流箇所竝游水地内ニ於ケル各低水路護岸工事ノ一部、巴波川筋ニ於ケル流下沈澱土砂ノ浚深工事ニ過ギザルヲ以テ年度内之ガ施工ニ努メ全部竣功セシメタリ

思川上流部ノ主要工事ハ前年度迄ニ殆ント竣成シ本年度ニ於テハ前年度築堤工トシテ起工セル栃木縣下都賀郡生井村大字檜木地先舊川締切部竝同村網戸地先堤塘ニ各修補工ヲ施工シ上流同郡穗積村大字

間中地先流水激衝部ニ於ケル堤塘修補工事ハ是亦前年度ニ續工シ栗宮及田崩地先掘鑿工ト共ニ何レモ年度内竣成セリ其他上岡、田崩及上流間中地先護岸ヲ修補シ穗積村大字鹽澤地先逆水門樋竝接續堤塘ヲ完成シ野木村高座口以下ニ於ケル新思川既設護岸修補工事等全部完成シ剩ストコロ無キニ至レリ本川筋上流部ノ主要工事ハ前年度迄ニ殆ント竣成シ剩ス處ハ上流終端部護岸工竝既設諸工事ノ修補及一部ノ未成工事ノミトナレリ本年度ニ於テハ專ラ之レガ完成ニ努メ特ニ本夏ノ出水ニ對スル成果ニ鑑ミ椿田、中船渡、船津川、大島、高山、西岡等ノ各一部ニ相當整理掘鑿ヲ施工セリ又袋川、茂木、久野、野田、羽田、渡瀬、中船渡、下船津川、正儀内、馬門、除川等附近ノ堤塘ハ概ネ沈下セルヲ以テ適當ニ嵩置ヲ施工シ上流岩井、神明以下、川崎、野田、早川田、山王及西岡新田各地先ニ於テ護岸ノ新設及修補ヲ施工シ矢場川水門附近ハ兩岸深掘崩壞セルヲ以テ之ヲ修補セリ

支川秋山川ニ於ケル諸工事ハ前年度迄ニ殆ント完成シ僅ニ殘レル下流無堤部締切ノ一部及前年度起工シタル秋山川架橋工事、榎戸及伊保内地先護岸修補工ノミトナリシガ是等ハ年度内全部竣成セリ上記工事ノ内護岸ノ工法ハ下流部ハ主トシテ基礎沈床、法石張工又ハ法留杭打工ニ依リ上流部ハ附近ノ產出物ノ利用ニ努メ鐵線蛇籠或ハ鐵筋混凝土工ヲ併用シ割石ニ代フルニ採集玉石ヲ以テシ其他鐵筋混凝土工又ハ古枕木及古軌條ヲ利用シテ制水工用枰材ノ一部ニ供シ古枕材木ハ基礎固又ハ柵杭材ニ資スル等利用ヲ講ゼルモノ亦多シ

斯クテ年度内築堤土運搬十一萬七千六百七十三立米、浚渫土量十四萬七百二十立米、護岸制水二十五箇所、附帶工事二箇所ヲ施工シ工費合計十八萬九千四百四十一圓ヲ支出セリ

本川改修工事本年度竣功額ハ二十五萬四千七百五十九圓ニシテ起工以來ノ累計ハ一千九十八萬八千

八十八圓ナリ之ヲ既定工費豫算一千四百四十萬圓ニ比較スルトキハ九割六分強ノ竣功ナリトス左ニ工事竣功表ヲ掲グ但シ退職手當三千七百二十四圓ハ竣功額ニ之ヲ包含セズ表中「」ハ製作品又は評價品價額「」ハ管理者負擔額「○」ハ土捨出願者提供勞力及材料價額ヲ示ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	一〇、三三三、五五七	一、一五二、〇一六	一七、六七三	四九、四四八	一〇、四四〇、三三〇	一、二〇一、四六七	〇・九九
浚渫費	一五、三七七、七七九	二、五五五、九一〇	一四〇、七二〇	三二二、四九一	一五、五一八、四九九	二、五八八、四〇二	〇・九九
護岸制水費	未竣功 二二二	一、二二二、七四七	未竣功 一九六	一〇四、七一四	未竣功 一三七	一、二二二、七四七	〇・九九
特種工事	三	一三四、九〇八	△	一四、六一六	三	一三四、九〇八	一・〇〇
直轄施行	竣功 二八	二九三、六一三	竣功 二	二、四八八	竣功 三	二九六、一〇一	〇・九九
管理者施行	竣功 一〇	二八二、〇〇九	△	二、七〇二	竣功 一〇	二八四、七一〇	〇・九九
用地費	△	四六、三二二	△	六、五二〇	△	四六、三二二	
船舶及機械費	△	二、七六九、三二一	△	一六、六八六	△	二、七六九、三二一	
測量費	△	一、七二一、九九〇	△	九五一	△	一、七三八、六七六	
營業繕費	△	一一七、一八三	△	九八二	△	一二八、一三四	
雜費	△	三、〇三六	△	九八二	△	三、三三三	
共濟組合給與金	△	八一、八九〇	△	二、八七五	△	八四、七六五	
	△	八一八、四七六	△	四〇、七三八	△	八五九、二一四	
	△	五、八八四	△	二、三三七	△	八、二二一	

第一章 河川改良工事 (渡良瀬川改修工事)

總

計

◎□△

一〇、七三三、四二九
二一、七三三、四二九
二一、七三三、四二九
〇、九九九

◎□△

二五四、七五九
五、二一四、七五九
六、九〇三、五八九
七、二八八

◎□△

一〇、九八八、一八八
二一、九八八、一八八
五、四六八、一八八
六、九一三、七八八
七、一七八

〇、九六

第六 北上川改修工事

(仙臺土木出張所)

緒言

本川筋ニ於テ曩ニ航路改良ノ目的ノ下ニ盛岡市ヨリ宮城縣牡鹿郡石卷港ニ至ル五十里間ヲ工費百二十三萬五千六百五十六圓五十三錢九厘ヲ以テ明治十三年度ヨリ同卅五年度ニ至ル二十三箇年度間ニ互リテ低水工事ヲ施行シ一旦結了ヲ告ゲタリシモ洪水防禦工事トシテ其後同四十四年度ヨリ大正十一年度ニ至ル十二箇年度繼續工費八百萬圓(宮城縣負擔額二百九萬二千圓)ヲ以テ左岸宮城縣登米郡錦織村、右岸同縣同郡上沼村以下海ニ至ル間ヲ更ニ改修スルコトトシ施行中偶歐洲大戰亂後物價騰貴ニ由リ工費二百六十二萬二千圓ヲ増シ合計一千六十二萬二千圓ト爲シ竣功年度ヲ二箇年度繰延べ大正十三年度竣功ノコトトナリシモ此増額セラレタル大正八年度末期ヨリ更ニ急激ニ勞銀物價ノ昂騰ヲ表ハシ大戰亂ノ終息後ト雖モ猶下落ヲ呈セザルニ一方大正九年度ニハ北上川筋二回ノ大洪水アリテ其後全川結氷、多大ノ氷雪流下、稀有ノ大雪、霖雨等年毎ニ特異ノ天禍ニ襲ハレシガ爲メ春秋雨季ノ農繁季以外ノ期間ニ連月工事休止ノ厄ニ罹リ工程ハ豫想ノ半バニ過ギザルノ悲境ニ陥レリ一昨十二年度ノミハ上半期ニ於ケル稀有ノ霖雨ト帝都震災トノ一時的工事材料ノ缺乏ニ惱ミタル外ハ下半期ニ於テ天候順調ニ經過シ今日ニ及ベルモ過去四箇年度間ノ連續的工事ノ滯滞ハ到底本年度即チ最終一箇年度ヲ以テ挽回スベクモアラザレバ工費ヲ更ニ二百七十萬圓増額シ竣功年度ヲモ六箇年度延長シテ大正十九年度迄トセリ斯クテ總工費豫算額ハ一千三百三十二萬二千圓トナレリ

河狀並計畫ノ大要

本川流域ハ宮城、岩手ノ兩縣ニ亙リ其面積一萬七百十九方籽ヲ有スル大河川ニシテ流路延長三千七百七十八籽(内幹川二百四十三籽五分灌溉段別五萬六千九百町步(内幹川三千七百二十三町步)水害區域五萬二千九百十四町步(内幹川二萬二千百二十一町步)航路延長六百四籽八分(内幹川二百三十一籽七分)ナリトス而シテ本川ノ航路ハ岩手縣西磐井郡眞瀧村大字狐禪寺以下及追波川等ニシテ古來航行ノ便開ケ尙維新後北上運河、東名運河、真山運河等ニ依リ阿武隈川ニ連絡ヲ有スルヲ以テ眞ニ東北地方ノ一大運輸機關タリ現今鐵道ノ便漸ク開ケ稍々不況ヲ呈セシガ如キモ水運ヲ利トスル貨物モ亦少カラズ河道ハ幹川、狐禪寺及宮城縣登米郡米谷町大字米谷、同縣桃生郡前谷地村大字和淵等ノ如キ陝隘部アリ殊ニ狐禪寺ノ陝隘部ハ山間部ニ屬スルヲ以テ破堤無シト雖モ上流部ニ一大湖水ヲ現出シテ沿岸ノ水災ヲ釀シ米谷及和淵ノ陝隘部ハ上流ノ水位ヲ高メ破堤ノ因ヲ爲スモノシテ米谷ノ右岸ニシテ破堤センカ南方廣大ナル平野ニ瀾漫シ直ニ支川迫川ノ堤防ヲ突キ沿岸ニ浸水スルノミナラズ逆流シテ其慘害ヲ逞フシ又和淵右岸堤ノ破堤ヲ見ンカ是亦遠ク南方ニ波及シ且石卷町ヲ襲フニ至ル明治八年以降被害數萬町步以上ニ達シタルコト數フルニ違アラズ尙本川沿岸ハ高水直接ノ結果タル惡水ノ災害モ亦甚ダ多ク其區域登米、本吉、挑生、牡鹿、遠田、栗原ノ六郡ニ及ビ就中迫川及江合川沿岸ヲ主ナル被害トス今最近十箇年(明治四十三年乃至大正八年)ノ水害高ヲ見ルニ一箇年平均二百二十九萬六千七百七圓ノ多額ニ上リ其最モ被害甚シカリシハ明治四十三年ノ一千六十一萬一千五百三十一圓ニシテ大正二年ノ如キハ損害額八百八十一萬一千三百四十九圓ニ上レリ以テ本川沿岸ノ水害甚シキヲトスルニ足ラン乎

本川改修ノ目的ハ高水防禦ヲ主トシ傍ラ航路ヲ修正シ併セテ惡水排除ノ便ヲ圖ラントスルニ在リ而シテ改修計畫ニ採用シタル最大流量ハ每秒北上川本流ハ五千五百六十五立米、迫川ハ一千六百三十七立米、江合川ハ六百九十六立米ナリトス

今計畫ノ主トスル所ヲ記スレバ宮城縣本吉郡柳津町ニ於テ本川ヲ締切り同所以下之ヲ桃生郡飯野川町合戦ヶ谷ニ附替ヘ同町地先ニ於テ追波川ニ合セシメ以下追波川ニ改修ヲ加ヘ以テ之ヲ本流タラシメントスルニ在リ如斯スルトキハ柳津町以下舊川沿岸ニ於ケル廣大ナル平野ノ浸水ヲ根絶シ又舊川ニ合流スル迫及江合兩川ノ高水流下ヲ急速ナラシメ同川沿岸ノ水災ヲ輕減スルト同時ニ惡水排除ヲ快クスルノミナラズ航路ノ改良ヲ見ル等各種ノ利益ヲ得ベケレバナリ

柳津町以下新川ニハ最大流量五千五百六十五立米ノ内四千七百三十立米ヲ通ズルノ河積ヲ保タシムルモノトシ新川河積ハ柳津町ニ於テ四百四十五米四トシ合戦ヶ谷ニ於テ二百九十米九乃至四百四十五米四トス合戦ヶ谷新川部ノ兩岸山麓ニ接スル所ハ築堤ヲ要セザレドモ平地部ニハ築堤ヲ爲シ中央ニ百九米二乃至百四十五米四ノ開鑿ヲ施シテ流積ヲ與フ飯野川町地先ニ於テハ新川殆ンド直角ニ廻轉シ追波川ヲ利用シテ東方ニ向フ同所以下ノ河幅ハ四百五十米五乃至七百二十七米二ニシテ築堤ヲ施シ浚渫ヲ行ヒ所要ノ河積ヲ與フルモノトス而シテ追波川右岸桃生郡二股村地先ニハ延長五千四百五十四米ノ運河ヲ設ケ其下流端ニ舊川ト航路ノ連絡ヲ保ツ爲メ閘門ヲ設置ス

柳津町舊川分派口ニハ閘門ヲ設ケ以テ既往航行ノ便ヲ失ハザラシメ又洗堰ヲ設ケテ平水量(百三十一立米)ヲ送り以テ航路ヲ便ニシ且高水時ニハ本川最大流量五千五百六十五立米ノ内八百三十五立米ヲ分疏スル柳津町以下本川流末石卷町ニ至ル舊川筋ハ航路ヲ維持スル爲メ浚渫又ハ低水工事ヲ行ヒ流末石卷ニハ

突堤ヲ築キ浚渫ヲ施シテ濬筋ヲ設ケ航行ノ便ニ供セントス
柳津町ヨリ上流國境改修起點迄ハ登米郡登米町大字日根牛ノ如キ陝隘部ニ限り引堤ヲ爲シ河幅ノ擴張
ヲ爲ス外河狀ヲ現狀ニ委ネ舊堤ヲ増築スルニ止メタリ
築堤ハ馬踏七米三乃至十四米六ニシテ表裏トモ二割法トシ高水位以上一米二乃至一米五ノ高ヲ有セシ
メ水勢ノ衝突スル部分ハ場所ニ依リ三割法ト爲シ且張石護岸ヲ施行ス

施行狀況

前年度ニ引續キ工事ノ緊縮ニ努メタルト從來ノ大土工ハ已ニ殆ンド終了ニ近ヅキ代フルニ特種工事ヲ
主トスベキ過渡期ニ相當セルト農桑ノ如キ民業頗ル好況ナリシニ因リ本年度ノ工程ハ從來ニ比シ著シ
ク減退セリ特ニ晩秋ニ於テ頻々タル大雨ヲ見タル如キハ稀有ノ現象ニシテ凡テノ工事ニ意外ノ障礙ヲ
被レリ然レバ本年度内ニ移動セシ土量ニ就テ見ルモ僅カニ二十一萬六十七立米ニシテ前年度ニ比シ更
ニ著シク減少セルヲ覺ユ

浚渫工ハ本年度ニテハ僅カニ追波川筋右岸桃生郡大川村大字福地々内舊堤外地ニ於テ施行シ掘鑿工モ
前年度ニ引續キ新川敷上流端柳津町移轉跡及脇谷水路開鑿ニ從事シ何レモ終了ニ近ケリ只新川筋上半
部ノ殆ンド全面ニ互リ施行セル掘鑿跡整理ノミハ稍特異ノ進捗ヲ見タルノミ
排水路工事トシテ二股水路下流端ニ於テ僅カニ施行セル外皿貝川筋ニ於テハ其全長ニ互リ跡整理ニ從
事セル結果下流水門附近ヲ除キ全水路ノ面目一新シ排水狀態良好ナルヲ認ム

築堤工ハ新川筋ニ於テハ工事ノ都合ニテ全然中止シ只追波川筋ニ於テノミ辛フジテ繼續施行セリ其上

流端ニ當ル左岸飯野川町地先ニテハ(後ニ記スルガ如ク)種々ノ障礙アリテ工事ヲ進ムル由ナク右岸二股地内ニ於テ僅カニ土羽打築立ヲ施工セリ追波川流末右岸大川村大字釜谷築堤盛土ハ前年度迄ニ略竣成セルヲ以テ本年度ニテハ之レガ仕上ゲニ努メタルモ尙幾部ヲ次年度ニ殘セリ同左岸追波川築堤ハ尙相當ノ土量ヲ要セシガ故ニ本年度ニテハ是亦竣功スルニ至ラザリキ

堤防嵩置工事ノミハ本年度初期ニ於テ全部ノ竣功ヲ見既成工事モ幸ニ良好ノ状態ヲ保持セリ
洗堰閘門工ノ内鵜波洗堰ハ前年度迄ニ略竣工シ上部土盛ヲ開始セシモ工事ノ都合ニテ本年度初期中止シ別ニ脇谷水路開鑿工事ノ略竣功セシニ依リ此所ニ洗堰閘門ヲ建設スルノ計畫ヲ樹テ年度内ニ基礎混凝土ノ施工ヲ開始セリ

二股水路ノ末端ナル福地閘門モ亦排水路開鑿工ニテ切取ラレタル岩盤地ヲ利用シテ建設スルコトトシ年度内ニ是亦基礎混凝土工ヲ開始セルニ至レリ

水門工事中釜谷水門ハ既ニ前年度ニ於テ竣工シ爾來針岡釜谷地内ノ排水ニ好影響ヲ示セリ

又皿貝川末端ノ月濱水門ハ其一部ハ既ニ本年度内ニ竣功シ他ノ一部モ竣功ニ近ケリ床固工ニテ計畫セル新川可動堰ハ追波川ヘノ落口ニ近ク設置セントスルモノニシテ本年度ニテハ地質調査、床掘、基礎杭打等ヲ施行シ傍ラ工場ノ諸設備材料ノ蒐集ニ努メタリ

北上川河口假突堤ハ本年度ニ於テハ只僅カニ右岸第二突堤ノ補修ヲ施行セシニ止マレリ航路ノ状態ハ引續キ良好ナリシモ春季増水ニテ流下土砂幾分堆積セシニ六月灌漑季ニハ旱天ノ爲メ北上本川常ニ渦水シ追波川流末マデハ潮水ノ逆流顯著ナルヲ認ムルニ至リ從ツテ本河口排砂能力減退シ航路甚ダシク惡化シ物議ヲ生ズルニ至レリ然ルニ七月末日只一回ノ小洪水ニテ再ビ南向直通航路開通シ爾後航行者

ノ愁訴ヲ聞カザルハ之ヲ既設突堤ノ效果ニ歸セザルベカラズ
 本川工費ハ本年度竣功額四十三萬二百九十一圓起工以來ノ累計一千七十一萬三千百二十九圓ニシテ總
 豫算額一千三百三十二萬二千圓ニ對シ八割強ノ竣功ヲ見タリ而シテ其工事竣功高ヲ表示スレバ次ノ如
 シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿費	三、七四九、六八六	八一、〇三一	九八、八八五	四五、七九七	三、八四八、五七一	八五六、八二八	〇・九六
浚深費	七、八二一、三三一	一、六九五、七一〇	三一、九八一	一四、七〇九	七、八五三、三一二	一、七一〇、四一九	〇・八九
築堤費	五、七九九、三八七	四八二、〇七九	四二、五一五	二九、四七五	五、八四一、九〇二	五一、一五五四	〇・八七
堤防嵩置費	九八九、八六六	三〇四、三五二	二、一九二	一、五九四	九九二、〇五八	三〇五、九四六	一・〇〇
排水路費	一、二一四、八七六	六六一、三四六	五四、五五六	二七、一一三	一、二六九、四三二	六八八、四五九	
洗堰及閘門費		二九九、三三三		四一、一九九		三四〇、五三二	
床固費				二八、四四三		二八、四四三	
護岸費		四八、三〇六				四八、三〇六	
突堤費		二九八、八二三		四、八九四		三〇三、七一七	
水門費		七七、三六九		四七、三六三		一二四、七三二	
用地費		一、一一三、五五一		四九〇		一、一一三、〇四一	
附帶工事費補助		二七、四五〇		一六、一九〇		四三、六四〇	
船舶及機械費		三、一六二、七四四		七三、八三七		三、二三六、五八一	
測量費		一八、九三二		一、一六六		二〇、〇九八	
營繕費		一六〇、五六〇		四、二三五		一六四、七九五	

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計	歩合
	數量	金額	數量	金額		
惠與		一六九、九八五 <small>円</small>		八二六四 <small>円</small>	一七八、二四九 <small>円</small>	
死傷當		三六、四二七		九九五	三七、四二二	
臨時手当當		三九、四四三			三九、四四三	
亡失高		一、四四六			一、四四六	
施行中諸費		八六二、六三七		七八、八四四	九四一、四八一	
共済組合給與金		一一、三一四		五、六八三	一七、九九七	
總計		一〇、二八二、八三八		四三三、〇二九 <small>円</small>	一〇、七一三、二二九	〇・八〇 <small>割分</small>

第七 荒川改修工事

(東京土木出張所)

緒言

本工事ハ分チテ上、下流ノ二工事トス即チ下流工事ハ當初明治四十四年度ヨリ大正九年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費一千二百萬圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ大正五年度ニ於テ施工年限ヲ三箇年度延長シテ大正十二年度迄トシ工費三百十萬圓ヲ増額シ總工費ヲ一千五百十萬圓ニ改メ施工中ノ處大正七年度以降時局ノ影響ニ因リ諸物價及勞銀昂騰セシヲ以テ翌八年度ニ於テ七十四萬四千圓同九年度以降ニ於テ時局ニ因ルモノノ外一部追加設計ノ必要ニ依ル工費トヲ合シ五百八十八萬五千圓ヲ増額シ更ニ同十年度ニ於テ百四十萬圓同十二年度ニ於テ六百一萬五千圓ヲ増額シ施工年限ヲ三箇年度延長シ大正十五年度迄十六箇年度繼續事業トシ總工費二千九百十四萬四千圓ヲ以テ施行スルコトナリシガ財政上ノ都合ニ依リ本年度ヨリ年割額ヲ變更シ施工年限ヲ一箇年度延長シ大正十六年度迄ニ施行スル事トナレリ其施工區域ハ左岸埼玉縣北足立郡川口町、右岸東京府北豐島郡岩淵町以下海ニ至ル延長二十三軒六約六里ノ間ナリトス

上流工事ハ大正七年度ヨリ同十六年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシ工費豫算一千四百萬圓ヲ以テ施行中ナリシニ時局ノ影響ニ因リ當初ノ豫算ヲ以テ到底遂行シ能ハザルガ故ニ同十二年度以降ニ於テ工費一千萬圓ヲ増額シ施工年限ヲ五箇年度延長シ大正二十一年度迄十五箇年度繼續事業トシ總工費二千四百萬圓ヲ以テ施工スル事トナリシガ財政上ノ都合ニ依リ本年度以降年割額ヲ變更シ施工年限ヲ更ニ

五箇年度延長シ大正二十六年迄ニ施行スル事トナレリ其區域ハ本川筋ニ於テハ埼玉縣大里郡武川村以下同北足立郡川口町ニ至ル延長六十二軒三及支川入間川筋ニ於テハ左岸埼玉縣比企郡伊草村右岸同縣入間郡山田村落合橋以下合流點ニ至ル五軒九同支川新河岸川筋ニ於テハ埼玉縣足立郡新倉村地内ノ現在荒川合流點以下東京府北豐島縣岩淵町地先洗堰水門下迄ニ至ル新水路十一軒一ノ間ニ施工スルモノトス

河狀並計畫ノ大要

本川ハ其流域埼玉及東京ノ兩府縣ニ跨リ面積凡三千百方軒内支川入間川七百八千方軒新河岸川三百四十方軒流路延長百八十軒外ニ入間川十八軒新河岸川二十八軒ヲ有シ關東平野ノ中央ニ當レルヲ以テ其概半一千六百方軒ハ平坦ナル沃野ニシテ本川ニ依リ灌漑スル水田約百二十方軒ニ達ス而シテ本川ノ出水ハ主トシテ夏季豪雨ニ起因シ其流出量頗ル大ニシテ出水ハ急ニ減水ハ緩ナルヲ以テ沿川地方ノ被害ハ年々巨額ニ昇リ其上流改修區域ノミヲ舉グルモ水害區域實ニ五百七十方軒ニ達シ無堤地ノ冠水ハ勿論或ハ堤防ヲ破壊シ冠水十數日ニ互ルノミナラズ決水ハ滔々武藏野ノ平野ニ漲リ東京市本所深川ト中川トノ中間ニ流下シ來リ時ニ利根川ノ汎濫ト合シテ遂ニ帝都ヲ襲フコトアリ其水災關係ノ重大ナルハ推シテ知ルベキナリ

本川ハ源ヲ甲武信嶽ノ東坂ニ發シ諸所盆地ノ水ヲ集メ東流スルコト約六十軒埼玉縣秩父郡樋口村ニ至リテ盆地東嶂ノ斷層谷ニ隨テ漸ク武藏野平野ノ西北隅ニ出ヅ之ヨリ東流約三十軒ニシテ改修區域ノ上流點大里郡武川村ニ至リ茲ニ兩岸漸ク平夷トナリ廣濶ナル川敷ヲ占有シテ亂流トナリ始メテ兩岸ニ堤

塘ヲ見ルベク同郡久下村附近ニ下リテハ堤内ノ耕地却テ河床ヨリ低キ處アリ一朝破堤ノ厄ニ會セバ大水元荒川筋ノ低地ニ奔流シ埼玉縣過半ノ平野ヲ浸シ餘勢遠ク東京附近ニ達ス吹上村ヲ過グルニ及ビ水流ハ漸ク其勢ヲ失ヒ低水路ハ茲ニ一定シ幅員六七十米ヲ保ツモ高水敷ハ益々其幅員ヲ擴大シ北足立郡平方村ニ至ル間廣キハ二千七百米狹キモ尙一公里ヲ下ラズ而シテ低水路ニ沿ヒ別ニ畑園ノ小堤ヲ設ケ小洪水ノ汎濫ヲ防ゲリ同郡田間宮村以下左岸一帶ハ丘陵起伏シ浸水深ク内ニ及バズト雖モ右岸ハ比企郡一帶ノ低地ヲ控ヘ破堤ノ災ヲ被ルコト頻繁ナリ前記平方村ニ入り入間川ヲ合シテ後ハ緩流トナリ迂曲益甚シク低水路ノ幅員ハ九十米ナリト雖モ高水敷ハ愈濶ク一千百米乃至三千三百米ニ達ス是ヨリ以下兩岸共ニ堤防アレドモ右岸新河岸川合流點以下ハ武藏野ノ高臺近ク迫リ東京府北豊島郡岩淵町ニ至ル間ハ概ネ無堤ナリ而シテ前記久下村以下本川ノ堤外地ハ頗ル廣漠トシテ田園展ケ村落散在シ樹林畑園等ヲ繞ラシ僅ニ一條ノ低水路ヲ通ジ恰モ原始的河川ノ状態ニ在ルヲ以テ游水地トシテハ其効頗ル大ナリト雖モ高水ノ疏通ニ關シテハ支障尠ナカラザルナリ

河狀如斯ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ上流部ハ現在堤外游水地ノ大勢ヲ保有セシメ新ニ水路ヲ開鑿シテ流水ノ疏通ヲ圖ルト共ニ低水路ノ屈曲ヲ匡正シ下流々量ノ調節ニ努メ下流部亦高水防禦ヲ目的トスレドモ傍ラ水利ノ改善ヲ圖リ第一期計畫ニ於テハ利害關係ノ最モ重大ナル埼玉縣北足立郡川口町鐵道橋以下二十三軒間ヲ改修セントス

下流改修計畫ノ主眼トスル處ハ前記川口町以下現川外ニ一大放水路ヲ開鑿シ高水ヲ防禦セントスルニ在リ蓋シ本計畫ニ依ルトキハ帝都ヲシテ洪水ノ範圍外ニ立タシメ又現川川口町以下並其河口ニ於ケル土砂ノ埋塞ヲ輕減シ航路ノ改良ヲ企圖シ得ベキ外沿岸人家櫛比ノ現川ニ改修ヲ加フルノ不利ヲ避ケ得

五箇年度延長シ大正二十六年迄ニ施行スル事トナレリ其區域ハ本川筋ニ於テハ埼玉縣大里郡武川村以下同北足立郡川口町ニ至ル延長六十二軒三及支川入間川筋ニ於テハ左岸埼玉縣比企郡伊草村右岸同縣入間郡山田村落合橋以下合流點ニ至ル五軒九同支川新河岸川筋ニ於テハ埼玉縣足立郡新倉村地内ノ現在荒川合流點以下東京府北豐島縣岩淵町地先洗堰水門下迄ニ至ル新水路十一軒一ノ間ニ施工スルモノトス

河狀並計畫ノ大要

本川ハ其流域埼玉及東京ノ兩府縣ニ跨リ面積凡三千百方軒内支川入間川七百八十方軒新河岸川三百四十方軒流路延長百八十軒外ニ入間川十八軒新河岸川二十八軒ヲ有シ關東平野ノ中央ニ當レルヲ以テ其概半一千六百萬方軒ハ平坦ナル沃野ニシテ本川ニ依リ灌漑スル水田約百二十方軒ニ達ス而シテ本川ノ出水ハ主トシテ夏季豪雨ニ起因シ其流出量頗ル大ニシテ出水ハ急ニ減水ハ緩ナルヲ以テ沿川地方ノ被害ハ年々巨額ニ昇リ其上流改修區域ノミヲ舉グルモ水害區域實ニ五百七十方軒ニ達シ無堤地ノ冠水ハ勿論或ハ堤防ヲ破壊シ冠水十數日ニ互ルノミナラス洪水ハ滔々武藏野ノ平野ニ漲リ東京市本所深川ト中川トノ中間ニ流下シ來リ時ニ利根川ノ汎濫ト合シテ遂ニ帝都ヲ襲フコトアリ其水災關係ノ重大ナルハ推シテ知ルベキナリ

本川ハ源ヲ甲武信嶽ノ東坂ニ發シ諸所盆地ノ水ヲ集メ東流スルコト約六十軒埼玉縣秩父郡樋口村ニ至リテ盆地東嶺ノ斷層谷ニ隨テ漸ク武藏野平野ノ西北隅ニ出ヅ之ヨリ東流約三十軒ニシテ改修區域ノ上流點大里郡武川村ニ至リ茲ニ兩岸漸ク平夷トナリ廣濶ナル川敷ヲ占有シテ亂流トナリ始メテ兩岸ニ堤

塘ヲ見ルベク同郡久下村附近ニ下リテハ堤内ノ耕地却テ河床ヨリ低キ處アリ一朝破堤ノ厄ニ會セバ大水元荒川筋ノ低地ニ奔流シ埼玉縣過半ノ平野ヲ浸シ餘勢遠ク東京附近ニ達ス吹上村ヲ過グルニ及ビ水流ハ漸ク其勢ヲ失ヒ低水路ハ茲ニ一定シ幅員六七十米ヲ保ツモ高水敷ハ益々其幅員ヲ擴大シ北足立郡平方村ニ至ル間廣キハ二千七百米狹キモ尙一公里ヲ下ラス而シテ低水路ニ沿ヒ別ニ畑園ノ小堤ヲ設ケ小洪水ノ汎濫ヲ防ゲリ同郡田間宮村以下左岸一帶ハ丘陵起伏シ浸水深ク内ニ及バズト雖モ右岸ハ比企郡一帶ノ低地ヲ控ヘ破堤ノ災ヲ被ルコト頻繁ナリ前記平方村ニ入り入間川ヲ合シテ後ハ緩流トナリ迂曲益甚シク低水路ノ幅員ハ九十米ナリト雖モ高水敷ハ愈濶ク一千百米乃至三千三百米ニ達ス是ヨリ以下兩岸共ニ堤防アレドモ右岸新河岸川合流點以下ハ武藏野ノ高臺近ク迫リ東京府北豊島郡岩淵町ニ至ル間ハ概ネ無堤ナリ而シテ前記久下村以下本川ノ堤外地ハ頗ル廣漠トシテ田園展ケ村落散在シ樹林畑園等ヲ繞ラシ僅ニ一條ノ低水路ヲ通ジ恰モ原始的河川ノ状態ニ在ルヲ以テ游水地トシテハ其効頗ル大ナリト雖モ高水ノ疏通ニ關シテハ支障尠ナカラザルナリ

河狀如斯ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ上流部ハ現在堤外游水地ノ大勢ヲ保有セシメ新ニ水路ヲ開鑿シテ流水ノ疏通ヲ圖ルト共ニ低水路ノ屈曲ヲ匡正シ下流々量ノ調節ニ努メ下流部亦高水防禦ヲ目的トスレドモ傍ラ水利ノ改善ヲ圖リ第一期計畫ニ於テハ利害關係ノ最モ重大ナル埼玉縣北足立郡川口町鐵道橋以下二十三籽間ヲ改修セントス

下流改修計畫ノ主眼トスル處ハ前記川口町以下現川外ニ一大放水路ヲ開鑿シ高水ヲ防禦セントスルニ在リ蓋シ本計畫ニ依ルトキハ帝都ヲシテ洪水ノ範圍外ニ立タシメ又現川川口町以下並其河口ニ於ケル土砂ノ埋塞ヲ輕減シ航路ノ改良ヲ企圖シ得ベキ外沿岸人家櫛比ノ現川ニ改修ヲ加フルノ不利ヲ避ケ得

ベケレバナリ

本計畫ニ採用シタル最大流量ハ每秒四千百七十六立米(十五萬立尺)ニシテ尙非常出水ノ場合ハ每秒五千五百七十六立米ヲ流下シ得ルモノトシ該流量ノ内八百四十立米ヲ前記岩淵町以下ノ現川ニ流下セシメ殘餘ハ新ニ開鑿スル新川ニ放流セシム蓋シ現川ニ於ケル上記流量ハ新ニ築堤ヲ行ハズシテ汎濫ヲ見ルコト無ク流下シ得ベキ適量タレバナリ

放水路トシテ開鑿スル新川ハ新荒川ト假稱シ川口町鐵道橋以下現川ノ左側ニ沿ヒ千住町ノ北端ヲ過ギ國有鐵道常磐線及私設東武鐵道線路及京成電車軌道ヲ橫斷シ東京府南葛飾郡奧戸村ノ南端ニ至リ更ニ國有鐵道總武線ヲ橫斷シ之ヨリ一大彎曲ヲ爲シテ中川口ニ注ガシム其河幅ハ起點ヲ四百五十四米、河口ヲ五百八十二米トス

新荒川ニ依テ橫斷セラルル綾瀨川ハ新荒川ノ左側ニ沿ヒ中川ニ落シ中川ハ又新荒川ノ左側ニ沿ヒ海ニ通ゼシム而シテ綾瀨川ヨリ隅田川ニ通ズル航路又平井ニ於ケル舊中川ノ新荒川兩岸堤ニ依リ橫斷セララル箇所及小名木川ヨリ江戸川ヲ經テ利根運河ニ通ズル航路ナル新川(船堀川)ノ新荒川兩岸堤ニ依リ遮斷セラルル處ニハ水門又ハ閘門ヲ設置ス又右岸岩淵町現川分派口ニハ水門ヲ設置シ平時ニハ平水量ヲ通ジ高水時ニハ規定ノ流量以內ヲ通ゼシム又必要ノ場合ハ同所ニ閘門ヲ設ケ如何ナル出水時ニ於テモ既往航行ノ便ヲ保タシメントス分派口以下ノ現川ハ一部附替ヲ要スル所アルモ大體舊態ニ依リ幅員ヲ上流部百九米、下流部百四十五米ト規定シ流路ニ修整ヲ加フルノ外上述ノ如ク築堤ヲ行ハズ

新荒川ノ堤防ハ掘鑿土ノ處分上其體積ヲ大ニシ右岸堤ハ帝都ヲ防護スル關係上特ニ堅牢ヲ期セリ即チ右岸堤ハ馬踏一四米五、外法ハ通ジテ三割、内法ハ二割ト爲シ馬踏ヲ下ルコト一米八ノ處ニ三米六ノ裏小

段ヲ附ス堤高ハ計畫水位以上約二米ヲ保タシメ非常出水時ニ對シテモ尙一米内外ノ餘裕ヲ存セシム左岸堤ハ馬踏十米九ニシテ法及小段堤高等凡テ右岸ニ同ジ

綾瀬川堤防ハ馬踏五米五、馬踏ヨリ一米八下リニ一米八ノ裏小段ヲ附シ中川堤防ハ馬踏七米三ニシテ小段ヲ附セズ兩川トモ内外法何レモ二割トス

上流改修ノ計畫流量ハ既往洪水ノ實測調査ニ依リ每秒五千六百立米ト定メ廣濶ナル游水地ヲ有スル河狀ニ鑑ミ下流ニ至ルニ從ヒ游水地面積ニ比例シテ漸次進減シ赤羽鐵橋下ニ至リ每秒四千七百七十立米トナリ下流改修區域ニ入ルモノトス而シテ計畫高水位ハ既往ノ最大洪水タル明治四十三年及大正二、三年ノ水位ヲ標準トシテ新河道ニ必要ナル河積ヲ算定セリ低水路ハ大體其現狀ヲ存置シ屈曲甚クシテ水流ヲ阻碍シ河岸ノ維持困難ナル所若クハ新高水敷ヲ別ニ選定シタル所ハ新ニ之ヲ開鑿ス其幅員ハ大體現狀ニ法リ入間川合流點ノ上流部ハ五十五米、同下流部ハ七十米乃至九十米ト定メタリ

高水敷ハ埼玉縣六里郡久下村(右岸同郡市田村)以下田間宮村ニ至ル間ハ現低水路ヲ挾デ幅員百八十米乃至三百六十米、北足立郡田間宮村以下同郡平方村ニ至ル間ハ低水路著シク曲折シ其兩岸高キヲ以テ新河道ハ之ヲ左岸高臺沿ヒノ低地ニ移シ四百五十米ト爲シ比企郡東吉見村地先ニ於テ新堤ヲ築設スル部分ハ特ニ之ヲ五百五十米ニ擴大セリ入間川合流點(平方村)以下ハ新川敷ノ幅員ヲ五百五十米ト定メ北足立郡土合村(右岸入間郡宗岡村)ニ至ル間ハ大體現低水路ニ隨フト雖モ其間馬宮村(北足立郡)附近ニ於テハ其屈曲急且河岸地高キヲ以テ左岸ノ低地ニ川敷ヲ選定シ土合村以下ニ於テハ低水路ノ屈曲愈々甚クシク之ニ沿フテ適當ナル川敷ヲ索ムルコト難キヲ以テ堤外地ノ地形ニ從ヒ新ニ川敷ヲ選定シ北足立郡笹目村以下ハ上流游水地ノ調節ニ因リ流量著シク緩和サレ更ニ游水地ノ必要無キヲ以テ掘鑿ニ依リ充分ナル

河積ヲ與ヘ河幅ヲ一定シテ五百五十米ト爲シ新堤ヲ築キテ同郡川口町(右岸東京府北豊島郡岩淵町)ニ至リ下流改修堤塘ニ接續セシム堤外ノ田圃及濕地ハ新高水敷ノ開鑿ニ依リ排水ヲ良好ニシ浸水ノ機會ト期間トヲ著シク減少セシムベシト雖モ猶溢水ノ流勢ヲ殺ギテ耕宅地ヲ保護シ流水ヲ河心ニ集注セシメシガ爲メ流勢ノ強弱堤外地ト廣狹等ヲ參酌シテ横堤ヲ適當ノ間隔ニ配置シ改修ノ效果ヲ全フセントス支川入間川ニ在リテハ入間郡植木村地先ハ新ニ堤塘ニ依リテ圍繞セラレ河積ヲ縮少スルヲ以テ同郡芳野村以下北足立郡平方村ニ至ル低水路ヲ狹デ幅員百八十米ノ高水敷ヲ低水位上一米八ニ掘リ下ゲ疏通カヲ増大セシム

支川新河岸川ノ現在ノ合流口ヲ遮斷シテ荒川ノ新堤内ニ附替ヘ下流東京府北豊島郡岩淵町地先岩淵水門下ニ於テ新隅田川(舊川)ニ合流セシメ荒川ノ高水ト全ク絶縁シ逆流ノ患ヲ除キ同沿岸惡水ノ排除ヲ容易ナラシメ併セラ水運ノ便ヲ増進セシム

堤防ハ大部分舊堤ノ擴築ニシテ在來無堤ノ部分及新ニ高水敷ヲ選定セル一部ニハ新堤ヲ築造ス堤形ハ兩者トモ馬踏七米五(入間川筋ハ六米五)兩法二割五分ニシテ堤頂ハ計畫高水位上北足立郡美谷本村附近ヨリ上流ハ一米八、同下流ハ二米一タラシメ堤頂ヨリ一米八下リテ川裏ニ幅三米五ノ小段ヲ設ケ小段上法ヲ二割トス横堤ハ馬踏六米乃至七米五、兩法二割ニシテ頂ハ高水位上約一米ト爲シ突端ハ三十分ノ一勾配ヲ以テ高水敷ニ傾斜セシムルモノトス

施工狀況

本工事ヲ先ヅ下流ヨリ述ベンニ明治四十四年ニ於テ創業直ニ所要土地ノ買收ヲ開始シ大正二年度ニ至

リ一部買收済ノ箇所ヨリ工事ニ著手シ爾來孜々トシテ其進捗ヲ圖リシモ用地買收未済箇所各所ニ點在セルト改修区域内ニハ常磐、東武、總武ノ三鐵道及京成電氣軌道ノ横過セルアリ且帝都連互ノ樞要道路無數ナルガ爲メ施工區域ヲ局限セラレ隨所ニ著手得ザリシガ其後買收ノ進ムニ隨ヒ漸次工事ノ進捗ヲ見ルニ至レリ然レドモ尙一部買收不承諾者アル爲メ之等ハ大正五年十一月土地收用審査會ノ裁決ヲ求メ大正六年五月其決定ヲ受ケ爾來銳意進工中同年十月一日竝翌七年九月二十四日ノ暴風雨竝海嘯襲來ノ爲メ船舶及機械ノ毀損又ハ流失ヲ見更ニ同十二年九月一日ニ於ケル大震災等ノ被害アリ事業ノ進捗ヲ阻碍セラレタルコト尠ナカラザリシモ努メテ豫定ノ進工ヲ圖リ前年度迄ニ築堤土量一千百四十二萬六千立米、浚渫土量一千八百九十一萬六千立米、護岸制水十一箇所、特種工事七箇所、附帶工事十二箇所ヲ施行セリ

高水調節ニ關シテハ前年度報告ニ述ベタルガ如ク大正十三年九月ノ洪水ニ際シ初メテ岩淵水門ノ調節ニ依リ新荒川(放水路)ニ流下セシメ同水門下流舊川沿岸ニ於ケル被害ヲ除却セシト共ニ上流部ノ水害ヲモ併セ輕減スルコトヲ得タリ當時新舊兩川水位ノ差二米一ヲ示シ同十四年八月ノ出水ハ同水門上流側水位最高A.P 上五米八一ニ達シ兩川水位ノ差最大實ニ二米九五ニ及ビ愈々其効力ヲ發揮セリ爾來新荒川ノ浚渫及護岸工事ヲ進メ益々高水ノ疏通ヲ良好ナラシメントス

本工事々務所ハ明治四十四年創業當時東京府北足立郡千住町ニ設置シ其下ニ工場及派出所ヲ置キ工事ノ施行監督ヲ爲サシメ本年度ニ於テハ岩淵(北豐島郡綾瀨(南足立郡)砂町(南葛飾郡)ノ三工場及三派出所ヲ置キ各工事ヲ分擔セシム又本改修事務所隣地ニ千住機械工場ヲ置キ本工所用諸機械器具ノ製作及修理ヲ掌ラシメタリシガ同工場ハ大正七年九月獨立シテ内務省千住機械工場ト稱シ他川ノモノト共ニ製作

及修理ヲ施工シツツアリシモ同十二年七月再ビ當所ノ所管ニ移リ當初ノ如ク作業スルコトナレリ
 今本年度施工ノ概況ヲ述ベンニ浚渫工事ハ川口第二(北豊島郡)千住(南足立郡)吾嬭(以下南葛飾郡)平井、小松
 川、船堀第五、砂町第一、砂町第六以上本川堀切(南足立郡)新綾瀬川(宇喜田、松江)以上南葛飾郡新中川(岩切、王子
 間)北豊島郡新隅田川ノ十二箇所ニシテ鋤簾式、唧筒式及ビ「ブリストマン」式浚渫船ニ依リ掘鑿工事ニ在リ
 テハ川口第四、千住新橋附近、同第二、綾瀬川右岸(以上本川)新川(新中川)ノ五箇所ニシテ人力ニ依リ各施工シ
 其土砂ノ一部ハ築堤工事ニ充當シ其他ハ民有埋立地ニ捨土セリ其浚渫、掘鑿土量八十四萬八千九百二十
 七立米ニシテ此工費八萬一千六百三十四圓(外ニ捨土出願者提供材料及勞力費三十萬二千九百四十八圓)
 ヲ支出セリ

築堤工事ニ於テハ岩淵第二、王子下流締切(以上北豊島郡)小臺(北足立郡)下木下川締切(以下南葛飾郡)小名木
 川、砂村五反野、中平井締切(以上本川)新川、宇喜田川締切、堤防根固第五(以上中川)ノ十一箇所ニシテ延長二千
 四百九十三米ヲ完成シ此工費二萬一千四十九圓(外ニ捨土出願者提供材料及勞力費二萬二千九百九十圓)ヲ
 支出セリ

護岸制水工事ハ岩淵護岸、同床固、南平柳村假護岸、隅田水路床固、同護岸、綾瀬水路護岸、木下川水路床固(以上
 本川)新川護岸(新中川)岩淵水門下流左岸護岸、同右岸護岸、下村護岸(以上新隅田川)ノ十一箇所ニシテ此工費
 十四萬一千百九十八圓(外ニ捨土出願者提供材料及勞力費四萬九千六百六十九圓)ヲ支出セリ
 特種工事ハ小名木川閘門ノ一箇所ニシテ殆ント竣功シ工費七千七百三十六圓(外ニ捨土出願者提供材料
 及勞力費一萬三千八百七十四圓)ヲ支出セリ

上流改修工事ハ大正七年度ヨリ創業シ先ヅ埼玉縣北足立郡浦和町ニ土地收用事務所ヲ置キ所要土地ノ

買收調査ニ著手シ同九年度ニ至リ同郡馬宮村以下川口町ニ至ル改修用地ヲ買收シ同年十月事務所ヲ同郡鴻巣町ニ移シ同十三年度迄ニ馬室村ヨリ下流ノ用地ヲ買收セリ然ルニ同十三年度以降事業ヲ縮少セラレ同年十一月三十日限リ事務所ヲ閉鎖シ本年度ニ於テハ入間郡古谷村外二箇村ニ於テ僅ニ九町歩ヲ買收セリ其總段別一千五百五十八町歩(内高水敷一千二百七十八町歩堤塘敷二百町歩横堤敷三十九町歩、新河岸川敷四十一町歩)ナリトス

本工事ハ大正九年一月荒川上流改修事務所ヲ古谷村ニ設置シ主トシテ低水路ノ屈曲甚シク又川敷ノ附替トナルベキ箇所若クハ掘鑿土量ノ比較的多ク竣功ニ長年月ヲ要スル下流部ヨリ著手シ順次上流ニ及ブ方針ヲ以テ進ミ専ラ機械及器具ノ整備ニ努メ同九年度末ニ至リ始メテ工事ヲ開始シ前年度迄ニ築堤土量五百四十九萬七千立米、浚渫土量九百十萬二千立米、護岸制水二箇所ヲ施工セリ

本年度ニ於テハ人力ニ依ル掘鑿工事ハ急施ヲ要スル箇所ノミニ止メ主トシテ機械掘鑿工事ヲ續工シ浚渫土量二百四十五萬立米、築堤土量百七十三萬二千立米ヲ施行シ此工費合計六十四萬八千三百九十五圓ヲ支出セリ

是等諸工事ハ改修事務所ノ下ニ北足立郡戸田、内間木、馬宮及川田谷ノ四工場ヲ置キ其下ニ十一箇所ノ派出所ヲ設ケ各工事ヲ分擔セシメ改修工用器具機械ノ製作及修理ハ同十年四月事務所ノ隣地ニ機械工場ヲ設ケ之ニ當ラシメシガ同九年同工場ハ内務省千住機械工場ノ所管ニ移リ分工場トシテ作業スルコトトナリ尙戸田村及入間郡宗岡村ニ派出所ヲ設ケ夫々作業セシガ同十二年七月再ビ當所ノ所管ニ移リ戸田村ニ分工場ヲ置キ古谷機械工場ト稱シ當初ノ如ク作業スルコトトナレリ

今本年度施工ノ概況ヲ述ブレバ川口町ヨリ笹目村ニ至ル間ハ上流改修區域ノ最下流ニ屬シ高水ハ上流

游水地ニ於テ緩和セラルルヲ以テ新高水敷幅ヲ五百五十米ニ限定シテ下流改修ニ接續セシメ高水流量四千百七十立米ヲ快流セシム此部分彎曲甚シキ低水路三箇所ヲ短縮スル横曾根、戸田、笹目ノ各村地先開鑿工事ハ何レモ前年度迄ニ其功ヲ竣リ從來ノ流路ハ約二分ノ一乃至三分ノ一ニ短縮セラレ高水敷ノ掘鑿ハ横曾根低水路ヲ含ム戸田、笹目、赤塚、志村、新曾ノ各村ニ互リテ之ヲ施工シ其全部又ハ七、八割ヲ竣功セシメ高水ノ疏通頗ル佳良トナレリ築堤ハ右岸東京府北豊島郡浮間、赤塚、左岸埼玉縣北足立郡横曾根、戸田、笹目ノ五箇所ノ内横曾根ノ大半ハ舊堤ノ擴築ナレドモ他ハ總テ新堤ニシテ何レモ舊堤以上ノ高ニ盛土シ功程ハ四割乃至七割ニ及ベリ

北足立郡笹目村ヨリ上流、同郡土合村ニ至ル間ハ低水路ノ紆餘屈曲殊ニ甚シク所謂雜丹袋ト稱シ新ニ低水路ノ附替ヲ要スルモノ四箇所内白木、下内間、木兩村地先ハ大正十二年度迄ニ竣功シ新倉、上内間、木兩村地先ハ何レモ前年度ヨリ引續キ開鑿ニ從事シ前者ハ低水路ノ掘鑿ヲ了リ後者ハ其六割ヲ竣リ流路ハ二分ノ一乃至四分ノ一ニ短縮セラレ高水敷掘鑿ノ内美谷本ハ本年度竣功シ上内間、木ハ其七割ヲ竣成シ美女木ハ僅ニ其一割ヲ竣成セリ此部分右岸ハ在來無堤ニシテ新倉村ニ於テ新河岸川ト合流シ一帶ニ洪水ノ汎濫區域ニ屬セルヲ以テ右岸ニハ新堤ヲ築造スルコトトシ白子及内間、木築堤ハ既ニ著手シ前者ハ三割、後者ハ五割ヲ竣成セリ土合村ヨリ上流馬宮村ニ至ル間ハ廣漠タル游水地ヲ控ヘ堤塘ハ右岸大久保村及馬宮村地先ヲ除キ他ハ全部舊堤ノ擴築ニシテ既ニ其大部分ハ舊堤ノ高ニ達セルモ僅ニ築立ヲセルノミ飯田、新田及西游馬地先ノ新低水路延長四千三百米ノ開鑿工事ハ大正十年ヨリ續工シ各地先トモ其九割ヲ竣成シ同十五年夏期出水期迄ニハ高水ノ疏通ヲ見ルニ至ルベシ高水敷ノ掘鑿ハ機械ニ依レル下流左岸大久保村地先ハ前年度ニ續工シテ其三割ヲ竣ヘ人力ニ依レル馬宮村大字西游馬地先ハ其ノ九割

竣成セリ本年度新ニ著手セル西遊馬上流古谷本郷地先右岸高水敷及低水路ノ掘鑿工事ハ各其九割ヲ竣成セリ

北足立郡平方村ヨリ同郡川田谷村ニ至ル間ハ左岸ニ丘陵相連リ其裾ノ突出セルアリ其谿間ニ多少ノ耕地ヲ抱容シ所謂山附堤防六箇所アリ其内大石村及川田谷村地先ニ於ケル延長一千五百十米ノ擴築ハ大正十二年度來續工セルモ用惡水路ノ關係ニ依リ只僅ニ其四割ノ竣功ニ過ギズ同十一年度ヨリ著手セル上流大石村及川田谷村地先ニ於ケル左岸新低水路二箇所ノ掘鑿工事ハ低水路ハ機械ニ依リ其四割ヲ高水敷ハ人力ニ依リ大石ハ九割川田谷ハ其八割ヲ竣功セリ

新河岸川筋ハ現在落合地點ナル北足立郡新倉村地先ヨリ同郡岩淵水門下流ニ至ル延長一萬一千百米内現川ノ利用部分ヲ除キ八千八百米ノ新水路開鑿工事ニシテ其幅員川敷六十三米六低水路九米六乃至三十米九水深一米七乃至二米八アリ大正十二年度ヨリ著手シ「ドラッグライン」掘鑿機ヲ使用シ之ヲ施行セリ東京府下北豊島郡志村ノ一部及同郡赤塚村地先ノ大部分ヲ總體ヨリ見レバ僅ニ其一部ニ過ギズ

本年度竣功高ハ上下流ヲ通ジ百九十九萬一千七十八圓ニシテ起工以來ノ累計ハ三千六百八十四萬四千五百二十圓トナレリ之ヲ總工費豫算五千三百十四萬四千圓ニ比較スルトキハ六割九分強ノ竣功ナリトス左ニ工事竣功表ヲ掲グ但シ退職手當九千八十四圓アレドモ右竣功高ニハ之ヲ包含セズ表中「ハ製作品價額又ハ評價品價額」印ハ管理者負擔額「ハ捨土出願者負擔額ヲ示スモノナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計額	竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
築堤費	一六、九二三、九九七	一、〇四二、五三九	一、七六〇、三八八	四六、〇九四	一八、六八四、三八五	一、〇八八、六三三	下流〇・九九九	〇・六九
濬渫費	二八〇、一八、八三七	五、九七四、五三四	三、二九九、〇二八	七〇四、九八四	三一、三二七、八六五	六、六七九、一八二	上流〇・四〇七	
護岸制水費	未竣功 一〇二二	二、三二五、二〇五	未竣功 八三	一四一、一九八	未竣功 一〇五	三七六、四〇三	上下流〇・四〇三	下流〇・九九
特種工事費	未竣功 一六	二、六六七、六七七	未竣功 一	四九、六六九	未竣功 一六	五、一五四、四〇四	上下流〇・四〇三	
附帶直轄施行	竣功 一一	四九一、〇三三	竣功 一一	二四、七三六	竣功 一一	二、六七五、四一三	下流〇・七七	下流一・〇〇
工事管理者施行	竣功 四四	一八〇、二七二	未竣功 二二	七、七三九	未竣功 四七	一八〇、二七二		
用地費	二六、四二四、九三四	三、八二五、〇六三	九〇、九〇二	二七六、五五九	二六、五一五、八三六	四、二〇一、六二二		
船舶及機械費	△	九、九六八、三一	△	一九、三一一	△	九、九八七、六二二		
測量費	△	八、二三〇、八六一	△	四八八、七二九	△	八、七一九、五九〇		
營繕費	△	一〇、九三三、二八四	△	五四、一五一	△	一、四七、四三五		
亡失毀損其他	△	七三、〇六二	△	二六、九一四	△	九九、九七六		
施行中諸費	▲	三三九、〇七五	▲	一五、三〇六	▲	三五四、三八一		
共濟組合給與金	▲	一一、九六九、九五七	▲	二四四、三五〇	▲	一二、二一四、三〇七		
總計	▲□△	一、二一八、〇七八	▲□△	四二一、八七六	▲□△	一、六三九、九六四		

更ニ前表ノ竣功額ヲ上下流ニ區分スレバ次ノ如シ

下流改修

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	一一、四二六、六八五 <small>粒</small>	九六〇、九二四八	二八、五二一 <small>粒</small>	二二、一〇四、九〇四	一一、四五五、二〇六 <small>粒</small>	九八一、二四一	〇・九九 <small>割分</small>
浚渫費	一八、九一六、六八七	三、五七三、五三五	八四八、九二七	三〇二、九四八	一九、七六五、六一四	三、六五五、一六九	〇・九七
護岸制水費	未竣功 一箇所 二〇	一九四、〇〇九	未竣功 八三箇所	一四一、一九八	未竣功 一箇所 〇三	三三五、二〇七	〇・四〇
特種工事費	未竣功 一六	二、六六七、六七七 四一六、四〇三 三二八、八〇〇	未竣功 一	一四、七三六 一三、七九一 一、八七四	未竣功 一六	二、六七五、四一三 四四一、一九四 四六、七五四	〇・九九
直轄施行	竣功 一三	四九一、〇三三 一八〇、二七三 一八〇、七八三 五三九、〇〇〇			竣功 一三	四九一、〇三三 一八〇、二七三 一八〇、七八三 五三九、〇〇〇	〇・七七
管理者施行	竣功 四三	三、八二一、二〇〇	未竣功 二三	二七六、五五九	未竣功 四六	四、〇九七、七五九	一・〇〇
用地費	一〇、九一一、二一九	五、八六二、四〇三			一〇、九一一、二一九	五、八六二、四〇三	
船舶及機械費		五、五四九、八四四 八〇一、八六八		三一〇、八三三 二九、七四〇		五、八六〇、六七七 八三一、六〇八	
測量費		四一、八九九 一六〇		二二、二二五		六五、一二四 一六〇	
營繕費		二〇九、八八八 二、一五八		八、五七二		二一八、四六〇 二、一五八	
亡失毀損其他		二、三七七				二、三七七	
施行中諸費		一、三九九、〇四八 一〇、四四〇		一四〇、三六八 三三、一九五		一、四三九、四一六 四三、六三五	

第一章 河川改良工事 (荒川改修工事)

上流改修

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
總計	—	▲□△ 二四、六九九、三六五 一、二四一、〇四一 一、二八〇、七八三 二七、九三三	—	▲□△ 一、〇二二、七四七 五四、五三一 四二一、八七六	—	▲□△ 二五、七二二、一一二 一、二九二、五七二 一、五四九、七八七 八〇七	〇・八八
共濟組合給與金	—	二六、二六〇 _円	—	一一、五七三 _円	—	三七、八三三 _円	— _{割分}

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤費	五、四九七、三一二 _粒	八二、三四七 _円	一、七三一、八六七 _粒	二五、〇四五 _円	七、二二九、一七九 _粒	一〇七、三九二 _円	〇・四 _{割分}
工浚漂費	九、〇二、一五〇	▲ 二、四〇〇、九九九 八三、〇七六	二、四五〇、一〇一	▲ 六二二、三五〇	一一、五五二、二五一	▲ 三、〇二二、三四九 八三、〇七六	〇・四〇
事護岸制水費	竣功 二	四一、一九六	—	—	竣功 二	四一、一九六	〇・〇三
附帶工事費 (管理者施行)	竣功 —	三、八六三	—	—	竣功 —	三、八六三	—
用地費	一五、五二、三七一 _段 一五	四、一〇五、九〇八	九〇、九〇二 _段	一九、三一一	一五、六〇四、六二七 _段	四、一二五、二一九	—
船舶及機械費	—	▲ 二、六八一、〇一七 二九一、四一六	—	▲ 一七七、八九六 二四、四一一	—	▲ 二、八五八、九一三 三一五、八二七	—
測量費	—	三、一、一六三	—	三、六八九	—	三、四、八五二	—
營繕費	—	▲ 一一九、一八七 五一	—	▲ 六、七三四	—	▲ 一二五、九二一 五一	—
施行中諸費	—	六七〇、九〇九	—	一〇三、九八二	—	▲ 七七四、八九一	—

第一章 河川改良工事 (荒川改修工事)

總計	共濟組合給與金
▲▲ 一〇、一六三、一六一 二九一、四六一 八三、〇七六	一六、五七二
▲▲ 九六八、三三一 二四、四一一	八、三二四
▲▲ 一一、三一、四九二 三、一五、八七八 八三、〇七六	二四、八九六
○・四六	

第八 阿賀野川改修工事

(新潟土木出張所)

緒言

本川ハ當初航路改良ノ目的ヲ以テ新潟縣東蒲原郡津川町以下海ニ至ル約六十五籽ノ間ヲ工費四萬餘圓ヲ以テ明治十七年七月ヨリ起工シ同十九年ニ至リ一時工事ヲ中止セシモ尙改修ノ要アルガ爲メ大正四年度ヨリ同十二年度ニ至ル九箇年度繼續事業トシテ工費豫算八百萬圓(内新潟縣負擔額二百二十九萬二千圓)ヲ以テ更ニ工ヲ起シタリシガ時局ノ影響ヲ受ケ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年四月四百萬圓(内新潟縣負擔額百萬圓)ノ増額ヲ受クルト共ニ施工期限ヲ同十七年度迄繰延ベラレシガ更ニ九月一日關東大震災突發ノ爲メ十一月ニ至リ二箇年度ヲ延長シ同十九年度ニ竣功セシムル豫定トナリ總工費豫算一千二百萬圓ヲ以テ左岸新潟縣中蒲原郡川東村右岸同縣東蒲原郡下條村以下海ニ至ル約三十五籽間ニ對シ河身ノ改修ヲ施シ以テ洪水ノ患害ヲ除キ一面舟楫ノ利便ヲ圖ラントスルモノナリ

河狀並計畫ノ大要

本川ハ福島及新潟ノ兩縣ニ互リ流域面積八千三百四十四方籽ヲ有シ流路延長二千八百籽(内幹川百六十九籽)航路延長五百八十五籽(内幹川百四十九籽)灌溉段別四萬町步(内幹川四千四百四十六町步)水害區域二萬三千二百五十町步(内幹川七千百五十六町步)ニシテ本川ノ洪水ハ春季融雪ト夏秋ノ低氣壓ニ伴フ暴風雨トニ基因シ上流地方ニ於テ一日ノ雨量百耗以上ニ達スレバ警戒ヲ要スベキ洪水ヲ來タスコト多シ其

水災ノ最モ甚シキ部分ハ山間部ヲ出デタル中蒲原郡川東村大字馬下ヨリ海ニ至ル間延長約三十五軒ニシテ地勢平坦西ハ遠ク信濃川沿岸ノ平野ニ連リ我國有數ノ米產地タリ兩岸概ネ堤塘ノ設ケアリト雖モ斷續不同、屈曲迂回構造モ亦薄弱ナルヲ以テ洪水ノ際ハ沿川各地ニ浸水セザルコト無ク又派川小阿賀野川ハ出水毎ニ多量ノ土砂ヲ信濃川ニ流送シ新潟港ヲ埋塞ス水害損失額ハ大正元年ヨリ同十年ニ至ル十箇年間平均百二十八萬一千四百十三圓ニシテ其内大正元年、同二年、同三年、同九年ノ四箇年ハ何レモ百萬圓以上ノ損害ヲ受ケタリ即チ大正元年ハ百五十三萬三千四百七十九圓、同二年ハ五百三十七萬七千四百十五圓、同三年ハ百七十八萬五千四百三圓、同九年ハ百七十五萬七千九百四圓ナリトス

本計畫ハ前記馬下以下海ニ至ル區間ノ水災ヲ防止スルヲ以テ目的トシ最大流量ヲ每秒六千九百五十七立米ト定メ尙非常ノ場合ニ於ケル八百三十五立米ノ餘裕ヲ有スル河積トセリ而シテ河幅ハ起點附近ヲ四百三十六米トシ三軒九餘ノ下流巢本村大字論瀨附近ヨリ河口ニ至ル間ヲ九百九米ニ擴張セリ改修法線ハ現川ニ沿ヒテ之ヲ定メ中流タル横越村大字澤海附近ノ如キ屈曲甚シキ部分ハ之ヲ匡正ス堤防ハ主トシテ舊堤ヲ利用擴築シ其他ハ新堤ヲ築ク又低水敷及高水敷ニハ掘鑿ヲ施シ河積ノ不足ヲ補ヒ尙下流ハ水路ノ新設ヲ行ヒ以テ流積ヲ完備セシム

小阿賀野川ハ滿日村大字滿願寺ニ於テ之ヲ締切リ沿岸ノ水災ヲ絶ツト共ニ同川ニ合流スル能代川及其他惡水ノ疏通ヲ便ナラシメ又洪水毎ニ新潟港ニ流送スル土砂ヲ止メ信濃川ノ改修ト相俟テ同港埋塞ノ主因ヲ除カントス而シテ信、阿、南、川舟運ノ聯絡ニ對シテハ滿願寺地内ニ一閘門ヲ設置スルコトトセリ又河口近ク本川ニ合流スル加治川及新井郷川ニ對シテハ當初合流點ニ水門ヲ設ケテ逆水ノ浸入ヲ防止スルノ計畫ナリシガ其後新井郷川水害豫防組合ノ出願ニ依リ前記逆水門ニ替フルニ新水路ヲ開鑿シ直接

海ニ放流スルコトニ變更セリ堤防ハ早出川落口ヨリ下流ハ凡テ馬踏ヲ九米一トシ夫ヨリ上流ハ七米三ト爲シ何レモ表裏二割ノ法ヲ附シ洪水位以上一米五ノ高ヲ保タシメ水勢激衝ノ箇所ニハ適當ノ護岸ヲ施工スルモノトス

掘鑿ハ左岸巢本村大字論瀨及高山ノ堤外地ニ於ケル低水路九百八十二米及左岸巢本村大字一本杉右岸北蒲原郡安田村大字小浮ヨリ以下流心ニ沿ヘル五百四十五米(平均低水位上零米九ノ面迄)ニ施行ス其他前記滿願寺澤海間ニ於ケル直通低水路約一千五百二十七米ナリ

浚渫ハ中蒲原郡大江山村大字大淵以下ニ之ヲ施行ス其深ハ平均低水面以下一米八乃至二米七幅ハ低面ニ於テ百九米乃至二百七十三米トシ又小阿賀野川筋ニモ現在ノ流心ニ沿ヒ底幅十四米五ノ浚渫ヲ行ヒ深サハ滿願寺ニ設置スル閘門ノ底面ヨリ零米三ヲ増シ基線以下一米一タラシメントス

施工狀況

本工事ハ大正四年度ノ創業ニシテ直ニ施工準備ニ著手シ翌五年度ヨリ土地買収ニ著手シ其進捗ニ從ヒ掘鑿浚渫築堤護岸制水閘門水門等ノ諸工事ヲ實施セリ本年度ニ於テハ前年度ヨリ繼續セル二十四箇所ト新ニ著手ノ六箇所トノ三十箇所及附帶工事ヲ施工セリ而シテ本年度ハ幸ニシテ天候ニ因ル障害少ナク一面出役者ハ農繁期ヲ除キ供給潤澤ナリシヲ以テ順調ニ作業スルコトヲ得掘鑿土三十七萬八千百立米築堤土二十二萬四萬六立米ヲ竣功セシメタリ今其施工概要ヲ左ニ述ベシ

掘鑿工事ハ前年度ヨリ引續キ施工ノ六箇所ト新ニ著手セル二箇所トノ八箇所ニシテ内手掘一箇所ハ隣接機械掘工ノ線路敷設ノ關係上之ヲ中止シ他ヲ實施ス切取ニハ掘鑿機五臺ト人力トヲ用ヒ土砂運搬ニ

ハ二十噸機關車五臺ト人力及馬力ヲ併用ノ上輕運車ニ依リ新堤敷ニ投棄ス其土量三十七萬八千百立米ナリ

築堤工事ハ前年度ヨリ繼續セル十三箇所ノ内三箇所ハ工事ノ都合上一時中止セリ築立ニハ掘鑿土ヲ利用スルモノト堤内堤外ノ兩地ヨリ人力馬力ニ依リ採土ノ上運搬スルモノトノ二種ニシテ本年度内ニ二十三萬四百六立米ヲ築立テタリ

護岸工事ハ前年度ヨリ續工セル五箇所ト新ニ著手セル三箇所トノ八箇所ヲ施行セリ工法ハ石張、金網蛇籠、混凝土單床、柴工沈床、石詰柳枝工等ニシテ猶右ノ外川倉、梓出ノ假護岸工事一箇所ヲ施行セルガ何レモ竣功ニ至ラズシテ翌年度ヘ之ヲ繰越セリ

閘門工事ハ前年度ヨリ引續キ舟溜ノ掘鑿、前後翼壁ノ混凝土石張、間知石積工前後兩庭竝閘室ニ笠石ノ据付ケヲ了シ外ニ機械室四箇所及階段ニ混凝土工ヲ施シ尙後庭部隅石ノ殘部ヲ積ミ上ゲ土堤張芝三百二十方米、帶芝土羽面二千八百二方米ヲ仕上ゲ門扉運搬ノ爲メ三十封度軌條ヲ延長五百四十米ニ敷設シ前庭部門扉二枚ヲ所定箇所ニ運搬ス而シテ前年度ヨリ施行ノ舟溜護岸工事ハ當初ノ計畫延長五十八米ノ處延長百七十五米ニ増加變更シ石張三百七十七方米、混凝土單床三百七十七方米九ヲ施行セリ

水門工事ハ前年度ヨリ續工ノ小阿賀野川竝通船川ノ二箇所ニシテ小阿賀野川水門ハ本體及前後翼壁ノ各鐵筋混凝土ヲ施行シ吞吐兩水叩面ヲ仕上ゲ前後側壁混凝土石張面三百三方米ヲ積上ゲ大體ヲ終了セリ又通船川水門ハ前年度ニ於テ僅カニ掘鑿、假締切、敷掘ノ一部ヲ施行シタルニ過ギザリシガ本年度ニ於テハ掘鑿、敷掘、締切殘部及基礎杭打、鐵筋混凝土、沈床、石張、橋梁ノ諸工事ヲ施行シ之レ亦大體ヲ了シ殘部ハ門扉ノ取付ケ竝之ニ伴フ諸作業ナリシモ門扉ノ製作成功ノ運ビニ至ラザリシヲ以テ翌年度ヘ繰越スニ

至レリ

土地買収ハ前年度迄ニ略ホ終了シ本年度ハ僅ニ中蒲原郡川東村、巢本村、新津町、大形村、横越村、北蒲原郡岡方村、安田村ノ各地内ニ於ケル未済箇所ノ買収並物件移轉ヲ實施セリ其支出額五千八百十六圓ナリ

機械工場ノ本工事ニ使用スル船舶諸機械ノ修理製作ハ主トシテ專屬機械工場ニ作業シ規模大ナル修理製作ハ信濃川河口機械工場ニ依託作業ス

附帶工事トシテ施行シタルモノハ左ノ如シ

龜田郷用水路工事ハ大正八年七月以來當所ニ於テ施行中ノ處本計畫豫算ハ物價暴騰前ノ算定ナルヲ以テ實施ニ際シ工費ニ甚シキ差違ヲ來シタルト工事進捗ニ伴ヒ設計ノ一部變更ノ必要ヲ生ジタル爲メ止ム無ク本年三月二十四日十五萬一千二百三十九圓(内國庫補助十萬八百二十六圓)ノ追加増額ヲ申請シ四月十八日其認可ヲ得タリ而シテ本年度ハ前年度ヨリ繼續ノ掘鑿、築堤、樋管、橋梁、護岸ノ諸工事ト新ニ護岸四箇所、洗堰一箇所、分水樋管五箇所、計十箇所ヲ施行セリ而シテ水路ノ掘鑿ハ人力及馬力ニ依リ輕運車ヲ使用シ土量六萬二千九百九十一立米ヲ成功シ築堤ハ掘鑿土ヲ用ヒテ一萬一千四百六立米ヲ築立テ新ニ著手ノ護岸工四箇所ノ内一箇所、橋梁長六米七ニ實用幅二米二五ノ一箇所及前年度ヨリ繼續施行ノ取入口樋管ヲ竣功セシメタリ

新井郷改修工事ハ前年度ヨリ引續キ水路ノ浚渫並掘鑿ヲ施行セリ本年度モ亦浚渫船ヲ用ヒ土量九萬七千三百十立米ヲ浚渫シ其運搬捨土ニハ零立米三積長船ヲ以テス掘鑿ハ人力ニ依リ小舟及輕運車ヲ使用シ土量九萬四千三百二十五立米五ヲ運搬投棄シタル外護岸工事トシテハ粗朶羽取工ノ一部及玉石ノ採取ヲ爲セリ

古川樋管改築工事ハ前年度ノ殘工事タル體部呑口片袖壁樋管函ノ一部吐口胸壁竝兩袖壁ノ鐵筋混凝土
竝扉ノ取付ケ水路ノ付替及護岸工等ヲ實施シ本年九月三十日完成セシモ年度内ニ組合ヘ引渡ノ運ビニ
至ラザリキ

中島排水樋管新設工事ハ前年度ニ於テ樋體ノ全部ヲ成功シ殘工事タル水路掘鑿ノ一部ヲ施シ十五年一
月三十一日竣功セシモ是亦年度内ニ組合ヘ引渡スノ運ビニ至ラザリキ

黒瀬樋管新設工事ハ本年度ヨリ床掘ニ著手シ基礎杭二百六十四本ヲ打込ミ矢板工ノ一部ヲ施行セリ

下山排水樋管新設工事ハ管理者大形村長ノ申請ニ依リ松ヶ崎村大字下山地内ニ於ケル現在ノ排水樋管
二箇所ハ新堤ノ爲メ其水路ヲ遮斷セラレ排水ノ途無キニ至リシヲ以テ之レガ移轉ノ必要生ジタルニ依
リ二箇所ヲ一箇所ニ合同シ二三ノ現在水路ヲ整理ノ上新堤ニ鐵筋混凝土樋管ヲ新設セントスルモノニ
シテ本年十月二十七日工費一萬二千六百三十圓(内國庫補助八千四百二十圓)ニシテ直接施行ノ認可ヲ得
直チニ土地買收物件移轉竝水路ノ掘鑿及護岸ノ各一部ヲ實施シタリ此外管理者自營ニ係ル補助又ハ負
擔工事六箇所アリ而シテ灰塚、瀉堀ノ兩樋管ハ何レモ完成シタリシモ竣功認可ヲ得ルノ運ビニ至ラズ大
別樋管工事ハ管理者大形村長ノ自營ニシテ前年度ニ完成シ本年八月三日竣功認可ヲ得タリ

新江用水樋管工事ハ管理者北蒲原郡長ノ自營ニシテ前年度ニ完成シ本年十一月十八日竣功認可ヲ得タ
リ

高森排水樋管工事ハ大野捨太外七十三名ノ共同事業ニシテ前年度ヨリ引續キ施行中ナリ

横雲橋架換工事ハ管理者新潟縣知事ノ自營ニシテ前年度ヨリ引續キ施工シ本年十一月十七日完成セシ
モ竣功認可ヲ得ルノ運ビニ至ラザリキ

本年度ニ於ケル本川竣功額ハ四十九萬八千四百六十四圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ八百七十九萬九千九百六十四圓ナリ之レヲ總工費豫算一千二百萬圓ニ比スレバ七割三分強ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ退職手當九百七十四圓七十錢ハ之ヲ含マズ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿費	三、一七七、八八八 <small>粒</small>	九一、二、四八六 <small>円</small>	三、七八一、〇〇〇 <small>粒</small>	一一、一、五三九 <small>円</small>	三、五五五、九八八 <small>粒</small>	一、〇二四、〇二五 <small>円</small>	〇・六四
浚深費	三六〇、〇〇〇	五四、〇三七			三六〇、〇〇〇	五四、〇三七	〇・〇二
築堤費	三、二〇八、七八二	四七、四、九〇五	二、二〇、四〇六	四〇、七九九	三、四二九、一八八	五一五、七〇四	〇・七八
護岸制水費		三〇三、九三六		四二、九七五		三四六、九一一	〇・二七
工事費		二五七、〇六八		一七、〇九〇		二七三、一五八	
事費		二九、六七三		五八、四二九		八八、一〇二	
水門費		四八八、九四四		一〇一、二八〇		五九〇、二二四	
附帶工事費		一四、五〇〇		九一		一四、五九一	
運搬費		二、三四九、七二八		五、八一六		二、三五五、五四四	
用地費		二、六四七、二七九		四二、二九七		二、六八九、五七六	
船舶及機械費		七六九、九四四		七八、一三八		八四八、〇八二	
施行中諸費							
總計		八、三〇一、五〇〇		四九八、四六四		八、七九九、九六四	〇・七三

第九 最上川改修工事

(新潟土木出張所)

緒言

本工事ハ曩ニ政府ニ於テ工費七十六萬四千九百八十四圓ヲ以テ專ラ航路ノ改良ヲ目的トシテ明治十七年度ヨリ起工シ同三十六年度ニ至リ之レガ竣功ヲ告ゲタリシガ其後年々水害損失ノ甚大ナルニ鑑ミ更ニ大正六年度ヨリ同十五年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシ工費八百二十萬圓(内山形縣負擔額二百十九萬九千圓)ヲ以テ高水防禦ヲ目的トシテ改修工事ヲ施工スルニ至レリ其區域ハ幹線左岸山形縣東田川郡清川村右岸同縣飽海郡上郷村以下海ニ至ル約三十二軒間支川赤川ノ左岸同縣東田川郡齋村右岸同縣同郡廣瀬村以下幹川合流點ニ至ル約二十三軒六間ナリシガ大正十年三月四日支川赤川ノ改修工事計畫ヲ變更シテ最上川ニ注入セシメズ大山川合流點ヨリ高四十五米五ナル西田川郡袖浦村大字濱中地内西山ノ開鑿ニ依ル最捷水路ヲ通ジテ日本海ニ放流スルコトトシ尙同年五月十八日最上川河口改修工事ノ一部ヲ變更シ山形縣知事稟申ニ依ル酒田港修築工ヲ百五十萬圓ノ追加工費ヲ以テ同十七年度迄ノ繼續事業トシテ併セ行フ事トシタルガ更ニ物價騰貴ニ依リ總工費ヲ一千五百萬圓ニ増額シ大正二十一年度迄ニ工期ヲ延長セルモ恰カモ東都大震災ノ影響ヲ被リ更ニ大正二十五年度迄ニ繰延ベラレ二十箇年度ノ繼續事業トナレリ

河狀竝計畫ノ大要

本川ハ奥羽河川中北上川ニ亞グノ大河ニシテ水源ヲ山形縣南置賜郡吾妻山ニ發シ殆ト山形縣一圓ヲ環流シ飽海郡酒田港ニ到リ海ニ注グ其流域面積七千四百三方糎、流路延長二千三百六十八糎(内幹川二百十六糎)航路延長四百五十九糎(内幹川百九十六糎)水害區域三萬七千二百九十七町步(内幹川一萬四千四百町步)灌溉段別五萬七千三百十六町步(内幹川一千九百四十九町步)ナリトス

元來庄内平野ハ山形縣下第一ノ米產地ナルニ本流域内ノ降水量ハ一箇年二千糎以上ヲ示シ本邦ニ於テモ有數ノ降雨地ニシテ洪水汎濫ノ害亦甚シク其損害關係ハ最近十箇年ノ平均額百四十三萬一千六百圓大正元年乃至大正十年ニ上リ就中大正二年ニ於ケル五百十五萬四千五十八圓、同九年二百四十四萬六十七圓、同十年ハ八百三十五萬三千七百七十圓ニ達スル大損害ヲ見タリ

本川改良ノ計畫ハ高水防禦ヲ目的トスルモ傍ラ水路ノ改善ヲ計ラントシ工事ヲ水害ノ最モ大ナル範圍ニ局限シ幹川ハ東田川郡清川村以下海ニ至ル間約三十二糎支川赤川ハ西田川郡鶴岡市附近以下海ニ至ル約十九糎六ノ間ニ施工スルモノニシテ其計畫最大流量ハ幹川六千九百五十立米、赤川一千六百七十立米ト定メ之ヲ快通セシムルニ遺憾無キヲ期セリ

幹川最上川ハ急流ニシテ河狀極メテ不規律ニ屬シ支川赤川ハ緩流ニシテ兩岸相當ノ堤防アルモ廣狹不同ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ次ノ如ク河幅ヲ一定セリ

清川 附近	二五五*
幹川 狩川、白ヶ澤間	三六四
白ヶ澤、中牧田間	四五五

中牧田、落野目間	六三六*
幹川 京田川合流點以下	七二七
京田川合流點以下	八一八

菅原橋、横山間	二七三*
支川 横山以下大山川合流點迄	三六四
赤川 大山川合流點ヨリ河口(西山開鑿水路)迄兩岸二割法底幅百米	一〇〇

新堤ハ左右兩岸共馬踏六米三、兩法二割トシ其頂天ハ計畫最高水位以上一米五ノ高タラシメ在來ノ堤防ハ相當増築シ水勢ノ激衝著シキ箇所ハ總テ石張ヲ以テ護岸ヲ施スモノトス而シテ三米以上ノ直高ヲ有スル築堤ニハ頂天ヨリ三米下リテ幅一米八以上ノ小段ヲ裏法ニ設ケ其以下ヲ二割五分法トシ直高五米四五以上ノ場合ニハ頂天ヨリ五米四五下リテ二米七以上ノ小段ヲ兩法ニ設ケ其以下ヲ三割法トス其他計畫ノ流量ヲ快通セシムル爲メ或ハ河身ヲ浚渫シ或ハ兩岸ノ掘鑿ヲ行ヒ支川赤川ハ流未ナル西田川郡袖浦村大字黒森地内大屈曲箇所ニ於テ西山砂丘ヲ開鑿シ長サ二千八百米ノ新水路ヲ設ケ全川ヲ日本海ヘ放流セシメントス其掘鑿土量八百五萬立米、底幅百米、切割高四十五米五ナリ之レガ爲メニ洪水ノ期間ヲ短縮スル效果著シキモノアルベシ

京田川ハ從來最上川、赤川兩川出水ノ都度其逆流ト自己ノ出水トノ爲メ沿岸ノ沃野ニ浸水シ汎濫ノ害ヲ免レザリシガ赤川分流ノ結果最上川左岸堤防ヲ延長シテ其合流點ヲ下流ニ移スコトヲ得自然該川ノ排水ヲ良好ニシテ兼テ逆流ノ被害ヲ輕減スルコトヲ得ベシ殊ニ最上川口ハ酒田港ト全然分離シテ左岸ニ偏移シ右岸堤防ハ飽海郡酒田町對岸中洲上ニ築キ其先端ニ接續シ長六百四十四米、水深九米ノ海中ニ達スル突堤(中央)ヲ設ケ突堤(南)ハ其長二百二十七米ニシテ水深四米五ノ海中ニ達セシム酒田港口ニ最上川突堤(中央)ト相對シテ同ジク水深九米ノ海中ニ達スル突堤(北)ヲ築キ港内ハ低水面以下一米八乃至七米六ニ浚渫シ且適當ノ護岸工事ヲ施スモノトス

附帶工事トシテハ橋梁ノ増設架換、水門ノ移動、用惡水路ノ改築及樋門工事ヲ施行シテ惡水ノ排出ヲ良好ナラシメ從テ水害ヲ除去シ航行ノ利便ヲ増進スルモノトス

施工狀況

本改修工事ハ大正六年度ノ創業ニシテ翌七年度幹川右岸全部ノ土地買收ヲ了シ本年度迄數次ニ互リ幹川左岸ノ一部支川赤川新放水路用地竝鶴岡市附近ノ買收ヲ行ヒ工事ハ大正八年秋砂越鐵橋下流ノ幹川右岸ニ著手セル以來引續キ買收ノ後ヲ追ヒ之レヲ施行セリ而シテ大正九年ニハ機械工場ヲ設置シ諸機械船舶ノ修理製作等ヲ經營スルコトトセリ本年度ハ事業繰延ノ爲工費著シク削減セラレタル結果各種工事ニ於テ不得已數箇所ヲ休止セルモノアリシモ酒田港修築工ヲ含メル最上川河口工事及之ト密接ノ關係ニ在ル赤川新放水路開鑿工事ニ主力ヲ傾注シ其他重要ナル工事ハ之ヲ繼續スルコトトシ酒田、松嶺、吹浦(以上飽海郡)余目、落野目(以上東田川郡)黒森、鶴岡(以上西田川郡)各工場擔當ノ下ニ掘鑿六箇所、浚渫二箇所、築堤九箇所、護岸二箇所、制水四箇所、突堤三箇所、石材採取一箇所、計二十七箇所ニ施行シタリ其掘鑿土量百三十四萬八千三百三立米、此工費十四萬三千四百四拾五圓、浚渫土量十八萬四千四百五拾四立米、此工費三萬七千六百三十七圓、築堤築立土量八十一萬七千六百三十一立米、此工費五萬四千六百四十六圓ナリトス

次ニ本年度内施工ノ概況ヲ述ブレバ幹川最上川筋ハ新堤ノ築立ヲ見タルモノ總延長ノ約六割ニ達シ右岸飽海郡側ハ著シク水害ヲ輕減シ左岸東田川郡側ハ未ダ新堤斷續的ナルモ水防上、利スル箇所尠カラズ茲ニ於テカ大正溝、上郷堰、砂越等各々地區數百町歩ヲ有スル耕地整理組合陸續起工セラレ改修ノ效果ヲ認メラルルニ至レリ而シテ掘鑿工事ハ築堤築立土ニ利用スル爲メ東田川郡大和村大字澤新田、飽海郡上郷村大字山寺、飽海郡西平田村大字大宮地内ニ於テ人力ニ依リ施工シ河口西田川郡袖浦村大字宮野浦地

内ニハ前記大宮ト共ニガソリン機關車ヲ使用シ海岸砂丘ノ掘鑿ヲ繼續シ土砂ハ海岸ノ砂濱ニ運搬シ之ヲ投棄セリ

築堤工事ハ前年度ヨリ引續キ飽海郡中平田村大字小牧東田川郡大和村大字澤新田地内ニ施行セル外白ケ澤飽海郡上郷村向小出(東田川郡大和村)掘野(常萬村)槇島(東田川郡余目町)山寺飽海郡上郷村荒鍋宮野浦(西田川郡袖浦村)地内ニ著手セリ此内左岸最上流部ノ荒鍋築堤ハ吉田堰用水路幹線改良工事ニ附隨シ同工事箇所ニ取入口設置セラレ且揚水場保護ノ爲メ取り急ギ工事ニ著手シ右岸最下流部宮野浦築堤ハ最上川及酒田港ノ瀨割堤ニ相當スルモノトス而シテ兩築堤防護ノ爲メ荒鍋及宮野浦護岸工事ヲ施工シ制水工事ハ宮野浦深新田地内等ニ施シタリ

支川赤川筋ニ在テハ鶴岡市附近兩岸ノ舊堤嵩置工事ヲ繼續シ土運搬ニハガソリン機關車ヲ使用セリ流末新放水路ニ該當スル西山掘鑿工事ニハ掘鑿機三臺ヲ運轉シ傍ラ人力ヲ併用シテ進工ニ努メ本年度ハ土量百二十三萬九千七百四十六立米ヲ竣功シ其立米當リ工費九錢八厘二毛ナリ而シテ起工以來ノ工程ハ五百二十五萬七千百十五立米ニシテ總土量八百五萬立米ノ約六分五厘ニ達セリ尙本掘鑿ハ新水路計畫底幅百米ノ内最初中央四十米ヲ掘鑿シ兩側約百數十萬立米ノ掘殘リ土砂ハ之レニ赤川高水ノ一部ヲ通水シ水勢ニ依リ漸次之レヲ海中ニ放流スルノ方針ニ從ヒ極力掘鑿地盤ノ低下ニ努メ標高十一米八迄在來地盤最高點ハ四十八米五掘下グルニ至リ今後約一箇年度ニシテ計畫ノ川底ニ達スル見込確立セリ酒田港修築工事ハ本年度新タニ中央突堤基礎工事二百米ヲ施工シタルガ殆ト完成シ又從來施工セル假突堤ノ補修工事ヲ行ヘリ其工法ハ水中烏海山麓吹浦村海岸ニ於テ採取曳船ニ依リ運搬セル石材ヲ捨石シ又適當ニ末口十五糎ノ丸太ニテ組立テタル長五米四五幅七米二七高二米四ノ木工沈床ヲ埋設シ捨石

ノ飛散ヲ防ギ海面附近ハ十二噸方塊ヲ沈設シ又ハ場所詰混凝土ヲ施シタリ
 方塊工場ニ於テハ本年度中十二噸方塊四百九十四個ヲ製造シ又積出用電動デリック起重機ノ据付完成
 セルヲ以テ前記突堤工事ニ方塊三百七十個ヲ沈設セリ
 本年度ニ於ケル竣功額ハ五十三萬三千九十八圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ六百三十七萬八千八
 百七十二圓ナリ之ヲ總工費豫算額一千五百萬圓ニ比スレバ約四割三分ノ竣功ナリトス其工事竣功表ハ
 左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿費	七三、三三、三八三	一、三五三、六六六	一、三四八、三〇三	一四三、四五〇	八、六六一、六八六	一、四九七、一一六	〇・五〇
浚深費	二一九、三八一	六五、〇三九	一八四、四五四	三七、六三七	四〇三、八三五	一〇二、六七六	〇・〇七
築堤費	一八七八、一一七	二二八、八二八	八一七、六三一	五四、六三四	二、八九五、七四八	二八三、四六二	〇・三七
護岸費		三四、九二五		四、九六〇		三九、八八五	〇・〇四
制水費		三三、〇七五		一七、五九四		五〇、六六九	〇・一〇
突堤費		四二、二一一		一四、二二二		五六、四三三	〇・一四
附帶工事費		五四、二五〇				五四、二五〇	
材料採取及製造費				四〇、九六六		四〇、九六六	
材料運搬費				六、六四七		六、六四七	
用地費		九三一、七八六		五、五八〇		九三七、三六六	
船舶及機械費		二、二八四、八三九		一一三、一四三		二、四〇七、九八二	
施行中諸費		八一七、一五五		八四、二六五		九〇一、四二〇	

總

計

五、八四五、七七四

五三三、〇九八

六、三七八、八七二

〇・四三

第一章 河川改良工事 (最上川改修工事)

第一〇 雄物川改修工事

(仙臺土木出張所)

緒言

本工事ハ當初大正六年度ヨリ同十五年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシテ總工費七百二十萬圓ヲ以テ施行スルモノナリシガ大正十二年度ニ至リ物價騰貴ノ爲メ總豫算額ヲ一千七百七十萬圓(内秋田縣負擔額三百四萬七千圓)トシ年限ヲ大正二十年度迄延長シタルガ偶大正十二年九月一日突發シタル關東大震災ニ因リ更ニ五箇年度ヲ延長シ施行年限ヲ同二十五年迄延長シタル其區域ハ幹川ニ在テハ左岸秋田縣河邊郡戸米川村、右岸同縣同郡川添村以下海ニ至ル間延長二十一籽、支川岩見川ニ在テハ左右岸秋田縣河邊郡豐島村以下雄物川合流點ニ至ル間五籽、合計二十六籽間ニ改修ヲ施行スルモノトス

河狀並計畫ノ大要

雄物川ハ流域面積四千八百八十方籽、流路延長一千二百四十五籽(内幹川百四十九籽)航路延長三百三十四籽、内幹川百三十七籽、灌溉段別三萬九百十三ヘクタール(内幹川三千三百三十四ヘクタール)水害區域二萬二千六百九十ヘクタール(内幹川一萬一千五十八ヘクタール)ヲ有ス而シテ其沿岸ハ幹支川共無堤ノ部分多ク偶一部ニ堤防ヲ見ルモ極メテ不規律ニシテ且河幅一定セズ殊ニ幹川ノ下流部ハ南秋田郡土崎港ニ至ル迄流心不定加之屈曲甚シキヲ以テ洪水ノ際ハ毎ニ其疏通ヲ妨ゲラレ從テ支川岩見、旭兩川ノ如キハ逆流ニ因ル水災著シク明治二十九年ニ於テハ汎濫面積一萬七千八百五十ヘクタールニ及ビ其損失價額實

ニ一千三百萬圓ニ達セリ其後明治四十三年ノ被害ノ如キモ亦三百十餘萬圓ニ達シタルノ狀況ナリ
本計畫ハ秋田市及附近平野ノ水害ヲ除去スルヲ以テ主眼トシ併セテ河口ヲ改善セントスルモノナリ而
シテ計畫高水流量ハ幹川河邊郡川添村以下海ニ至ル間毎秒五千五百六十五立米支川岩見川ハ同郡豊島
村以下幹川合流點ニ至ル間毎秒五百五十六立米ト定メ之ヲ快疏スルノ河積ヲ有セシムルモノトス而シ
テ同郡新屋町ニ於テハ現水路ヲ全ク締切り同町西方ノ丘陵ヲ横斷シテ直路日本海ニ注グベキ長サ二千
米餘ノ一大新水路ヲ開鑿シ水面幅ハ高水時ニ於テ約三百六十四米トシ上游ニ於ケル流路ニ對シテハ堤
防ヲ築キ水積ヲ補ヒ屈曲ヲ矯メ制水ヲ設クル等諸般ノ施設ヲ爲スモノトス又締切堤ノ東方秋田市牛島
町ニ開門ヲ設ケ以テ航行ニ便シ之ヨリ以下舊川ハ幅五十五米乃至九十米ヲ限り低水時一米五ノ水深ヲ
保ツ程度ニ浚渫ヲ加ヘ舟筏航行ノ用ニ供シ併テ下流幹支川惡水排除ノ便ニ備ヘントス
土崎港ハ雄物川ノ土砂河口ニ流下シ來リテ堆積スルヲ以テ船舶ノ出入ヲ妨ゲラレ倍不良ノ状態ニ陥ル
ノ虞アルヲ以テ差當リ現在出入船舶ノ狀況ニ鑑ミ之ニ適應スル事ニ止ムル事トシ先ヅ以テ突堤ヲ築キ
浚渫ヲ爲シ干潮面位下五米四ノ水深ヲ保持セシムルモノトス
支川岩見川ハ其合流點附近ノ河狀不自然ナルガ爲メ一朝洪水ニ際シテハ其慘害ノ怖ルベキモノアルヲ
以テ現在ノ流末水路ヲ附替ヘ適當ノ築堤ト掘鑿トヲ施シ以テ洪水ノ防禦ニ備フルモノトス
本工事施行部ハ前述セルガ如ク多クハ無堤地ニ屬シ河幅一定セザルヲ以テ其河狀ニ應ジ築堤ヲ以テ河
幅ヲ制限シ一定ノ標準ニ依リ之ヲ整正セントス即チ堤防中心間ノ距離ヲ其區間毎ニ表示スレバ左ノ如
シ

支	自	自	新
川	$\frac{4}{2}$	新	川
岩	至	川	ノ
見	椿	入	部
川	川	口	(高水敷幅)
		至	
		$\frac{4}{2}$	
至	自	自	
一八〇	一四〇	三八〇	三五五*
〇五	〇〇	〇〇	

堤防ハ施工ニ際シ計畫断面ヲ變更セリ即チ幹支川共馬踏五米五、表法二割トシ天端以下三米五ニ幅九米
 (支川岩見川ハ三米五)ノ小段ヲ設ケ以下三割法トス裏法ハ上部ヲ二割五分トシ天端以下二米五ニ幅三米
 五ノ小段ヲ設ケ夫ヨリ下部ヲ三割トス而シテ法先ノ水中ニ没スルモノハ相當ノ犬走、下埋ヲ施ス天端高
 ハ幹川ニ在テハ計畫高水面ヨリ一米五高トス支川岩見川ニ在テハ一米乃至一米五トス新川下流突堤ニ
 接續スル部分ハ馬踏七米、表法一割五分ニシテ護岸ヲ施シ裏法ハ二割トス

施工狀況

本改修工事ハ大正六年度ノ創業ニシテ翌七年度ニ於テ一部ノ土地買収ヲ行ヒ同八年度ヨリ河邊郡新屋
 町地内新川開鑿工事ニ着手シ爾來七箇年度間改修ノ主力ヲ此主要大工事ニ傾注セリ
 本年度ニ至リテハ工所用諸機械漸ク完備充實ノ域ニ達シタリト雖モ年度割工費ノ減少ニ因リ進行遅々
 タルヲ免レズ新川開鑿工事ニ於テスラ一箇年度ヲ通ジ僅カニ掘鑿機三(臺内一臺ハ六月以降)ヲ以テ操業
 ヲ爲シ土量七十二萬二千七百一十一立米、外ニ「ドコビル」工事ニ依ル土量十四萬二千二百十三立米ヲ施工

シ合計本年度八十六萬四千九百二十四立米ノ功程ニシテ起工以來ノ全土量ハ六百五十八萬一千百九十八立米ナリ即チ新川開鑿計畫土量ニ對シ其四割七分ヲ竣功シタリ其他四ツ小屋掘鑿六萬七千二百七十九立米、牛島掘鑿八萬六千八百四十七立米ノ掘鑿土運搬ヲ爲セリ

築堤工事ハ河邊郡仁井田築堤二萬八千五百七立米、同郡四ツ小屋第一築堤一萬三千百三十七立米、同郡牛島築堤四萬五千四百四立米、合計八萬七千九立米ノ築立ヲ施工セリ

新川開鑿部ニ於ケル法留工ハ本年度芝付面積七千四百四十方米ニシテ累計五萬七百九十二方米ノ芝張工ヲ施行ス本川土崎港口ニ於ケル防波堤假突堤ハ辨慶杵ヲ沈下シテ築設スルモノニシテ既ニ前年度迄延長二百三十四米ヲ施工シ本年度辨慶杵十九個ノ沈設長六十五米ヲ成工シ累計延長二百九十九米ニ達セリ尙土崎港上流部ニ於ケル流心甚シク左岸ニ偏シ右岸寄洲漸次擴大スルヲ以テ此流心ヲ右岸ニ導キ一定ノ水深ヲ得ントスル目的ヲ以テ沈床及辨慶杵ノ制水ヲ施セリ沈床二千四百方米五、辨慶杵五十二個、制水延長二百六米四ヲ沈設セリ此工事ハ翌年度早々竣功ノ豫定ナリ此外土崎港口沿岸ニ於テ飛砂ノ港内ニ侵入スルヲ防止シ併セテ其飛散程度ト方面トヲ調査センガ爲メ簀立ヲ爲シ砂防工ヲ施行セリ即チ本年度ハ僅カニ設計延長ノ約三分ノ一即チ四百十五米ヲ築設セルニ過ギズ

工所用石材ノ本年度採集ハ四千四百四十二立米ニシテ所要地ヘノ運搬ハ設備未完成ノ故ヲ以テ圓滑ナル輸送ヲ爲スコト能ハザリシモ本年土崎雄物川驛ヨリ引込ノ專用側線ハ竣功シ五城目驛側線二哩四五鎖五十節ハ目下施行中ニシテ是等全部完成ノ曉ハ相當ノ成績ヲ得ベシト信ズ

附帶工事トシテ施行セル排水路新設工事ハ昨年度ニ於テ九分通竣功シ本年度ハ下流部ノ掘鑿及殘工事ヲ爲シテ全ク竣功シ大正十五年二月十五日管理者ヘ引渡ヲ了セリ其竣功ノ結果ハ四ツ小屋附近新堤ノ

完成セシト相俟ツテ豫期以上ノ效果ヲ得タリ
 改修工事ノ本年度竣功高ハ四十七萬一千七百十八圓餘ニシテ起工以來本年度迄ノ竣功高ハ五百十三萬
 四千百七十二圓餘ナリ總工費豫算額一千百七十萬圓ニ對シ約四割四分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ次ノ
 如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本掘	六、三六二、四一六 <small>粒</small>	一、四七四、〇六二 <small>円</small>	一、〇一九、〇五〇 <small>粒</small>	二〇六、九七七 <small>円</small>	七、三八一、四六六 <small>粒</small>	一、六八一、〇三九 <small>円</small>	〇・四九 <small>割分</small>
築堤	五四六、七八六	三四、五八〇	八七、〇九〇	五、一九七	六三三、八七六	三九、七七七	〇・三二
護岸及制水費		四三、五九〇		一五、四一五		五九、〇〇五	
突堤		二四、八六八		五、三六〇		三〇、二二八	
附帶工事費		五八、二六五		二、一一二		六〇、三七七	
用地		三九六、〇五二	二二七 <small>段</small>	五八、〇四六		四五四、〇九八	〇・七四
船舶及機械費	三、〇八四 <small>段</small>	二、一〇〇、二五九		六八、〇七八	三、三〇一 <small>段</small>	二、一六八、三三七	
測量		三四、八〇一		二、一九四		三六、九九五	
營繕費		九三、八八八		二、八一〇		九六、六九八	
施行中諸費		三九五、九五六		一〇一、七五五		四九七、七一一	
共済組合給與金		六、一三三		三、七七四		九、九〇七	
總計		四、六六二、四五四		四七一、七一八		五、一三四、一七二	〇・四四

第一一 江合、鳴瀬兩川改修工事

(仙臺土木出張所)

緒言

本川改修ハ明治三十年法律第三十七號第一條ニ依リ大正十年年度ヨリ内務大臣ニ於テ宮城縣ノ起業ニ係ル工事ヲ直接施行スルモノニシテ其繼續年限ハ大正十五年迄六箇年度其工費豫算總額五百六十九萬二千圓其内百三十一萬二千圓ハ縣施行額、四百三十八萬圓内工費四百十四萬圓、事務費二十四萬圓ハ國ニ於テ施行スル金額ナリ而シテ爾來實施中ナリシガ大正十二年度ニ至リ河川法ニ依ル國ノ直轄工事トナリ豫算額ヲ改メ總額ヲ六百四十七萬四千圓(内百三十一萬二千圓ハ舊ノ如ク縣施行額ニ屬シ五百十六萬二千圓ハ國ノ施行額ニシテ其内五百八萬二千圓ハ工事費トシ八萬圓ハ事務費トス)ト爲シ大正十八年度迄ノ繼續事業ト定メラレタリ而シテ其改修區域ハ鳴瀬川ハ宮城縣志田郡高倉村以下海ニ至ル約四萬七千百二十七米、吉田川ハ黒川郡落合村以下小川落口二子屋ヲ經テ鳴瀬川ニ沿ヒ海ニ至ル三萬一千四百八十八米、江合川ト江合橋上流栗原郡宮澤村ヨリ下流トシ志田郡荒雄村大字福沼ヨリ新川ヲ開鑿シ鳴瀬川ニ合流セシムルモノニシテ其距離七千八百五十五米ナリ

河狀竝計畫ノ大要

鳴瀬川流域ハ江合川流域ニ連リ其面積八百七十九方紵餘ヲ有ス本川ノ最上流ヲ夕日川ト稱シ源ヲ陸羽國境タル宮城縣加美郡小野田村舟ヶ嶽ニ發シ同郡山間一帶ノ溪流ヲ合シテ流下シ保能川、田川、荒川、多田

川ノ各支川ヲ容レ志田、遠田兩郡ノ平坦部ヲ貫流シ數多屈曲ノ後桃生郡小野村ヲ經テ同郡野蒜村ニ至リ海ニ注グ幹川ノ流路約九萬三百二十七米ニ及ブ本川中治水上重要ナル區域ハ加美郡中新田町附近ヨリ海口ニ至ル約五萬一千五十五米ノ間ニシテ流心概シテ統一、流勢亦緩和シ志田郡三本木町附近以下河床ニ粗礫ヲ見ルコト稀ナリ加美郡中新田町以下本川ノ右岸ハ山勢稍逼リ耕地大ナラザルモ左岸ハ末流約七千八百五十五米ヲ除キ廣大ナル平野ニシテ洪水被害ノ大ナルモ亦此區域ナリトス(大正二年ニ水害損失價額三百八十四萬二千二百七十四圓、同九年ノ水害百二十七萬三千八百六十八圓ナリ)

吉田川ハ源ヲ黒川郡吉岡町ノ西方北泉岳ニ發シ溪流ヲ集メ流程凡三萬一千四百十八米ニシテ品井沼ニ入ル流域三百八方秆餘、同郡落合附近ヨリ下流兩岸ハ概ネ堤防ヲ有シ新舊二個ノ潛穴ヨリ高城川ニ出デ松島灣ニ注グ

江合川ハ北上川ノ一大支流ニシテ宮城縣玉造郡荒雄嶽ニ發源シ同郡鬼首村ヲ過ギ大澤、大谷等ノ支流ヲ加ヘ同郡岩出山町ニ至リ漸ク平地ニ臨ミ鳴瀬川ト相竝ビテ東流シ遠田郡涌谷町ヲ經テ桃生郡前谷地村大字和淵ニ於テ北上川ニ合ス其流路約九萬八千八百八十二米流域面積六百三十二方秆ヲ有ス本川ハ志田郡古川町ノ北方江合橋附近ヨリ上流ハ一般ニ流勢急激ニシテ亂流ノ狀態ヲ呈シ諸所ニ砂礫ノ附洲ヲ横フルモ同所ヨリ下流ハ河狀一變シ勾配大ニ緩ミ流心漸ク統一ス

今各川ノ灌溉段別竝水害區域ヲ調査スルニ灌溉段別ハ鳴瀬川一萬二千町步、小川上流吉田川ハ七百町步、江合川ハ七千七百九十町步ニシテ水害區域ハ鳴瀬川ニ於テ一萬四百九十三町步、吉田川ニ於テ一千二百町步、江合川ニ於テ五千七百町步ヲ有ス

改修計畫ハ鳴瀬、江合兩川筋ノ高水防禦ノ目的ヲ達シ竝江合川ニ於テ江合橋以下約二萬七千四百九十一

米ノ兩岸堤防ヲ節約スル目的ヲ以テ荒雄村大字福沼ヨリ一條ノ新川ヲ開鑿シ以テ江合川ノ高水全部ヲ導キ之ヲ鳴瀨川ニ合流セシメ鳴瀨川ハ河幅ヲ擴張整理スルト同時ニ堤防ヲ堅牢ナラシメ河積不足ノ所ハ掘鑿又ハ浚渫ヲ爲シ著シキ屈曲ハ之ヲ直通セシメ以テ江合、鳴瀨兩川洪水ノ全部ヲ快通セシメ傍ラ吉田川ハ之ヲ鳴瀨川ヨリ分流シ河口近クニ於テ鳴瀨川本流ニ注ガシメ品井沼ノ湛水ニ因ル害ヲ輕減セントシ尙併セテ多田川ノ逆水被害ヲ防グ爲メ現在堤防ノ嵩置ヲ爲スモノナリ

計畫高水流量ハ鳴瀨川每秒一千五百四十立米、江合川同一千三十六立米、吉田川同五百六十立米ナリ又河幅ハ鳴瀨川百四十五米乃至二百六十三米、新江合川ハ百二十七米、吉田川上流ハ九十一米乃至二百六十三米、下流ハ七十三米乃至八十二米ナリ

築堤ハ其堤頂ヲ最高水位以上一米二トシ馬踏五米五、兩法二割トシ尙水流激衝ノ局部ニ對シテハ特ニ護岸工事ヲ施シ其他屈曲部ヲ緩和シ用惡水路ノ改築等ヲ圖ルモノナリ

突堤ハ野蒜築港當時築造セシモノヲ利用増築スルモノニシテ東西兩突堤ニ於テ百八十一米ヲ延長ス

施工狀況

本川改修工事ハ大正六年度ニ於テ宮城縣起工ニ係リ江合、鳴瀨、吉田ノ三川トモ上流一部ノ築堤工事(江合川ハ舊川部、鳴瀨川ハ支流多田川、落合上流部、吉田川ハ粕川村ヨリ上流部)ノ築堤ヲ同九年度迄ニ完成シ翌十年度ニ至リテ内務省ノ直轄事業ニ移セリ爾來計畫調査機械購入等諸般ノ準備ニ幾多ノ日子ヲ費シ同十一年十月ニ至リテ漸ク本工事ニ著手スル運ビトナリ茲ニ鳴瀨川右岸小野村地内ノ山地崩壞ヲ始メトシ漸次其下流又ハ上流ニ及ボシ以テ現今ニ至レリ

直轄工事ノ本年度末迄ニ施行セシモノハ鳴瀬川ハ下流部ニ於テハ小野村ヨリ野蒜運河ニ至ル兩岸ノ築堤竝掘鑿ニシテ其距離約三千九百二十七米、中流部ニ於テハ南鄉村大字木間塚以下吉田川落合ニ至ル約五千六百七十二米間ニ於ケル兩岸ノ築堤及掘鑿、上流部ニ在リテハ志田郡敷玉村松ケ崎以下梅ノ木ニ至ル東北本線鐵道附近約三千四百九十一米ノ左岸築堤竝掘鑿工事ナリトス吉田川ハ本年度ヨリ下流桃生郡野蒜附近ノ築堤及掘鑿ヲ開始セリ掘鑿機關ハ「ステームシヨベル」二臺ト一立碼四分ノ一マリオン三十二番型「ドラグラインエキスカベーター」一臺ヲ配置シ其外人力又ハ馬力運搬ニ依ル小形土運車ヲ併用シ掘取土砂ヲ利用シテ築堤ヲ完成セシムル方針ヲ以テ工事ノ進行中ニ在リ而シテ大正十一年度以來ノ累計移動土砂ハ百四十四萬九千三百立米ニシテ其内四十六萬二千八百二十立米ハ本年度ノ施行ニ係ルモノナリ

土地買收ハ工事施行上急ヲ要スル部分ヨリ調査發表ノ方針ニテ進行シ本年度迄ニ累計八十一段歩ノ買收ヲ終ヘ本年度ニ於テハ鳴瀬川下流桃生郡小野、蒜兩村ニテ四十三町五段歩ノ發表ヲ爲セシガ未承諾ナリシ爲メ結局十七町三段歩ノ買收未濟地ヲ見ルニ至レリ

本年度ノ竣功額ハ總計四十一萬八千九百五十三圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ百六十八萬七千六百拾圓ナリ之ヲ總工事費豫算額六百四十七萬四千圓ニ對比スレバ約三割六分強ノ竣功ナリ而シテ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「米」ハ掘鑿土砂ヲ利用シテ築立タル土量ヲ示ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本掘鑿費	九八六、四八〇粒	一一九、三二二圓	四六二、八二〇粒	一五三、七二六圓	一、四四九、三〇〇粒	二七三、〇四八圓	〇・一四分

總計	工事築堤費	用地費	機械費	測量費	營業繕費	死傷當費	惠行中諸費	施行中諸費	共濟組合給與金	
	九八九、六七一	二八〇、三三三	三五二、九三二	三八六、二二二	五、一八五	一七、九八九	二七四七	八、〇六九	九二、〇七八	三、二二六
	一、二八〇段	*	三四一、八三三	五三八段						
	二八〇、三三三									
	一、二六八、一〇七									
	四一八、九五三									
	五、一六六									
	一、三一、五〇四									
	一、八一八段									
	二八五、四九九									
	〇・四〇									
	一、六八七、〇六〇									
	〇・三六									

第一二 淀川改修増補工事

(大阪土木出張所)

緒言

本川改修工事ハ明治二十九年ノ創始ニ係リ同四十四年三月工費一千五萬六千八百十二圓ヲ以テ滋賀縣瀨田川以下海ニ至ル高水工事ヲ一旦結了シタルモ大正六年十月計畫高水ニ達スル大出水ニ際シ改修區域外ナル支川數箇所ニ破堤ヲ生ジ惹テ右岸大阪府三島郡大冠村淀川本堤ノ破堤ヲ見ルニ至レリ之レガ爲メ直接損害高六百四十餘萬圓ニ上リ其他交通衛生ノ障害ニ因ル間接ノ影響ハ實ニ計數ヲ以テ揣リ難キモノアリ政府當局ニ於テモ此慘害ニ鑑ミ尙増補工事ヲ行ヒ安全ヲ計ルノ緊急ナルヲ認メ京都府伏見町以下ニ對シ大正七年度以降同十二年度ニ至ル六箇年度間ノ繼續事業トシテ工費五百七十六萬圓俸給事務費二十一萬圓合計五百九十七萬圓ノ豫算ヲ以テ高水工事ヲ施行スルコトトナレリ其後物價勞銀暴騰ノ爲メ豫算ヲ増額シ一千二百一萬三千五十一圓トナリ施行年限ヲモ亦大正十六年度迄延長セラレタリ尙本川タル京都府伏見町以下大阪市安治川口ニ至ル間ニ對シテハ明治八年度ヨリ同二十一年度迄同四十年年度ヨリ大正十一年度迄前後二回ニ互リ低水工事ヲ施工セリ之ガ爲メ低水流路ヲ一定シ舟運ノ便ヲ益スルコト甚大ナルノミナラズ高水工事ニ對シテモ堤脚護岸ノ安全ヲ期スルヲ得タリ

河狀並計畫ノ大要

淀川ハ流域八千二十方糎、其内五割弱ハ琵琶湖ノ水域、二割ハ木津川、一割三分ハ桂川、殘餘二割弱ハ本流沿岸ノ水域ニ屬ス。幹川流路ノ延長ハ湖水流出口伏見町間三十糎、伏見町以下海口間四十六糎、合計七十六糎ニシテ、其滋賀縣ニ屬スル部分ヲ瀬田川、京都府ニ屬スル部分ヲ宇治川ト稱シ、京都大阪兩府界山崎ニ於テ宇治、木津、桂ノ三川ヲ合流シテ淀川本流トナル。

流域内耕宅地ノ總段別ハ約一千九百八十方糎トス。其内沿岸平坦部ハ琵琶湖沿岸三百四十七方糎、山城平地部百五十九糎、攝河平野三百四十七平糎、合計八百五十三方糎ニシテ、本川改修ト密接ノ利害關係ヲ有スルモノナリ。

既往調査ノ結果ニ依レバ、洪水ノ最大流量(毎秒立米)ハ宇治川ハ八百三十五立米、木津川ハ四千六百五十立米、桂川ハ一千九百五十立米、三川合流以下淀川本流五千五百六十立米トス。低水流量ハ淀川本流平均低水位ニ於テ百九十五立米餘ニシテ、如何ナル渇水時ト雖モ八十三立米ヲ下ルコトナシ、但シ渇水量ノ大部分ハ宇治川ヨリ來ルモノニシテ、琵琶湖貯水ノ放流ニ因ルモノナリ。

今回ノ改修區域ナル伏見町以下幹川ノ水面勾配ハ高水、低水共ニ概ネ三千分一以下ノ緩流ニシテ、舟運上最モ利用サルル區域トス。

増補工事ノ計畫ハ大正六年十月ノ洪水ニ鑑ミ、第一伏見町觀月橋以下ニ於ケル堤防ノ餘裕ヲ同年ノ洪水位以上一米二乃至一米五ニ増築スルコト、第二伏見町ノ浸水ヲ防止スル爲メ新堤ヲ築造スルコト、第三三川合流附換ヲ爲スコト、第四橋本下流ニ在ル中洲ヲ除去スルコトヲ主要ナル工事トス。尙前改修ニ於テハ包含セザリシ各支川堤防モ幹川洪水ノ及ブ範圍ニ限リ相當補強スルコト、セリ。

幹川堤防ハ馬踏幅大體五米五、所定洪水位下零米六及三米三ノ處ニ各幅三米七ノ裏小段、同上三米ノ處ニ

幅九米一ノ表小段ヲ設ケ法勾配表小段以上二割、同以下三割、裏上部小段以上二割、同以下二割五分ヲ標準断面トシ地形及地質ニ應ジ小段ニ多少ノ變更ヲ爲ス大體ハ外腹付ナレドモ地形上之ヲ許サザル區間及屈曲匡正箇所ハ内腹付トス

三川合流以下堤防高ハ所定洪水水位上(大正六年十月洪水位)一米五トシ非常特別流量每秒六千六百八十立米ヲ疏通シ尙堤防ニ零米九一ノ餘裕ヲ保タシメントス而シテ宇治川筋ハ木津川合流點附換ニ依ル水位低下ヲ豫想シ所定洪水以上一米二ニ止ムルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正七年五月調査測量ヲ開始シ同年末略ボ之ヲ終ヘ同八年二月ヨリ大阪府枚方町ニ事務所ヲ置キ工事ニ著手セリ爾來水防上比較的不安ナル重要區域ニ對シ先ヅ以テ工ヲ進ムル方針ニテ人員及土功機具ヲ配置シ專ラ築堤、中洲掘鑿及護岸普及ヲ計レリ本年度迄ノ竣功總高ハ築堤六百二萬三千餘立米此工費百九十二萬九千餘圓、掘鑿三百六十一萬一千餘立米此工費百十二萬五百餘圓、護岸制水延長三萬七百米此工費百九萬八千餘圓ニシテ其内本年度ノ竣功高ハ築堤九十一萬餘立米此工費三十二萬六千餘圓、掘鑿六十七萬一千餘立米此工費二十一萬五千餘圓、護岸制水延長三千八百餘米此工費九萬三千餘圓ナリ以上本工事ノ竣功總高ハ計畫ノ全量ニ對シ略ボ七割ニ當ルモ此外ニ特種工事、樋門、其他ノ附帶工事ノ進捗ハ未ダ本工事ニ及バザルヲ以テ全體ノ工事ニ對スル出來形ハ約五割八分ノ功程ト見ルベキナリ今之ガ施工概況ヲ上流部ヨリ順次述レバ次ノ如シ

紀伊郡伏見町向島村方面ニ在テハ本増補工事ノ上流起點ナル觀月橋下手兩岸ノ築堤、護岸及平戸川締切樋門工費五萬七千餘圓、平戸陸開工費五千九百餘圓ハ竣功シ順次下流乙訓郡淀町及久世郡御牧町方面ニ向ツテ進行シツツアリ在來高瀬川京都疏水派川平戸川伏見内堀ノ流末落合ニ設クベキ三栖開門及洗堰ノ内洗堰ハ工費豫算十萬二千圓ヲ以テ昨春著工シ本年度迄ノ竣功工費七萬八千餘圓ニシテ功程約八割弱ニ及ブ開門ハ工費豫算二十五萬三千圓ヲ以テ十五年二月著工シ締切施行中ナリ堤外中島掘鑿築堤土砂採取ノ爲メ掘鑿高瀬川築堤横大路及護岸延長一千八百九十四米ハ何レモ目下施工中ニシテ本年度掘鑿運搬土量十六萬七千餘立米此工費五萬五千餘圓ナリ護岸ハ功程約七割ニ達ス

前記淀御牧方面ハ第一期淀川改修ノ際附換サレタル新宇治川堤防ニ對シ嵩置表腹付ヲ爲スモノナリ左岸淀大橋ヨリ木津川落合附近大池樋門迄ノ築堤ハ本年度ニ竣功シ土量十一萬四千餘立米ヲ要セリ目下上流小段以上ノ築造ヲ進メツツアリ

右岸淀町地先大橋上流築堤ハ向島第一掘鑿土砂ヲ使用シ略ボ竣功ス同橋下流ハ今後三川合流工事ノ掘鑿土砂ヲ利用シ築造ノ豫定ナリ美豆村地先左岸淀大橋ヨリ下流大池惡水路ニ接近セル區域ノ堤防裏法先石張延長一千六百九十一米ハ工費一萬三千餘圓ニシテ本年度ニ竣功ス

三川合流方面ニ在テハ綴喜郡八幡町地内淀川本流筋左岸築堤護岸及木津川筋兩岸築堤ハ前年度迄ニ竣功ス此築立土量二十七萬五千立米工費十三萬六千餘圓、護岸延長一千九百米此工費三萬三千餘圓ヲ要セリ而シテ三川合流附換ノ爲メ必要ナル木津、宇治隔流堤、宇治桂背割堤、宇治川及桂川低水路掘鑿、山崎引堤等ノ諸工事ノ内桂川低水路掘鑿ハ大正十四年十月著工シ諸準備ヲ終ヘ工事ヲ進メツツアリ他ハ同十五年年度始ヨリ著手ノ豫定ナリ

北河内郡樟葉村、牧野村、三島郡島本村、五領村方面ニ在テハ樟葉府界附近電車併行箇所ヲ除ク、五領(前島)ヲ除ク、堤防ハ何レモ大正十二年度迄ニ計畫馬踏高迄ノ嵩置腹付ヲ完了シ、前者ハ約三十萬立米、後者ハ約二十四萬立米ノ土量ヲ要セリ。前島堤防ハ小段築造ヲ前年度ニ略ボ終リ、本年度ハ土工機械ノ都合ニ依リ之ヲ中止セリ。

右岸島本堤防(水無瀬川右岸及下流)土量約十七萬六千立米、穗谷堤防土量約五萬四千立米ハ築立竣功シ、左岸牧野堤防、船橋、天ノ川、堤防ハ略全土量ヲ運搬セリ。

樟葉村地先中島及洪水敷掘鑿ハ前年度ニ完了セリ。中島ハ人力ニ依リ十八萬七千餘立米工費十萬四千餘圓、洪水敷ハ主トシテ掘鑿機ニ依リ三十四萬七千餘立米工費八萬四千餘圓ヲ要セリ。

牧野村地先中島及洪水敷掘鑿ハ本年度ヲ以テ略完了シ、掘鑿機ハ五領村地先ニ移轉ノ豫定ニシテ、同地先中島及洪水敷ノ一部ハ主トシテ人力掘鑿機械運搬トシ、他ハ掘鑿機ニ依レリ。總土量六十三萬一千餘立米工費十五萬三千餘圓、内機械掘鑿土量ハ四十六萬三千餘立米工費九萬七千餘圓ナリ。

右岸島本村地先洪水敷掘鑿(水無瀬川下流)ハ本年ニ於テ竣功ス、即チ人力運搬ハ機械ヲ以テシ、土量十七萬三千餘立米工費六萬三千餘圓ニシテ、内本年度ニ於ケル土量ハ約六千立米工費二千圓ヲ要セリ。

五領村大字上牧護岸延長四百五十五米ハ十一年度ニ竣功ス、同村前島護岸延長一千七百米ハ略竣功シ、本年度迄ノ工費約十一萬三千圓ヲ要セリ、之ヲ以テ此方面ノ主要護岸ヲ終了ス。

北河内郡枚方町、三島郡大冠村、三箇牧村方面ハ水防上重要區域ナルヲ以テ、大正八年著工以來極力築堤土工ノ進行ヲ急ギ、表小段上零米九迄ノ腹付ハ既ニ同十年度迄ニ大體終了セリ、同十年九月ノ出水ハ枚方標最高五米四十四糎ヲ示シ、同六年ノ洪水ニ比シ僅カニ十二糎下位ニシテ、馬踏以下一米ニ達スル大出水ナ

リシモ水防上危険ト認ムル事故ヲ見ズシテ濟ミタリ此レ殆ンド前例ニ無キ事實ニシテ増補腹付工事ノ效果ト認ムルヲ得ベシ

其後機械鑿掘土砂ヲ利用シ計畫馬踏高迄ノ嵩置腹付ヲ施工シ左岸枚方町當改修事務所以下同郡蹉跎、友呂岐兩村ノ各堤防土量約四十萬立米、右岸三島郡大冠、三箇牧兩村ノ堤防土量約六十萬立米ノ築堤ヲ完了セリ本年度ニ於テハ枚方町地先(當改修事務所ヲ除ク)小段上腹付ハ土工ヲ終ヘ支川檜尾川右岸芥川樋門箇所以外ノ堤防ハ竣功セリ檜尾川左岸及天ノ川、唐崎堤防ハ目下腹付工事中ニシテ同十五年度ニ竣功ノ豫定ナリ。蹉跎村、友呂岐村、大冠村及三箇牧村地先ニ於ケル洪水敷又ハ中島掘鑿ハ主トシテ機械ニ依リ大正九年度以降施工中ノ處同十三年度ニ略終了シ本年度ニ至リ大冠村地先洪水敷掘鑿殘土ノ掘鑿完了ト共ニ竣功ヲ見ルニ至レリ

此掘鑿總土量百三十六萬四千餘立米、工費三十八萬七千餘圓ヲ要シタリ此内蹉跎掘鑿ハ土量四十萬八千餘立米工費約十萬四千圓、友呂岐掘鑿ハ土量約十五萬四千立米工費四萬九千圓、大冠掘鑿ハ土量五十四萬一千餘立米工費十六萬一千餘圓、三箇牧掘鑿ハ土量二十六萬一千立米工費七萬三千餘圓ナリ

護岸ノ主ナルモノハ既ニ大正十二年度迄ニ竣功ス此總延長七千五百三十七米工費二十三萬九千餘圓ヲ要セリ此内枚方護岸ハ一千九百十八米工費五萬一千三百餘圓蹉跎護岸ハ五百五十三米工費一萬四千七百餘圓、友呂岐護岸ハ百二十七米工費五千二百餘圓、大冠護岸ハ一千五百十四米工費一萬八千七百餘圓、三箇牧護岸ハ三千四百二十五米工費十四萬九千餘圓ナリ

北河内郡庭窪村大字佐太及三島郡烏飼村方面モ枚方方面ト同様急速腹付施工ノ必要アルヲ以テ表小段零米九高迄ハ大正十一年度迄ニ略全區域ニ互リ施工ヲ終リ其後機械掘鑿土砂ヲ使用シテ小段上全堤防

ヲ築造セリ

左岸九箇庄村堤防ハ大正十二年度迄ニ約二十二萬二千立米、庭窪堤防ハ同十三年度迄ニ約四十四萬立米ノ築立ヲ爲シ兩村共堤防全部ノ築造ヲ終了セリ

右岸鳥飼及味生(共ニ三島郡)堤防ハ本年度ヲ以テ竣功セリ前者ハ土量三十五萬二千餘立米、後者ハ十萬三千餘立米ナリ九箇庄村地先中洲掘鑿ハ機械及人力ニ依リ鋤取り前年度ニ於テ完了セリ此土量約十六萬六千立米工費四萬一千七百餘圓ナリ

鳥飼村土地先中洲掘鑿ハ本年度ニ於テ竣功ス工法ハ前者ニ等シク土量十一萬五千餘立米工費四萬二千百餘圓ヲ要セリ

護岸ハ何レモ大正十二年度迄ニ竣功セリ其總延長九千五百七十米工費三十八萬四千餘圓ニシテ此内左岸九箇庄護岸ハ延長三千三百四十五米工費十萬四千餘圓、左岸庭窪護岸ハ延長二千四百四十五米工費十四萬一千餘圓、右岸鳥飼護岸ハ延長三千七百八十米工費十三萬九千餘圓ナリ

北河内郡守口町及西成郡大道、豐里兩村方面トシテハ左岸豐里村大字橋寺及三島郡城北町大字赤川間ノ築堤及右岸大道築堤ハ本年度ニ於テ竣功ス前者ハ土量二十六萬五千餘立米、後者ハ六萬七千餘立米ヲ要シ豐里築堤ハ土量二十四萬餘立米ノ土運搬ヲ完了セリ豐里村地先堤防裏法先用水路ニ接近セル區域ノ石張延長一千七百二十七米ハ大正十二年度竣功シ工費三萬六千餘圓ヲ要シ大道村大字辻堂地先護岸延長二百九十八米及同所堤防裏法尻石張延長六百四十九米ハ本年度ニ於テ竣功ス前者ハ工費七千九百餘圓、後者ハ工費一萬五千七百餘圓ヲ要セリ

三島郡城北町及同町大字毛馬、西成郡西中島村大字柴島方面ニ在テハ城北築堤ハ前年度ニ著手シ本年度

ニ土砂運搬ヲ完了ス土量六萬七千餘立米ナリ柴島築堤ハ前年度ニ土量二萬四千餘立米、本年度ニ七萬四千餘立米ヲ運搬シ功程約九割ニ達ス

柴島護岸延長五百五十四米ハ本年十一月著手シ功程約三割ニシテ目下極力施行中ナリ

西成郡豐崎町、中津町、西中島村方面ニ於ケル堤防ノ嵩置腹付及長柄護岸ハ大正十五年度ヨリ開始ノ豫定ナリ

西成郡傳法町及稗島村方面ニ在テハ新淀川左岸下リ省線鐵道橋ヨリ傳法閘門ニ至ル堤防嵩置腹付ハ本年度著手シ其功程六割強ニ達ス又右岸稗島堤防ハ大正十五年度開始ノ豫定トス

附帶工事トシテ施行セルハ築堤及掘鑿工事ニ伴ヒ用惡水ニ關スル工事及堤上工作物除却工事ニシテ起工以來本年度迄ノ竣功工費八十八萬七千餘圓(内國庫補助額五十二萬四千餘圓)施行場所二十五箇所ニシテ總附帶工事ノ約四割ニ當ル其内本年度竣功工費ハ三十五萬二千餘圓(内國庫補助額十八萬六千餘圓)施行場所九箇所ナリ

目下施工中ノモノハ前年度ヨリ繼續セル京都市營疏水放水路工事及大冠村芥川伏越樋、樟葉村船橋川、伏越樋改築工事ナリ而シテ前者ハ伏見締切堤防新築ノ爲メ疏水流末處分上必要ト成レルモノニシテ工費豫算五十六萬圓ヲ要シ功程約九割ニ及ビ後二者ハ何レモ支川堤防嵩置ノ爲メ改築ヲ要スルモノニシテ芥川伏越樋ハ工費豫算十六萬一千餘圓ヲ要シ改築樋ハ殆ンド竣功シ舊樋掘取ヲ殘スノミニシテ船橋川伏越樋ハ工費豫算五萬二千二百圓ヲ要シ埋戻築立ノ一部ヲ殘シ他ハ總テ竣功セリ而シテ尙今後起工ヲ要スルモノ約四十箇所アリ

土地買收ハ起工以來本年度迄ノ用地費支出總額ハ百七十二萬三千餘圓ニシテ其内耕地ハ三百二十七町

一段餘價額百三十七萬六千餘圓、宅地工場敷地ハ二町七段餘價額八萬三千二百餘圓、雜種地六十七町一段餘價額十萬三千三百餘圓、地上物件移轉費補償費等十六萬一千二百餘圓ニシテ豫定總額ノ九割餘ニ當リ何レモ圓滿ニ各所有者ノ應諾ヲ得タルモノナリ

以上ノ内本年度ノ支出額ハ八萬六千餘圓ニシテ其主ナルモノハ三川合流附換ノ爲メ必要ナル山崎及大山崎計畫引堤々敷ナリ

以上工事狀況ヲ綜合スルニ築堤、掘鑿、護岸工事ニ就テハ京都方面ニ於テハ宇治川筋功程過半ニ達シ高瀬川筋三川合流工事、毛馬以下新淀川筋ハ漸ク其ノ緒ニ就クヲ得タリ大阪府下毛馬以上府界迄ハ柴島及前島堤防ヲ築キ略竣功セリ附帶工事ハ功程本工事ニ及バザルコト遠ク用地買收ハ既ニ大部分ヲ完了シ剩ス所僅少トナレリ

淀川増補工事ノ本年度竣功額百二十二萬一千六百三十六圓ニシテ起工以來ノ累計九百六十一萬五千四百四十四圓ナリ之ヲ總工費豫算一千二百一萬三千五十一圓ニ比較スレバ八割ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「*」ハ貫土々量ヲ示ス又「○」ハ管理者負擔額「□」ハ無償品見積額「■」ハ寄附物品評價額ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	* 二、五八〇、二六三 二、五三三、一九七	一、六〇三、三一〇 一、八六九、〇〇〇	* 四三九、〇五五 四七、六八四	三二六、二五五 一、三九二、九五	* 三、〇〇九、二一八 三、〇〇三、八八一	一、九二九、五六五 二、二九、五六五 一、三九六、六六	〇七六
掘鑿費	二、九三九、八九〇	九〇四、六五五 二、四三九、四五一	六七一、二六三	二一五、七二五 一〇、八三二、五五	三、六一一、一五三	一、二〇、五八〇 一、三三、二八六 一、三三、二八六	〇七〇
本							

總計	施行中諸費	船舶及機械費	用地費	附帶工事費補助	特種工事費		護岸制水費	工浚費
					箇所	米		
					箇所 四	米 二六、九六一		四、二四五
八、三九三、八〇八	〇	一、九七〇、八一	一、六三七、五五八	一六	〇	八四、〇三七	一、〇〇五、〇五六	一、一八〇
一三、二七三	〇	八四九、一〇七	一、三三、二七三	三、八四四	〇	〇	二、三、四四一	〇
二、四七五	〇	五四七	〇	〇	〇	〇	〇	〇
					箇所 二	米 三、八一四		
一、二二一、六三六	〇	一〇三、六四〇	八六、二八七	二六	〇	七〇、九五九	九三、七九三	
一六〇、五、一五五	〇	一三八、六一九	六〇、八九四	五	〇	一六、七	一六二、五	
二、三八四	〇	三〇	〇	〇	〇	〇	〇	
					箇所 二	米 三、七七五		
九、六一五、四四四	〇	二、〇七四、四五一	一、七二三、八四五	二二	〇	一五四、九九六	一、〇九八、八四九	一、一八〇
一九二、一六六	〇	九八七、七七六	一九二、一六七	〇	〇	一六七	二四、〇六六	〇
四、八三五	〇	五七六	〇	〇	〇	〇	一三六	〇
〇・八〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

第一三 千曲川改修工事

（新潟土木出張所）

緒言

本川ハ長野縣下ニ於ケル唯一ノ大河ニシテ流域ノ廣大ナルト共ニ其水害モ亦甚大ナルニ依リ改修ノ必要ヲ認メ大正七年度ヨリ同十六年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算八百五十萬圓（内長野縣負擔額四百二十五萬圓）ヲ以テ起工セシニ時局ノ影響ヲ受ケ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年四月三百三十二萬九千圓（内長野縣負擔額五十二萬一千五百圓）ノ増額認可ヲ受クルト同時ニ施行期限ヲ大正二十年度迄繰延ベラレシニ同年九月一日關東大震災突發ノ爲メ同年十一月ニ至リ更ニ五箇年度ヲ延長シ大正二十五年ニ竣功セシムルノ豫定トシ總工費豫算一千二百十萬四千圓ヲ以テ幹流ニ在テハ左岸小縣郡城下村、右岸同郡神川村以下下水内郡太田村ニ至ル十三村支流犀川ニ在テハ右岸更級郡共和村以下幹川合流點ニ至ル十村以上總延長七十九村ノ間ニ對シ河身ノ改修ヲ爲シ以テ洪水ノ害ヲ防禦セントスルニ在リ

河狀並計畫ノ大要

本川ハ流路延長一千五百九十一村（内幹川二百村）流域面積七千七百十方村、平地面積一千三十三方村ニシテ灌溉段別五萬七百七十四町步ナリ而シテ改修區域内ニ於ケル水害區域一萬五千九百九十三町步、水害損失價額一箇年平均百十八萬六千七百五十八圓（明治三十九年ヨリ大正九年ニ至ル十五箇年間）ナリトス
本川改修ノ目的ハ主トシテ沿岸地籍ノ洪水防禦ニ在テ被害激甚ナル地方ノ無堤部ニ堤防ヲ築造シ有堤

部ニ在テモ亦其構造薄弱ナル箇所ハ之ヲ増築シ以テ堤内地ノ安全ヲ計ラントス即チ改修区域内下高井郡立ケ花橋以下下水内郡秋津村大字蓮ニ至ル狭窄部ヲ除キ河積足ラザル所ハ之ヲ掘鑿シ常ニ汎濫スル箇所ハ堤防ヲ築キ以テ河狀ヲ整理スルト同時ニ舊堤ハ努メテ之ヲ利用シ洪水ノ疏通及惡水ノ排除ニ遺憾ナキヲ期セリ

流量ハ主トシテ明治四十三年及大正三年ニ於ケル高水位ニ據リ調査考究ノ末千曲犀合流點迄ハ兩川共各一秒時二千七百八十三立米トシ合流點以下ノ幹川ヲ五千五百六十五立米ト定メタルモ元來河狀著シク不規則ニシテ且屈曲甚シク霞堤ノ箇所斷續シ到底河幅ノ整一ヲ期シ難キヲ以テ大體次ノ如ク整理スルモノトス

上田附近	二一八 ^米	犀川合流點以下	九〇九 ^米
鼠附附近	三六四	飯山	九八一
稻荷山附近	四一八	犀川	五四五
稻荷山附近以下犀川合流點迄	四九一		

築堤ハ馬踏七米二兩法ヲ各二割トシ其頂天ヲ計畫高水位以上一米五トシ成ルベク舊堤ヲ利用ノ上嵩置腹付ヲ施シ尙其安全ヲ期スル爲メ裏法ニ小段ヲ設ク堤高三米六乃至四米五ハ小段幅二米七(堤頂以下二米七)堤高四米五乃至五米五ハ小段幅四米五堤高五米五堤上ハ小段幅七米二トス而シテ築堤ノ總延長ハ百三十九軒、土量ハ五百七十八萬九千九百三十二立米ナリトス

掘鑿トシテハ本川ハ著シキ箇所無キガ爲メ悉ク人力掘トシ輕運車ニ依リ大部分築堤敷ニ運搬投棄スルモノニシテ其總土量九十六萬一千百五十四立米ナリ

護岸ハ堤腹ニ通常筋芝ヲ施行スト雖モ法面直接河水ニ接觸スル所若クハ其侵害ヲ被ルノ虞アル箇所ニハ石張ヲ施行ス石張ハ大體ニ於テ高水位ニ達セシムルモノナレドモ流勢緩舒タル箇所ニ在テハ其高ニ多小ノ斟酌ヲ加フルモノトス又流勢竝河狀ニ照ラシテ木工沈床、金網蛇籠、方枋留等ノ根固工事ヲ施行シ或ハ杭柵、聖枋等ノ制水工事ヲ添加スルモノトス

特種工事ハ支川蛭川、赤野田川、百々川、淺川、篠ノ井川、樽川、其他小支流ニハ幅一米八乃至二十一米八ノ水閘ヲ設ケ洪水ノ際ニハ門扉ニ依リ逆流ヲ防止スルモノトス其數二十七箇所ヲ算ス

附帶工事ハ用惡水路ノ水門（幅零米九乃至五米五ノモノ）六十六箇所ト其他水路及道路橋梁ノ附替等ヲ施行スルモノアリ内道路三十五路線、橋梁五箇所ナリトス

施行狀況

本工事ハ大正七年度ノ創業ニシテ直ニ施工準備ニ著手シ八年二月ニ入り土地買収ヲ初メ其進捗ニ從ヒ千曲、犀兩河ノ左右兩岸ニ築堤、護岸、水門、制水等ノ諸工事ヲ施行シツツ現今ニ至レリ而シテ本年度ニ於テハ前年度ヨリ引續キ施行ノ五十箇所及新ニ著手セシ六箇所、計五十六箇所ヲ實施シ築堤二箇所、護岸三箇所、採石一箇所及附帶工事トシテ暗梁二箇所、道路附替一箇所、計九箇所ノ竣功ヲ見タリ其内築堤、護岸ニ力ヲ注ギ人力及馬力ヲ併用シ輕運車ニ依リ工事ノ進展ニ努メシモ出役者ハ沿岸住民ニシテ農蠶業ヲ營ミ其餘暇ヲ求メテ出役スルモノ多シ故ニ夏季ニ不足ヲ告ゲ冬季農閑ニ際シ増加ヲ招致シ築堤三十二萬二千五百四十九立米、護岸延長八百六十米ヲ竣ヘリ今其施行ノ概要ヲ左ニ記述スベシ

築堤工事ハ前年度ヨリ繼續セル二十七箇所ト新タニ著手ノ一箇所トノ二十八箇所ノ工事ヲ實施シ内三

箇所ヲ竣功セリ而シテ築立ニハ根掘土ヲ利用スルノ外舊堤及堤外地ヨリ採土シ運搬ニハ人力又ハ馬力等ニ依リ輕運車策等ヲ用ヒテ三十二萬二千五百四十九立米ノ築立ヲ了セリ

護岸工事ハ前年度ヨリ繼續セル八箇所ト新タニ著手ノ一箇所トノ九箇所ヲ實施シ内四箇所ヲ完成ス本工事ハ主トシテ石張木工沈床竝捨石工ヲ施設シ延長八百六十米ノ竣功ヲ見タリ

制水工事ハ前年度ヨリ繼續セル一箇所ニシテ殆ンド竣功ノ域ニ達セシモ河狀ノ變遷ニ鑑ミ一部ノ補修工事ヲ施シタルニ過ギズ

水門工事ハ前年度ヨリ繼續セル篠ノ井川、生仁川水門ノ二箇所ト新ニ著手セル蛭川水門ノ三箇所ニシテ篠ノ井、生仁川ノ兩水門ハ前年度中ニ基礎混凝土工ノ大部分ヲ了シタリシモ尙ホ引續キ生仁川水門ハ手煉篠ノ井川水門ハ電動機付キウブ式混合機ヲ用ヒ混凝土工ノ殘工事ヲ實施ス蛭川水門ハ工事著手以來日淺ク僅ニ掘鑿ノ一部ヲ施行シタリシモ涌水甚シク石油發動機及電動機ニ因ル渦卷ポンプヲ使用シ専ラ排水ニ努メタリ又基礎杭打ニハ人力竝動力杭打器ヲ併用シタリシモ未ダ工程ノ記スベキ運ビニ至ラザリキ

採石工事ハ前記諸工事ニ使用スル石材ヲ人力ニ依リ採取シ假置場迄輕運車ヲ用ヒ運搬ノ上使用各地ヘ荷馬車ニ依リ運搬配給スルモノニシテ二千三百六十八立米餘ノ石材ヲ斫出シ三千七百四十立米餘ヲ夫々搬出セリ

土地買收ハ前年度ヨリ引續キ改修工事區域内ニ屬スル上田市外十五箇町村内ノ堤敷及堤外地買收並地上物件ノ移轉ヲ實施ス右ハ何レモ土地收用法ニ依ラズシテ協議ヲ以テ施行シ八千二百五十圓餘ヲ支出セリ此外堤外地ニ於ケル補償料トシテ支拂ヘルモノ一千五百餘圓アリ

機械工場ハ工所用諸機械ノ修理製作ニシテ規模大ナルモノハ信濃川河口機械工場ニ依囑シ他ハ附近ノ民間ニ請負ハシメタリ

附帶工事トシテ施行セルモノハ次ノ如シ

若宮水門工事ハ前年度ニ於テ竣功シ本年六月二十九日管理者更級村長へ引渡セリ

鯨澤堰第一次暗渠工事モ亦前年度ニ於テ完成シ本年十月十六日管理者小島田村長へ引渡セリ

小山堰第二次暗渠工事モ前年度ニ於テ完了セシモ本年度内ニ管理者青木島村長へ引渡スノ運ビニ至ラザリキ

鹽尻用水取入口水門工事ハ前年度ニ竣功セシモ本年度内ニ管理者鹽尻村長へ引渡スノ運ビニ至ラザリキ

竹原堰暗渠工事ハ大正十三年三月十一日著手シ目下工事中ニ屬セリ

内川用水取入口水門工事ハ前年度ニ竣功シ本年六月三十日管理者五加村長へ引渡セリ

下堰第一次暗渠工事ハ大正十三年五月六日著手シ本年六月十六日竣功セシモ本年度内ニ管理者御厨村長へ引渡ヲ爲スノ運ビニ至ラザリキ

北岡堰暗渠工事ハ前年度末ニ竣功セシモ本年度内ニ管理者長野市長へ引渡ヲ爲スノ運ビニ至ラザリキ
屋代水門工事ハ前年度ニ完成セシモ是亦本年度内ニ管理者屋代町長へ引渡ヲ爲スノ運ビニ至ラザリキ
三箇用水ノ水門工事ハ前年度ヨリ引續キ施工中ノ處本年八月二十一日完成セシモ本年度内ニ管理者五加村長へ引渡スノ運ビニ至ラザリキ

堀川堰用水路暗渠工事ハ管理者大豆島村長ノ申請ニ屬シ同村地内ニ於テ現在水路ノ一部新堤ニ遮斷セ

ラルルニ依リ之ガ排水上鐵筋混凝土工管ヲ新設スルモノニシテ其工費八千五百五十一圓(内國庫補助五千四百三十四圓)ヲ以テ本年八月十七日直接施行ノ命ヲ受ケ十月一日著手シ目下施工中ナリ

中島排水暗渠工事ハ管理者常盤村長ノ申請ニ屬シ同村小沼地内ニ於ケル現在水路ノ一部新堤ノ爲メ遮斷セラレ排水ノ途無キニ至リ止ムナク鐵筋混凝土暗渠ヲ築造スルモノニシテ本年十月二十六日工費一千五百圓(内國庫補助一千圓)ヲ以テ直接施行ノ命ヲ受ケシモ年度内ニ著手スルニ至ラズ

本田堰排水暗渠工事ハ管理者同堰總代海沼俊次郎ノ申請ニ屬シ西寺尾村地内ニ於ケル現在水路ノ一部新堤ニ遮斷セラレ排水ノ途ナキニ依リ鐵筋混凝土暗渠ヲ築造スルモノニシテ本年十月二十七日工費一千八百四十九圓三十七錢(内國庫補助一千二百三十二圓)ヲ以テ直接施行ノ命ヲ受ケシモ年度内ニ著手スルノ運ビニ至ラザリキ

四ヶ郷堰清水水路附替工事ハ管理者大豆島村長ノ申請ニ屬シ同村地内ニ於ケル現在水路ノ一部新堤ニ依リ切斷セラレ排水ノ途ナキニ依リ新堤内側ニ沿ヒ水路ノ附替ヲ爲スト同時ニ本用水ノ派川河原用水モ亦其流末ニ於テ同一ノ運命ニ陥リシニ依リ新樋管ヲ設置セズ流末ヲ清水用水路ニ接續セシムルモノニシテ本年十一月十日工費一千九百九十八圓(内國庫補助一千三百十二圓)ヲ以テ直接施行ノ命ヲ受ケシモ是亦年度内ニ著手スルニ至ラザリキ

下堰第二次暗渠新設工事ハ管理者御厨村長ノ申請ニ屬シ東福寺及西寺尾兩村地内ニ於ケル現在ノ排水路ハ新堤ニ依リ切斷サレ排水ノ途無キ爲メ止ムナク鐵筋混凝土暗渠ヲ築造スルモノニシテ本年二月十八日工費二萬三千八百四十五圓九十九錢(内國庫補助一萬五千八百九十七圓)ヲ以テ直接施行ノ命ヲ受ケシモ年度内ニ著手スルヲ得ザリキ

川原堰暗渠工事ハ管理者五加村長ノ申請ニ屬シ同村地内ニ於ケル現在ノ排水路ハ新堤ニ遮斷セラレ排水不能トナリシニ依リ鐵筋混凝土暗渠ヲ新設スルモノニシテ大正十五年三月二日工費二千二百六十圓(内國庫補助一千五百六圓)ヲ以テ直接施行ノ命ヲ受ケシモ年度内ニ著手スルニ至ラザリキ

國道十號路線(更級郡屋代町地内)府縣道眞島綿内線(同郡眞島村地内)市道小牧御所線(上田市內)ノ各工事ハ前年度ニ竣功シ國道及府縣道ハ本年六月二十八日、八月五日兩日ニ於テ管理者長野縣知事へ又市道ハ本年七月二十七日管理者上田市長へ何レモ引渡セリ

府縣道屋代、松代線、埴科郡清野村、雨宮縣村、府縣道松代、篠ノ井停車場線(更級郡東福寺村)、府縣道長野、松代線(同郡西寺尾村、千曲川左岸)ノ三工事ハ前年度ヨリ引續キ施行シ一箇所府縣道長野、松代線(西寺尾村、千曲川左岸)ハ本年十二月十五日竣功セシモ年度内ニ管理者へ引渡スノ運ビニ至ラズ他ハ目下施行中ナリ

府縣道長野、松代線、西寺尾村、千曲川右岸(工事ハ前年度ニ於テ直接施行ノ認可ヲ得本年十月一日ヨリ工事ニ著手シ目下施行中ナリ)又國道十號路線(上水内郡鳥居村地内)及府縣道神郷、小布施線(上高井郡小布施村地内)各一部附替工事ハ何レモ工事ノ都合ニ依リ尙未著手ニ屬セリ

本年度ニ於ケル本川改修工事竣功額ハ三十二萬四千九百四十二圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ五百九十萬三千四百五十五圓ナリ之ヲ總工費豫算一千二百十萬四千圓ニ比スレバ約五割ノ竣功ナリ今其工事竣功表ヲ示セバ左ノ如シ但シ退職手當九百七圓ハ本表竣功高ニ之ヲ含マズ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
(築堤費)	二、六五二、一八六 <small>粒</small>	一、六四六、四六三 <small>円</small>	三二八、八一二 <small>粒</small>	一六二、五九七 <small>円</small>	二、九八〇、九九八 <small>粒</small>	一、八〇九、〇六〇 <small>円</small>	〇・五一 <small>割分</small>

總計	本工事水門費	護岸制水費	附帶工事費	採石費	運搬費	用地費	船舶及機械費	施行中諸費
	三							
五、五七八、五一三	八九、七三二	三五〇、七三八	七八、〇七四	四〇八、七六九	四七、一五八	一、六五四、四六三	五七一、二六四	七三一、八五二
三二四、九四二	三八、八三三	一三、三六六	一一、〇五五	七、三六五	八、〇六七	八、二五一	一三、七二一	六一、六八七
	三							
五、九〇三、四五五	一二八、五六五	三六四、一〇四	八九、一二九	四一六、一三四	五五、二二五	一、六六二、七一四	五八四、九八五	七九三、五三九
〇・五〇	〇・二一							

第一四 加古川改修工事

（大阪土木出張所）

緒言

本工事ハ當初大正七年度ヨリ同十六年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算四百八十五萬圓（内兵庫縣負擔百五十四萬六千圓）ナリシガ物價騰貴ノ爲メ大正十二年四月三百萬圓ヲ増額シ總額七百八十五萬圓トシ同十九年度迄延期セラレシガ同年九月一日ノ關東大震災ノ影響ニ因リ更ニ二十二年迄延長施行ノ事トナレリ其區域ハ左岸兵庫縣加東郡市場村、右岸同縣同郡來住村以下海ニ至ル間ニシテ左岸ハ一六籽六、右岸ハ一七籽二ナリ

河狀並計畫ノ大要

加古川ハ流域面積一千八百六十六方籽、流路延長八百四十四籽（内幹川九十二籽）航路延長九十籽（内幹川七十五籽）灌溉段別百十九方籽（内幹川四十六方籽）ヲ有スル河川ニシテ一名印南川又氷河ト稱ス其源ヲ兵庫縣氷上郡神樂村大字稻土栗鹿山ニ發ス氷上郡内ニ在リテハ神樂川又佐治川ト稱シ、丹波、播磨ノ國界ニ至リテ篠山川ト合シ初テ大河トナリ南流シテ多可郡ニ入り幾多ノ支川ヲ合シテ國包ニ至リ加古川ト稱ス夫ヨリ山陽線加古川驛ノ西南ニ於テ東西二派ニ岐レ其幹流ハ加古郡高砂町ト尾上村トノ間ニ於テ海ニ入リ派流ハ高砂ヲ抱圍シテ同郡荒井村ノ西ニ於テ海ニ注グ由來本川ハ大河ト云フニ非ラザルモ下流部ハ播州ノ沃野ヲ横斷シテ古來灌溉ノ利ト運輸ノ便トニ因リテ流域内文化ノ開發ニ貢獻スル處多ク實ニ

中國重要河川ノ一ナリ然レドモ本川ハ地勢上勾配急峻ナルノミナラズ比年上流ノ土砂流出シテ漸次河床ヲ高メ一朝洪水ニ際會セバ河水忽チ漲溢シ沿岸ノ被害甚シク明治四十年ノ水害ノ如キハ浸水耕地百八十一方籽損失價額百萬六千六百六十六圓ニ上レリト云フ(大正十年ニモ百一萬八百二十五圓ノ損害アリ)而シテ是等大洪水ハ凡四年目毎ニ發生シ小水害ニ至リテハ殆ント枚舉ニ違アラザル状態ナレバ全川ヲ通ジテ洪水防禦ノ必要ヲ感ズルコト切ナレドモ上流ハ被害區域比較的狹ク損害ノ程度モ亦尠ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ先ヅ下流水害ノ最モ顯著ナル部分約十七籽七ノ間ヲ限リ改修工事ヲ施スコトト爲シ左支美囊川合流點附近河積ノ充分ナラザル所ハ河幅ヲ擴メ或ハ河底ヲ掘リ下ゲ又同所以下加古川町ニ至ル間ハ在來ノ堤防中利用シ得ベキモノハ努メテ之ヲ利用スル方針ノ下ニ河狀ヲ整理シ以テ必要ナル河積ヲ與ヘ又無堤ノ箇所ニハ新堤ヲ築造シテ高水量四千四百五十立米ヲ快流セシムルヲ程度トシ尙堤防ハ高水以上堤頂迄ニ餘裕ヲ一米五ト定メタリ

本川ハ加古郡加古川町ノ下ニ於テ東西ニ分派スレドモ派川洗川ノ方ハ維持上ノ必要ニ依リ之ヲ締切リテ只平水量ノミヲ通ズルニ止メ幹川ノ方ハ河積充分ナラザルヲ以テ河幅ヲ擴メ尙感潮部ハ河底ヲ浚深スルコトトス又河口ニ於ケル高砂港ハ從來非常出水ノ場合ニハ必ズ浸水ヲ免カレザリシヲ以テ同町ノ堀川ハ新堤ヲ以テ之ヲ本川ト隔離シ其上端ニハ樋門ヲ設ケ平時ハ通水通船ノ用ニ供シ洪水ノ際ニハ之ヲ閉鎖シ以テ高砂町ヲシテ全然洪水ノ患害ヲ免カレシムルモノトス

河幅ハ在來ノ堤防位置極メテ不整正ナレドモ河積不足ノ爲メニ己ムヲ得ザル場合ノ外ハ努テ之ヲ利用スル方針ノ下ニ法線ヲ定メタルヲ以テ改修計畫ニ於テモ亦河幅ノ廣狹一樣ナラズ即チ改修區域ノ上端(左岸加東郡市場村、右岸同郡來住村間)ニ於テハ三百二十七米ニシテ夫ヨリ下一縮一張シテ左岸加古郡加

古川町右岸印南郡米田村間ニ於テハ四百九米トナリ特ニ加古川町以下ハ從來兩派ニ分流シタル高水量ヲ一川ニ併合スルコトトナリタルガ爲メ勢ヒ廣大ナル河幅ヲ要スルヲ以テ河口(左岸加古郡尾上村、右岸同郡高砂町間)ニ於テ六百二十四米ト定メタリ

堤防ハ全川左右岸共馬踏七米二、表二割、裏二割五分トシ堤天ヲ計畫高水位上一米五ノ高ニ在ラシム只洗川締切ノ箇所ニ限り堤裏ニ於テ堤頂ヨリ一米五ヲ下リテ幅三米六ノ小段ヲ附シ小段以下ノ法ヲ三割ト爲サントス而シテ是等築堤用土ハ全部掘鑿土ト舊堤土トヲ充用スルノ方針ナリ又堤防法先ハ全川ニ互リ張石工ヲ施シ堤天ハ礫ヲ散布シテ路面ヲ形成シ堤腹ニハ適宜張芝若クハ筋芝ヲ施スモノトス左ニ堤防ノ延長及土量等ヲ表示ス

種別	區	域	延長	土	坪	張	石	張石平均法高	芝	付	地盤上平均高
左岸	海口ヨリ	一六・六 <small>米</small>	一六、二三〇	九二九、八二〇	一一一、一五〇	七・四	二三九、六六〇	七・四	二二二、三三四〇	三・六	
右岸	同	一四・〇	一四、三九〇	〇三三、七一一〇	一一〇、一五〇	七・六	二二二、三三四〇	七・六	二二二、三三四〇	四・六	
總計			三〇、六二〇	一、〇六三、五三〇	二二一、三〇〇	七・五	四六二、八〇〇	七・五	四六二、八〇〇	四・四	

掘鑿土量ハ左岸百七十三萬三千四百三十立米、右岸百八十八萬四千九百立米、合計三百六十一萬八千三百三十立米ニシテ掘鑿運搬ハ主トシテ人力及牛馬力ニ依ラントス而シテ掘鑿土ノ内二百三萬一千五百五十立米ハ左右岸ノ築堤ニ充用シ殘餘ハ之ヲ捨土處分ニ委スルモノトス

浚深ハ主ニ下流部ニ於テ行フコトトセリ蓋シ洪水ノ疏通ヲシテ良好ナラシムルト同時ニ潮汐ノ昇騰ヲシテ容易ナラシメ將來舩船ヲシテ昇潮ノ際ニハ高砂堀川ニ通過セズシテ高砂鐵橋附近迄遡航スルノ便

ヲ得セシメ又退潮ノ際ニハ之ガ流勢ヲ利用シテ些少タリトモ河底維持ノ作用アラシメントスルニ在リ而シテ浚渫ノ深ハ上端ニ於テ平均低水面以下約零米九トシ之ヨリ深ヲ増シ零町間ニ於テ二米二ト爲シ夫ヨリ中等潮位以下二米四ノ水深線ニ達シテ止ム此土量約百三十二萬立米ニシテ内十三萬立米ハ人力ニ依リ百十九萬立米ハ浚渫船ニ依リテ掘上ゲ甲ハ堤内ニ捨土シ乙ハ海上ニ投棄スルモノトス堤腹ニハ總テ堅固ナル張石ヲ施ス計畫ナレドモ更ニ堤法保護ノ爲メ流心ノ彎曲部堤防ノ低水路ニ接近セル處等水勢ノ激突スル箇所ニハ護岸工ヲ施スモノトス其延長一萬八千八百三十米ナリ流末二千百八十米間ヲ浚渫スル結果上流河床ノ低下ヲ來タシ既設工作物ニ影響スル處尠カラザルベキヲ慮リ浚渫區域ノ上端適當ノ位置ニ平水路ヲ横斷シ床固堰堤ヲ設ケテ河床ノ低下ヲ防止セントス現在ノ左岸堤防ハ海口ニ於テ急ニ喇叭狀ヲ成シ爲ニ退潮ノ流勢ヲ殺ギ土砂ノ沈澱ヲ誘致スル傾向アリ因テ本計畫ニ於テハ左岸堤防ヲ延長シテ右岸ノモノト略ボ同長ナラシメ其構造ハ根元四五米五ハ普通土堤ニシテ夫ヨリ堤端迄二百八十二米ノ間ハ全部張石堤トシ馬踏七米二、兩法二割堤面ハ高潮面上一米五ト定メ洪水ノ際モ常時ニ於テモ流水ヲシテ成ルベク海中ノ深處ニ射出セシメントス樋門ノ大ナルモノハ洗川高砂堀川ノ二樋門ニシテ甲ハ幅三米六高三米五、乙ハ幅三米六、高四米二トス附帶工事ノ主ナルモノハ播州鐵道株式會社ノ高砂鐵橋及相生、加古川、都染ノ三人道橋延長若クハ架換其他全區域内兩岸ノ用惡水樋門擴築若クハ改築又ハ同水路附換等ナリトス

施工狀況

加古川改修工事ハ大正七年度ノ著工ニシテ七八兩年度ハ主トシテ準備及測量トシ九、十兩年度ハ土地買

收用及工事ノ一部ヲ施行シ以後専ラ工事ヲ施シタリ本年度工事施行區域ハ前年度ニ引續キ右岸加古郡氷丘村及福野村地先ニシテ築堤工事ハ左岸曇川樋門及加古川橋詰ヲ除キ神野村地先ノ約半以下、右岸米田村地先ノ一部及荒井村以下ハ殆ンド成功セリ

掘鑿工ハ二百噸掘、八三噸掘、梯形掘鑿機各一臺、二十噸機關車一臺、五噸機關車二臺、三立米積木製土運車百七臺、一立米積鐵製土運車五十臺、零米六五積木製土運車七百四臺、零立米三積鐵製土運車五十臺ヲ使用シ人力及馬力ヲ併用シ左岸神野村地先以下殆ンド成功シ右岸米田村地先以下モ殆ンド成功シ東神吉村地先及平莊村地先ハ其約半ヲ成功セリ

浚渫工ハ前年度同様神戸土木出張所ニ於テ引續キ埋立土砂ノ必要上同所ニ代行セシメ護岸工ハ前年度ト同ジク工費年度割少額ノ爲メ止ムヲ得ザル箇所ノミニ止メタリ即チ左岸ハ八幡村中西條ニ在ル附帶工事五ヶ井樋門附近、右岸ハ荒井村地先及米田村地先ニ於テ小部分ヲ施工セリ

斯ノ如クニシテ本年度迄ニ築堤ハ全延長ノ約四割、掘鑿工ハ全土量ノ約六割九分、浚渫ハ全土量ノ四割、護岸工ハ全延長ノ約六割九分ノ成功ニシテ洪水防禦上大半ノ効ヲ奏セルモノナリ

特種工事ノ内高砂樋門ハ大正十三年度ニ竣功シ同十二年度ニ著手セシ洗川樋門ハ本年度竣功シ樋門上下洗川締切築堤モ殆ンド成功シ洗川沿岸ハ以後洪水ヲ免ルベク且右岸ノ惡水排除上大ナル利益アルモノナリ

附帶工事ハ神野村長管理迎野樋門及用水路附換（用地買收ハ除ク）氷丘村長管理五ヶ井樋門加古郡荒井村長、印南郡伊保村長管理ノ四ヶ井、二ヶ井合同用水路附換工事ニシテ施工中ニ在リ

本年度竣功高ノ主ナルモノヲ掲グレハ築堤二十六萬七千四百九十九立米此工費二萬三千二百七十二圓

掘鑿四十七萬一千二百三十五立米此工費十五萬八千五百九十五圓、護岸石張一千五十三米此工費一萬五千九百七十八圓等ナリ

本年度竣功高ハ二十九萬一千三百四十六圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ四百十四萬三百八十六圓ナリ之ヲ總工費七百八十五萬圓ニ比較スレバ約五割三分ノ竣工トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「*」ハ貫土々量ニシテ「□」ハ管理者負擔額「○」ハ無償品見積額「■」民間負擔額ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	* 七六、二八三	一、二二、八三一	* 二六、七四九	二、三三、二七三	* 一、〇二、〇三六	一、四六、一〇四	〇・四〇
	一、三三、五三七	八三七、九二七	四七、二三五	一五八、五九五	二、四四、六、四二五	九九六、五二二	〇・六九
掘鑿費	一、九七、五一〇	五、六七、七四			四八七、四四九	九、五、二八三	〇・四〇
	四八七、四四九	九、五、二八三			三、八三、九三三	一、〇〇、〇〇〇	〇・六九
浚深費							
護岸制水費	二、〇七、四	三、六七、九五五	一、〇五、三	一、五、九七八	一、三、二七	三、八三、九三三	〇・六九
	二	四、六	一	一、七七一	三	一、二、九一七	一・〇〇
特種工事費							
附帶工事費補助	一九	二、九、八〇八			一九	三、二、四七七	〇・五九
	段	七、三、四			段	三、五、九〇	〇・五九
用地費							
船舶及機械費	一、四八、九、三	一、一〇、三、九七	〇・一	三、三三	一、四八、九、四	一、一〇、一、四三〇	〇・六八
		六、七、九、五六四		三〇、二、八九		七〇、九、八五三	
施中諸費							
		二、三三、一、二九		三、九、七、三八		二、七、二、八六七	
總計		三、八、四、九、〇四〇		二、九、一、三、四六		四、一、四〇、三、八六	〇・五三
		五、六、七、七、四		二、八、六、六		三、五、九、〇	

第一五 岩木川改修工事

（仙臺土木出張所）

緒言

本工事ハ當初大正七年度ヨリ同十六年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業ニシテ總工費七百萬圓（内青森縣負擔額百八十三萬五千圓）ヲ以テ施行ノ豫定ナリシモ諸物價昇騰ノ爲メ既定豫算ノ範圍内ニテハ工事ノ遂行不可能ノ爲メ三百四十萬圓ヲ増額セラレ總工費一千四十萬圓トナレリ是レニ伴ヒ繼續年限モ時局ノ影響ヲ被リ更ニ大正二十五年迄繰延ベラルルニ至レリ其施行區域ハ幹川ハ左岸青森縣中津輕郡新和村大字種市、右岸同縣北津輕郡鶴田村大字大性以下十三湖迄此距離四拾四軒九支川十川ニ於テハ右岸同縣北津輕郡梅澤村以下新合流點迄此距離六軒八支川山田川ニ在テハ同縣西津輕郡館岡村大字菰槌下流約二十軒九ナリトス

河狀竝計畫ノ大要

本川ハ水源ヲ秋田縣界ニ發シ流域面積二千六百六十八方軒、流路延長八百三十六軒五（内幹川九十軒三）航路延長百六軒（内幹川七十軒七）灌溉段別二萬四千町步、水害區域九千二百四十九町步（内幹川四千八百七十七町步）ヲ有シ青森縣西津輕、中津輕、南津輕、北津輕ノ四郡ニ跨ル大河ニシテ流末十三湖ト稱スル周圍約二十三軒六、面積二千町步ノ湖水ヲ通ジテ一小口ヲ以テ日本海ニ注グ
幹川ハ流路ノ廣狹甚ダ不規則ニシテ其下流部ハ河幅最モ狹キガ故ニ出水毎ニ必ズ破堤或ハ溢水ヲ來シ

沿岸耕地ニ汎濫スルヲ以テ本計畫ニ於テハ堤防ノ改築竝河敷ノ掘鑿ヲ爲シ河積ヲ擴張シ以テ洪水量ヲ安全ニ流下セシメ又支川十川ハ流路甚ダ狹ク且迂曲甚シク殆ント無堤ノ状態ナルヲ以テ出水毎ニ湛水シ殊ニ春季融雪ノ際ノ如キハ沿岸一帯ニ湛水數週間ニ互ルコトアリ故ニ十川上流部ノ水量ハ新川延長約三千二百七十三米ヲ掘鑿シテ現在ノ合流點ヨリ約十五軒七上流ニ於テ岩木川ニ合流セシメ十川下流部ニ對シテハ逆水門ヲ設置シテ岩木川ノ逆流ヲ防グモノトス幹川ノ海口即チ十三水戸口ハ其閉塞ヲ防ギテ排水ヲ完全ナラシメ十三湖沿岸湛水ノ害ヲ防ガンガ爲メニ突堤ヲ築設セントス又十三湖ニ直接注入スル山田川沿岸ニ就テハ幹川擴築ノ結果其破堤及湛水ヨリ來ルベキ水害ハ除去セラレ又十三湖ノ逆水ヨリ生ズル湛水ハ水戸口ノ施工ヲ以テ輕減スル方針ナリシモ尙更ニ調査ノ上直接相當工事ヲ施シ其完成ヲ期スルノ方針ナリ而シテ計畫高水流量ハ十川上流部ヲ三百三十四立米下流部ヲ百六十七立米トシ幹川ハ全十川ヲ合セテ後一千六百七十立米ト定ム岩木川河幅ハ上流ニ於テ二百十八米トシ漸次擴大シ下流ニ於テ六百三十六米四トシ支川十川ノ河幅ヲ六十三米六ト定ム

掘鑿土量ハ七百八十四萬三千七百立米、浚渫五百二十三萬五千六十立米、右掘上ゲ土量合計一千三百七萬八千八百六十立米ニシテ其大部分ハ築堤用土ニ使用ス築堤ハ大部分新堤築設ニシテ舊堤増築ハ一小部分ニ過ギザルナリ而シテ築堤延長ハ幹川約八萬米、支川十川ハ約一萬三千米、合計九萬三千米ニシテ其構造ハ馬踏五米四五、外法二割、内法ハ二割乃至二割五分ノ勾配ト爲シ芝附ヲ施シ必要ノ箇所ニ護岸工ヲ施スモノトス

海口突堤ハ大體ニ於テ捨石竝混凝土塊ヲ用ヒ兩岸ヨリ各三百六十三米六ヲ築造シ先端ニ於テ二百七十二米七ノ間隔ヲ保タシムルモノトス

附帶工事ノ主ナルモノハ木橋架換七箇所、用水路伏越樋二箇所、水門三箇所、其他用水路附換等ナリトス

施工狀況

本工事ハ大正七年六月ノ創業ニシテ初年度及翌八年度ニ於テハ測量其他施工準備ヲ爲シ九、十年度ハ一部分人カヲ以テ掘鑿シ同十一年度以降ニ至リテハ土工用諸機械稍完備セルヲ以テ人力並機械ヲ以テ掘鑿セリ而シテ掘鑿工事ノ進行ニ伴ヒ其土砂ヲ利用シテ築堤工事モ著々進行セシムルコトヲ得タリ

元來當地方ハ冬季即チ十二月ヨリ翌年三月迄ハ嚴寒降雪多量ノ爲メ工事ノ施行全然不可能ニシテ十、十一ノ兩月ハ天候亦不良、四月ハ殘雪ノ爲メ工事殆ンド中止ノ狀態ニ在リテ五、六、九ノ各月ハ工事進行ヲ計ルニ最モ好時季ナルニモ拘ラズ農繁期ナルガ爲メ勞力供給ノ點ニ於テ満足シ得ズ要スルニ一箇年度ヲ通ジテ本工事ノ生命トスル處ハ只七、八兩月アルノミナリ

本年度ニ於ケル掘鑿工事ハ人力掘鑿ニテ八十立米四積トロヲ以テ人力トロ、馬匹トロ運搬ヲ爲シ地形ニ依リ畚運搬ヲモ施行セリ機械作業ニ在リテハ三臺ノ掘鑿機、三臺ノ機關車、三立米積土運車ヲ運轉シ極力工程ノ進行ニ努メタリ

掘鑿施行ノ區域ハ本川筋北津輕郡鶴田村五所川原町、中川村、三好村、武田村、西津輕郡水元村、柏村、出精村、川除村、稻垣村ノ各地先ニシテ掘鑿總土量三十六萬一千四十立米此工費十一萬九千二百六十三圓ニシテ其土量ノ大部分ハ此區域ニ於ケル築堤用ニ供シタリ

築堤工事ハ前述ノ如ク掘鑿土ヲ利用シ北津輕郡鶴田村、五所川原町三好村、武田村、西津輕郡水元村、柏村、川除村、出精村、稻垣村、中津輕郡新和村ノ各地ニ互リテ之ヲ施行セリ芝築立土量ハ七十一萬七千六十四立米

此工費三萬四千六百五十八圓ニシテ竣功延長三千九百四十三米一ナリ

護岸工事ハ北津輕郡鶴田村大字菖蒲川、同村大字大卷、榮村大字湊ノ各地先ニ延長一千八百七十米ニ亘リ箇所ニ依リ根固トシテハ沈床、單床又ハ杭柵ヲ施シ法留トシテハ石張、礫詰又ハ柳枝工ヲ施セリ此工費一萬四千九百三十三圓餘ニシテ未竣工ノ儘次年度ニ之ヲ繰越セリ

突堤工事ハ未著手ノモノナレドモ今後使用石材ハ本工事ニ先立チ採取ノ必要アルヲ以テ本年度ヨリ著手セリ石材採取地ハ北津輕郡小泊村大字下前海岸ニシテ附近ノ轉石ヲ十三湖水戸口附近ヘ工業船ヲ以テ運搬セリ

如何セン沿岸ハ荒海ノ爲メ豫定通り工事ノ進行ヲ見ズ採取石材量七百六十二立米此工費三千五百五十九圓餘ニシテ未竣功ノ儘次年度ニ繰越セリ

障害物除却工事ハ掘鑿竝築堤敷ニ存在セル木根密生セル柳樹其他工事上障害トナルベキモノノ除却ニシテ此工費五百一圓ナリ

假設工ハ假護岸ニシテ北津輕郡鶴田村大字大卷地先ニ合掌枿ヲ以テ假制水ヲ出シ流心ヲ河岸ヨリ遠カラシムルモノトス此工費五百十八圓ナリ斯クシテ本年度ハ事業繰延ニ伴ヒ年度割額鮮少ノ爲メ總テノ工事ヲ手控ヘ窮境ヲ以テ終レリ

土地買收ハ工事上必要ニ迫リ己ムヲ得ザル箇所ノミ買收シ本年度ニ完了セル土地四十六町九段步此金額十一萬一千二百九圓弱ニシテ地上物件移轉費一萬一千三百十八圓強ナリ

本川改修工事ノ本年度竣功額ハ四十一萬六千四百六十七圓ニシテ起工以來本年度迄ノ總竣功額ハ四百三十三萬六千七百三十一圓ナリ之ヲ總工費一千四十萬圓ニ比スレバ約四割二分ノ竣功ナリ其工事竣功

表次ノ如シ
第一章 河川改良工事 (岩木川改修工事)

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿費	二、〇四七、五二五 <small>粒</small>	六五五、五〇四 <small>円</small>	三六二、〇四〇 <small>粒</small>	一一九、二六三 <small>円</small>	二、四〇八、五六五 <small>粒</small>	七七四、七六七 <small>円</small>	〇・三二一
築堤費	一、四〇五、八一〇	九五、六一七	七二七、〇六四	三四、六五八	二、一三二、八七四	一三〇、二七五	〇・六三三
護岸費		三〇、六八一		一四、九三三		四五、六一四	
附帶工事費		五七、五〇〇		二、四八三		五九、九八三	
障害物除却費		五〇、三八九		五〇一		五〇、八九〇	
突堤費				三、五五九		三、五五九	
假設工事費		二八、七〇八		五一八		二九、二二六	
用地費	三、八三五 <small>段</small>	一、三〇三、二五五	四六九 <small>段</small>	一一一、五二七	四、三〇四 <small>段</small>	一、四二五、七八二	〇・三九
船舶及機械費		一、二四二、一〇四		五三、四四八		一、二九五、五五二	
測量費		二八、六六三		三、三四一		三二、〇〇四	
營繕費		一三五、七二一		三、九五六		一三九、六七七	
施行中諸費		二八七、六一四		五四、四九七		三四二、一一一	
共済組合給與金		四、五〇八		二、七八三		七、二九一	
總計		三、九二〇、二六四		四一六、四六七		四、三三六、七三一	〇・四二

第一六 神通川改修工事

(新潟土木出張所)

緒言

本川ハ富山縣下ニ於ケル唯一ノ大河ニシテ源ヲ飛驒國ニ發シ其流域ハ富山、岐阜ノ兩縣ニ跨リ富山縣ハ其下流ニ位シ水害甚大ナルニ依リ改修ノ必要ヲ認メ大正七年度ヨリ同十六年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算六百五十萬圓(内富山縣負擔額百七十六萬三千圓)ヲ以テ起工セシガ其後富山縣知事ノ稟申ニ依リ本川河口改修工事ノ一部ヲ變更シ之レト同時ニ東岩瀬港修築工事ヲモ施スベク工費五十八萬圓(全部富山縣負擔)ヲ増額シ總工費ヲ七百八萬圓ニ改メ施行スルコトトセリ然ルニ起工以來時局ノ影響ヲ受ケ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年四月二百十三萬二千五百圓(内富山縣負擔額五十三萬四千圓)ノ増額ヲ受クルト共ニ施行期限ヲモ同十九年度迄繰延ベラレタルガ更ニ九月一日關東大震災突發ノ爲メ止ムナク四箇年度ヲ延長シ同二十三年度ニ竣功セシムル豫定トナリ總工費豫算九百二十一萬二千五百圓ヲ以テ右岸富山縣上新川郡大澤村、左岸婦負郡杉原村以下海ニ至ル約二十二村ノ間ニ對シ河身ノ改修ヲ施シ洪水ノ被害ヲ除却セントスルモノナリ

河狀並計畫ノ大要

本川ハ飛驒北半ノ一部庄川流域ヲ除ケル一帯ノ諸水ヲ聚メテ越中ニ入り富山平野ヲ北流シテ東岩瀬港ニ至リ海ニ注グ其流域面積二千七百七十六方村内飛驒ニ屬スルモノ二千五方村ニ達スレドモ平地僅ニ

百七十方籽ニ過ギズ流水ハ急湍ニシテ舟筏ヲ通ゼズ越中ニ屬スルモノハ七百七十一方籽ニシテ其内平地面積二百六十二方籽ヲ有シ河口ヨリ上流二十七籽婦負郡細入村大字笹津ニ至ル迄舟楫ノ便アリ地勢漸ク平坦ニシテ其汎濫面積七千町歩ニ達ス水害ノ狀況ハ急流河川ノ特性トシテ大水ノ襲來極メテ迅速且猛烈ニシテ忽チ護岸ヲ覆滅シ瞬ク間ニ堤防ヲ闕壞シ濁流滔々村落市街ニ奔流シ汎濫區域廣カラズト雖モ其向フ所家屋ヲ流失シ人畜ヲ損傷スル等戰慄スベキモノアリ其浸水期間ハ長カラズト雖モ耕土ハ洗滌セラルルニ非ズンバ砂礫ノ埋没スル所トナリ其害實ニ甚大ナリ今既往洪水ノ被害高ヲ示セバ大正元年乃至同十年ノ平均損失價額八百四十萬三千八百八十六圓ニシテ此十箇年間中ノ最大水害ハ大正三年ノ九百三十一萬八千四百四拾四圓之ニ亞グモノハ大正九年ノ三百六十六萬九千三十圓ナリトス

本川改修ノ目的ハ洪水防禦ニ在リテ富山市及附近平野ノ水害ヲ除去スルヲ主眼トスルモ一面河口タル東岩瀨港ノ改善ヲ謀ラントスルモノニシテ即チ本川ノ計畫水量ヲ五千五百六十五立米ト定メ之ヲ放流セシムレルニ定マレル河積ヲ有セシメ東岩瀨港ニ在テハ本川ヲ附換ヘ全ク港内ヲ分離シ突堤ヲ築キ以テ水深ヲ保チ船舶ノ出入ニ便ナラシメントスルモノナリ

由來本川ハ堤防ノ築設比較の普及スレドモ未ダ統一的施設ニ成レルモノ無ク多クハ不規則ナル霞堤ヲ爲シ河積概ネ陝隘ニシテ堤高亦不足シ屢破堤汎濫ノ因ヲ爲セリ故ニ全川ヲ通ジテ河幅ヲ擴メ尙所要ノ掘鑿ヲ行ヒテ專ラ河積ノ増加ヲ圖リ兩岸ニハ鞏固ナル堤防ヲ築キ周到ナル護岸ヲ施シ以テ洪水ノ横溢ヲ防ガントス

河道ノ位置ハ比較的良好ニシテ屈曲部其他疏通上不良ノ箇所ヲ見ザルヲ以テ多クハ現状ニ準據シ努メテ在來ノ堤防ヲ利用セントス上流起點城生以下成子ニ至ル間流路東西ニ岐ルル所モ之ヲ合一セズ現在

ノ形狀ニ依リ兩岸ニ築堤シ添島以下熊野川落合ニ至ル亂流部ハ河幅己ニ廣濶ナレバ兩岸舊堤ヲ増築スルニ止ムレドモ河道内寄洲ノ著シク發達セル所ニ在テハ相當掘鑿ヲ行ヒ之ヲ整理シ富山市附近ノ新舊兩川ノ内舊川ハ平時全ク通水ヲ見ズ且高水ノ疏通ニ對シテモ其利用甚ダ乏シキヲ以テ全ク之ヲ締切ツ新川乃チ馳越川ヲ多少擴大シテ全流量ヲ之ニ依リ疏通セシメ舊川ノ落合ハ之ヲ閉鎖シ其惡水ハ本川ニ沿フテ水路ヲ造リ下流ニ導キ以テ富山市ノ逆水ニ因ル水害ヲ輕減スルモノトス又河口ニ近ヅクニ從ヒ流積特ニ減少スルハ全ク洪水ノ際流下シタル土砂隨所ニ堆積シ流路ヲ壅塞シ益々圓洲ノ發達ヲ促進シタルガ如シ故ニ要所ニ制水工ヲ配置シ河狀ヲ整理シ且0.18以下河道ヲ西ニ移導シ瀨割堤及突堤ヲ設ケ適當ニ河口ヲ掘鑿シ全ク東岩瀨港ト分離セシメ直ニ海ニ通ゼシム而シテ其連絡ハ水門ニ依ルコトトセリ又東岩瀨港ハ港内ヲ低水位以下四米五ノ水深ニ浚深シ東突堤ヲ水深九米一迄延長シ堆砂ノ西遷ヲ防ギ新川ノ右岸突堤ト相俟テ水深ノ維持ヲ謀リ以テ船舶ノ出入ニ便ナラシメントス河幅ハ水理上障害ヲ認メザル限り現状ニ適應シ施行スルヲ得策ト認メ河岸ノ利用シ得ベキハ努メテ之ヲ利用シ瑣々タル廣狹及局部的小屈曲ノ如キハ之ヲ許スコトトシ兩岸堤防中心間距離ハ凡ソ左ノ標準ニ據リ施行スルコトトセリ

區	間	西岸堤中心間距離	區	間	兩岸堤中心間距離
岩木成子間	同	三二七米	添島布瀨間	同	四七三米
同上派川部	同	一四五	布瀨四ツ谷間	同	四四七米
成子添島間	同	三四四	四ツ谷河口間	同	五三九米
		自四〇〇			自五四五

堤防ハ總テ馬踏七米二、表裏共ニ二割法トシ其高ハ計畫高水位上一米五ノ餘裕ヲ存置ス築堤ハ舊堤ヲ利

用シ一方ヲ増築シ他方ヲ引堤トシ又霞堤ノ喰違箇所ハ一、二箇所ヲ除クノ外凡テ連絡セシム其用土ハ合計二百十六萬立米トシ其延長四萬四千五十一米ニシテ一般ニ掘鑿土ヲ以テ之ニ充當スベキモ其運搬遠距離ニ涉ルカ又ハ特ニ良質ノ土砂ヲ要スル場合ニハ他ニ土採場ヲ求メザルベカラズ其土量ヲ三十萬五百二十六立米ト概定ス又堤防ノ流水ノ衝ニ當リタル所其他地形上必要ナル箇所ニハ適當ナル小段ノ類ヲ設ケテ之ヲ補強スルモノトス

掘鑿工事トシテハ流積擴大ノ爲メ河幅ノ整理ヲ行フモ猶掘鑿ニ俟ツベキモノ尠カラズ其土量合セテ二百九十八萬七千二百二十八立米(内十六萬二千二百八十四立米ハ設計一部變更ノ爲メ増加シタルモノ)ニシテ築堤用土ニ充用スル外尙百十二萬三千九百六十七立米ノ剩餘ヲ生ズ是等ハ主トシテ築堤小段ノ成形及卑低地ノ埋立等ニ使用シ更ニ若干民有地ニ投棄ス又河口ニ近キ所ニ在テハ土運車又ハ土運船ニテ海中ニ放棄ス

浚渫工事ハ0.18以下海ニ至ル間ニシテ其底幅ハ二百五十五米ヨリ三百六十四米ニ達シ其深度ハ上流ニ於テ基線以下二米ニ始マリ0.0ニ至ル迄順次ニ同四米八ニ遞下シ以下同深トス其土量ハ約百二十萬二千百四立米ナリ其浚渫ニハ自走カツター付唧筒浚渫船(能力一時間六百十噸)ヲ用ヒ浚渫土ハ凡テ海中ニ放棄スルモノトス

護岸工事ハ本計畫中特ニ必要ナルモノニシテ石張及沈柁等ヨリ成ル即チ築堤ニハ十二軒附近ヨリ上流ハ表法全部ニ同下流ハ計畫高水位以下ノ表面ニ張石シ其法先ハ基礎ヲ深クシ堤外小段ヲ有スル箇所ニ在リテハ更ニ法面ヲ二割勾配ニ張石ス又水面以下ノ保護ニ關シテハ富山市ヨリ上流ハ川倉、蛇籠、木床、沈柁及混凝土單床類ヲ適宜按配シ下流ハ概シテ柴工沈床ヲ用ユルモノトス

制水工事ハ主トシテ下流々路ヲ限定スベキ區域ニ配設シ浚渫ト相俟テ流心ヲ定メ水深ヲ維持セントス
凡テ柴工沈床、木工沈床及石張ヲ用ユルモノトス

突堤工事中右岸突堤ハ瀨割堤防ノ末端00ニ接續シ其長三百十八米ニシテ緩曲線ヲ以テ水深九米一ノ
箇所ニ達セシメ本川ヲ流下スル土砂ヲ深水ニ導クト同時ニ現在東岩瀨地先突堤ノ延長工事ト共ニ兩々
相俟テ港口ノ保護及港内ヘノ土砂侵入ヲ防止セシム又左岸突堤ハ延長百四十五米ニシテ單ニ沿岸漂砂
ノ東進ヲ防止スルモノナリ

水門工事ハ富山市ヲ貫流スル舊川ト本川トノ落合ニ設置スベキ設計ヲ變更シ水路ヲ設クルヲ良策ト認
メタルニ依リ之ヲ廢止逆水門ヲ廢シ水路ヲ造リ惡水ヲ下流ニ導キ且之ニ因リテ本川トノ舟運ヲ計リ逆
水ノ害ヲ輕減シ舊神通廢川地帯ノ利用ニ便ナラシムセリ其他右岸07附近ニ設置スル一箇所ハ本川ト
東岩瀨港トノ聯絡用ニ供スルモノナリ

附帶工事ハ用惡水樋門、用惡水路道路及橋梁等改築ヲ要スルモノ多キヲ以テ適宜之ヲ處理スルモノトス
東岩瀨港ハ神通川ノ河口ニ位シ富山市唯一ノ海門ニシテ往時帆船時代ニ在テハ日本海ノ要港トシテ繁
榮ヲ極メタリシガ時勢ノ變遷ハ汽船海運ノ時代トナリ河口ノ狀況ハ其入港ヲ妨ゲ偶寄港スルモノアル
モ河口ヲ隔ル七百米乃至八百米ノ沖合ニ碇繫シ貨物ノ揚卸ヲ爲サザルベカラズ殊ニ秋冬ノ候ニ際シテ
ハ波浪土砂ヲ壓シテ河口ヲ閉塞シ水深漸ク零米六ニ過ギザルコトアリ明治四十三年河口右岸ニ突堤ヲ
増築シ對岸婦負郡草島村地内ニ制水工ヲ施シ更ニ左岸ニ突堤ヲ築造スル等河口ノ改良ヲ企圖セリト雖
モ規模小ニシテ其效果大ナラズ依然トシテ航路壅塞シ小船ノ出入ニモ不便ヲ來スコト尠カラズ從テ出
入貨物ハ益減退シ明治四十一年、二年ノ交ニ比スレバ其量三分ノ一ニ減ジタリ富山市ヨリノ出入貨物モ亦

其價額ニ於テ僅ニ十分ノ一ニモ達セザルノ悲境ニ在リ茲ニ於テカ神通川改修ヲ好機トシ本港ヲ修築シ航路壅塞ノ源ヲ絶チ其利用ノ途ヲ増進シ從來ノ衰運ヲ挽回シ且近キ將來ニ於テ縣内豊富ナル水力電氣事業ノ完成ニ伴フ各種生産業ノ隆起及名富鐵道ノ貫通ニ依リ激増スベキ出入貨物ノ運輸ニ資スル所アラントス是レ本港修築ノ起リタル所以ナリ

曩ニ神通川改修工事ノ計畫ヲ立ツルヤ併テ河口ノ改良ヲ企圖シ東岩瀨港沿岸ニハ特殊ノ護岸工事ヲ施シ其終端ヨリ水深九米一ニ至ル迄突堤ヲ築造シ地先ノ水面ハ之ヲ水深五米二ニ浚深シ河流自然ノ水勢ニ依リ其水深ヲ維持セシメ一千噸内外ノ船舶出入碇繫ニ便セシムルコトトセシモ一般河口ニ見ルガ如ク自然ノ水勢ニ依ル水深ノ維持ハ極メテ困難ニシテ殊ニ本港ノ如キハ日本海ノ漂砂ト神通川ヨリ流下シ來ル土砂トハ港内ニ堆積シ常ニ浚深ヲ施サザレバ到底所要ノ水深ヲ維持スルコト能ハザルナリ故ニ若シ河口ヲ完全ニ港灣トシテ利用セントセバ神通川ト東岩瀨港トヲ全然分離スルヲ以テ得策ナリトス本改修計畫ハ以上ノ理由ニ依リ神通川改修計畫中下流ノ一部ヲ變更シ河道ヲ四方ニ移動セシメ下流現在ノ低水路ノ水面積ヲ本港灣ノ施設ニ提供スルコトトシ港口ハ現在ノ東突堤ヲ約四百九米延長増築シテ東岸ヨリスル漂砂ヲ防ギ之ト相對シテ改修工事ニ於テ築造スベキ右岸突堤(延長三百十八米)ニ依リテ西方ヨリスル漂砂ヲ防ギ内部ノ水面凡ソ十二萬五千六百二十方米ヲ深四米五ニ浚深シテ一千噸級船舶ノ碇繫及貨物ノ揚卸ニ便ナラシメントス然ルニ最近ニ至リ低水路ノ水面積ノミヲ以テ港灣施設ニ供セントスルハ將來港域擴張ノ要ヲ生ジタル場合不利ナルヲ以テ寧ロ更ニ河道ヲ西方ニ移シテ現左岸堤敷ニ新右岸堤ヲ築造シ河敷全部ヲ港域ニ供スベシトノ議起リ遂ニ大正十四年十二月二十一日再度變更ノ認可ヲ得タリ

施工狀況

本工事ハ大正七年七月ノ創業ニ係リ同年十月東岩瀨港内河流ノ不整ヲ修ムル目的ヲ以テ其對岸ナル草島村地先ニ制水工ヲ施シ次テ土地買收ノ進捗ニ從ヒ逐年下流ヨリ施工シ上流ニ遡リ左岸(婦負郡)ニ於テハ草島、百塚、神明、鶺坂、熊野、宮川ノ六箇村及富山市右岸(上新川郡)ニ於テハ豊田、奥田、堀川、蜷川、新保ノ五箇村及富山市ノ各地先ニ於テ掘鑿、築堤、護岸等ノ諸工事ヲ實施スルニ至リ其區域兩岸各十七軒七ニ達セリ本年ハ財政緊縮ノ結果工費年度割激減サレ從來ノ廣汎ナル區域ニ涉リ施工スルハ不利ナルヲ以テ上流ノ工事ヲ全ク中止シ專ラ下流ナル前年來施工箇所ノ竣成ニ努メタリ左ニ其施工ノ概況ヲ述ベシ

掘鑿工事ハ前年度以來繼續ノ九箇所ト新ニ著手セル三箇所ト計十二箇所ニ施工シ内四箇所ハ年度内ニ竣功セリ本工事ハ主トシテ人力掘鑿ニ依リ一部機械ヲ使用ス前者ハ零立米六積及零立米四二積土運車ヲ使用シ人力若クハ馬力ヲ以テ運搬スルモノニシテ其功程十八萬四千二百七十八立米八内十四萬六千二百八十八立米三ハ堤防敷ヘ運搬投棄セリ後者ハ左岸流末草島地内新川低水敷ノ掘鑿ニシテ依然湧水透水ニ惱ミタルト工事ノ都合上約三箇月間休工セルトニ依リ其功程十六萬二千三百八十五立米六ニ過ギズ内五萬六千百十八立米六ハ築堤敷ニ投棄シ他ハ附近民地ノ埋立ニ供シタリ

築堤工事ノ盛土ハ主トシテ掘鑿土ヲ利用シ左岸宮川村下流右岸新保村下流延長一萬八千三百米ノ間ニ於テ十二箇所ヲ施工シ内四箇所ヲ竣功セリ本年度ノ盛土二十一萬八千九百七十八立米三ニシテ内二萬六十二立米一ハ自辨土ナリトス

護岸工事ハ前年度ヨリ繼續ノ十七箇所ト新ニ著手セル四箇所トノ二十一箇所ニ施工シ内二箇所ハ年度

内ニ竣功セリ其功程石張三萬二千五百九十六方米八、木工沈床二千三百三十三方米四、鐵線蛇籠百三十八本及川倉五十九個ナリトス是等ノ工事ニ使用スル石、栗石及砂利等ハ主トシテ本川上流ヨリ一部ハ早月川ヨリ直營採取スルコト從來ノ如シ

突堤工事中西突堤即チ左岸突堤ハ前年度ニ於テ既ニ基礎柴工沈床ヲ實施シ捨石モ一部投下シタレドモ本年ハ流末工事ノ計畫變更ノ議アリシヲ以テ一時施工ヲ中止シ專ラ捨石ノ直營採取ニ從事セリ東突堤ハ東岩瀬地先ニ施工スルモノニシテ前年度ノ著手ニ屬シ本年ハ第一區即チ舊突堤増築箇所ノ内幹部ノ根固沈床三百九十六方米ヲ沈設シ捨石ヲ配置セシ外各種捨石用石材ノ直營採取ヲ爲セリ

水路工事ハ富山市ヲ貫流セル舊川ト本川トノ落合ニ設置スベキ水門ニ更フルニ本堤ニ沿フテ水路ヲ開鑿シ落合ヨリ約二千二百米下流ニ於テ本川ニ合流セシメ以テ富山市及其近郊ヨリ來ル總テノ流水ヲ一路ニ集メ本川トノ舟運ニ便シ且本川逆流ノ害ヲ輕減スルモノニシテ開鑿作業ハ前年度迄ニ殆ンド完成シ本年度始メ漸ク舊川落合點ヲ締切リ其護岸張石ヲ竣成シ引續キ其築堤ノ完成ニ努メタリ

土地買收ハ特別ノ手續ヲ要スルガ爲ニ支拂未濟ノ分五件ハ全部本年度ニ於テ完成セリ此段別僅ニ一畝二十四歩ナリ

機械工場ハ前年度ト同ジク諸機械ノ修理製作ニシテ其程度大ナルモノハ信濃川河口機械工場ニ依託シ其他ハ附近ノ鐵工業者ニ請負ハシム

附帶工事トシテ施行シタルモノハ左記各項ナリトス

中島排水樋管新設工事ハ大正十二年十月ノ起工ニ係リ同十四年十二月竣功シ同十五年三月一日管理者奥田村長へ引渡方ヲ了ヘタリ

有澤用水路附替工事ハ大正十四年十月十八日著手シ功程未ダ半ナリ

松川及搗屋川改修工事ハ富山市長ノ申請ニシテ改修新堤ノ爲メ吐口及取入口ヲ遮斷セラレ改築ノ必要ヲ生ジ工費一萬八千二百二十三圓六十三錢五厘(内國庫補助九千七十圓)ヲ以テ搗屋川ノ取入口ヲ稍上流ニ改築シ一面松川ヲ神通川ト分離シ其流末ヲ搗屋川ニ併合セントスルモノニシテ本年七月一日水路掘鑿竝取入口水門工事ニ著手シ水路ノ一部ヲ殘シ他ハ竣功セリ

砂川樋管新設工事ハ管理者堀川村長ノ申請ニ依リ同村布瀬地内ニ於テ神通川ニ排水セル砂川惡水路ハ改修新堤ノ爲メ遮斷セララルヲ以テ此處ニ排水樋管ヲ新設スルモノニシテ大正十四年七月十一日工費七百四十五圓(内國庫補助四百九十六圓)ニシテ直接施行ノ認可ヲ得同年十一月著手シ同十五年二月二十日竣功シタレドモ未ダ管理者ニ引渡ス運ビニ至ラザリキ

本年度ニ於ケル竣功額ハ四十萬九千九百九十四圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計三百九十六萬八千四百七十七圓ナリ之レヲ總工費九百二十一萬二千五百圓ニ比スレバ四割三分強ノ竣功ナリトス其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ退職手當四百二十五圓二十錢ハ之ヲ含マズ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
掘鑿 築堤費 護岸制水費 水路費 突堤費	一、四三七、一五四	五六六、九九六	三四六、六六四	一二七、七四二	一、七八三、八一八	六九四、七三八	〇・五〇
	一、〇〇一、四四八	一四六、二七三	一四七、五八五	三〇、二八二	一、一四九、〇三三	一七六、五五五	〇・五七
		一四六、二七三		一一七、二七六		八一、五四一	〇・二四
		六九四、二六五		五、五七六		八五、七七四	一・〇〇
	八〇、一九八		五〇、一七五		一三〇、三七三	一・六六	
	六六、五三〇						

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
(雜工事費)		六、三六七				六、三六七	
附帶工事費		一、一六〇四		九、五二一		二一、一三五	
運搬費		一、〇七三		一、五一一		二、五八六	
用地費		八二九、九四〇		一三三		八三〇、〇七三	
船舶及機械費		八五〇、六六三		二四、七八一		八七五、四四四	
施行中諸費		三〇四、五七四		四二、九九五		三四七、五六九	
總計		三、五五八、四八三		四〇九、九九四		三、九六八、四七七	〇・四三

第一七 多摩川改修工事

(東京土木出張所)

緒言

本川ハ第二期河川ニ屬シ當初明治三十年法律第三十七號ニ依リ河川改良費トシテ大正七年度ヨリ同十四年度ニ至ル八箇年度繼續事業トシ工費五百六十萬圓、事務費二十八萬圓、合計五百八十八萬圓(内東京府及神奈川縣負擔二百九十四萬圓)ヲ以テ左岸東京府北多摩郡砧村、右岸神奈川縣橋樹郡高津村以下海ニ至ル約二十二籽ノ間ニ施工スルモノナリシガ歐洲大戰以來勞銀其他諸物價ノ昇騰ヲ來セル爲メ到底當初ノ豫算ヲ以テ遂行シ能ハザルヲ以テ同十二年度ニ至リ總工費ヲ七百七十六萬二千圓(内東京府及神奈川縣負擔三百三十九萬八千圓)ニ増額シ施行年限ヲ三箇年度延長シ同十七年度ニ竣功セシムルコトトシ同時ニ改良費ヲ治水費ト爲シ河川法第八條ニ依リ施行スルコトトナリシガ財政上ノ都合ニ依リ施行年限ヲ更ニ同十九年度迄延長セラレタリ

河狀並計畫ノ大要

本川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡神金村笠取山東谷ニ發シ小菅、日原ノ溪流ヲ合セ東流青梅ニ至リ右折シテ東南ニ向ヒ更ニ秋、淺等ノ支川ヲ合流シ東京、神奈川ノ兩府縣界ヲ流レ東京府荏原郡羽田町ニ至リ海老取、八幡等數條ノ滯ヲ分岐シテ東京灣ニ注グ流路百二十八籽、流域一千六十四方籽ニ過ギザルモ其清流ハ東京市ヲ初メ附近一帶ノ飲料水トシテ上水ノ源ヲ爲ス外沿岸ノ灌溉、下流部ノ舟楫等其利便尠シトセズ然レ

ドモ其水路ハ京濱間ヲ貫流スルヲ以テ其利害ハ直接帝都ニ係リ一朝溢水破堤ノ慘ヲ見シカ其損害實ニ甚シキモノアリ今既往明治四十三年乃至大正八年ニ於ケル一箇年ノ水害損失平均額ヲ算スレバ約五十萬圓ヲ下ラザルノミナラズ交通ノ杜絶、衛生、其他ニ因ル損害蓋シ計ルベカラザルモノアルベシ

改修ノ計畫ハ既往ノ洪水量ヲ參酌シテ定メタル四千七百七十立米ノ水量ヲ快疏スベキ河積ヲ有セシムル爲メ從來ノ無堤、霞堤等廣狹一ナラザルモノヲ河狀ニ應ジ上流三百八十三米、河口五百四十五米ノ間ニ河幅ヲ整正シ其兩岸ニ天端ヲ計畫高水位上一米五トシ馬踏五米五、兩法各二割、川裏ニ一米八下リテ三米ノ小段ヲ附シタル堤防ヲ新設又ハ擴築シテ其高水敷ヲ定メ障害物ヲ除却シテ通水ヲ圓滑ナラシメ尙水積不足ノ箇所ニハ掘鑿或ハ浚深ヲ施シテ之ヲ補フコトトセリ

低水路ハ下流地方ノ狀勢ニ鑑ミ上流ニ於テハ平均干潮時水深一米五、底幅七十三米トシ漸次増大シテ河口ニ至リ水深三米六、底幅百四十六米ニ達セシメ以下滲筋ニ於テハ水深三米六、底幅百九米ヲ保持セシムルモノトス

其他若干ノ惡水路樋門竝水路附替等ノ附帶工事及水流急ナル部分ニ施行スベキ護岸工事等ニ在リテハ著大ナルモノ無シ

施工狀況

本工事ハ大正七年度ニ施工準備トシテ實地調査ニ著手シ同八年四月川崎市小向(元橋樹郡御幸村)ニ土地收用事務所ヲ設置シ同年度ニ於テ全部査定ヲ終リ翌九年五月買收ニ著手シ前年度迄ニ碓村地内外二、三箇所ヲ除キ其他ハ殆ンド買收済トナレルヲ以テ同十三年十一月三十日限り事務所ヲ閉鎖シ殘餘ノ分ハ

改修事務所ニ於テ處理スルコトトセリ而シテ本年度迄ニ買收シタル總段別ハ四百十三町七段二畝步餘ニ達シ其買收金額ハ地上物件移轉料ヲ合セ二百四十九萬四百九十八圓トナレリ

改修事務所ハ同八年六月同所ニ設置セシガ工事ノ進捗ニ伴ヒ材料運搬其他監督上ノ都合ニ依リ同十四年十二月川崎市久根崎ニ移轉セリ工事ハ同九年度ニ於テ土地買收濟ノ箇所ヨリ先ヅ掘鑿工ヲ開始シ浚渫築堤護岸等漸次工ヲ進メ前年迄ニ築堤土運搬百七十八萬九千二百六十立米浚渫土量三百七十五萬六千六百六十一立米及護岸制水三箇所ヲ施行シ工費合計九十五萬八千九百五十六圓ヲ支出セリ

本年度ニ於テハ左岸東京府側ナル羽田六郷矢口玉川以上荏原郡調布(北多摩郡)ノ各町村地先ニ於テ十三箇所右岸神奈川縣側ナル川崎中原高津以上橋樹郡各市町村地先ニ於テ八箇所計二十箇所ニ互リ人力及機械ニ依リ浚渫掘鑿ヲ含ムヲ施工シ前者ハ土量五十萬六千四百六立米後者ハ六十一萬三千五百九十六立米計百十二萬二立米ヲ竣成シ工費十三萬二千七百五十五圓ヲ支出セル外左岸東京府側ニ屬スル羽田六郷矢口砦調布ノ各村地先ニ於テ六箇所右岸神奈川縣側ニ屬スル川崎中原高津ノ各市町村地先ニ於テ四箇所計十箇所ニ於テ築堤工事ヲ施行シ土量ハ概ネ浚渫及掘鑿ヨリ生ズルモノヲ利用シ前者ハ十一萬五千七百立米後者ハ十六萬九千二百九立米計二十八萬四千九百九立米ヲ竣成シ工費一萬三千五百二十八圓ヲ支出セリ

上記諸工事ニ要スル土工用機械器具ノ製作及修理ハ大正十年四月ヨリ改修事務所内ニ製作場ヲ設ケ之ニ當ラシメシガ漸次事業ノ進ムニ從ヒ不便ナルヲ以テ來十五年度ニハ適當ノ地ヲ撰ミ機械設置ノ見込ナリ

本川沿岸ハ概ネ低地ニシテ濕潤荒蕪ノ地尠ナカラザリシガ適々當改修工事施工セララルルヤ剩餘土ヲ利

用シ土地ノ改良ヲ企テ捨土出願スルモノ多キヲ以テ概ネ其希望ヲ容レ土砂運搬ニ要スル材料及勞力等ヲ提供セシメ同九年度以降實施シ來リ同十四年度末迄ニ二百五十四萬八千八百立米ヲ捨土シ改良セラレタル土地段別二百四十七町歩ニ及ベリ之レガ爲メ該地方ハ工場及住宅地トシテ其面目ヲ一新シ交通ノ設備ト相俟テ廳テ地價ノ昂騰ヲ招キ沿岸町村民ノ受益ハ蓋シ尠少ナラザルベシ

本改修工事本年度竣功額ハ四十萬七千二百六十四圓ニシテ起工以來ノ累計五百二萬二千五百五十一圓トナレリ之ヲ總工費豫算七百七十六萬二千圓中大正十一年度迄ノ事務費二十一萬九千七百七十二圓(十二年度以降事務費ハ治水事業事務費ニ編入セラル)ヲ控除シタルモノニ對比スレバ約六割五分ノ竣功ナリトス左ニ工事竣功表ヲ掲グ但シ表中「▲」ハ製作品使用額「▲」ハ捨土出願者提供勞力及材料費

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	一、七八九、二六〇	▲ 一、一六、五二九	二八四、九〇九	▲ 一、三三、五二八	二、〇七四、一六九	▲ 一、三三、〇五七	〇・四二
	三、七五六、六六一	▲ 八二三、七八九	一、二〇〇、〇〇二	▲ 一、三二、七五五	四、八七六、六六三	▲ 一、九五六、五四四	〇・五一
	三	▲ 九九〇、六三一		▲ 五四四、四一一	三	▲ 一、五三五、〇四二	〇・一一
護岸制水費	四、一五〇、一九	▲ 二、四七九、四三八	二、二〇、一一四	▲ 一、一〇、五一	四、三七〇、三三三	▲ 二、四九〇、四八九	〇・六五
	段	▲ 八〇八、七八八	▲ 一、四二、二七五	▲ 七、六〇一	▲ 九、五九、〇六三	▲ 一、五九、九八三	
用地費	▲ 八四、四四七	▲ 一九、四一八	▲ 九、三八〇	▲ 一五、八二八	▲ 九三、八二七	▲ 二八、七九八	
	▲ 一、九一八	▲ 三五、九一三	▲ 一五、八二八	▲ 七、一四六	▲ 一、九一八	▲ 五、七四一	
船舶及機械費	▲ 三〇、四八五	▲ 七、九二一	▲ 五、三〇一	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	
	▲ 三、〇四、八五三	▲ 七、九二一	▲ 五、三〇一	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	
測量費	▲ 三、〇四、八五三	▲ 七、九二一	▲ 五、三〇一	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	
	▲ 三、〇四、八五三	▲ 七、九二一	▲ 五、三〇一	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	
營繕費	▲ 三、〇四、八五三	▲ 七、九二一	▲ 五、三〇一	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	
	▲ 三、〇四、八五三	▲ 七、九二一	▲ 五、三〇一	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	
施行中諸費	▲ 三、〇四、八五三	▲ 七、九二一	▲ 五、三〇一	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	
	▲ 三、〇四、八五三	▲ 七、九二一	▲ 五、三〇一	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	
共済組合給與金	▲ 三、〇四、八五三	▲ 七、九二一	▲ 五、三〇一	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	
	▲ 三、〇四、八五三	▲ 七、九二一	▲ 五、三〇一	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	▲ 三、八一、九九九	
總計	▲ 一、〇七五、〇七八	▲ 四、六一五、二八七	▲ 四〇七、二六四	▲ 五、四四、四一一	▲ 一、四八二、三五一	▲ 一、六一九、九八四	〇・六五

第一八 阿賀川及阿武隈川改修工事

(仙臺土木出張所)

緒言

本工事ハ大正八年度ヨリ同二十二年度ニ至ル十五箇年度ノ繼續事業トシテ工事費一千三百七十二萬百五十圓(内阿賀川七百三十三萬九百七十七圓、阿武隈川六百三十八萬九千七百七十三圓)事務費二十萬七千九百六十圓、合計一千三百九十二萬八千一百十圓ヲ以テ施行スル計畫ナリシモ大正十二年帝都ノ大震災ニ因リ財政上年度割額ヲ變更シ同二十五年迄三箇年度ノ繰延ベトナレリ而シテ阿賀川改修區域ハ幹川ハ福島縣北會津郡大戸村大字雨屋以下同縣河沼郡川西村大字長井ニ至リ支川宮川ハ同縣北會津郡荒井村以下阿賀川合流點迄、支川湯川ハ若松市以下阿賀川合流點迄又阿武隈川改修區域ハ幹川福島縣安積郡永盛村以下同縣田村郡小泉村ニ至ル間、同縣安達郡本宮町附近及福島市ヨリ下流同縣伊達郡五十澤村ニ至ル間ト支川荒川筋ハ同縣信夫郡荒井村大字地藏原以下幹川合流點ニ至ル郡山平野、本宮市街地竝信達平野ノ主要部ヲ包含ス而シテ兩川改修區域距離ハ八十三粁ナリトス

河狀竝計畫ノ大要

阿賀川ハ阿賀野川ノ上流福島縣ニ屬スル部分ノ稱呼ニシテ阿賀野川全部ノ流域面積八千九十七方粁(内福島縣管内六千四百十六方粁)流路延長ハ二百二十七粁八分(内福島縣管内百二十三粁六分)ヲ有ス而シテ支川只見川及同川合流點以下ハ概ネ山間部ニ屬シ灌溉ノ利ニ乏シク水害モ亦少シト雖モ只見川合流點

ヨリ上流ハ會津平野ヲ貫流シ灌溉ノ利多キニ伴ヒ水害モ亦甚シク明治四十三年ヨリ大正八年ニ至ル十箇年ノ損害價額平均一箇年八十六萬三千百十六圓ニ達ス加之河道亂流堤防薄弱若クハ無堤部ノ所多キニ依リ之ヲ現狀ニ放置センカ其被害ヲシテ益々甚大ナラシムルヤ明カナリ

本改修計畫ノ主眼ハ洪水防禦ニシテ即チ浸水部ヲ除害シ河道ヲ匡正シ在來堤防薄弱ナルモノハ之ヲ補強シ低キモノハ之ヲ高メ無堤地ニハ堤防ヲ築キ河積不足ノ箇所ニハ掘鑿竝浚渫等必要ノ工事ヲ施シ以テ洪水量ヲ快通セシムルニ在リ

高水流量ハ最大每秒時四千二百五十七立米五分、宮川三百八十九立米、湯川百八十立米ト定メ河幅ハ大體阿賀川平地部三百六十四米乃至五百四十五米、山間部百四十九米、宮川九十一米、湯川七十三米ニ整理セントス

施工狀況

阿賀川改修工事ハ大正十年二月ノ創業ニ係リ諸般ノ設備ハ稍整ヒタルモ尙測量調査中ニ屬スルモノアリ從テ用地買收ハ其一部分ニ過ギズ

本年度ノ施行工事ハ前年度同様幹川上流部ニ於テハ北會津郡大戸村大字雨屋地内ノ浚渫及左岸大沼郡川路村大字穗馬地内ノ掘鑿竝支川湯川ニ於テハ若松市河原町橋上流ノ浚渫ヲ續行ノ豫定ナリシモ工費ノ都合上下流山間部ニ全力ヲ注グヲ有利ト認メ六月末日ヲ以テ何レモ打切竣功トセリ次ニ下流山間部ニ於テハ耶麻郡慶徳村宇大畑、川原子間及泡ノ巻地内竝土堀地内ノ新川掘鑿ヲ續行シ更ニ河沼郡川西村大字長井、袋原地内ノ新川掘鑿ヲ起工セリ而シテ本年度ノ功程ハ土量三十萬二百五十五立米、工費十一萬

二千四百五十九圓ナリ

阿武隈川改修工事ハ阿賀川ニ先ツコト二年即チ大正八年ノ創業ニ係リ諸般ノ準備殆ント完了セリト雖モ豫算ノ關係上緊縮方針ヲ採リ著シク工事ノ進捗ヲ見ザリシハ頗ル遺憾トスル所ナリ其施工區域ハ前年度ト同様幹川筋福島下流信達平野、本宮市街地、郡山平野及支川荒川筋トシ其工事モ大部分前年度ニ引續キ施行スモノニシテ本工事トシテハ掘鑿、築堤、護岸、堰堤及樋門工等ニシテ内荒川筋第一次土堰堤ハ五月中ニ竣功セリ附帶工事ハ伊達郡長岡村地内惡水工事ニシテ十月著手、十二月全部竣功セリ

阿賀川及阿武隈川改修工費竣功額ノ本年度支出額ハ四十五萬四千七百七十八圓ニシテ當初ヨリノ累計四百六十五萬九千四百四十五圓ナリ而シテ總工費一千三百九十二萬八千百十圓ニ對シ約三割四分ノ竣功ナリトス其竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚深費	八二、六六七 <small>粒</small>	四五八、九七七 <small>円</small>	四、七七二 <small>粒</small>	二、七〇〇 <small>円</small>	八一、六四三 <small>粒</small>	四六一、六七七 <small>円</small>	〇・三三
掘鑿費	一、二六七、五七一	四一、二、〇四七	八一七、三九七	二、三三一、四五〇	二、〇八四、九六八	六四三、四九七	
築堤費	一、一五三、一八一	四〇〇、五七八	一四四、一四〇	四、三三〇	一、二九七、三三二	四〇四、九〇八	〇・七九
護岸制水費		六八、七五二		二五、四八九		九四、二四一	
堰堤費		一三七、四〇七		六、三〇三		一四三、七一〇	
樋門費		三一、六一〇		五、一七〇		三六、七八〇	
用地費	五、五三六 <small>段</small>	九一八、一八四	六五 <small>段</small>	一、三、九二一	五、六〇一 <small>段</small>	九三一、一〇五	
附帶工事費補助		九、四六六		一、二、一七		一〇、六八三	
機械費		一、三三〇、二五八		八九、二一九		一、三九九、四七七	

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
測量	—	五、八二三	—	七三八	—	六、五六一	—
水量標	—	二四二	—	七六	—	三一八	—
營業繕	—	五五、三三七	—	二、〇九一	—	五七、四二八	—
電話費	—	一六、二〇二	—	七〇五	—	一六、九〇七	—
惠傷當	—	三八、五九四	—	五、八〇八	—	四四、四〇二	—
死傷手	—	一三、六七九	—	三、七八六	—	一七、四六五	—
施行中諸費	—	三二二、九九七	—	五九、四九八	—	三八二、四九五	—
共濟組合給與金	—	四、五一四	—	三、二七七	—	七、七九一	—
總計	—	四、二〇四、六六七	—	四五四、七七八	—	四、六五九、四四五	〇・三四

本表ヲ更ニ流域ニ依リ區分スレバ次ノ如シ

阿賀川改修

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
濬深費	一二一、〇七八	一〇六、二六七	四、七七二	二、七〇〇	一二五、八五〇	一〇八、九六七	〇・〇八
掘鑿費	三三六、九八七	一八九、三一八	二九五、四八三	一〇九、七五九	六三二、四七〇	二九九、〇七七	〇・〇八
地費	七九四	一一、七八七	四五	七、八五三	八三九	一三〇、六四〇	〇・二七
機械費	—	三九五、一六六	—	六五、八一七	—	四六〇、九八三	—
本工事	—	—	—	—	—	—	—

阿武隈川改修

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
測量費		二、二一六		二二九		二、四四五	
水量標費		五〇		三二		八二	
營業繕費		一六、八八九		八二三		一七、七二二	
電話費		四、四一六		二四九		四、六六五	
惠傷手當		一四、〇八七		三、〇九〇		一七、一七七	
死傷手當		五、一八七		三、〇〇二		八、一八九	
施行中諸費		一三七、九八四		三七、五四二		一七五、五二六	
共濟組合給與金		二、〇五八		一、九一九		三、九七七	
總計		九九六、四二五		二二三、〇二五		一二二九、四五〇	〇・一七
濬深費	五九〇、五八九 <small>粒</small>	三五二、七一〇			五九〇、五八九 <small>粒</small>	三五二、七一〇	
掘鑿費	九三〇、五八四	二二二、七二九	五二一、九一四	一一一、六九一	一、四五二、四九八	三三四、四二〇	〇・四七
築堤費	一、一五三、一八一	四〇〇、五七八	一四四、一四〇	四、三三〇	一、二九七、三二一	四〇四、九〇八	
護岸制水費		六八、七五二		二五、四八九		九四、二四一	
堰堤費		一三七、四〇七		六、三〇三		一四三、七一〇	
樋門費		三一、六一〇		五、一七〇		三六、七八〇	
用地費	四、七四二 <small>段</small>	七九五、三九七	二〇 <small>段</small>	五、〇六八	四、七六二 <small>段</small>	八〇〇、四六五	
附帶工事費補助		九、四六六		一、二二七		一〇、六八三	

第一章 河川改良工事 (阿賀川及阿武隈川改修工事)

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
機械費		九一五、〇九二		二二、四〇二		九三八、四九四
測量費		三、六〇七		四九九		四、一〇六
水量標費		一九二		四四		二三六
營業繕費		三八、四四八		一、二六八		三九、七一六
電話費		一一、七八六		四五六		一二、二四二
惠傷與費		二四、五〇七		二、七一八		二七、二二五
死傷手當		八、四九二		七八四		九、二七六
施行中諸費		一八五、〇一三		二一、九五六		二〇六、九六九
共濟組合給與金		二、四五六		一、三五八		三、八一四
總計		三、二〇八、二四二		二二一、七五三		三、四二九、九九五
						〇・五四

第一九 太田川改修工事

(名古屋土木出張所)

緒言

本工事ハ大正八年度ノ創業ニシテ當初工費三百四十四萬圓、事務費二十一萬圓、合計三百六十五萬圓(内靜岡縣負擔百八十二萬五千圓)ヲ以テ同十四年度ニ至ル七箇年度繼續事業トシテ起工セシガ大正十二年度ノ初メニ於テ施行年限ヲ延長シテ同十八年度ニ至ル十一箇年度繼續事業トシ同時ニ時局ノ影響ヲ受ケ物價及勞銀ノ騰貴ニ因リ工費百十九萬三千圓ヲ増額シ又河川法ニ依リ工事ヲ國ニ於テ直轄施行シ地方費負擔額モ十二年度以降ノ分ハ同法ニ依ルコトトナルヲ以テ結局工費四百六十九萬七千五百八十圓、事務費十四萬五千四百二十圓、合計四百八十四萬三千圓(内地方費負擔額二百六萬九千圓)ニ變更セラレタルガ同年度中關東地方大震災ニ依ル一般事業繰延ノ爲メ更ニ施行年限ヲ同二十年度迄ニ延長セラレタリ其施工區域ハ幹川筋ニ在テハ靜岡縣周智郡森町以下海ニ至ル約二十二村、支川敷地川ニ在テハ同縣磐田郡三川村以下幹川合流點ニ至ル約七村、支川原野谷川ニ在テハ同郡小笠郡原谷村以下幹川合流點ニ至ル約十九村、支川逆川ニ在テハ同縣小笠郡西山口村以下原野谷川合流點ニ至ル十村、小々支川倉真川ニ在テハ同縣小笠郡西郷村以下逆川合流點ニ至ル二村餘、其他是等諸川ニ相關聯セル支川ノ一部ヲ合セ總計約六十村ナリトス

河狀並計畫ノ大要

本川ハ大井及天龍ノ二大河ノ間ニ介在シ中遠ノ南部ヲ貫流スル一小河ニシテ流域面積五百八方糎、降水量饒多ナレドモ急流ニシテ平時水量乏シク殆ンド水運ノ便ヲ有セズ幹川流路ハ僅カニ四十四糎ニ過ギズト雖モ分合スル支派川二十有餘アリテ其總延長三百糎ニ達ス從ツテ灌溉段別モ比較的、多ク九千六百八十ヘクタールニ互リ其利益大ナルモノアレドモ水害區域モ亦廣濶ニシテ九千二百二十四ヘクタールヲ算シ小河川ノ割合ニ損失ヲ受クルコト甚大ナリ而シテ其原因ハ主トシテ河狀ノ不良及堤防ノ薄弱ニ歸因セリ明治四十三年乃至大正八年ノ十箇年間ニ於ケル水害損失價額ノ如キハ一箇年平均三十二萬百七十五圓ニ當リ就中明治四十四年ノ水害ハ百二十六萬二千六百七十二圓ノ多額ニ達シタリ而シテ本川ノ水害ハ獨リ田畑ヲ荒廢セシムルノミナラズ第一號國道タル東海道ヲ初メ重要道路ヲ數箇所ニ於テ橫斷スルヲ以テ一朝出水ノ際ハ忽チ交通ヲ杜絶シ從テ國有鐵道東海道線ノ如キモ不通ノ災厄ニ會フコト稀ナラザルノ状態ニ在ルナリ

本計畫ハ主トシテ高水ノ疏通ヲ良好ナラシメ之ヲ防禦スルニ在リ改修ノ方法トシテハ在來ノ不規則ナル堤防ヲ改廢整理シ其薄弱ナルモノハ之ヲ擴築シ必要ノ箇所ニハ新ニ堤防ヲ設ケ河積不足ノ箇所ハ引堤或ハ掘鑿ヲ施シ以テ河狀ヲ匡正シ屈曲ヲ緩和シ時ニ新川ヲ開鑿シテ之ニ換ヘ支川ニシテ逆流ノ虞アルモノ及各用惡水路等ニハ必要ニ應ジ水門等ヲ築設シテ洪入ノ浸水ヲ防ガントス本計畫ニ採用セル最大流量及河幅等ハ次ノ如シ

河川名	流量	河幅	高水位勾配	河川名	流量	河幅	高水位勾配
太原野谷川 合流點以下	一九五〇 <small>毎秒粒</small>	四二〇 <small>米</small>	二二〇分一	原野谷川	至自 九三五〇 <small>毎秒粒</small>	至自 九七五 <small>米</small>	至自 二〇〇分一

川原野谷川 合流點以上	敷地川	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自
七〇〇	九七五	九〇	二四三分一	二五〇〇	六三八	七五〇分一	二五〇〇	五〇〇〇	五二五分一
三〇〇五	五四五〇	七三七分一	八七〇分一	一六五	三六	六三〇〇	三六	六三〇〇	六三〇〇分一

堤防ノ標準断面ハ太田川、原野谷川合流點以下河口ニ至ル間ハ馬踏三米五、表法二割、裏法二割五分トシ太田川、原野谷川合流點以上及敷地川、逆川ハ大部分馬踏三米乃至三米五、兩法共ニ二割トシ其他ノ小支川ハ馬踏幅二米七、兩法二割トス尙勾配ノ急ナル箇所及水勢ノ激突スル虞アル箇所ニハ相當ノ保護工事ヲ施スモノトス

施工狀況

本工事ハ大正八年度創業以來施行準備ニ著手シ八年度及九年度ニ於テ實地測量、土地買收調査ヲ施行シ同十年度ヨリ同十二年度ニ至ル三箇年度ニ於テ第一次、第二次、第三次ノ三回ニ互リ改修區域ノ殆ンド全部約百五十三町歩ノ土地買收及地上物件移轉ヲ完了シ更ニ前年度ニ於ケル局部買收約一町三段歩モ略前年度内ニ終了セルヲ以テ本年度ニ於テハ之ガ殘餘ノ土地約二段歩ノ買收移轉ヲ爲シタルニ過ギズ而シテ本年度ニ支拂ヒタル買收費ハ右土地買收費一千二百三十一圓餘、地上物件移轉料五十圓餘ナリトス。工事ニ在テハ大正十年度中買收區域ノ一部ヨリ著手シ漸次各所ニ及ボシ同十二年度ニ至リテ區域殆ンド全川ニ互リ專ラ築堤掘鑿工事ノ進捗ニ努メ特ニ太田川及原野谷川中流新川開鑿部ノ工事ニ力ヲ致シタルガ本年度ニ及ビ原野谷川、逆川合流附近ノ開鑿工事ヲ完成シ完全ニ兩川ヲ分水スル事ヲ得太田川ニ於テモ鐵道東海道線以北敷地川合流點間ノ新川開鑿工事又略竣功シ洪水ノ疏通ニ支障無カラシムル域

ニ達セリ而シテ本年度中ニ工事著手セルモノ築堤七箇所、掘鑿三箇所、護岸床固五箇所、附帶工事八箇所ニシテ前年度ヨリ施行中ノモノヲ合セ本年度施工中ニ屬スルモノ築堤二十九箇所、掘鑿十七箇所、護岸床固七箇所、假設物一箇所、附帶工事十三箇所ニシテ本年度中竣功セルモノ築堤十箇所、掘鑿六箇所、護岸二箇所、假設物一箇所、附帶工事十箇所ヲ除キ本年度末施行中ノモノハ築堤十九箇所、掘鑿十一箇所、護岸床固五箇所、附帶工事三箇所ナリトス

本年度ノ功程ハ掘鑿土砂約三十六萬四千二百立米ニシテ内掘鑿費支辨ノモノ四萬三千五百立米餘、此工費一萬三千八百八圓餘、築堤工事土量約四十五萬四千六百立米、全部築堤費支辨ノモノニシテ此工費十八萬三千八百五十七圓餘ナリトス而シテ工事ハ爾來主トシテ人力ニ依リ又場所ニ依リ土運搬ニ牛馬力ヲ以テシタルガ土取箇所ハ凡テ低水路ノ開鑿或ハ切擴ニシテ土質亦概ネ砂利若ハ硬粘土ニシテ掘鑿運搬共ニ困難ナル爲メ人夫ノ出役者少ナク充分ノ工程ヲ舉グル能ハズ工事區域ノ擴大ニ從ヒテ其度ヲ増大スルニ至レルヲ以テ前年度ヨリ更ニ小型掘鑿機並機關車各一臺ヲ使用シ専ラ逆川筋新水路掘鑿部ニ利用セシメタル爲メ相當工程ノ増進ヲ見タルモ掘鑿箇所ノ陝隘ナルト土捨箇所ノ短少ナル爲メ未ダ充分ノ能率ヲ發揮スルニ至ラズ

本年度ニ於ケル本川改修工事ノ竣功額ハ三十萬一千二百七十九圓ニシテ創業以來本年度迄ノ總竣功額ハ二百四十四萬四千十九圓トナリ總工費豫算四百八拾四萬三千圓ニ對シ約五割一分ニ當ル其工事竣功表ハ次ノ如シ但シ「*」ハ利用土量ヲ示ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計	
	數	金額	數	金額	數	金額
竣功						
歩合						

總計	本工事			附帶 工事費	用地 費	船舶及 機械費	測量 費	營繕 費	施行中 諸費	共濟組 合給與 金
	築堤 費	掘鑿 費	護岸 費							
	*	*								
	一、四四五、七六九粒	九一、六六〇	一、二八〇、五七〇			一、五三七段				
二、一四二、七四〇	五二二、一〇六	二四、八六六	四、〇七八	六、〇一六	二一、五五八	一、〇七五、五四〇段	二五四、〇二八	一一、三二四	一一、〇〇〇	二〇八、二四三
										二、八八一
	*	*								
	四五四、六七七粒	三二〇、六二〇	四三、五九三			二段				
三〇一、二七九	一八三、八五八	一三、八〇九	二五、三七六	二、二七四	二八、五四六	一、二八二	七、九〇五	九六二	一五一	三四、四八〇
										一、六三六
	*	*								
	一九〇、四四六粒	一、一三五、二五三	一、四四八、六七七			一、五三九段				
二、四四四、〇一九	七〇五、九六四	三八、六七五	二九、四五四	九、二九〇	五〇、一〇四	一、〇七六、八二二	二六一、九三三	一三、二八六	一一、二五一	二四二、七二三
										四、五一七
〇・五一	〇・六八	〇・五〇								

第二〇 富士川改修工事

(東京土木出張所)

緒言

本工事ハ大正九年度ヨリ同十八年度ニ至ル十箇年度繼續工事ニシテ工費九百三十萬圓(上流部七百萬圓、下流部二百三十萬圓)ナリシガ豫算編成當時ニ比シ一般物價及勞銀ノ昂騰甚シク工費ニ不足ヲ告グルヲ以テ同十二年度以降工費ヲ増額シテ一千二百萬圓(上流部九百萬圓、下流部三百萬圓)ニ改メ施行年度ヲ延長シテ同二十年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トセリ然ルニ財政緊縮ニ依リ更ニ同二十五年迄延長施行スルコトトナリタリ其區域ハ上流部ニテハ幹川山梨縣中巨摩郡龍王村ヨリ同縣南巨摩郡五開村ニ至ル二十軒支川笛吹川ハ同縣東八代郡石和町ヨリ同縣西八代郡市川大門町三川合流點ニ至ル十九軒、又下流部ニテハ靜岡縣庵原郡富士川町以下海ニ至ル八軒合計四十七軒ノ間ヲ改修スルモノナリトス

河狀並計畫ノ大要

富士川ハ幹川ヲ上流ニ於テ釜無川ト稱シ源ヲ山梨縣ノ西北隅ニ屹立セル駒ヶ嶽ノ西麓ニ發シ甲、信ノ境ヲ北流スルコト十八軒餘ニシテ南折シ同縣北巨摩郡ニ入り一大斷層谷ヲ流レ大武川、小武川、鹽川、御勅使川等ノ支川ヲ合シ中巨摩郡龍王村ニ至リ始メテ甲府盆地ニ出ヅ甲府盆地ハ太古一大湖水ナリシガ富士川ノ作用ニ因リ陸化シタル所ニシテ地形平夷面積一萬三千ヘクタールニ達シ灌溉ノ便全シト雖モ一朝洪水ニ際會セバ水災最モ慘狀ヲ來ス地方ナリ釜無川ハ之ヨリ盆地ヲ貫キ同郡忍村ニ至リ笛吹川及蘆川

ノ東ヨリ來ルニ會シ之ヨリ以下富士川ト稱シ南巨摩郡鰍澤町地先禹ノ瀨ニ至テ再ビ山地ニ入り南流シ早川、芝川等ノ支川ヲ容レ静岡縣富士郡岩松村ニ於テ再ビ平原ニ出デ駿河灣ニ注グ此平原亦本川砂礫ノ冲積セルモノニシテ其面積五千ヘクタールニ達シ古來水災激甚ノ地方ナリトス而シテ水源ヨリ笛吹川合流點迄ノ流程五十八軒、合流點ヨリ河口迄ノ流程七十一軒、合計百二十九軒ナリ又支川笛吹川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡ノ北隅甲武信ヶ嶽、國師ヶ嶽及奥千丈嶽ニ發シ山嶽ノ間ヲ西南ニ流レ同郡日下部村ニ於テ甲府盆地ニ出デ重川、日川、金川、荒川等ノ支川ヲ集メ忍村ニ至リ釜無川ニ合流ス其流程五十軒ナリ本川流域ハ長野、山梨、静岡ノ三縣ニ跨リ流域面積四千五百三十方軒ナレドモ其大部ハ山嶽部ニシテ平地ハ六百十方軒ニ過ギズ支川ヲ合セ流路延長一千七百八十軒、航路延長九十軒、灌溉區域一萬八千二百ヘクタール又水害區域一萬三千五百ヘクタールヲ算ス而シテ流域ハ山地大部ヲ占ムルニ依リ夏期颶風ノ候ニ於テハ豪雨頻々トシテ來リ山林濫伐ノ爲メ水源荒廢セルモノ尠カラズ又花崗岩、閃綠岩等ヨリ成レル山地ノ風化崩壞スルモノ多ク爲メニ出水量多大ナルノミナラズ時トシテハ土砂流ヲ生ジ而カモ河床勾配急峻、流勢急激ナルニ依リ堤塘ヲ破リ沿川ノ耕地ヲ變ジテ礫川ト化セシメ大慘害ヲ醸セシコト稀ナラズ殊ニ明治四十年ノ大出水ニ際シテハ笛吹川支川重川、日川、金川等ノ水源大崩壞ヲ來シ土砂ヲ以テ甲府平原ノ一半ヲ埋沒スルニ至レリ即チ同年ニ於ケル水害損失價額ハ一千二百萬圓ノ巨額ニ昇リ近時水害減少シタリト雖モ尙明治四十三年ヨリ大正八年ニ至ル十箇年間ニ於ケル一箇年平均水害損失價額九十五萬九百圓ニ達ス

本川改修計畫ノ要旨ハ洪水ニ因ル各種ノ損害ヲ防止シ併セテ沿岸耕地ノ排水ヲ良好ナラシメントスルモノニシテ本計畫ニ採用シタル高水流量及河幅ハ左ノ如シ

地方	河川名	區	間	洪水量流	河幅
山梨縣	釜無川	龍王村ヨリ笛吹川新合流點ニ至ル區間		三、一〇〇	至自
		石和町ヨリ荒川合流點ニ至ル區間		二、二〇〇	至自
		荒川合流點ヨリ蘆川合流點ニ至ル區間		二、五〇〇	至自
		蘆川合流點ヨリ富士川合流點ニ至ル區間		二、八〇〇	至自
靜岡縣	富士川	笛吹川新合流點ヨリ天神瀧ニ至ル區間		五、六〇〇	至自
		松野村ヨリ海ニ至ル區間		九、八〇〇	至自

改修方法トシテハ上流部山梨縣下ニ屬スル區域中釜無川筋龍王村以下同郡花輪村地先淺原橋ニ至ル部分ハ現今左右兩岸共堤防堅固且其位置宜シキヲ以テ在來ノ儘トシ唯兩岸堤脚ヨリ制水ヲ出シ流心ノ堤脚ニ接近スルヲ防ガントス又支川笛吹川ニ於テハ河積不定ナル箇所ハ河幅ヲ擴張シ掘鑿ヲ施シ又一部河床ノ隆起著シキ部分ニハ浚渫ヲ行ヒ堤防ノ薄弱ナル箇所ニハ嵩置腹付ヲ爲サントス而シテ現今笛吹、蘆ノ兩川ハ共ニ中巨摩郡忍村ニ於テ釜無川ニ合シ而カモ釜無川及蘆川ハ急流ニシテ河床高ク笛吹川ハ兩川ノ間ニ介在シ勾配緩ナルガ爲メ其合流口閉塞セラレ洪水ノ排疏頗ル困難ナルヲ以テ本改修ニ於テハ笛吹川ハ蘆川ト共ニ新河道ニ依リテ三籽ノ下流ニ導キ西八代郡高田村地内ニ於テ幹川ニ合セシメ笛吹川ノ疏通ヲ助ケントス富士川(釜無、笛吹、蘆ノ三川合流點以下ヲ富士川ト稱ス)南巨摩郡鰐澤町地先禹ノ瀨ニ於テ狹塞セラレ水面勾配緩トナリ從テ三川合流點以下ノ現川敷ハ計畫流量ヲ排疏スルニ足ラザルヲ以テ前述ノ如ク笛吹川ヲ分流シ河幅ヲ擴張シ堤塘ヲ嵩置シ加フルニ掘鑿ヲ施シ充分ナル流積ヲ與ヘントス

又禹ノ瀬以下ニ在テハ大柳川殆ント直角ニ本川ニ流入シテ其洪水疏通ヲ阻ムノ虞アルニ依リ床固ヲ築造シテ河床ヲ整正セントス尙蘆川、戸川及小柳川等ニシテ床固ヲ設クルモノトス
下流部ノ靜岡縣下ニ屬スル區域中富士郡岩松村以下東海道線鐵道橋以上ハ流勢ノ激衝スル所略一定スルヲ以テ現存工作物ノ機能ヲ增進セシムルニ努メ鐵道橋以下ニ於テハ水勢ノ激衝スル堤脚ニハ制水ヲ出シ左岸下流無堤ノ箇所ニハ新ニ堤塘ヲ設ク尙上、下流部改修區域ヲ通ジ堤塘護岸等ハ必要ニ應ジテ擴築或ハ增築ヲ爲スモノトス

山梨縣南巨摩郡五開村ヨリ靜岡縣庵原郡富士川町ニ至ル約五十軒ノ間ハ殆ント山間部ニシテ平地少ク洪水ニ因ル被害比較的重大ナラザルヲ以テ本改修計畫ニ計上セズ

堤防ハ上流部釜無川及富士川ニテハ馬踏六米兩法二割五分笛吹川ニテハ馬踏六米、兩法二割トシ其天端ヲ計畫高水位上南巨摩郡鰍澤町附近ニテ一米八ト爲シ上流ニ至ルニ從ヒ漸次此餘裕ヲ減ジ釜無川筋中巨摩郡藤田村大字淺原淺原橋ニテ一米五、笛吹川筋東八代郡石和町鶴飼橋ニテ一米二タラシム又下流部ニテハ左岸堤ハ馬踏八米ニシテ靜岡縣富士郡岩松村地先ニ於ケルモノハ表法三十割、裏法二割、同郡加島村及田子浦村地先ニ於テハ表法二割、裏法六割トシ右岸堤ハ馬踏六米、表法二割、裏法二割五分ヲ標準トシ天端ヲ計畫高水位以上一米八トシ河口ニ至ルニ從ヒ此餘裕ヲ減ジ一米タラシム

河幅ハ上流部釜無川及富士川ニテハ多クハ在來堤ヲ擴築セシニ止リ釜無川ニテ三百米乃至四百米、富士川ニテ三百六十米乃至五百米ナリ笛吹川ハ河積不足ノ爲メ引堤セシ部分尠カラズ二百米乃至二百九十米ナリ又下流部ニ於テハ多クハ在來堤ヲ擴築シ左岸無堤ノ箇所ニ新堤ヲ築設セシ爲メ河幅著シク不同ナリ即チ改修上流端一番出ニテハ三百六十米ナレドモ雁堤附近ニテハ九百米以上ニ増大シ國道橋ニテ

ハ再ビ四百米ニ縮小シ鐵道橋ニテハ五百七十米トナリ以下更ニ漸次擴大シ宮下突出部ニテ一千米、築堤末端ニテ一千七百米ニ達ス

施工狀況

本工事ハ大正九年度ノ創業ニシテ同年度ニ於テハ上流及下流ニ各土地收用事務所ヲ開設シテ土地買收調査ニ著手シ翌十年度ヨリ買收協議ヲ開始シ買收事務ノ進捗ニ伴ヒ下流ハ同十年八月、上流ハ同十三年六月、各收用事務所ヲ閉鎖シ殘部ハ上、下兩改修事務所ニテ處理スルコトトシ本年度迄ニ殆ンド全部ノ買收ヲ終レリ其段別百八十八町三段二十六歩ニシテ此買收金額ハ地上物件移轉料及補償費等ヲ合セ九十三萬三百五十五圓ヲ支出セリ

工事ノ施行ニ關シテハ下流ハ大正十年四月、上流ハ翌十一年一月、各改修事務所ヲ開設シ築堤、掘鑿及護岸制水工事等ニ著手シ前年度迄ニ築堤百八十九萬五千四百九十一立米、浚渫百三十五萬四千三百四十七立米、護岸制水延長二千二十五米及附帶工事水路附替延長三千四百五十九米ヲ施工シタリ

本年度ニ於テハ上流部ハ前年度ヨリ繼續ノ市川、上野、豊和(以上西八代郡)增穂、大柵(以上南巨摩郡)南湖(中巨摩郡)富笛ノ七築堤、市川、南湖、豊和、向新田、毛戸尻ノ五人力掘鑿、北畑護岸、第二玉石採集、運搬、戸川床固ノ三工事竝新ニ起工ノ上曾根(東八代郡)大塚(西八代郡)藤田(中巨摩郡)印川ノ左岸四築堤、上曾根、大塚、藤田ノ三人力掘鑿、今福(中巨摩郡)制水、同第二制水、新地護岸根固、北畑護岸根固、藤田制水、鐵筋混凝土材製作、南湖築堤復舊及北畑護岸復舊ノ八工事ヲ施工シ内北畑護岸、第二玉石採集運搬、戸川床固、今福制水、同第二制水、南湖築堤復舊及北畑護岸復舊ノ七工事ハ年度内竣成シ其他ハ未竣功ニ終リ外ニ鰍澤築堤、鰍澤、增穂、風早ノ三人力

掘鑿ハ工事上ノ都合ニ依リ休工セリ

工事著手區域ハ釜無川筋、淺原橋ヨリ下流、鯉澤町地先ニ至ル間及笛吹川筋、東八代郡白井河原橋以下、下流三川落合ニ至ル間ニシテ人力掘鑿工事ハ釜無川、富士川ノ高水敷及寄洲竝笛吹川高水敷及低水路ヲ掘鑿シ年度内四十一萬九千五百二十一立米築堤費支辨竣成シタリ又築堤工事ハ富士川、釜無川及笛吹川ノ新堤築設竝舊堤擴築ノ爲メ土砂四十一萬九千五百二十一立米ヲ堤敷ニ搬入シ三十八萬一千三百五十九立米ヲ築立テ法面芝付九萬八千四百九十九方米ヲ施工ス此外本年八月中旬富士川出水ニ際シ南湖築堤ノ一部表法先ニ流勢激衝シ堤脚在來ノ地盤崩壞シ本堤ヲ侵ス虞アルニ依リ法先缺所延長二百米二面積一千六千方米ノ鐵線蛇籠土砂留ヲ施工セリ

又護岸制水工事ハ戸川床固、新戸川左岸堤ニ於ケル北畑護岸、釜無川左岸淺原橋下流忍村地先ニ於ケル混凝土杭出制水、新戸川筋ニ於ケル新地護岸根固、北畑護岸根固及本年八月出水ニ際シ被害ヲ被リシ北畑護岸復舊工等ヲ施行シ床掘二千五百三十立米、石張二千五百七十方米、床固百五十六米、混凝土杭出百五十六米、護岸根固八百七十七米、延長一千四百六十四米ヲ竣成シタル外玉石三百三十立米ヲ採集運搬シ藤田制水杭出用鐵筋混凝土柱ヲ製作セリ

下流部ニ於テハ前年度ヨリ繼續ノ松岡、田子浦、岩本、加島以上富士郡、蒲原(庵原郡)ノ五築堤、田子浦人力掘鑿、石材斫出、第二石材運搬、第二鐵筋混凝土柱製作ノ四工事竝本年度著手ノ蒲原護岸、山下護岸、中之郷(庵原郡)富士川町制水、蒲原制水、宮下制水復舊、宮下床固制水、第三鐵筋混凝土柱製作、田子浦築堤復舊ノ八工事ヲ施行シ内田子浦人力掘鑿、蒲原護岸、宮下制水復舊、宮下床固制水、第三鐵筋混凝土柱製作及田子浦築堤復舊ノ六工事ハ竣功セリ

工事ハ前年度來富士川町以下全區域ニ互リ著手中ニシテ本年度ニ於テハ築堤用土一萬三千七百六十立米ヲ堤敷ニ搬入シ之ヲ築立テ法面芝付三萬二千八百五十五方米ヲ施工シ左岸堤延長四千三百七十米及右岸堤延長二千六百四十米ノ舊堤擴築及新堤築設ヲ竣へ左岸田子浦村地先新堤一千百九十米モ亦殆ソド竣成セリ而シテ本年八月中旬ノ出水ハ流路ニ急激ナル變化ヲ生ジ本流ハ再ビ田子浦築堤ニ接セントセシニ依リ同堤脚ニ混凝土大聖牛十一組、同中聖牛十二組、木材大聖牛十六組及同中聖牛七組、合計四十六組ヲ敷設シテ堤防ノ安全ヲ圖リタリ又同築堤著手直後堤脚ニ施設シタル聖牛及捨石ノ一部ハ同出水ノ爲メ流失シタルニ依リ田子浦築堤復舊工トシテ混凝土大聖牛二十組及捨石二千百六十三立米ヲ施工シ田子浦人力掘鑿ハ六千六百八立米ヲ施工シ年度内ニ竣功セリ

又護岸制水工事ハ右岸蒲原町竣富士川町地先ニ於テ蒲原護岸ノ全部、山下護岸及中之郷制水ノ各九割ヲ竣へ更ニ蒲原制水ヲ起工シタル外本年八月ノ出水ニテ被害ヲ蒙リシ宮下制水長二十米ヲ復舊シ尙同所附近ニ宮下床固制水ヲ新設セリ而シテ本年度ノ功程ハ床掘六千六百十立米、石張二千五百三十八方米、延長百八十四米ヲ施工シタル外混凝土方格枠一千九百六十四方米、混凝土大聖牛八組、鐵筋混凝土柱製作九千三百十六本、石材斫出一千六百七十立米、石材運搬一千七百八立米ナリトス

本年度功程ハ上、下流ヲ合セ人力掘鑿四十二萬六千二百二十九立米(内四十一萬九千五百二十一立米ハ築堤費支辨築堤土量四十三萬三千二百八十一立米、護岸制水ノ延長一千六百四十八米ニシテ工費合計三十八萬四千三百二十七圓ヲ支出セリ

本改修工事年度内竣功額ハ四十六萬三千二百二十三圓ニシテ起工以來ノ累計ハ三百五十八萬一千七百七十八圓トナレリ之ヲ總工費豫算一千二百萬圓ニ比較スルトキハ約二割六分ノ竣功ナリトス左ニ工事

竣功表ヲ掲グ但シ表中「*」ハ利用土々量、「△」ハ製作品使用價額

種別	前年度迄竣功額		本年度竣功額		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	一、八九五、四九一	一、三三一、五九一	四三三、二八一	二七四、三五〇	二、三二八、七七一	一、五八五、九四一	〇・四九
本工事 護岸制水費	* 一、二七九、六四〇 二、〇二五	五三、〇五五 二二一、七三九	* 四一六、六〇八 一、六四八	三、七一四 一〇六、二六三	* 一、六八九、三一五 三、六七三	五六、七六九 三二八、〇〇二	〇・三二 〇・〇八
附帶工事(管理者施工)	段 一、八七三、九〇四	九二六、二三七	段 九・一二二	四、一九九	段 一、八八三、〇二六	九三〇、三五六	〇・九八
用地費		三四〇、七五七		二、三四九		三六二、一〇六	
船舶及機械費		一二、八二九		一、九二一		一四、七五〇	
測量費		二一、三〇五		九五三		二二、二五八	
營繕費		二一八、〇七一		四六、六六二		二六四、七三三	
施行中諸費		三、三一四		一、九七三		五、二八七	
共済組合給與金							
總計		三、一一八、五五五		四六三、二四三		三、五八一、七七八	〇・二六

第二一 圓山川改修工事

（大阪土木出張所）

緒言

本川ハ從來第二期川ニ屬シタルモ關係地方ニ於テ急施ヲ請願シ第一期川ニ準ジ大正九年七月ニ於ケル臨時議會ノ協賛ヲ經テ國庫ヨリ工費半額ヲ補助シ且明治三十年法律第三十七號第一條ニ依リ内務大臣ニ於テ事業ヲ直接施行スルコトトナレルモノニシテ當初大正九年度ヨリ同十八年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシテ總工費豫算五百萬圓（事業費四百六十五萬圓、事務費三十五萬圓）ナリシガ其後歐洲戰亂ニ起因スル物價及勞銀ノ昂騰ニ依リ豫算二割五分ヲ増額シタルガ爲メ總工費豫算六百二十萬圓（工事費五百九十一萬一千圓、事務費二十九萬八千圓）トシ施行年度又延長セラレ大正二十三年度ニ至ル十五箇年度ノ繼續事業トナレリ

其工事施行區域ハ幹川左岸兵庫縣城崎郡國府村、右岸同郡中筋村以下海ニ至ル二十三軒三、支川出石川左岸兵庫縣出石郡室埴村、右岸同郡出石町以下圓山川合流點ニ至ル九軒四ナリトス

河狀並計畫ノ大要

本川ハ源ヲ兵庫縣朝來郡生野町圓山宇内尾谷ニ發スルヲ以テ圓山川ノ稱アリ兵庫縣下ニ於テハ加古川ニ亞グ大河ニシテ其流域但馬ノ大部分ヲ占メ沿川ニハ豐岡町ヲ初メトシ城崎、出石、八鹿、和田山ノ諸名邑アリ河口ニハ津居山ノ要津ヲ有ス但馬唯一ノ平野ヲ南北ニ貫流シ日本海ニ入ル水運ノ便、灌漑ノ利アル

モ比年洪水頻リニ臻リ近年ニ於テハ明治四十年八月以來大正元年同七年同十年及大正十二年九月ノ洪水ノ如キ其被害甚大ニシテ沃野家屋殆ソド水底ニ葬ラレ一望大湖ノ觀アリ加フルニ其減水遅々トシテ數日ニ互リ慘狀言語ニ絶ス然カモ豊岡盆地ハ地盤低濕ニシテ中位ノ出水ニ際シテモ其汎濫區域廣ク被害亦大ナリシ

流域總面積一千三百十方籽餘ニシテ幹川流路ノ延長六十七籽餘支川ヲ合シ六百三十籽ニ達ス其平地面積凡ソ百九十六籽ニシテ全流域ノ一割四分ヲ占ム支川ノ主ナルモノヲ大屋八木及出石ノ各川トス本流域ハ降水日數極メテ多ク明治三十一年以後大正十二年ニ至ル二十六箇年ノ平均ニ依ルニ一箇年ノ降雨日數百九十日ニ及ブ其降水總量二千耗ニ近ク一日ノ最大量二百五十耗(明治四十年八月西氣城崎)ニ達ス水害ハ殆ソド毎年之ヲ見ザルハ無ク時ニ一箇年數回ニ及ブコトアリ明治四十年大正六年同七年同十年同十二年ハ近年ニ於ケル顯著ナルモノニシテ大正七年ノ洪水ノ如キハ湛水段別三十九立籽六浸水家屋三千餘戸ニ及ビ其損失見積價額二百十三萬圓ニ達シ同十年ニハ百八十六萬圓ノ損失ヲ招ケリ本改修計畫ノ要旨ハ洪水防禦ニ在ルヲ以テ高水量ニ對スル相當ノ河積ヲ與ヘテ高水時間ノ短縮ヲ圖リ屈曲甚シキ箇所ニハ新川ヲ開鑿匡正シ以テ疏通ヲ速カナラシメ堤防ハ新設又ハ増築シテ汎濫ヲ防ギ併テ各支川ニハ逆水樋門ニ依リ逆水ノ防禦ニ供ヘントス計畫高水流量ハ出石川合流點以上幹川ニ於テハ二千五百立米同下流二千七百八十三立米出石川ニ於テハ五百立米トシ計畫高水位ハ大體ニ於テ大正元年ノ高水位ニ準據ス

幹川筋城崎郡日高村ヨリ同郡國府村八代川合流點附近ニ至ル間ハ大體現狀ニ依リ河狀ヲ整理シ堤防ノ補強ニ止メ以下同郡豊岡町ニ至ル間ハ河幅ノ擴張ヲ爲スト同時ニ同郡中筋村大字伏新田村大字鹽津間

及新田村大字立野其他ニ新川ヲ開鑿シ之レニ依リ高水ヲ快疏セシム豊岡町以北玄武洞ニ至ル間ハ又河積ヲ擴大スルノ要アリ之レヨリ下流ハ所謂山間部ニシテ處々河積陝隘ノ箇所アルモ比較的不急ノ工事ナルヲ以テ其特ニ著シキ障碍トナル箇所ニ除却工事ヲ施シ城崎町ハ一部之ニ築堤ス河幅ハ出石川合流點附近ニテ三百米トシ漸次擴大シテ同郡田鶴野村大字赤石ニ於テ約三百六十米ニ達セシム幹川堤防ハ馬踏幅五米五表法勾配二割裏法二割ヲ以テ堤防頂點ヨリ二米ヲ下リテ幅三米ノ小段ヲ置キ以下二割五分勾配ヲ以テ下ル計畫堤防ハ計畫高水位ニ對シ一米二ノ餘裕アラシム出石川ハ兩岸堤防ノ位置甚不規則ナルモ河幅概シテ廣濶ナルヲ以テ概ネ現状ニ則ルコトトシ只其中流部及下流部ニ於テ特ニ陝隘ナル箇所介在セルヲ以テ最小幅員ヲ百米トシテ擴大ヲ行フモノトス其堤防ハ馬踏幅五米五表法勾配ハ表裏共二割トシ馬踏高ノ計畫高水位ヨリ零米九乃至一米二ノ餘裕アラシム

堤防總延長四十餘軒ニシテ所要土量約三百萬立米ナリ其掘鑿並浚渫土砂ハ約三百八十五萬立米トス護岸工ハ河道ノ彎曲セル部分又ハ流勢ノ激衝スル部分ニ施行シ現在定著セル河岸ハ可成之ヲ利用セントス

樋門ノ主ナルモノヲ舉グレハ六方川、八代川及奈佐川ノ逆水樋門ニシテ其他城崎町ニ於テハ大溪川吐口ニ亦豊岡町ニテハ北端舊川締切箇所ニ逆水樋門ヲ設置シ逆水ニ備ヘ兼テ惡水排除及舟運ヲ司ラシム

附帶工事ハ用惡水路ノ新堤防ヲ貫流スル箇所ニ施行スベキ樋門ノ類ヲ始メトシ橋梁、水路等三十餘箇所ニ及ベリ

施工狀況

本改修工事ハ大正九年度ニ著手セリト雖モ同年度ハ測量準備ニ止マリ同十年度及十一年度共ニ實施測量ト共ニ下流部ノ幅杭ヲ設置シ第一次第二次ニ互リ幹川一里三十一町ヨリ三里二十八町ニ至ル間ノ土地買収ヲ行ヒ大正十一年五月一日以降工事ニ著手セリ

本年度施工區域ハ前年度ニ引續キ城崎郡新田村今森圓山川幹川町杭三里二十八町以下同郡田鶴野村赤石町杭一里三十一町間及河口城崎郡港村大字津居山ニ於ケル河口浚渫ニシテ使用土工器械ノ主ナルモノハ二百噸掘々鑿機一臺、二十噸機關車一臺、五噸機關車二臺、三噸瓦斯倫機關車一臺、三立米積土運車百臺並六立米積土運車五百五十臺トス

津居山浚渫用トシテ二百噸掘浚渫船並曳船足羽丸各一隻及四十八立米積木造土運船二隻六十立米積鋼製土運船一隻ヲ有ス

右岸城崎郡田鶴野村大字船町以北ハ掘鑿九割、築堤八割ヲ竣成シタルヲ以テ田鶴野村右岸區域ハ殆ト洪水防禦ノ目的ヲ達セリトスベキ乎

左岸豐岡町以北又小段以下ノ築堤盛土ヲ終ヘタルモ大正十四年五月突發セル但馬震火災ニ依ル影響ヲ受ケ家屋ノ新築工事一時ニ旺盛ヲ極メ以テ同町大字小田井ノ移轉意ノ如クナラズ從テ同地掘鑿ノ遅々タルハ遺憾トスル處ナリ

三里五町半ヨリ同十五町ニ至ル立野機械掘鑿ハ前年度迄ニ地均工ヲ了ヘ本年度ニ於テ愈々掘鑿機作業ヲ開始シ延長約四百五十米ノ新水路ヲ開鑿シ掘上ゲ土砂ハ同區間左岸築堤ニ利用セリ

同區間以上ハ將來機械掘鑿ニ依ルモノナルヲ以テ地均工ニ止メタリ河口浚渫ハ從來本川吐口ニ於テ土砂堆積シ河口ノ疏通ヲ缺キタルヲ以テ町杭零里零町ヨリ沖へ四百十米ニ互リ約五萬六千立米ノ土砂ヲ

浚渫シ掘上ゲ土砂ヲ二籽沖日本海ニ投棄セントセルモ時恰モ日本海方面荒天ノ時期ニ向ヒ作業意ノ如クナラザリシ

本年度ニ於ケル工事ノ竣功セルモノハ田鶴野村大字下鶴井掘鑿、同村大字野上人力掘鑿、野上第二人力掘鑿、同村大字宮島人力掘鑿、同村大字一日市人力掘鑿、一日市護岸、新田村大字立野築堤裏護岸トス
 斯ノ如クニシテ本年度迄ニ築堤ハ全部ノ約二割掘鑿浚渫ハ同ジク約三割ヲ竣功セシメタルヲ以テ本年度ノ出水ニ依ルニ豊岡町以北ハ既ニ改修ノ效果ヲ見ルニ至レリ
 收用事務ハ本年度中既買收地三里二十八町、新田村大字今森以南中筋村大字伏ニ至ル堤外地ヲ第三次トシ買收ヲ殆ント完了セリ

附帶工事ハ豊岡町外十四箇町村治水事務組合ノ申請ニ係ル田鶴野村地内下鶴井悪水路、宮島樋門、一日市吸水管ニ著工セリ

本川改修工事ノ本年度竣功高ハ三十一萬四千五百七十九圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計二百四十四萬一千九百九十七圓ナリ之ヲ豫算額五百九十一萬一千圓ニ比スルニ四割四分ノ竣功トナル其工事竣功表左ノ如シ但シ「*」ハ貫土々量ヲ示シ「x」ハ直營所出石材及採集砂利價額、「□」ハ管理者負擔額、「○」ハ無價品見積額、「▲」ハ捨土出願者負擔額ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	* 七五二、八〇七 <small>粒</small>	▲OX 一七、九七六 七三〇	* 二七八、六二九 <small>粒</small>	▲OX 一〇、四〇一 五九三	* 一、〇三三、四三六 <small>粒</small>	▲OX 二八、三七七 五九三 七三〇	〇・二〇 <small>割分</small>

總計	施行中諸費	船舶及機械費	附帶工事補助	用地費	本工事	
					護岸制水費	掘鑿費 浚渫費
					米	九三三、一六七
▲○□×	▲○	○□	○□	▲○	▲○	三〇一、七〇八
二、二二七、四一八 一六、六七四 二二、二五四	一一八、八八三	二五六、〇一五		一、三六五、二六四	一六、三五七二 三、六六二	一八、五一五
					米	二八六、七五八
▲○□×	▲○	○□	▲○×	▲○	▲○	一一一、五二二
三一四、五七九 四、三六五 六、二四七	五二、四四七 一二六	三四、七二八	九、一〇九 四、三一六	七八、八九五	三〇六、八 一四一	六一、八二
					米	一一、七五九
▲○□×	▲○	○□	▲○×	▲○	▲○	一、二〇九、九三三
二、四四一、九九七 一、四三、三六五 二八、四八八	一七、一三〇 五二六	二九〇、七四三	九、一〇九 二、一六九	一、四四四、一五九	一、五四六	四一三、三三〇
					米	二四、六九七
○・四四			○・〇三	○・八一		○・三〇
						四分

第二二二 木曾川上流改修工事

(名古屋土木出張所)

緒言

木曾川上流改修ト稱スルハ單ニ木曾川本流ノミヲ改修スルノ謂ニ非ズ所謂木曾川系統ニ屬スル河川ノ主要ナル長良、揖斐、叡ノ諸川ヲモ併セテ改修セントスルモノナリ本川ノ流域ハ長野、岐阜、滋賀、三重、愛知ノ五縣下ニ跨リ其流末ノ貫流スル處ハ即チ尾濃、勢ノ平野ニシテ利害ノ最モ重大ナル部分タリ此區域ハ人口稠密、田野遠ク展ケ農桑ノ業盛ニシテ交通ノ便開ケ産業大ニ發達セリ灌溉ノ利、舟楫ノ便等古來河川ノ惠澤ニ浴スルコト多大ナルモ洪水ノ害ヲ被ムルコトモ亦莫大ニシテ一朝破堤センカ廣袤幾萬町歩ノ平野ハ忽チ水底ニ沒シ人畜ノ死傷、財産ノ損耗舉テ數フベカラズ就中明治二十九年ノ洪水ノ如キハ其慘害言語ニ絶シ尙世人ノ記憶ニ新ナル所ナリ而シテ尾ノ一部、濃勢大部ノ平地ハ地勢低濕ナルヲ以テ假令破堤ノ難ヲ免ルト雖モ少シク霖雨ニ際會セバ惡水停滯シテ容易ニ排疏セズ稻田爲ニ水腐ニ歸シ三年一穫ノ如キハ寧ろ竊ニ僥倖トスル所ナリキ事情此ノ如キヲ以テ古來屢々改修ノ舉アリシモ其施工多クハ局部ニ止マリシガ爲メ未ダ充分ナル效果ヲ奏スルニ至ラザリキ然ルニ明治ノ昭代ニ至リ上段述ブルガ如キ慘狀一日モ看過スベカラザルヲ以テ内務省ハ夙ニ木曾、長良、揖斐三川ノ改修ヲ企テ明治二十年度ヨリ改修工事ニ著手セリ其目的ハ洪水ノ被害ヲ避ケ惡水ノ疏通ヲ圖リ兼テ舟楫ノ便ヲ改良セントスルニ在リ而シテ其方法ノ主眼トスル所ハ三川ヲ分流シテ伊勢灣ニ注ガシムルモノニシテ所謂三川分流是レナリ爲ニ彼此連絡ノ諸派流ヲ閉塞シ各河路ヲ匡正シ水量ニ應ジテ河幅ヲ規定シ堤防ノ改築ヲ行ヒ該分流

ノ工事ヲ終結シタルハ同三十三年度ニ在リテ全部ノ完成ヲ告ゲシハ大正元年度ナリキ其結果ハ豫期ノ効益ヲ舉グルコトヲ得テ關係區域ハ全ク在來ノ面目ヲ一新セルノ觀アリ然ルニ右改修區域ノ上流ニ屬スル部分ハ河幅狹隘、屈曲當ヲ得ザルノ箇所アリ且河底埋堆シ堤防亦薄弱ナルノミナラズ無堤ノ箇所スラ在リテ洪水ノ脅威ヲ感ズルコト痛切ニシテ出水毎ニ地方民ハ必死ノ努力ヲ費シテ水防ニ努メ以テ僅ニ破堤ヲ免ルルノ現狀ナリ若シ夫レ一朝破堤ノ厄ニ會センカ雷ニ上流廣漠タル平野ヲ水底ニ没スルノミナラズ濁流更ニ下流ヲ襲ヒ下流改修ノ效果ヲ没却スルノ虞アリ是レ上流改修ノ必要ナル所以ナリ
本工事ハ當初大正十年度ヨリ同十九年度ニ至ル十箇年度繼續事業ノ豫定ナリシガ同十一年度ニ至リ十二箇年度繼續事業トナリ更ニ同十二年九月一日ノ關東大震災ノ影響ニ依リ施行年度ヲ五箇年度延長シ結局十七箇年度繼續事業トシ總工費二千萬圓(内愛知縣負擔六十八萬四千圓、岐阜縣負擔四百七十四萬五千圓)ヲ以テ木曾川ニ在テハ愛知縣丹羽郡犬山町以下既成部ニ至ル間約三十一軒、支川ニ在テハ長良川ハ岐阜市以下約二十七軒、揖斐川ハ岐阜縣揖斐郡北方村以下十八軒、藪川ハ同縣本巢郡山添村根尾川分派點以下揖斐川合流點ニ至ル間約十二軒、牧田川ハ流末約四軒ヲ改修セントスルモノナリ

河狀竝計畫ノ大要

木曾川ハ源ヲ長野縣西筑摩郡木祖村ナル鉢伏山ニ發シ高山峻岳重疊タル木曾溪谷ヲ奔流シ大小數多ノ溪流ヲ併セ同村大字藪原、神島町、駒ヶ根村大字上松等ノ山村ヲ過ギ岐阜縣下ニ入リ丘陵ノ間ヲ經過シ迂餘曲折數次加茂郡八百津町ヲ過ギ大支飛彈川ヲ右方ヨリ合セ同郡太田町ニ至リ少許ニシテ尾濃ノ國界ヲ流レ愛知縣丹羽郡犬山町ニ至ル此ヨリ地勢俄然展開シ所謂尾濃、勢ノ平野ニ出デ以下始メテ堤防ノ設

備アリ犬山町以下少許ニシテ亂流數條ニ岐レ岐阜縣羽鳥郡川島村ヲ擁シ更ニ西流スルコト約三十一糎、同縣同郡八神村ニ至ル夫レヨリ下流ハ既改修部分ニシテ流下スルコト約三十一糎、三重縣桑名郡伊曾島村、木曾岬村間ニ於テ伊勢灣ニ朝宗ス流路長約二百二十糎ニシテ灌溉段別約二萬四千五百九十ヘクタール、流域面積約五千二百七十五方糎ニシテ内山地面積四千百十八方糎、平地面積一千百五十方糎ナリ、長良川ハ岐阜縣郡上郡高鷺村字奥本谷ニ發源シ南流シテ同郡八幡町、武儀郡美濃町等ヲ過ギテ吉田、板取、武儀、津保ノ諸川ヲ容レ方向ヲ西ニ轉ジ金華山ノ北麓ヲ經テ岐阜市ニ至リ平地ニ出ヅ次デ右方ニ長良古川ヲ分派シ本流ハ市ノ北境ヲ流レテ本巢郡合渡村大字一日市場ニ至リ再ビ古川ヲ容レ西南ニ折レ東海道橋ノ上ニ至リ右支糸貫川ヲ合ス夫ヨリ安八郡墨俣町ヲ經テ海津郡吉里村大字成戸ニ達ス之ヨリ以下ハ即チ既改修部分ニシテ南流スルコト約二十四糎、三重縣桑名郡伊曾島村地先ニ至リ揖斐川ト合シ伊勢灣ニ注グ下流改修前ニ在テハ前記成戸ニ於テ木曾川ニ合流セシモ改修ノ結果分流スルニ至リシモノナリ、流路ノ長ハ約百四十九糎ニシテ灌溉段別約一萬二千七百三十八クタールニ及ビ流域面積約三千三百十三方糎ニシテ内山地面積約一千八百九十七方糎、平地面積ハ四百十六方糎ナリ、揖斐川ハ源ヲ岐阜縣揖斐郡德山村ナル奥山ニ發シ始メハ東南ニ流レ後南折シテ本巢郡北方村ニ至リ平坦部ニ出デ始メテ堤塘ノ設置アリ夫ヨリ揖斐郡揖斐町ヲ經テ同郡養基村大字脛永ニ至リ右支粕川ヲ容レ更ニ本巢郡川崎村大字宮田ニ於テ根尾川ノ分流藪川ヲ容ル夫ヨリ南流シテ呂久ヲ過ギ東海道鐵道橋ニ達ス以下ハ既改修部分ニシテ養老郡池邊村ニ至リ右支牧田川ヲ合シテ同村大字今尾ヲ經更ニ津屋川ヲ合シ濃勢ノ國界千本松ニ至リ以下長良川ト瀬割堤ヲ距テテ相竝ビ遂ニ同川ト合シ三重縣桑名町ヲ經テ同郡城南村地先ニ至リ海ニ注グ流路ノ長約九十八糎ニシテ灌溉段別約一萬四千七百二十ヘクタール、

流域面積約一千五百十一方糎ニシテ内山地面積一千二方糎、平地面積五百九方糎ナリ

支川根尾川ハ源ヲ岐阜縣本巢郡根尾村ノ山中ニ發シ南流シテ山添村大字山口ニ至リ始メテ平坦部ニ出デ二派ニ岐ル右派ハ藪川ト稱シ西南ニ流ルルコト約十糎、本巢郡川崎村ニ於テ楫斐川ニ入ル左派ハ糸貫川ト稱シ東南ニ流ルルコト約十六糎ニシテ同郡生津村ニ至リテ長良川ニ注グ流域面積ハ約四百十六方糎ニシテ流路ノ長ハ約五十九糎ナリ

木曾川ノ水害ハ古來激甚ニシテ其度數モ亦頻繁ナリ特ニ西濃地方ハ我邦ニ於ケル稀有ノ水害地ニシテ是レ地勢低窪ナルノ致ス所ナリト雖モ一ハ河川ノ狀況不良ナルニ起因セズンバアラズ而シテ各川有堤部ニシテ一朝破堤センカ水害ヲ被ルベキ虞アル段別ハ岐阜縣管内四萬七千四百三十四ヘクタール、愛知縣管内四萬四千七十二ヘクタール、三重縣管内四萬七百ヘクタール、合計九萬六千二百六ヘクタールナリ上流改修計畫ハ主トシテ下流改修工事既成部分ノ上流ヲ改修セントスルモノニシテ其方法ヲ舉グレバ左ノ如シ

木曾川ハ局部ヲ除キ河狀概シテ良好ニシテ相當ノ河幅ヲ保チ不良ノ屈曲無ク河底甚シク埋堆セルモノ無キヲ以テ大體現狀ニ依リテ著シキ變更ヲ加ヘズ唯近年出水ノ趨勢ニ鑑ミ兩岸舊堤ヲ擴築シテ馬踏幅七米、兩法二割トシ小段ヲ附シ天端ノ高ヲシテ高水面上二米五ノ餘裕ヲ保タシメントス唯岐阜縣羽島郡川島村地先ニ於テハ河身數派ニ岐レ出水ノ都度其趨勢ヲ異ニシ爲ニ堤防ニ惡影響ヲ及ボシ其危險ヲ惹起スルノ虞アルヲ以テ數多ノ支派流ヲ遮斷シテ河身ヲ固定シ以テ洪水ノ際其快流ヲ圖リ併セテ堤防ニ向ヒ奔流スルノ危險ヲ防止セントス本水路ハ相當ノ河積ヲ保タシムル爲メ多少ノ掘鑿ヲ施シ兩岸ハ前後ノ護岸高ニ準ジ適宜之ヲ施工シ以テ該附近ノ耕地ヲ保護セントス

長良川ハ岐阜市附近ニ於テ古川、古々川ノ兩川ヲ分派シ洪水ノ際ハ其幾分ヲ兩派ニ依リテ疏通スルノ現狀ナルモ此ノ如キハ河狀荒廢ノ原因トナリ得策ニ非ザルヲ以テ今回兩派川ヲ締切リ本流ハ河幅陝隘ヲ擴大シ三百米乃至四百米ト爲サントス而シテ現在河幅ノ之ヨリ廣キ部分ハ其儘トシ舊堤ニハ増築ヲ施シ堤防ノ大サハ馬踏幅七米、兩法二割トシ尙小段ヲ附シ天端ノ高ハ大體ニ於テ高水位上二米五ノ餘地ヲ保タシメントス而シテ必要ナル河積ヲ與フル爲メ堤防間ニ於テ適當ノ幅ヲ定メ掘鑿ヲ施シ且河渡以下ハ低水敷ヲ規定シ浚渫ヲ施シ以テ既成部分ニ連絡セシメントス

楫斐川、藪川合流點以上ハ局部ヲ除キ現在河幅可ナリ廣キヲ以テ増大スルヲ要セズ大體ニ於テ舊堤ニ擴築ヲ施シ同川合流點以下ハ從來無堤ニシテ洪水ノ際兩岸廣濶ナル區域ニ汎溢セルヲ以テ今回之ヲ防止スル爲メ適當ノ河幅ヲ定メ兩岸ニ築堤ヲ爲サントス堤防ノ大サハ藪川合流點以上ハ馬踏幅五米五、兩法二割、同合流點以下ハ馬踏幅七米、兩法二割トシ高サ大ナル箇所ニハ小段ヲ附シ天端ノ高ハ高水位上二米五トス尙必要ナル河積ヲ與フルガ爲メ相當ノ掘鑿ヲ爲シ又藪川合流點以下ノ低水路ヲ定メ少許ノ浚渫ヲ施シ以テ既成部分ノ低水路ニ接續セシメントス

根尾川ノ一派タル糸貫川ハ其分派口附近ニ於テ締切リヲ施シ尙樋門ヲ設ケ灌溉等ニ必要ナル水量ヲ流過セシム從ツテ根尾川ノ洪水ハ總テ藪川ニ流下セシムルモノトス

藪川ハ大體ニ於テ現在ノ河幅廣大ナルヲ以テ局部ノ外ハ別ニ擴大セズ舊堤ノ増築ヲ施スニ止ム堤防ノ大サハ馬踏幅五米五、兩法二割ニシテ成ルベク小段ヲ附シ天端ハ高水位上二米ノ高サヲ保タシメ尙河中ニ於テ必要ナル掘鑿ヲ施スモノトス

牧田川ハ高淵ノ狹窄部以下ニ改修ヲ加フルモノトス

木曾、長良、揖斐、敷、牧田ノ五河川共必要ナル箇所ニ相當ノ護岸竝制水ヲ施工シ尙締切箇所等必要ナル處ニハ樋門ノ設備ヲ爲サントス而シテ既成改修工事ニ屬スル區域ト雖モ近時出水ノ趨勢ニ鑑ミ前回改修ノ際工事費等ノ都合ニ依リ充分改良ヲ加フルコト能ハズシテ現時尙堤防薄弱、惡水排除ニ障害アル箇所等差シ措ク可ラザルモノニ對シテハ精査ノ上相當ノ施設ヲ加フルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正十年年度ニ創業スルヤ直ニ地幅杭設置測量ニ從事シ大正十一年一月土地收用事務所ヲ岐阜縣羽島郡竹ヶ鼻町ニ開設シ同十三年四月ニハ該事務所ヲ同縣稻葉郡加納町ニ移轉シ專ラ收用事務所ヲ執行セシガ當初所要ノ土地ノ殆ンド全部ノ買收ヲ了リテ一段落ヲ告グルニ及ビ事業ノ狀況ニ依リ土地買收ヲ一時中止スルノ得策ナルヲ認メ同十三年十一月收用事務所ヲ廢止シ其殘務ハ改修事務所ニテ整理スルコトトシタリ其買收區域ハ木曾川筋神明津地先及川島村新川敷地、長良川筋安八郡小藪村以北同郡墨俣町間、揖斐川筋霞堤ノ局部ヲ除キ殆ンド全部ニシテ其總段別二百五十町九段一畝十八步七合九勺此價額百四十五萬四千八百七十二圓二十四錢、地上物件移轉料竝河川敷占用禁止、補償金四十六萬七百七十二圓五十三錢ナリトス而シテ工事施行ニ關シテハ大正十二年一月岐阜市忠節町ニ木曾川上流改修事務所ヲ設置シ諸機械類ノ購入其他施行ニ關スル調査準備等ヲ急ギ同十二年七月先ヅ揖斐川筋ニ工ヲ起シ次デ同年十一月長良川筋ニ翌十三年十二月更ニ木曾川筋ニ著工セリ爾來操業ノ圓滑ヲ圖ルト共ニ將ニ施工ノ區域ヲ擴張セントスルヤ偶同十二年九月一日ノ關東大震災ノ影響ニ依リテ施行年度ノ繰延トナリ年度割豫算額ニ變更ヲ來セシガ爲メ功程ヲシテ尙一層良好ナラシムルヲ得ザリシハ遺憾トスル所ナ

リ而シテ本年度迄ノ竣工高ハ掘鑿二百二十萬三千五百三十一立米、築堤二百四十九萬二千八十七立米、護岸四千五百米、制水一千三百六十四米六及假工事三箇所ニシテ總工費百十萬五千八十四圓ナリトス本年工度工事施行區域ハ楫斐川ニ在リテハ岐阜縣本巢郡鷺田村及川崎村、安八郡下宮村及神戸町楫斐郡川合村、長良川ニ在テハ同縣羽島郡小藪村、八神村、堀津村、海津郡海西村、木曾川ニ在テハ同縣羽島郡川島村ニシテ各川筋ニ呂久、堀津川島ノ三工場ヲ置キ其下ニ若干ノ派出所ヲ設ケ機械掘鑿三箇所、人力掘鑿四箇所、築堤六箇所、護岸五箇所、制水二箇所、假工事二箇所ヲ施行シ此竣工額ハ三十七萬一千七百四十五圓ナリ今其施工ノ概況ヲ述ブレバ次ノ如シ

楫斐川筋呂久附近ノ新水路附替工事ナル呂久第二人力掘鑿、呂久機械掘鑿、呂久左岸制水、呂久左岸護岸ノ四工事ハ本年度内ニ完成シ呂久人力掘鑿工、呂久左岸築堤工モ亦附帶工事ノ都合上其僅カヲ殘スノミニシテ略竣成セリ而シテ本年度七月七日ニ新水路ヲ通水セシメ同八月十七日ノ高水ヲ放流セシメタル結果ハ其成績頗ル良好ニシテ河狀ノ面目ヲ一新セリ

下宮及神戸附近ニ於ケル護岸、制水、築堤等ノ諸工事ハ昨年度ニ於テ既ニ完成セリ本年工度ニ於テハ川合附近ニ於ケル制水、護岸ノ工事モ亦昨年度ニ完成シ川合築堤工ハ本年度ニ入りテ竣工セリ唯本年度ニ著工セシ川合第二築堤工ノミハ約七割ノ工程ヲ竣へ來年度ニ繼續施行ス

長良川筋小藪方面ニ於テハ下流改修當時廢川ヲ締切ラザリシ結果新水路ノ洪水敷ニ堆積セル土砂ヲ掘鑿スベキ小藪人力掘鑿工ハ本年度ニ竣成ヲ告ゲ小藪第二人力掘鑿工ハ約八割ヲ竣工セリ而シテ其掘鑿土ヲ主トシテ利用スル廢川締切工ヲ含ム小藪第二築堤工ハ約五割ノ工程ヲ告ゲ附近舊堤高マデ築立シ得タルヲ以テ本年度ノ洪水ヲ完全ニ防禦セリ西小藪樋管工事ハ附帶工事トシテ本年度ニ著手セシガ其

工程約六割ヲ進捗セリ下流改修堤ノ補修工事タル小藪築堤工ハ前年度ニ竣ヘ其上流八神築堤工ハ四割ヲ竣成シ八神護岸工ハ年度内ニ全ク竣功セリ

堀津及海西附近ニ於ケル堀津人力掘鑿工ハ昨年度ニ工ヲ了リ堀津築堤工ハ僅少ノ工事ヲ殘シテ殆ンド竣成シ其對岸ノ稍々廣濶ナル洪水敷ニ施工セル海西機械掘鑿工ハ約七割ノ竣功ヲ見タリ

木曾川筋ナル川島方面ニ於ケル河田島護岸工及河田島制水工ハ完成シ年度内ニ著工セル松原島護岸工ハ九割笠田護岸工ハ五割ノ工程ヲ進メタリ

木曾川上流改修工事ノ本年度ノ竣功額ハ五十六萬三千百四十五圓ニシテ起工以來本年度迄ノ總支出額ハ四百十萬六千四百三十二圓ナリ之ヲ既定總豫算額二千萬圓ニ比較スルトキハ二割一分ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	* 一、四八六、〇六六	二〇七、七七二	* 二九七、八八〇	一一〇、三九二	* 一、七八三、九四六	三一八、一六四	〇・二九
	一、四〇二、七五〇	三三〇、五三一	三〇五、三九一	一六、一五一	一、七〇八、一四一	五三一、七五三	〇・二二
掘鑿費	一、五六八、〇九九	三七〇、二四二	六三五、四三二	九三、二〇二	二、二〇三、五三一	二四六、一四三	〇・一一
護岸制水費	三三三、三三〇・六	一五二、九四一	二、〇三九	九三、二〇二	五、三六九・六	二四六、一四三	〇・一六
假設費		二、三三四		六、六四〇		九、〇二四	
附帶工事費		一、一三、二三三		三、七二八		一四、九五一	〇・〇一
用地費		一、九〇七、三八五		八、二五九		一、九一五、六四四	〇・三八
船舶及機械費		五六九、五二七		八八、七七一		六五八、三二八	〇・二六
測量費		二〇、六七六		二、六二二		二二、二九八	
營繕費		六〇、五七四		二、四〇一		六二、九七五	

種 別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合 計		竣 功 合 功
	數 量	金 額	數 量	金 額	數 量	金 額	
施行中諸費 共済組合給與金	—	六、五五一	—	三、七〇三	—	一〇、二五四	—
總 計	—	三、五四三、二八七	—	五、六三、一四五	—	四、一〇六、四三三	〇・二一
							劃分

第一二三 斐伊川改修工事 (大坂土木出張所)

第一二三 斐伊川改修工事

(大阪土木出張所)

緒言

本工事ハ大正十一年度ヨリ同二十二年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシテ總工費六百二十萬圓ヲ以テ起工セシガ同十二年度末ニ至リ施行年限ヲ延長シテ同二十五年年度ニ至ル十五箇年度繼續事業ト改メラレ島根縣簸川郡出西村岩樋以下宍道湖(定川吐口)ニ至ル一五籽五及下流大橋川即チ松江市白鴻魚町ヨリ中海ニ至ル七籽五ノ改修工事ヲ施行スルモノナリ

河狀竝計畫ノ大要

斐伊川ハ山陰屈指ノ大河ニシテ源ヲ鳥取、島根兩縣界ニ聳ユル船通山ノ鳥上瀧ニ發シ島根縣下ヲ貫流ス上流ヲ横田川ト稱シ西流シテ仁多郡横田村ニ至リ左支下横田川ヲ入レ尙西流シテ同郡三成村ニ於テ左方ニ大馬木川ヲ合セ同郡溫泉村ニ至リ左支阿井川ヲ入レ飯石郡田井村ニ於テ左支深野川ヲ容レ方向ヲ轉ジ北流シテ大原郡木次町ニ於テ右支久野川ヲ併セ飯石郡三刀屋村ニ至リ更ニ左支三刀屋川ヲ納メ西流スルコト約七籽八急ニ方向ヲ變ジテ北ニ向ヒ始メテ簸川平野ニ出デ直ニ新川ト稱スル派川ヲ右方ニ分派シ同郡伊波野村ヲ經テ東北ニ轉ジ同郡出東村ニ至リ定川ヲ左方ニ派シ東ニ向ヒ二十間川、北二十間川等ヲ分派シ次テ宍道湖ニ注グ支派川ノ數七十五、流路延長五百七十六籽ナリ

宍道湖ハ面積八十三方籽ヲ有スル淡水湖ニシテ略長方形ヲ爲シ東西ニ長ク其長約十六籽、幅約六籽、周圍

約四十七方糎ニシテ湖岸ハ出入極メテ少シ斐伊川ハ其西端ヨリ注ギ其他數多ノ小流ヲ併ス湖脚ハ東端ニ在リテ三川ニ依リ海ニ排疏ス一ハ佐陀川ニシテ八東郡古江村大字濱佐陀ヨリ分派シ宍道山脈ノ低部ヲ横斷シ西北ニ流レ同郡惠曇村ニ至リ直ニ日本海ニ注グ流路約八十方糎往昔人工ヲ加ヘ開鑿セシモノナリト云フ二ハ大橋川ニシテ松江市ヨリ分派シ市中ヲ貫キ東流スルコト約七方糎馬潟ニ至リ中海ニ注グ三八天神川ニシテ人工河川タリ同ジク松江市ヨリ分派シ東流約四方糎八東郡津田村ニ至リ大橋川ニ合流ス湖ノ東端ニハ松江市アリ其他沿湖ニハ小都邑乏シカラズ又多少ノ田園ヲ存ス

斐伊川ノ流域ハ島根縣下仁多、飯石、大原、簸川ノ四郡ニ跨リ面積一千方糎餘ニ及ブ域内ハ流末簸川平野ヲ除ケバ一般ニ山岳ニ富ミ幾多ノ巒嶽起伏セリ簸川平野ハ其東方ノ宍道湖、松江平野竝中海ト共ニ日本海ノ一部タリシニ主トシテ斐伊川ノ流送セシ土砂堆積シテ水面上ニ表ハレタルモノニシテ面積約百五十方糎現今ニ於テモ尙増大シツツマリ土地肥沃ニシテ山陰最大ノ農產地タリ

宍道湖及大橋川等ノ流域ハ松江市竝簸川、八東ノ兩郡ニ跨リ南ハ斐伊川流域ヲ劃スル山地、北ハ宍道山脈ニ境シ西ハ簸川平野ニ東ハ中海ニ依リテ限ラル面積ハ斐伊川流域ヲ除キ約四百五十方糎（湖ノ面積ヲ含ム）アリ松江市附近ハ小平野ヲ爲シ土地豐沃、産業發達セリ

流域内山地ノ狀況ハ概シテ良好ニシテ山林濫伐ノ爲メ著シク荒廢ニ歸セル處無キガ如シト雖モ唯到ル處砂鐵ヲ産スルヲ以テ古來山地ヲ崩壞シ其採取ノ事業ヲ經營スルモノ多數ニシテ主トシテ土砂流出ノ原因ヲ爲セリ

灌溉段別ハ斐伊川ニ在テハ八十七方糎、宍道湖及大橋川等ニテハ二十五方糎、合計百十二方糎ニ達セリ斐伊川ハ古來屢次水害アリ往古流末ハ現今ノ簸川郡川跡村附近ヨリ西流シテ日本海ニ注ギシガ寛永年

間ノ洪水ニテ東流宍道湖ニ注流スルニ至レリト云フ爾來出水毎ニ屢其位置ヲ變ジ或ハ人爲ニ依リ派川ヲ改鑿スル等幾多ノ變遷ヲ經テ以テ現今ノ河道ヲ形成スルニ至レリ即チ右派新川ハ水害ヲ免レンガ爲メニ天保年間ニ於テ新鑿セシモノニ係リ左派定川モ其後更ニ開鑿セシモノニシテ佐陀天神二川ノ如キモ亦湖ノ水害ヲ輕減センガ爲メ人工ニ依リ開鑿セシモノニ係ル維新以後ニ至リテハ被害特ニ著大ニシテ人畜ノ溺死家屋ノ流失破壊耕地ノ荒廢生産ノ損耗等舉ゲテ算フベカラズ之ガ復舊ニ要スル經費モ亦莫大ナリトス明治二十六年ノ洪水ノ如キハ特ニ其最モ甚シキモノナリ今水害ヲ受クベキ區域ヲ舉grenバ斐伊川本川ニ在テハ其面積百十五方籽宍道湖以下ニ於テハ七方籽合計百二十二方籽ニ達ス内出西村以下ノ改修區域ニ屬スルモノハ凡テ百三方籽ナリ斐伊川ハ上流ニ於テ多少ノ水害無キニ非ズト雖モ其被害甚大ナルハ下流地方ナルヲ以テ改修ハ出西村以下即チ簸川平野ニ屬スル部分ニ止メ計畫流量ハ三千六百立米トシ定川分派口ニ至ル迄ハ單ニ舊堤ニ嵩置ヲ施スニ止ム然レドモ兩堤間ノ狀況甚ダ不規則ニシテ且河積不足ナルヲ以テ若干ノ掘鑿ヲ施シ之ヲ整正シ以テ前記流量ヲ安全ニ疏通スルニ足ラシム定川分派口以下ハ本川ヲ捨テ定川ヲ擴築シ必要ナル河積ヲ與フルモノトス堤防ハ舊堤擴築竝新堤共凡テ天端ヲ計畫洪水位以上一米五ノ高ニ在ラシメ馬踏幅七米五兩法二割ノ勾配ヲ與ヘ凡テ芝ヲ附シ必要ナル箇所ニ石張其他護岸ヲ築設スルモノトス新川ヲ締切り廢川ト爲シ締切點ニハ新ニ樋門ヲ設ケ用水ヲ分派セシメ更ニ宍道湖ニ一時貯溜スル水ヲ迅速ニ排疏セシメンガ爲メ大橋川ヲ擴張シ兼テ舟運ノ便ヲ圖ラントス即チ現在河幅ノ陝隘ナル處ハ之ヲ擴張シテ七十三米トシ夫ヨリ廣キ處ハ河中ニ於テ幅七十三米ノ部分ヲ浚渫シ兩法ニハ適當ノ勾配ヲ附シ尙崩壞ノ虞アル箇所ハ護岸ヲ施スモノトス

施工狀況

本改修工事ハ大正十一年度ノ創業ニシテ前年度迄ニ實施測量ヲ完了シ船舶諸器械等ノ整備ヲ爲シ同十三年十一月大橋川ノ浚渫ヲ開始セリ

本年度施行ノ浚渫工事ハ大橋川筋八束郡津田村及竹矢村地先ニシテ二百坪掘鋤鏈式浚渫船二隻、曳船二隻、六十立米積側開土運船一隻、三十六立米積側開土運船五隻、二十疋工業船八隻ヲ使用シ年度内二十四萬八千四百十四立米ヲ浚渫シ此工費三萬六千二百二圓トス

當改修事務所構内ニ德島機械工場ノ鍛冶、仕上、機關、倉庫ノ四棟ヲ移築シ大正十五年一月三十一日竣功セリ

斐伊川改修工事ノ本年度内ニ於ケル竣功高十一萬九千九百三十圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ三十六萬一千七百十八圓ナリ之ヲ總工費豫算額六百二十萬圓ニ比スレバ零割六分ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ「〇」ハ無代價品見積價額ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事 浚渫費	六、六二〇 <small>粒</small>	八、三三二 <small>円</small>	一四八、四二四 <small>粒</small>	三六、一〇二 <small>円</small>	一五五、〇三四 <small>粒</small>	四四、四三三 <small>円</small>	〇・〇六 <small>割分</small>
船舶及機械費	〇	一七七、二五三	〇	四五、九一三	〇	二二二、一六六	〇
施行中諸費	〇	五六、二〇四	〇	三七、九一五	〇	九四、一一九	〇
總計	〇	二四一、七八八	〇	一一九、九三〇	〇	三六一、七一八	〇・〇六

第二四 信濃川上流改修工事

(新潟土木出張所)

緒言

本川ハ昔時航路改善洪水防禦ノ目的ヲ以テ新潟縣長岡市以下ノ河身改修ヲ實施セラレ明治三十八年度ニ其工ヲ終了シタルモ尙治水ノ必要ヲ認メ同市下流約十六村ノ地點タル大河津村ヨリ新水路ヲ開鑿スルコトトナリ又上流長野縣下ニ於テハ千曲川及犀川ノ水患ヲ除却セシムル目的ヲ以テ是亦其方策ヲ定メタリ即チ前者ハ明治四十年年度ニ起工シ今後一箇年度ニシテ將ニ工ヲ竣ヘントシ後者ハ大正七年度ヨリ著手シ目下施工中ナリ此ノ如ク本川上下兩流ノ治水策茲ニ完キヲ得首尾ハ既ニ決セリ然ルニ中流タル中越平野ノミ之ヲ等閑ニ附センカ本地區一帶ニ互ル年々多大ノ水災ハ元ヨリ之ヲ救フニ由無キノミナラズ其右岸ノ汎濫ノ下流改修ノ區域ニ波及シ因テ大河津分水工事ノ效果ヲ減殺スルノ虞尠シトセズ茲ニ於テカ本改修工事ノ急施ヲ促進シ大正十二年度ヨリ同二十一年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算額六百六十萬圓(内新潟縣負擔額二百三十四萬九千圓ヲ含ム)ヲ以テ起工セシガ十二年九月一日關東震災突發ノ爲メ四箇年度ノ繰延トナリ大正二十五年年度ニ竣功セシムル豫定トナレリ即チ左岸三島郡片貝村右岸古志郡六日市村以下下流南蒲原郡中之島村地内信濃川締切堤防ニ至ル約三十一村ノ間ニ對シ河身ノ改善ヲ施シ洪水ノ被害ヲ一掃スルモノナリ

河狀並計畫ノ大要

本川ハ源ヲ甲武信ヶ嶽ニ發シ流域ハ長野、群馬、新潟ノ三縣五市二十四郡ニ跨リ總面積一萬二千二百六十二方籽、流路延長三百六十九籽、航路延長六百九十九籽、灌溉段別七萬六千二百二十一町步ヲ有シ越後平野ヲ貫流ス其灌溉ノ利大ナリト雖モ水害モ亦劇甚ナリ

今本改修區域内ニ於ケル河狀竝被害ヲ述ブレバ本川ノ洪水ハ春季融雪ト夏秋ノ候颱風ニ伴フ暴雨トニ起因スルモノニシテ上流長野縣下ニ於テ一日ノ降雨量七十耗以上ニ達セバ警戒スベキ洪水ヲ醸生スルコト多シ其水災ノ最甚シキ部分ハ山間部ヲ出デタル志古郡六日市村大字妙見以下約三十一籽ノ間ニシテ地勢平坦東ハ遠ク下越平野ニ連リ産業ノ發展地タリ然ルニ兩岸ノ構造薄弱ナル堤防ニ抱擁セラルルノミナラズ斷續屈曲シ河狀亦著シク惡化シ其幅員一定セズ廣キハ一千六百三十六米、狹キハ五百四十五米ヲ示シ恰モ瓢ノ連結セルガ如ク所々ニ砂礫又ハ芝生ノ附洲介在シ甚シキニ至テハ長約二千二百米、幅ニ一旦出水ノ際ハ兩岸ヲ破壞シ中越平野ハ泥海ト變ジ交通ヲ杜絶シ人畜ヲ害スルコト甚シク其水害區域一萬八千五百九町步ニ及ベリ今其水害損失價額ヲ見ルニ明治四十一年ヨリ大正六年ニ至ル十箇年間ノ平均ハ四十三萬六千二百六圓ニシテ内最大ハ大正三年ノ百五十四萬七千圓ナリトス

本計畫ハ古志郡六日市村大字妙見以下三島郡大河津村大字大河津締切堤防ニ至ル間ノ水災ヲ絶ツヲ目的トシ最大流量ヲ每秒五千五百六十五立米ト定メ之ヲ疏通セシムルニ足ル流積ヲ有セシム而シテ現在ノ河幅ハ前陳ノ通り廣狹不規則亂雜ナルヲ以テ全川ヲ通ジ八百十八米トシ地形ニ應ジ最少六百十八米、最大一千二百十八米ニ整理シ無堤部ニハ堤防ヲ新設シ有堤部ハ成ルベク舊堤ヲ利用シ其構造薄弱ナル箇所ハ増築シ堤内ノ安全ヲ圖ルト共ニ流積不足ノ部分ニハ掘鑿、浚渫ヲ施シ以テ洪水ノ疏通ヲ圖リ逆流

ノ甚シキ支川及惡水路ニハ水門ヲ設ケ逆水ヲ防止スル等水害ノ因ヲ一掃セシムルニ在リ
築堤工事ハ全川ニ互リ馬踏七米二、表裏共二割法トシ其高ハ計畫高水位以上一米五ノ餘裕ヲ與ヘ出來得
ル限リ舊堤ヲ利用シ河幅或ハ屈曲ノ關係上舊堤ニ依ルヲ得ザル箇所ハ河狀ニ應ジ適當ノ位置ニ新設ス
又長岡市附近ニ合流スル太田、澁海兩川ノ落口ニ在リテハ新堤ハ瀨割堤ト爲シ新落口ヨリ上流舊落口ニ
至ル間各一千九十一米ノ舊堤ハ嵩置工事ヲ施行スルコトトセリ而シテ築堤ニ要スル總土量ハ三百四十
二萬五千九百九十五立米ニシテ内八十四萬一千四百七十三立米ハ掘鑿土ヲ利用シ其他ハ附近ヨリ採土
スルモノトス

掘鑿工事ハ左岸古志郡下川西村大字脇川新田ヨリ三島郡大河津村字金ヶ崎間、右岸南蒲原郡中之島村大
字長呂ヨリ同村中條間ニ於テ平均低水位上零米九ノ面迄施行ス此外全川ヲ通ジ新堤外部ノ舊堤取拂ヲ
爲スモノニシテ總土量二百二十二萬三千八百九十二立米ニ達ス浚渫工事ハ下流大河津分水路ニ接續セ
ル區域ニシテ底幅百八十二米乃至八十二米、深平均低水面下一米八ニ施工ス其土量百四十四萬二千五百
二十四立米ナリ

護岸、制水工事中護岸ハ主トシテ長岡市ヨリ上流兩岸堤防及下流沿岸ニシテ流衝ニ面セル箇所竝堤脚ノ
平水ニ落ツル部分ニ對シ表法高水面以下ヲ石張トシ低水ニ接スル箇所ハ沈床工ヲ又制水工ニ在リテハ
流心ノ匡正ヲ要スル部分ニ石張沈床工ヲ何レモ施行スルモノトス
水門工事ハ新川外二、三ノ惡水路ニ設置シ何レモ逆水止門扉トセリ
附帶工事ハ長生橋(長岡市)與板橋(三島郡與板村)ノ改築竝延長黒川外二箇川ノ改修、用惡水路ノ樋管伏替又
ハ水路附替等ニシテ樋管伏替八十五箇所ノ多キニ及ブヲ以テ適宜之ヲ處理スルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正十二年度ノ創業ニシテ前年度迄ニ計畫堤防ノ中心杭、幅杭及縦横斷ノ測定ヲ完了シ本年四月大河津村地内ニ改修事務所ヲ設置シ專ラ實施ノ計畫竝諸機械ノ準備ヲ爲シ一面土地買收進捗ヲ俟チ右岸與板橋詰中之島村ニ一工場ヲ建テ同十二月ヨリ掘鑿工事ニ著手セリ其施工ノ概要ヲ左ニ述ブベシ掘鑿工事ハ人力ニ依リ切取リヲ爲シ土砂運搬ニハ「ガソリン」機關車一臺ト人力トヲ使用シ新堤敷内ヘ投棄ス其土量一萬一千一立米ニシテ立米當四十五錢七厘ナリ

土地買收ハ前年度ヨリ引續キ諸般ノ準備ヲ整ヘ融雪期後實地調査ニ著手シ古志郡下川西村及南蒲原郡中之島村兩地内ニ於テ段別三町一段一畝餘步此金額四萬六千九百九十六圓餘ト外ニ物件移轉料九千四百五十九圓餘ヲ支出セリ

機械工場ハ工事著手後日尙淺キ爲メ專屬工場ヲ設ケズ本川使用ノ諸機械ノ修理製作ハ信濃川所屬ナル渡部（西蒲原郡國上村大字渡部）河口（新潟市小柳島）兩機械工場ニ依囑ス

附帶工事費ハ黒川外二箇川改修工事ニ在テハ新潟縣知事ノ申請ニ屬シ工費百八十四萬一千圓（内國庫補助五十一萬二千圓）ヲ以テ黒川、道滿川、猿橋川ノ各流末ニ於ケル信濃川ノ逆流ヲ根本的ニ防止スルノ目的ニテ當所ニ於テ計畫セル逆水門新設ニ替フルニ各河川現在ノ吐口ヲ逆流ノ影響ヲ被ラザル程度迄下流ニ延長セントスルモノニシテ本年度ヨリ土地買收、物件移轉等ヲ實施シ其進捗ニ從ヒ中之島村地内ニ工場ヲ設置シ十一月二十一日ヨリ工事ニ著手シ土量二萬九百二立米余ヲ掘鑿シ築堤敷又ハ附近低窪地ニ運搬投棄ス

本年度ニ於ケル竣功額ハ十五萬八千七百七圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計十七萬八千四百四十圓ナリ之ヲ
 總工費六百六十萬圓ニ比スレバ約零割三分ノ竣功ナリトス其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ「◎」ハ縣負擔額
 ナリ

種 別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合 計		竣功 歩合
	數 量	金 額	數 量	金 額	數 量	金 額	
本工事—掘鑿費			11,001 <small>粒</small>	5,031 <small>円</small>	11,001 <small>粒</small>	5,031 <small>円</small>	
附帶工事費		◎		◎		◎	
用地費				九七、三六七		九七、三六七	
船舶及機械費		一八五		五九、六四七		五九、六四七	
施行中諸費		二七、一二八		二九、六三三		五九、八三二	
總計		◎ 二七、三三三		◎ 一五〇、八〇七 九七、三六七		◎ 一七八、一四〇 九七、三六七	〇・〇三 <small>割分</small>

第二五 筑後川改修工事

（下關土木出張所）

緒言

本工事ハ工費一千百三十二萬圓（内福岡縣及佐賀縣負擔三百九十六萬圓）ヲ以テ大正十二年度以降同二十三年度ニ至ル十二箇年度ノ繼續事業トシテ施行ノ計畫ナリシモ同十四年度ニ於テ事業繰延ノ爲メ竣工期ヲ同二十六年迄延長施行スルコトトナレリ其區域ハ幹川福岡縣浮羽郡千年村以下海ニ至ル六十一籽九其他支川小石原川佐田川派川早津江川諸富川等ヲ加ヘ合計七十六籽餘トス

河狀竝計畫ノ大要

筑後川ハ九州第一ノ大河ニシテ源ヲ熊本縣ノ東北部ニ發シ大分福岡佐賀ノ三縣内ヲ貫流シ有明海ニ注グ流路延長百三十八籽其流域ハ前記四縣ニ跨リ全面積二千八百六十方籽ヲ有ス本川下流福岡縣及佐賀縣ニ屬スル部分ハ沿岸肥沃ナル田園相連リ所謂筑紫平野ノ米產地ニシテ其灌溉ハ一ニ本川ニ依リ總面積實ニ四萬五千ヘクタールト稱ス加フルニ舟楫ノ便亦宜シク古來其惠澤ニ浴スルコト多大ナルモノアルモ一方ニ於テ洪水ノ害ヲ被ムルコトモ亦甚シク全流域水害面積ハ三萬二千ヘクタール餘ニシテ年々出水毎ニ受クル損害莫大ナルモノアリ本川ハ曩ニ明治十六年度政府ニ於テ河口ヨリ大分縣隈町ニ至ル間ノ改修工事ヲ企圖シ工費約百二十萬圓ヲ投ジ同三十一年度之ヲ竣功セリ然レドモ該工事ノ目的ハ主トシテ低水路改良ニ在リ高水防禦工事ノ如キハ全然地方ノ經濟ニ委シ其負擔ニ耐フル範圍内ニテ施行

セルニ過ギザルヲ以テ金島、小森野、天建寺、坂口ノ四放水路開鑿セラレタリト雖モ未ダ充分ナル效果ヲ舉グルニ足ラズ而モ工事中途ニシテ明治二十二年ノ大洪水ニ際會シ激甚ナル損害ヲ被ルニ及ビ第一次高水工事ノ機運ヲ齎シ遂ニ同二十九年之ヲ起工シ八箇年度ノ歲月ト百四十餘萬圓ノ財ヲ費シ同三十六年其工成ルニ及ンデ稍被害ノ程度ヲ輕減スルヲ得タリ然ルニ本工事モ財政上其他ノ理由ニ依リ局部的ノ工事ニ止マリシヲ以テ再ビ大正十年ノ非常洪水ヲ來シ其慘害ノ程度ハ明治二十二年ニ讓ラズ茲ニ第二次改修トシテ本工事ノ計畫ヲ見ルニ至レリ

本計畫ハ主トシテ高水防禦ヲ目的トスルモノニシテ第一次改修ヲ補足シ全川ヲ通ジ一貫シタル工事ヲ爲スニ在リ改修ノ方法トシテハ河狀ヲ正シ或ハ掘鑿ヲ施シ現在ノ不規則ナル堤防ヲ改築若クハ増築シ必要ノ箇所ニハ新ニ之ヲ設ケテ汎濫ヲ防ギ河積ヲ擴張シテ高水ノ疏通ヲ計リ細支流ニシテ逆流ノ害アルモノハ水門ヲ設ケ其浸入ヲ防止ス又金島以下ノ四放水路ハ之レヲ本流ニ開鑿シ洪水ノ疏通ヲ圖リ下流感潮區域ニシテ出水ノ影響少キ部分ニ於テモ必要ニ應ジ堤防ヲ一層強固ニシ其安全ヲ期シ兼テ高潮ノ脅威ニ備ヘシム尙諸富佐賀郡東川副村及若津港ヨリ下流河底ニ沈積セル土砂ハ適宜之レヲ浚渫シ河積ノ増大竝航路ノ改良ニ資セムトス

計畫高水量ハ幹川筋五千秒立米トシ派川早津江川ハ其内一千七百秒立米、諸富川ノ同二千五百秒立米ヲ分流スルモノトス又計畫河幅ハ幹川筋二百五十米乃至九百五十米、早津江川二百米乃至七百五十米、諸富川二百米乃至二百三十米トス而シテ堤防ノ標準斷面ハ馬踏七米、兩法二割高、計畫高水位上一米五トシ支派川等ハ之レニ準ジ又實地ノ狀況ニ應ジ其大サヲ定ム

施工狀況

本工事ハ大正十二年度創業ト共ニ直チニ實施準備ニ從事シ翌年度ニ入り先ヅ以テ土地買收ヲ要セザル部分ヨリ工事ヲ始メ續テ土地買收ニ著手セシガ本年度ハ中流久留米市鐵道橋下流約五籽ノ間ニ於テ前年度ヨリ繼續セル四箇所及本年新ニ著手セシ四箇所計八箇所ノ兩岸高水敷掘鑿及築堤工事ヲ實施シ外ニ用水樋管繼足附帶工事一箇所ヲ直接施行スルコトトナリ年度末之レニ著手セリ而シテ掘鑿ハ凡テ人力ニ依リ運搬ハ馬力ヲ第一トシ外ニ四噸ガソリン機關車二臺ヲ併用シ一部ハ築堤土ニ利用シ一部ハ附近民地等ニ捨土シ土量五十三萬三千四百二十六立米ヲ竣功セシメタリ又掘鑿機及二十噸機關車各一臺ハ年度末迄ニ何レモ組立ヲ了リタルモ就業スルニ至ラザリキ築堤ハ總テ掘鑿土ヲ利用シ土量十萬六千四百七十八立米ノ築立ヲ爲セリ

土地買收ハ前年度末第一回協議ヲ發表シ本年度十一月更ニ第二回トシテ久留米市外二箇村ノ一部用地十六町步餘ノ買收協議ヲ開始シ年度内大部分ノ承諾ヲ得タリ其買收段別ハ累計四十一町六段步餘ニシテ其買收價額二十二萬七千二百二十圓、地上物件移轉料六萬九千六百七十三圓、占用禁止補償金二千五百八十九圓ヲ支出セリ

本年度竣功高ハ五十一萬六千六百六十三圓（事務費及現在物品代價ヲ除ク）ニシテ起工以來本年度迄ノ累計額ハ八十三萬二千五百四十五圓（事務費及現在物品代價ヲ除ク）ヲ算シ工費總豫一千百三十二萬圓ニ對シ零割七分強ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「○」ヲ附シタルハ提供材料勞力費及評價品價額ナリトス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事	三一七七一 四	〇	五三三、四二六 粒	九七、五七二 四	八五一、一四〇 粒	一六六、二七五 四	〇・〇七
掘鑿費		〇		三七、九五二	一八七、九三〇	五三、六二六	〇・〇七
築堤費	八、四五二	〇	一〇六、四七八	一三、一八九	一一七、〇七七	一七、〇七七	〇・〇二
附帶工事費		〇		一、五九九		一、五九九	
用地費		〇		六六〇		六六〇	
船舶及機械費				二二二、〇六一		三〇四、六一四	
測量費				一三五、二四五		二六二、二九九	
營繕費				三、四七一		一九、二五二	
施行中諸費		〇		二、七〇六		五、九四八	
共濟組合給與金		〇		三〇、三七三		五四、九七三	
總計		三一六、三七五 一五、七〇四		五一六、一六三 四〇〇、二〇三		八三二、五三八 五五、九〇七	〇・〇七

第二六 天龍川改修工事

（名古屋土木出張所）

緒言

本川ハ曩ニ主トシテ水害除去ノ目的ヲ以テ政府ニ於テ明治十五年度測量調査ヲ創メ次テ改修ノ計畫ヲ立テ静岡縣磐田郡二俣町以下河幅ヲ整理シテ新堤ヲ築キ舊堤ヲ増築シ其他護岸、制水、床固等ノ施設ヲ爲セリ同十八年度ヨリ地方ト協同シテ工費六十六萬圓ヲ以テ工事ニ著手シ兼テ磐田郡二俣町上流長野縣下伊那郡龍丘村大字時又ニ至ル迄山間狹窄部ニ於ケル危岩暗礁ヲ破碎シテ幾分舟航ニ便シタリシガ明治三十三年度ニ至テ一先ヅ竣功シ河狀ハ匡正セラレ流路稍安定シ地方廳ハ爾來其維持ヲ爲スト共ニ漸次新工事ヲ施シツツ現今ニ至レリ然ルニ東海道鐵道橋下流ハ依然トシテ荒廢憂懼ノ狀態ニ在リ其上流ト雖モ堤防ノ鞏固ヲ誇ルニ足ラズ尙治水ノ要アルヲ以テ大正二十二年度ヨリ同二十一年度迄十箇年度繼續事業トシテ工費六百六十萬圓（内静岡縣負擔額二百二十九萬九千圓）ヲ以テ更ニ改修セントスルモノニシテ關東大震火災ノ影響ニ依リ事業年度ヲ四箇年度即チ大正二十五年迄繰延ベラレ次テ行財政整理ノ爲メ大正十四年度以降ノ年度割額ヲ變更セラルルニ至レリ而シテ上流長野縣管内ニ於テモ相當ノ水害無キニ非ラザレバ早晚改修ノ必要アルハ之ヲ認ムル處ナルモ先ヅ以テ急務トスル下流静岡縣ニ屬スル部分二俣町以下海ニ至ル二十八軒間ヲ施工スルモノトス

河狀並計畫ノ大要

天龍川ハ源ヲ諏訪湖ニ發シ長野縣ヲ經テ愛知靜岡兩縣ノ界ヲ流レ遂ニ靜岡縣ニ入り遠州灘ニ注グ幹川
流路長約二百十六軒ニシテ其流域面積四千八百八十方軒ナリ灌溉段別ハ全流域ニ在テハ一萬七千八百
二十ヘクタールニシテ改修區域ニ屬スルモノ三千二百十六ヘクタールナリ

上流部ニ在テハ沿川ニ廣大ナル平地アレドモ中流ハ全ク山間部ニシテ耕地田園ノ展クルモノ無ク靜岡
縣二俣町ニ至リテ更ニ廣濶ナル平野ハ田園展ケ農桑ノ業盛ナリ加之濱松市ヲ始メ數多ノ名邑アリ東海
道竝國道此附近ヲ通過シ交通ノ便備ハリ商工業亦發達セリ

本川ハ古來屢々水害アリ最近ニ於テハ明治四十四年度ノ洪水ヲ以テ最モ甚シトス當時河水暴漲シ堤防
ノ缺壞セルモノ數箇所ニ達シ家屋ノ流失若クハ損壞セルモノ又田園ノ荒廢ニ歸セルモノ多ク浸水區域
數千ヘクタールニ及ビタリ而シテ水害ヲ受クベキ區域ハ靜岡縣下ノミニテ總計一萬一千八百四十二ヘ
クタールニシテ其殆ンド全部ハ改修區域ニ屬ス以テ利害關係區域ノ廣大ナルヲ見ルベキナリ
計畫流量ハ萬延元年以來ノ洪水ト稱セラルル明治四十四年ノモノヲ目標トシ其後流量實測ノ結果ニ依
リ雨量等ヲ參酌シテ當時ノ最大流量ヲ推定スルニ一萬一千百三十秒立米ヲ得タリ依テ改修計畫ニ於テ
ハ此流量ヲ安全ニ疏通セシムルヲ以テ用途トシ計畫洪水水位モ亦局部ヲ除キテハ大體ニ於テ當時ノ最大
高水位ヲ超過セシメザルヲ程度トセリ

東海道鐵道橋ヨリ上流ハ前年改修工事ノ際河幅ヲ整理セルヲ以テ大體ニ於テ相當ノ幅員ヲ有スルガ故
ニ河幅ノ擴張ヲ要セズ單ニ多少ノ掘鑿ニ依リ河積ヲ充足シ舊堤ヲ増築スルニ止メ從來ノ霞堤トナレル
箇所ハ大體其儘ニ存置シ鐵道橋ヨリ下流ハ現在三派ニ岐レ河狀不整河積亦不足ナルヲ以テ改修ニ當リ
テハ中流ヲ擴張シテ適當ナル河幅ヲ與ヘ舊堤ノ利用シ得ルモノハ之ヲ増築シ然ラザル箇所ニハ新堤ヲ

第一章 河川改良工事（天龍川改修工事）

11011

總計	施行中諸費 共濟組合給與金	
二二、九六一	一〇四	三、五八四
九、三三八	三七	七、〇九八
三三、一八九	一四一	一〇、六八二
〇・〇一		

第二一七 千代川改修工事

（大阪土木出張所）

緒言

本改修工事ハ大正十二年度ヨリ同二十五年度ニ至ル十四箇年度繼續事業トシテ總工費豫算五百六十六萬圓ヲ以テ施工スルモノナリ而シテ其區域ハ幹川筋鳥取縣八頭郡河原村以下海ニ至ル約十七糎支川袋川筋岩美郡宇倍野村下流本川合流點ニ至ル約七糎二及野坂川筋一糎五、砂見川筋零糎九、合計二十六糎六ノ間ニ施工スルモノトス

河狀竝計畫ノ大要

千代川ハ源ヲ鳥取縣八頭郡山鄉村大字駒歸宿字沖ノ山ニ發シ大體北流シ左支新見、佐治、曳田、砂見、野坂、湖山ノ六川及右支智頭、八束、袋ノ三川ヲ合シ氣高郡賀露村ニ於テ日本海ニ注グ其流域ハ鳥取、岩美、氣高、八頭ノ一市三郡ニ跨リ集水面積一千百八十方糎餘、幹川流路延長五十五糎、灌溉段別七十方糎、水害區域八十方糎餘ヲ算シ沿川ニハ縣ノ首都鳥取市ヲ有シ其河口ニ當ル賀露港ハ漁港トシテ又避難港トシテ將又支川袋川ヲ經テ鳥取市ニ物資ヲ供給スル關門トシテ重要視セラレ流域内ニ於ケル都邑ハ古來本川ニ依リ水運ノ便灌溉ノ利等惠澤ニ浴スルコト尠カラズト雖モ一面比年生ズル洪水ノ慘害ニ苦シメラルコト亦莫大ナリ乏シキ舊記ヲ搜リ僅ニ知り得タル所ノミヲ以テスルモ天文年間以降約三百八十有餘年間ニ大洪水ト認ムベキモノ實ニ四十六回ヲ數フ就中大正七年九月ノ洪水ノ如キハ沿川ノ平野ハ悉ク水底ニ沒

シ鳥取全市ヲ舉ゲテ一米五乃至四米餘ノ冠水數日ニ互リ一望大海ノ觀ヲ呈シ其汎濫面積約八十方軒ノ多キニ及ベリ

今現況ヲ見ルニ該川堤防ハ薄弱不規則ニシテ河幅廣狹常ナク河幅ノ不足ナル部分隨所ニ介在シ一朝洪水ニ際會セバ破堤ノ厄ヲ被ルト同時ニ汎濫度ナク田畑ノ荒廢財物ノ流失、人畜ノ死傷等其慘害目ヲ掩ハシムルモノ多數ナルノミナラズ其支流ナル袋川ハ鳥取市内ヲ貫流シ其河積ハ既往洪水ヲ流下スルニ必要ナル河積ノ半ニモ足ラザル部分多キヲ以テ未ダ洪水ト稱シ得ザル程度ノ出水ニテモ市内ニ溢流シ産業交通ニ累スルコト鮮少ナリトセズ

本川改修計畫ノ要旨ハ洪水ノ汎濫ヲ防止シ其疏通ヲ良好ナラシメ高水時間ノ短縮ヲ圖リ併セテ沿岸一帶惡水ノ排除ヲ容易ナラシメ尙河口ニ於ケル舟楫ノ便ヲ圖ラントスルモノニシテ本川筋河原村(終點)以下八千代橋ニ至ル間ハ大體現狀ニ準據シ在來堤ヲ利用擴築補強シ其甚シク突出シテ河幅狹ク洪水ノ排疏ニ支障アル箇所ハ之ヲ退ケ無堤部ニハ相當河幅ヲ定メ新堤ヲ築造シ河積ノ足ラザル部分ハ掘鑿ニ依リ之ヲ補フモノトス

八千代橋以下現在ノ河道ハ稍北東ニ向ヒ岩美郡中ノ鄉村大字濱坂地先ニ於テ更ニ西北ニ大屈折ヲ爲シ且沿岸ニハ氣高郡千代水村大字秋里、江津ノ二部落アリ現狀ニ依リ改修セントスル時ハ江津ノ部落ヲ移轉セシメザルベカラザルノミナラズ現在袋川合流點ニ於ケル洪水位ハ之ヲ低下セシムル事能ハズシテ鳥取市ノ排水ニ不利ヲ來スベキヲ以テ八千代橋附近ヨリ北々ニ西ニ向ヒ大體直流スル新河ヲ開鑿シ江津ノ下流ニ於テ現在ノ河道ニ合シ河口ニ至ラシム

支川袋川ハ鳥取市内ヲ貫流シ河積足ラザルノミナラズ曲折甚ダシク現在ニ依リ改修セントセバ工費巨

額ニ上ルベキヲ以テ若櫻街道ノ東方ヨリ新川ヲ開鑿シ八千代橋下流ニ於テ現在ノ本流ニ注ギ現在ノ本流河道ハ單ニ袋川ノ平水流路ニ供セララルコトトナルヲ以テ全ク市内ノ汎濫ヲ防止スルヲ得ベシ野坂川ハ本川ト殆ンド直角ニ交加シ爲メニ排水ヲ阻害セララルコト甚シキヲ以テ其合流點ヲ八千代橋附近迄引下ゲ以テ水位ノ低下、洪水ノ排疏ニ便ナラシム

砂見川モ亦同一ノ理由ニ依リ其合流點ヲ稍下流ニ導キ湖山川ニハ本川合流點ニ樋門ヲ設ケ本川逆流ヲ防止セントス

本川ノ計畫高水位ハ大體既往ノ最大洪水タル大正元年九月及同七年九月ノ高水位ニ準據シタルモノニシテ河狀不正ノ爲メ特ニ水位ノ昇騰ヲ來シタルト認メタル區間ニ對シテハ之ヲ整正シ水位ノ低下ヲ圖レリ而シテ計畫流量ハ大正九年以降普通洪水ニ對スル實測ヲ重ネ之ニ因リテ得タル結果ト流域内ノ降雨量及附近類似河川ノ洪水流量ヲ資料トシ既往ノ最高水位ニ對スル洪水流量ヲ推算スルニ袋川流點以上ニ於テ每秒三千立米其以下ニ於ケルモノ每秒三千三百立米餘ト定メ此流量ヲ安全ニ疏通セシムルヲ期セリ支川袋川ノ流量ハ每秒五百五十立米ト定ムルノ妥當ナルヲ認メタリ

河幅ハ幹川筋上流河原村附近ニ於テ約二百十米トシ以下順次擴大シ八千代橋附近ハ約三百十八米賀露村附近ニ於テ約三百七十米ヲ保タシム袋川筋ニ在リテハ上流ハ大體現狀ノ儘トシ其新川ニ屬スル部分ハ上流部六十四米、下流部若櫻街道附近以下ハ八十五米トス

堤防ハ幹川筋ヲ馬踏下流部七米五、上流部六米、法ハ表裏共二割五分トシ高距ノ大ナル箇所ハ小段ヲ設ケ其天端ハ計畫洪水位以上一米二ヲ保タシム之ニ要スル土砂ハ直接掘鑿セルモノヲ利用セントス法ハ土羽付ヲ爲シ必要ニ應ジ石張ヲ施シ其他適當ニ護岸ヲ設クルモノナリ支川袋川ノ堤防ハ馬踏五米

五、表裏共二割法トシ天端ハ計畫高水位以上零米九トス之ニ要スル土砂及土羽付ハ前同斷トス

施工狀況

本改修工事ハ大正十二年度創業以來専ラ實施測量及諸般ノ調査ヲ行ヒ測量トシテハ幹川筋ハ八頭郡河原村以下海ニ至ル延長一萬六千五百米、支川袋川筋ハ岩美郡宇倍野村字宮ノ下以下幹川合流點迄延長七千五百米ノ間ニ於テ大正十三年度迄ニテ測量ハ殆ンド終了セリ本年度ハ法線杭又ハ敷幅杭ノ變更竝縱橫斷及平面測量ノ一部ヲ施工セリ一方土地收用事務所ヲ鳥取市吉方町ニ置キ大正十三年三月一日事務ヲ開始シ收用調査ニ著手シタリ本年度中ニ於テハ氣高郡賀露村ヨリ同千代水村ニ互ル新川開鑿區域ノ改修用地零方籽三(三十町步餘)ノ買收ヲ了シタリ

改修事務所ヲ大正十三年七月氣高郡千代水村ニ設置シ諸般ノ準備トシテ現在常水路ノ屈曲甚シク河敷ノ附替トナルベキ箇所ニシテ竣功ニ長年月ヲ要スル部分即チ氣高郡賀露村ヨリ千代水村ニ互ル新川開鑿ヨリ著手シ順次上流部ニ及ボス方針ヲ以テ専ラ機械及器具類ノ購入、蒐集、運搬等ノ準備ニ努メリ到著品ノ主ナルモノハ機關車一臺、掘鑿機一臺、零立米三積土砂運搬車六百四十臺、三十疋軌條約一籽四、十五疋軌條約四籽八、四疋五軌條約一籽三、外雜品具類等ニシテ該機械類ノ内手入ヲ要スルモノハ夫々修繕ヲ施シ傍ラ機關車及掘鑿機等ノ組立準備ヲ施行セリ而シテ本年度ノ竣功高ハ二十四萬五千六百四十二圓ニシテ起工以來ノ累計ハ二十九萬六千九百八十三圓ヲ費セリ之ヲ總額五百六十六萬圓ニ比スレバ零割五分強ニ當ル其竣功表左ノ如シ

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
用地費			三〇・四段	二〇三、三三三円	三〇・四段	二〇三、三三三円	
船舶及機械費		二〇、三三五		七、一五二		二七、三七七	
施行中諸費		三一、二一六		三五、一五八		六六、二七四	
總計		五一、三四一		二四五、六四二		二九六、九八三	〇・〇五

第二一八 蘆田川改修工事

(下關土木出張所)

緒言

本工事ハ工費五百六十六萬圓(内廣島縣負擔百九十八萬九千圓)ヲ以テ大正十二年度ヨリ同二十一年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシテ施行ノ計畫ナリシモ同十四年度ニ於テ事業繰延ノ爲メ竣功期ヲ同二十五年迄延長施行スルコトナレリ

其區域ハ幹川筋廣島縣蘆品郡府中町以下海ニ至ル二十七軒五、左支高屋川筋深安郡湯田村以下幹川合流點ニ至ル六軒五及右支瀬戸川筋ノ幹線合流點附近ナリトス

河狀並計畫ノ大要

蘆田川ハ廣島、岡山ノ兩縣下一市八郡ニ互リ(主トシテ廣島縣源ヲ廣島縣世羅郡神田村甲山ニ發シ漸次溪流ヲ收メ蘆品郡川邊村ニ至リ右支御調川ノ合流スルヤ流量頓ニ倍加ス流路ハ之ヨリ漸ク峽谷ヲ脱シ府中町ヲ過グルヤ地勢全ク展開シテ廣濶ナル備後平野ニ出デ神谷川、有地川其他ノ小支流ヲ合セ東流シテ深安郡中津原村ニ至リ急ニ百三十餘度回轉シテ西南ニ方向ヲ轉ジ左支高屋川ヲ合セ福山市ノ西ヲ繞リテ更ニ右小支瀬戸川ヲ入レ沼隈郡水呑村竹ノ端ニ至リテ燧灘ニ注グ而シテ府中町ヨリ上流ハ山間ノ急流ニシテ奔湍岩ヲ衝キテ流レ府中町ヨリ蘆品郡新市町落合ニ至ル間モ亦勾配急ニシテ河底ハ礫又ハ小砂利ノミナレドモ神谷川合流點以下ハ河狀一變シテ細砂緩勾配トナリ高屋川合流點以下ニ至レバ所々

ニ寄洲ヲ生ジ河口ニ至リテハ殆ンド河底ヲ游塞セルノ觀アリ

本川ハ流域面積八百七十方粁、流路延長七百三十四粁、幹川七十八粁、灌溉段別七千百七ヘクタールヲ有スル中國有數ノ大河水ニシテ沿川都邑ノ受クル産業上ノ利益頗ル大ナルモノアリ然レドモ比年洪水汎濫シテ慘害ヲ逞ウシ彼ノ大正八年七月及九月兩度ノ出水ノ如キハ上流府中町ヨリ下流川口村ニ互ル五千八百六十三ヘクタールノ沃野ヲ變ジテ一大沼湖ト化シ福山市ヲ初メ沿川ノ都邑浸水ヲ見ザル無ク人畜ノ死傷、家屋ノ倒壞、堤防及道路橋梁ノ破壞、流失等直接ノ損害額實ニ四百三十餘萬圓ノ多キニ上レリ若シ夫レ之ニ加フルニ産業、交通、衛生等諸方面ニ互ル被害ヲモ具ニ考量スル時ハ其慘害ノ巨大ナルヲ知ルベク明治四十三年以降十箇年間ノ平均水害損失額四十七萬八千餘圓ヲ算セリ

本改修計畫ノ主眼トスル所ハ洪水量排疏ニ充分ナル河積ヲ與ヘテ汎濫ヲ防止シ併セテ高水時間ノ短縮ヲ圖リ支川ニ對シテハ逆水ノ被害ヲ輕減シ以テ沿川一帶ノ平野ノ水害ヲ除却シ且惡水ノ排除ヲ容易ナラシメムトスルモノナリ

高水流量ハ改修基點ナル蘆品郡府中町附近ニ於テハ每秒一千百立米トシ以下順次増加シ高屋川合流點以下一千九百五十立米、瀬戸川合流點以下二千百立米トシ支川高屋川ハ起點深安郡川北村附近ニ於テ二百立米、同郡千田村字横尾以下四百二十立米ト定ム河幅ハ府中町附近ニ於テハ百二十米ニ始マリ最下流部ニ於テ四十七米、本川合流點附近ニ於テ九十米ヲ保タシム

堤防ハ幹川筋ニ在テハ馬踏五米五乃至七米、兩法二割五分トシ高サ高キモノニ在テハ小段ヲ設ケ天端ハ高水位以上一米二乃至一米五ノ餘裕ヲ存セシム支川高屋川ハ馬踏幅三米七、兩法二割、天端ハ高水位上一米ヲ保タシム支川高屋川及瀬戸川ノ下流部ハ幹川ノ汎濫ヲ被リ湛水時間長期ニ涉ル低濕地ナルヲ以テ

背割堤ヲ築キテ合流點ヲ引下ゲ惡水ノ排除ト逆水ノ低下トヲ圖ルコトトセリ
 計畫高水勾配ハ前記府中町附近ニ於テ三百二十分ノ一最下流部ニ於テ二千四百分ノ一トス

施工狀況

本工事ハ大正十二年度ノ創業ニシテ同年度直チニ實施測量ニ著手シ前年度迄ニ大體ノ外業ヲ了シ本年
 度ニ於テハ改修區間全部ニ互リ測量未濟部ノ縱橫斷測量ヲ終了シ專ラ實施設計準備其他諸種ノ調査ニ
 從事シ未ダ工事施行ノ運ビニ至ラズ
 土地買收ニ關シテハ本年度九月十五日ヲ以テ土地收用事務所ヲ開設シ爾來諸般ノ準備調査ニ努メ銳意
 其進捗ヲ計リタル結果年度末ニ於テ下流草戸村地内ノ用地約三十一町步ニ對シ第一回協議ヲ開始シ年
 度内大部分ノ承諾ヲ得タリ

本年度竣功高ハ二十二萬六千四百九十四圓(事務費及現在物品代價ヲ除ク)ニシテ起工以來本年度迄ノ累
 計ハ二十五萬八千七百十九圓(同上)トナリ工費總豫算五百六十六萬圓ニ對シ約五分ノ竣功ナリ其工事竣
 功表左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
用地費	—	—	—	一九九、二〇二	—	一九九、二〇二	—
船舶及機械費	—	一一、一五九	—	一五、二六六	—	二七、四二五	—
測量費	—	七、〇五六	—	四、四一一	—	一一、四六八	—

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
營繕費		四、四〇四		二五		四、四二九	
施行中諸費		八、三六八		七、三八九		一五、七五七	
共済組合給與金		二三八		二〇〇		四三八	
總計		三二、二二五		二二六、四九四		二五八、七一九	〇・〇五

第一一九 紀ノ川改修工事

(大阪土木出張所)

緒言

本工事ハ大正十二年度ヨリ同二十五年年度ニ至ル十四箇年度ノ繼續事業ニシテ總工費豫算四百七十二萬圓(内和歌山縣負擔百六十二萬五千圓)ヲ以テ施行スルモノニシテ其區域ハ左岸和歌山縣那賀郡小倉村右岸同縣同郡岩出町即チ貴志川合流點以下海ニ至ル幹川筋約一九粁六ノ間ナリ

河狀並計畫ノ大要

本川ハ源ヲ大和、伊勢ノ國境ナル大臺原山附近ニ發シ西北流シテ山間ヲ迂餘曲流スルコト數回、奈良縣吉野郡國樸村ニ至リテ高見山ヨリ發スル右支小川ヲ納レ同郡上市町ニ至リテ方向ヲ西微南ニ轉ジ吉野山ノ北麓ヲ流レテ吉野川ト稱シ宇智郡五條町ニ於テ左支黑龍川ヲ併セテ和歌山縣下ニ入り茲ニ始メテ紀ノ川ト稱セラル夫ヨリ伊都郡橋本町ヲ過ギ同郡九度山町ニ至リテ左支丹生川ヲ入レ尙モ同方向ニ流レ妙寺(伊都郡)名手、粉河(以上那賀郡)等ノ小都邑ヲ經其間左右ヨリ數多ノ小支ヲ併セ更ニ那賀郡岩出町ノ東端ニ至リテ最大支貴志川ヲ左方ヨリ納レ同町狹窄部ヲ經テ始メテ和歌山平野ニ出デ更ニ流ルルコト約一六粁、和歌山市ノ北端ヲ擁流シ左方ニ和歌川、水軒川ヲ分派シ右方ヨリ土入川ヲ入レ尙二、三ノ中洲ヲ擁シテ數派ニ離合シ末端ハ一川トナリテ海ニ注グ

幹川流路ノ延長約百三十粁ノ内奈良縣下ヲ流ルルコト約七十五粁、和歌山縣下ヲ流ルルコト五十五粁

ニシテ水面勾配ハ高水時岩出町ニ於テ凡ソ四百分ノ一最下流部ニ於テ凡ソ一千五百分ノ一トス流域面積ハ奈良縣下ニ屬スルモノ約九百五十六方籽和歌山縣下ニ屬スルモノ九百六十方籽合計一千九百十六方籽トシ此中八十二パーセントハ山地ニシテ平地ハ僅ニ十八パーセントニ過ギズ然カモ該平地中ノ約八十パーセントハ和歌山縣ニ屬ス

夫レ斯ノ如ク全流域ノ約八割ハ山地ニ屬シ然カモ水源地方ハ主トシテ古生層ヨリ成ルハ峯巒重疊セルヲ以テ水清ク豊ニシテ平時舟楫灌溉上ノ利益相當ニ大ナルモノ在リト雖モ一朝洪水ノ場合ニハ和歌山市街ノ一部ヲ始メ沿岸ノ低地部ニ汎濫シテ耕地ノ荒廢家屋ノ倒破堤塘橋梁等ノ損壞甚シク之レニ加フルニ一般産業交通衛生上等ノ諸方面ニ被ムル損害ヲ具ニ計上スル時ハ其額尠カラズ就中近年ニ在リテハ明治三十二年及大正六年ノ洪水ヲ其ノ最タルモノトス

本改修計畫ハ洪水防禦ヲ主眼トシ其流量竝水位ハ從來ノ最大洪水タル大正六年十月ノ夫レヲ基準トス即チ同年ノ最高水位ヲ超過セザル水位ヲ以テ最大洪水量每秒五千六百立米ヲ安全ニ疏通セシメ得ベキ工事ヲ施設スルニ在リ然ルニ紀ノ川ハ現在河幅ハ概シテ廣濶ニシテ岩出狹窄部ノ百六十米ヲ除ケル他ハ三百二十七米乃至七百六十三米ヲ有スルニ依リ岩出狹窄部ヲ二百七十二米ニ切り擴ゲ其他二三ノ陝隘ナル箇所ハ四百三十米乃至四百九十米ニ擴張ス然レド河中ハ現在ノ儘ニシテハ尙河積不充分ナルヲ以テ必要ノ掘鑿及浚渫ヲ行ヒテ前記ノ計畫流量ヲ快疏スルニ充分ナラシメ上流ノ高水位ヲ低下シテ冠水ノ區域ト時間トヲ縮少セシメントス

堤防ハ舊堤擴築部竝新堤共總テ其天端ヲ計畫高水位上一米五ニ在ラシメ其標準斷面ハ馬踏幅六米表法ハ二割五分トシ尙高サノ大ナル堤防ニ在リテハ幅八米乃至十米ノ表小段ヲ附シ小段以下ハ三割法トシ

必要ナル箇所ニハ石張、其他適當ナル護岸ヲ施設スルモノトス次ニ裏法ハ通ジテ二割トシ天端ヨリ約二米ヲ下リテ幅四米ノ裏小段ヲ附スル豫定ナリ其他必要ニ應ジテ支派川入口ニ樋門ヲ設置シ尙河口ニハ突堤ヲ設ケントス

施工狀況

前年度ニ引續キ實施測量ヲ爲シ其終了シタル部分ニ對シテ計畫ヲ立テ堤防及掘鑿幅杭打等ヲ爲シテ年度ヲ終リ尙工事著手ノ運ビニ至ラズ
 大正十四年九月一日改修事務所内ニ土地收用事務所ヲ設置シ右岸ニ於テハ紀ノ川右支千手川合流點ヨリ下流海草郡野崎村大字北島、北島橋ニ至ル及左岸海草郡四ヶ郷村大字松島ヨリ和歌山市宇治、北島橋ニ至ル間ノ土地調査ニ著手シ土地ノ丈量分割、登記等ノ大部分ヲ終了セシモ尙買收價格發表ニ至ラズシテ年度ヲ終了セリ

本年度ニ於テ竣功セシ工費ハ三萬三百五圓ニシテ起工以來ノ累計七萬五千八百十二圓ナリ之ヲ總工費豫算四百七十二萬圓ニ比スレバ約零割二分ノ竣功トナル其竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費	—	一六、三〇五	—	九、四三一	—	二五、七三六	—
施行中諸費	—	二九、二〇二	—	二〇、八七四	—	五〇、〇七六	—
總計	—	四五、五〇七	—	三〇、三〇五	—	七五、八一二	〇・〇二

第三〇 綠川改修工事

（下關土木出張所）

緒言

本工事ハ工費四百萬圓（内熊本縣負擔百十七萬四千圓）ヲ以テ大正十四年度ヨリ同二十五年年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシテ施行スル計畫ニシテ其區域ハ幹川筋熊本縣下益城郡杉上村以下海ニ至ル約十六糎支川加勢川筋飽託郡日吉村以下幹川合流點ニ至ル約三糎及派川嘉永新川ナリトス

河狀並計畫ノ大要

綠川ハ源ヲ熊本縣阿蘇郡小峯村三方嶽ニ發シ西北ニ向ヒ深山幽谷ノ間ヲ奔流シテ上益城郡白糸村ニ至リ高サ十五丈ノ瀑布トナリ同郡宮内村大字上揚ニ達シ初メテ平地ヲ出デ更ニ同郡甲佐町ニ下レバ鶴瀬堰アリテ全川ヲ横斷ス之ヨリ流路北折シ同郡乙女村ヨリ再ビ西北流シ同郡上島村ニ於テ支川御船川ヲ合シ水勢漸ク大トナリ勾配稍々緩トナル尙下リテ下益城郡杉合村大字釋迦堂ニ至リ加勢川ノ合流スルヤ河幅却テ狹小トナリ流路亦迂回曲折ス爲ニ洪水疏通ノ障礙ヲ爲スコト甚シク上流ニ多大ノ災害ヲ來スヲ以テ既往ニ於テ別ニ堀川放水路ヲ設ケ杉合村大字小岩瀬ニテ本川ニ合セシメタルニ依リ今日ニテハ平水ハ主トシテ放水路ヲ流下シ本流ハ加勢川ノ流路タルノ状態ヲ爲セリ夫ヨリ更ニ西流スルコト須臾ニシテ流路急ニ南折シ大彎曲シテ走瀉村ヲ抱擁ス因テ此處ニ嘉永新川ヲ設ケ川口村方丈ニテ本川ニ落合ハシメ洪水時ノ放水路ト爲ス同所ヨリ下流ハ河幅頓ニ増大シ西流シテ筑紫海ニ注ギ其流路延長約

九十八畝ニ達ス

本川ハ流域面積一千八十方畝ニシテ未ダ大河ナリト謂フベカラザレドモ沿岸一帯ノ耕地低濕ニシテ一朝非常洪水ニ會セバ殆ンド平地部全區域ニ汎濫シ其災害甚大ナルモノアリ由來本川ノ水害ハ比較的勾配急ナル幹川上流ヨリ急奔シ來リタル洪水忽チ杉合村地内ノ狭窄部ニ扼セラレテ漸次水位ヲ昇騰シ其極終ニ堤防ノ決潰等ヲ誘起シ又支川ニ逆流スルニ因リテ生ズルモノニシテ非常洪水ナラザルモ湛水數日ニ瀾ルコト多ク年々ノ損害少ナカラズ之ヲ以テ古來本川ノ治水ニ關シ或ハ各所ニ放水路ヲ開鑿シ或ハ堅固ナル堤防ヲ築設スル等高水防禦ニ苦心ヲ拂ヒタル跡歷然タルモノアリト雖モ此等ノ多クハ局部ノ施設ニ止マリ未ダ根本的ニ水害ヲ一掃スルニ至ラズ

現ニ大正元年ノ大洪水ノ如キハ其損害額實ニ百五十萬圓ノ多キニ達シタリト云フ本川ノ夙ニ第一期河川トシテ改修ノ必要ヲ認メタル亦宜ナリト謂フベシ

本川ノ水害ハ前記ノ如ク杉合村附近ニ於ケル河積不足ノ爲メニ洪水ノ疏通シ能ハザルニ主因スルヲ以テ本改修ニ於テハ堀川ヲ擴幅開鑿シテ本流ト爲スト同時ニ同所以下ノ本流モ亦河幅ヲ増大シ河狀ヲ匡正シ又走瀉村附近現在ノ迂回水路ハ甚シク洪水ノ疏通ヲ阻碍スルヲ以テ嘉永新川ヲ擴張シテ之ヲ本流ト爲シ其他河口ヨリ上流御船川合流口附近ニ至ル區間ニ於テ數箇所河幅ヲ擴大スルノ外多クハ舊堤ノ増築ニ止メントス

計畫高水量ハ幹川筋每秒三千三百四十立米、支川加勢川同四百二十立米ト定ム又計畫河幅ハ幹川筋杉合村鐵道橋附近ノ二百二十米ヲ最狹トシ之ヨリ上流ハ二百八十米乃至三百二十米、下流ハ三百二十米ヨリ漸次増加シ嘉永新川附近ニ至リ三百五十米トシ以下河口ニ至リ四百五十米乃至六百六十米ヲ有セシメ

加勢川ニ對スルモノハ九十米ヲ保タシムルコトトセリ
堤防ハ馬踏五米五兩法二割、天端高計畫高水位上一米乃至一米五トス

施工狀況

本工事ハ本年度ノ創業ニシテ十月飽託郡川口村ニ測量員詰所ヲ設置シ後之ヲ同郡川尻町ニ移轉セリ本
年度ニ於テハ專ラ實施測量ヲ施行シ年度末迄ニ支川加勢川ノ合流點釋迦堂附近ヨリ海ニ至ル區間ノ法
線設定及從橫斷測量ヲ終了セリ

本年度ニ於ケル本改修工事竣功高ハ五千九百七十八圓（事務費及現在物品代價ヲ除ク）ニシテ之ヲ總工費
四百萬圓ニ比スレバ僅ニ零割零分一厘ニ過ギズ其竣功表左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費				一、五二二 円		一、五二二 円	
測量費				二、五六八		二、五六八	
施行中諸費				一、八五二		一、八五二	
共済組合給與金				三六		三六	
總計				五、九七八		五、九七八	〇・〇一

第二章 河川附屬物及水路維持

第一 木曾川附屬物及水路維持

(名古屋土木出張所)

緒言

木曾川附屬物及水路維持工事ハ明治三十五年度ヨリ毎年度工費三萬圓ヲ以テ維持修繕ヲ爲ス事トシ國庫ニテ一萬圓、岐阜縣一萬四千圓、愛知縣四千圓、三重縣二千圓ノ分擔割合ヲ以テ施行シ來リシガ後同四十年度ヨリ大正十八年度ニ至ル二十三箇年度繼續事業トシテ年々工費三萬圓、總工費六十九萬圓ヲ以テ更ニ維持ヲ爲ス事トナリシガ爾來諸物價ノ暴騰ニ會シ當初豫算ニテハ維持困難トナリシヲ以テ大正九年度以降年額五萬四千圓總工費九十三萬圓トナリ更ニ同十一年度ハ年額九萬六千圓、總工費九十七萬二千圓ニ増額セラレ同十二年度以降ハ年額九萬六千圓、總工費百七十四萬六千圓トナリ同十三年度以降年度割額更正ノ爲メ四萬八千圓ノ減額トナリ年額八萬四千圓、總工費百六十九萬八千圓トナリ繼續年度ヲ同二十四年度迄延長セラレタルヲ更ニ年度割額更正ノ爲メ大正十四年度ヨリ年額八萬圓、總工費百六十九萬八千圓トナリ繼續年度ヲ同二十五年迄延長セラレタリ其維持ノ目的物ハ左ノ如シ

一、成戶、船頭、平間、木曾、長良、兩川瀨割堤防

一、油嶋、締切堤防ヨリ桑名町地先、長良、楫、斐、兩川瀨割堤防

一、以上瀨割堤防ニ直接關聯セル護岸制水

一、船頭平閘門及前後附屬物

一、木曾川河口導水土堤及石堤

一、楫斐川河口導水土堤及石堤

一、楫斐川流末低水敷

施工狀況

本年度施行ノ工事ハ前年度ヨリ繰越タル立田（愛知縣海部郡立田村）地内堤防第二補修工事及葛木（同村）地内堤防補修工事、葛木地内木曾川右岸護岸制水修繕工事ノ三箇所ハ之ヲ竣功セシメ本年度新ニ著手シタル立田地内堤防第三補修工事、日原（岐阜縣海津郡東江村）地内護岸制水新設工事、小貝須（三重郡桑名郡城南村）地先楫斐川河口導水堤修繕工事、立田地内船頭平閘門修繕工事ノ四箇所ハ竣成シ本年度新ニ著手シタル大成（愛知縣海部郡）地内堤防補修工事及立田地内護岸制水新設工事、立田地内護岸制水修繕工事ノ三箇所ハ未竣功ノ儘次年度ニ繰越セリ而シテ以上ノ工事ニ對シ直接支出シタル工費ハ六萬七千八百六圓ナリ

船頭平閘門ノ本年度ニ於ケル通航數ヲ記述スレバ大船六十石積以上、五千三百八十三隻、中船二十石積以上、一千五百八十八隻、小船二十石積以下、五千百六隻、合計一萬二千七十七隻ト外ニ木、竹、筏（一組長五間乃至七間幅約六尺乃至十四尺）四千八百三十四組ヲ通過セシメタリ前年度ニ比シ通航數ノ減少セルハ閘門扉塗替工事施行ノ爲メ大正十四年十一月二十五日ヨリ十二月二十四日迄三十日間舟、筏ノ通航ヲ停止セシメ因ル

本年度維持工事竣功額ハ八萬八千三百七十七圓ニシテ起工以來ノ累計八十四萬八千二百五十六圓ナリ
 而シテ總工費百六十九萬八千圓ニ比シ五割ノ竣功歩合ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ但シ「*」ハ保管轉換
 材料代ヲ示ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
制水費		一六七、八一〇	二七、四一六	一九五、二二六			
護岸費		六一、八〇四	三三、三三三	六二、一三七			
堤防費		一三九、二四七	三四、三九〇	一七三、六三七			
導水堤費		六一、八六〇	三、六四〇	六五、五〇〇			
浚渫費		五五、八四九		五五、八四九			
閘門費		四七、五二五	二、〇三七	四九、五六二			
假設工費		六、一〇六		六、一〇六			
施行中諸費		一二四、四五二	一三、七五〇	一三八、二〇二			
船舶及機械費		六〇、四二七	八五三	六一、二八〇			
測量費		二〇、九一九	一、七三〇	二二、六四九			
營業繕費	*	一一、八六一	三、八一八	一六、六七九			
火災損失額		一四四		一四四			
不用額		一一八		一一八			
共濟組合給與金		七五七	四二〇	一、一七七			
總計		七五九、八七九 一八八	八八、三七七	八四八、二五六 一八八			〇・五〇

第二 淀川附屬物及水路維持

(大阪土木出張所)

緒言

淀川改良工事ハ明治四十三年度ニ於テ竣功ヲ告ゲ堤防其他ノ工事ハ夫々所屬府縣ニ引繼ヲ了セルモ同川筋一部ノ築造物即チ瀬田川洗堰(滋賀縣久世郡)毛馬洗堰(大阪府東成郡城北村)毛馬第一閘門(同上)六軒屋閘門(西成郡西野田)傳法閘門(同郡傳法町)西島閘門、正蓮寺川締切堰堤(同町)ニ對シテハ本省ニ於テ直接管理ノ任ニ當リ明治四十四年度以降大正十七年度ニ至ル十八箇年度ニ互リ年額一萬一千圓、總豫算十九萬八千圓ヲ以テ之ガ維持修繕ヲ行フコトトナリシガ大正五年四月工費一萬一千圓ヲ増額スルト共ニ年限ヲモ一箇年度延長セラレ尙同七年度ニ至リ淀川下流改修工事ニテ竣功シタル毛馬第二閘門、長柄起伏堰(西成郡豐崎町)ト毛馬第一、第二兩閘門前後ノ水路維持ヲモ行フ事トナリタルヲ以テ年額ヲ二萬五千圓ニ改定シ豫算總額ヲ三十七萬七千圓トシ翌八年度ニ於テ長柄運河頭部開閉扉ヲ淀川附屬物維持ニ加ヘラレ又大正十年年度ニ於テ物價騰貴ノ爲メ年額ヲ四萬圓ニ改メ豫算總額五十一萬二千圓ヲ以テ維持ヲ行フコトトナリシガ同十一年度ヨリハ淀川下流改修工事ニテ竣功セル傳法第二閘門及六軒屋洗堰並、サイフオンヲ更ニ管理セララル事トナリタルト堰桁ノ取替其他ノ修繕ト毛馬閘門前後航路ノ浚渫ヲ爲ス爲メ二萬圓ヲ要スルト大正九年度ニ高梁川ヨリ流用セシ一萬三千五百圓ヲ返還スル爲メ同十一年度ニ三萬三千五百圓ヲ増額セラレタリ又大正十二年度ハ淀川下流改修工事ニテ竣功セル六軒屋第二閘門ヲ追加セラレタルト閘門及洗堰ノ大修理ヲ要スル爲メ年度割額四萬圓ノ外四萬二千六百圓ヲ増額セラレ尙十三

年度ハ六萬圓、十四年度以降二十四年度迄ハ各七萬六千圓宛ニ最終年度二十五年度ハ四萬四千圓ニ改メ豫算總額百二十八萬八千百圓(十四年度以降八十萬圓)トナリ年限モ亦大正二十五年度迄延長セラレタリ而シテ本費ハ元全部國費ヲ以テ支辨シ來リシガ大正十二年度以降ハ關係地方ニ其費用ヲ負擔セシメラルル事トシ國費六十二萬二千二百圓、地方費六十六萬五千九百圓ノ割合トナレリ

是等附屬物維持ノ目的ヲ達スル爲メ滋賀縣栗太郡下田上村大字黑津ニ瀨田川看守場ヲ大阪市東淀川區北長柄町ニ淀川看守場ヲ設置シ各擔當技術者ヲ配置シ專用電話ヲ備ヘテ通信ヲ敏活ナラシメ各所ニ量水標ヲ設ケテ水位ノ觀測ヲ行ヒ尙降雨ノ際ニハ水源地方ニ於ケル雨量觀測所及森林測候所ヨリ電報ヲ以テ雨量ノ報告ヲ受ケ洪水ニ際シテ起ルベキ水位ヲ豫知シ以テ被害ノ輕減ニ努メ又渴水時ニ際シテモ常ニ灌溉ト航運トニ支障無キ流量ヲ持續スル様調節ヲ行ヒツツアリ

正蓮寺川堰堤ハ大阪府ニテ施行セシ中津川改修ノ結果大正十二年九月其公用ヲ廢止セラレタリ

施工狀況

施工ノ主ナルモノハ前述ノ如ク閘門及洗堰、起伏堰、其他ノ開閉修繕及航路維持浚渫等ニシテ本年度ニ在テハ前年度著手ノ六軒屋第一閘門々扉四枚ノ取替ヲ竣成セリ

本年度竣功額七萬七百四十三圓ニシテ明治四十四年創業以來ノ累計支出高ハ四十七萬四千八十圓ナリ故ニ總額百二十八萬八千百圓ニ比スレバ約三割七分ノ割合ニ當ル其工事竣功高ハ左表ノ如シ但シ瀨田川、毛馬ノ洗堰、毛馬第一閘門、六軒屋第一閘門、傳法第一閘門、西嶋閘門ハ明治四十四年度以降、毛馬第二閘門及長柄起伏堰ハ大正七年度以降、長柄運河頭部扉ハ同八年度以降、傳法第二閘門、六軒屋洗堰及、サイフォン、

總

計

二九〇、四六〇

一一二、八七七

五〇、八三六

一九九〇七

三四一、二九六

一三二、七八四

〇・三七

第二章 河川附屬物及水路維持 (淀川附屬物及水路維持)

第三 利根、渡良瀬兩川維持

(東京土木出張所)

緒言

本工事ハ當初大正十二年度ヨリ同二十三年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシテ毎年度三十三萬四千二百圓、總工費四百一萬四百圓(三分ノ二ハ地方費)ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ本年度ニ於テ二萬三千圓ヲ増額シ總工費ヲ四百三萬三千四百圓ニ改メ年割額ヲ更正シ施行年限ヲ二箇年度延長シテ大正二十五年年度ニ至ル十四箇年度繼續事業トシ施行スルコトトナレリ其區域ハ利根川筋群馬縣佐波郡芝根村以下右岸千葉縣海上郡椎柴村、左岸茨城縣鹿島郡矢田部村ニ至ル百八十一軒、渡良瀬川筋栃木縣下都賀郡三鴨村大字都賀以下利根川合流點ニ至ル十五軒九ナリトス

上記施行區域内ニ於ケル兩川改修工事ハ利根川筋ニ於テ一、二ノ重要箇所ヲ除クノ外大正十一年度末迄ニ殆ント八、九分通リヲ竣功シ堤塘ノ連續ト相俟テ河狀整齊シ復タ往年ノ慘害ヲ思ハザルニ至レリト雖モ既成部ノ水路及附屬物ハ其竣功古ク添路ノ異動、堤塘ノ沈下、護岸制水ノ破損等相當多ク是等八年ト共ニ加ハリ此儘放置スルトキハ昔日ノ險惡ナル狀態ニ戻リ所謂九仞ノ功ヲ一簣ニ缺クノ虞ナシトセズ旁々其利害ノ及ブトコロ數縣ニ跨リ重大ナル關係アルヲ以テ之レガ維持上常時修補ノ緊切ナルヲ認メ第四十七帝國議會ノ協賛ヲ經テ前記ノ如ク國ニ於テ施行スル事トナレリ

施工狀況

本工事ハ利根川第二期、同第三期並渡良瀬川ノ各改修事務所ニ於テ分擔施行スルコトナリシガ派出所及機械器具ノ一部ヲ其儘使用シ得ルノ便宜ヲ有シタルヲ以テ大正十二年八月十五日ヨリ工事ニ著手シ同十四年度末迄ニ堤防修補土量十四萬四千七百九十九立米、浚渫土量五萬七千七百七十二立米、護岸制水延長二萬九千四百四米ヲ施工シ工費合計六十六萬四千七十二圓ヲ支出セリ今各工區別ニ施行ノ狀況ヲ述ベントス

第二期改修ニ屬スル施行區域ハ取手鐵橋以下右岸千葉縣海上郡椎柴村、左岸茨城縣鹿島郡矢田部村ニ至ル七十八軒ニシテ堤防並制水ノ修補ヲ主トシ横利根閘門ノ管理ヲ併セ施行セリ

本年度ニ於テハ堤防ノ沈下或ハ崩壞等ノ小修補九箇所ヲ施工シ工費二千六百六十九圓ヲ支出シ護岸及制水六箇所並前年度起工ノ布川、平岡、中谷ノ三制水ヲ合セ總延長二千二百六米ヲ竣成シ工費六萬八千五百十九圓ヲ支出セリ又横利根閘門管理ノ爲メ支出セルハ四千二百九十一圓ナリトス

第三期改修ニ屬スル施行區域ハ上流群馬縣佐波郡芝根村以下茨城縣北相馬郡取手鐵橋迄百軒ニシテ護岸制水ヲ主トシ堤防ノ修補並浚渫ヲ併セ之ヲ施行シ年度内堤防修補八箇所、浚渫一箇所ヲ施工シ工費一萬四千四百八十三圓ヲ支出シ護岸制水修補ハ護岸十六箇所、制水六箇所其延長五千八百四十三米ヲ竣成シ工費十萬七千五百五圓ヲ支出セリ以下少シク施工ノ狀況ヲ記述スベシ

沼ノ上、赤岩間ニ於ケル島村(群馬縣仁手村)及男沼村(以上埼玉縣)地先堤防ハ轍ノ爲メ凹マル馬踏ノ小修補延長三千百七十米ヲ施工シ秦村(埼玉縣)地先新堤ハ本年八月ノ出水ニテ堤裏一帶ニ漏水ヲ生ジ危險ノ虞アルヲ以テ幅六米計畫高水位高ノ前小段ヲ附スルコトトシ年度内六分通り竣成セリ此區間ハ護岸制水ニ最モ力ヲ注ギ工法ハ主ニ杵類ヲ用ヒ其部材ハ最近鐵筋混凝土材ヲ使用セリ又沼ノ上、八斗島、上仁手、長

沼、仙石（以上群馬縣）下仁手、前河原、間々田、妻沼、長井（以上埼玉縣）等各地先ハ水衝リ強キヲ以テ鐵筋材中聖牛ヲ設置シ又ハ鐵筋材合掌杵ヲ沈設シ護岸ノ根固メヲ鞏固ニセリ

赤岩境間ニ於ケル堤防修補ハ埼玉縣北埼玉郡井泉村及利島村地先ニ於テ馬踏ノ笠置ヲ施工シ群馬縣邑樂郡大箇野村大字飯野地先ハ川裏堤脚附近ニ漏水セルヲ以テ延長百二十米ニ互リ杭打工ヲ施行セリ又護岸ハ埼玉縣北埼玉郡須賀村及茨城縣五霞村地先ハ水衝リ強ク舊護岸沈下破損セルヲ以テ之ヲ修補シ北埼玉郡村君及利島地先ハ柳枝護岸ヲ續工シ邑樂郡飯野斗合田地先ハ石張柳籠護岸ヲ目論見、石張基礎ノ一部ヲ施工セリ制水工事ハ同郡江口、飯野斗合田及北埼玉郡村君地先ハ堤脚保護ヲ主トシ飯野及五霞地先ハ低水路ノ匡正ニ重キヲ置キ何レモ杭打上置ヲ施工シ一部ニ合掌杵及上層ヲ使用シ杭打、上置及合掌杵ノ半ハ杭及部材ヲ鐵筋混凝土製トセリ又低水路維持ニ關シテハ茨城縣猿島郡五霞村及香取村地先ニ於テ杭打、上置其他ニ依リ五箇所ヲ修補セリ

境、取手間ニ於テハ猿島郡稻戸井、長須、境、東葛飾郡二川、木野崎、北埼玉郡川邊ノ各地先堤防漏水セルヲ以テ笠置及川裏堤脚附近ニ置土ヲ爲スノ外杭打ヲ施工シ修補ニ努メタリ

護岸及制水ハ猿島郡猿島村及東葛飾郡田中村、富勢村地先低水路ノ維持及匡正ノ爲メ杭打、上置及合掌杵ノ制水ヲ前年度ヨリ續工シ東葛飾郡福田村、木野崎地先ハ堤脚保護ノ爲メ同郡川間地先ハ護岸ノ前面深掘防禦ノ爲メ何レモ合掌杵ヲ縣沈設セリ又同郡關宿、木間ヶ瀬間ハ流路亂レ易キヲ以テ之レガ匡正ニ努メ舊制水中杭打、上置又ハ合掌杵ニテ修補シタルモノ四箇所アリ又前記木間ヶ瀬護岸ノ前面ハ深掘ヲ生ジ危險ナルヲ以テ杭打、上置ヲ設置セリ

渡良瀬川改修ニ屬スル施行區域ハ栃木縣下都賀郡三鴨村大字都賀以下利根川合流點ニ至ル十五軒九ニ

シテ堤防及護岸制水ノ修補ニ努メ年度内堤防修補二箇所ヲ施工シ工費五千五百八十五圓ヲ支出シ護岸及制水修補三箇所延長八百二十米ヲ施工シ工費一萬四千六百五十四圓ヲ支出セリ今少シク左ニ其概況ヲ述ベントス

游水地下流左岸猿島郡新郷村大字立崎地先既設堤塘敷ハ元深キ池沼部ナリシト猶一大池沼ハ本堤ニ沿ヒ現存セル等ノ關係ニテ高水時ノ危険尠ナカラザルニ依リ之ニ修補工事ヲ施行シ右岸北埼玉郡川邊村大字向古河地先ニ於ケル内部引堤築設箇所ハ其堤敷砂層ニ屬シ出水時滲透湧水甚シキヲ以テ適當ナル修補ヲ施工シ年度内何レモ竣功セリ

護岸工事ハ利根川合流點附近左岸低水路ニ於ケル在來ノモノハ概ネ腐朽破損セルヲ以テ前年度ヨリ修補工ヲ續工シ又群馬縣多野郡藤岡町新川低水路ハ高水時ニ於テ深掘ヲ生ジ兩岸ニ於ケル護岸工ヲ破損シ又游水地内低水路護岸ノ一部腐朽破損セル箇所アルヲ以テ何レモ修補工ヲ施行シ前者ハ年度内竣功シ後者ハ其大部分ヲ施工セルモ尙未竣功ニ終レリ

本年度兩川維持工事竣功高ハ二十九萬一千六百十圓ニシテ起工以來ノ累計ハ八十六萬六千三百三十二圓ナリ之ヲ總工費豫算四百三萬三千四百圓ニ對比スレバ二割一分強ノ竣功トナレリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中ハ土捨出願者提供勞力及材料價額ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計		竣功歩合	
	數	量	數	量	金	額	數	量		
築堤費	九九九四九	粒	四四、八五〇	粒	二〇、九〇七	圓	一四四、七九九	圓	一〇四、四五五	圓
	五七七二二	圓	—	圓	四、五〇〇	圓	五七、七二二	圓	四、五〇〇	圓
浚深費	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
本工事	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣工歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
護岸制水費	二、〇五三五 <small>米</small>	三四七、三四九 <small>円</small>	八、八六九 <small>米</small>	一九〇、三一八 <small>円</small>	二九、四〇四 <small>米</small>	五三七、六六七 <small>円</small>	
船舶及機械費		二五、八九二		五、二八〇		三一、一七二	
測量費		四、五九二		四、八二七		九、四一九	
營繕費		六、一六九		五、六四四		一一、八一三	
施行中諸費		八三、四〇六		六〇、六八九		一四四、〇九五	
共済組合給與金		二、九四六		二、六一五		五、五六一	
總計		▲ 五七四、五二二		▲ 二九一、六一〇 四、五〇〇		▲ 八六六、一三二 四、五〇〇	〇・二一

更ニ前表ヲ各改修別ニスレバ次ノ如シ

第二期改修

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣工歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
築堤費	一七、二九四 <small>米</small>	一四、一七〇 <small>円</small>	一、九九五 <small>米</small>	二、一六九 <small>円</small>	一九、二八九 <small>米</small>	一六、三三九 <small>円</small>	
護岸制水費	六一一	二四、四四七	二、二〇六	六八、一五九	二、八一七	九二、六〇六	
船舶及機械費		七、一三三		二、六二八		九、七六一	
測量費		一、八四九		一、三六六		三、二一五	
營繕費		二、五〇九		一、七八九		四、二九八	
施行中諸費		二七、五四〇		二四、一四三		五一、六八三	

種別	前年度迄		本年度		合		計	功
	數	金額	數	金額	數	金額		
築堤費	12,526 粒	7,958 円	8,300 粒	5,558 円	20,826 粒	13,516 円		歩合
濬深費	16,800 米	6,460 円			16,800 米	6,460 円		
護岸水制費	1,418 米	47,362 円	820 米	14,654 円	2,238 米	62,016 円		
船舶及機械費		222 円				222 円		
測量費		958 円				958 円		
營業費		291 円				291 円		
施行中諸費		6,804 円				6,804 円		
共濟組合給與金		310 円				310 円		
總計		70,110 円		29,372 円		99,482 円	0.03	

第三章 砂防工事

第一 淀川流域砂防工事

(大阪土木出張所)

緒言

本工事ハ明治十一年度ヨリ引續キ施行シ來リシガ同四十年年度ヨリ十箇年度ノ繼續事業トシテ毎年工費三萬圓ヲ以テ施行スルコトトナリ其後兩度ニ之レヲ追加延長シテ大正十八年度ニ至ル二十三箇年度繼續事業トシ總工費六十九萬圓ヲ以テ施行ノコトニ改マレリ其區域ハ京都滋賀、三重及奈良ノ一府三縣ノ管内ナリ

施工狀況

本年度工費ハ既定年割額三萬圓ヲ以テ從來ト同様豊原(奈良縣)下田上及雲井(滋賀縣)伊賀(三重縣)ノ四工場ニテ作業ニ從事シ年度内成功セル兀崩面積新設十四ヘクタール四〇六工費二萬三千百二十五圓(一アル平均二十四圓二十七錢)修繕四百四十六圓、合計二萬三千五百七十一圓ニシテ其地方別左表ノ如シ

種別	滋賀	三重	奈良	良	合計
新設工事	一一、九一〇 円	六、三三八 円	四、八七七 円	—	二二、一二五 円
修繕工事	三三三 円	一一二 円	—	—	四四六 円
總計	一二、二四四 円	六、四五〇 円	四、八七七 円	—	二三、五七一 円

總計	施行中諸費	床固修繕	護岸修繕	崖法切修繕	積石修繕	積苗修繕	堰堤修繕	柴石水叩	藁伏工	苗木植付工
		一、〇六一	一、九九九	二、四九五	二、八一七	六二、一二二	一、二八九	六九	五、一五六	二六〇、〇二一
	五、四六、三三一	四七四	五二	九〇六	一、二五三	八、九二六	二、四七五	六五	三三〇	一、一三、五〇三
	一、四六						二八		九〇〇	二〇〇、八〇〇
	二、九、九一五						一〇四		一四六	二、七六七
										一四、九三三
										二八、七五九
										六、〇五六
										六九
										一、三二七
										六二、一二二
										二、八一七
										二、四九五
										一、九九九
										一、〇六一
	八〇、三九九	四七四	五二	九〇六	一、二五三	八、九二六	二、五七九	六五	四七六	一、一六、二七〇
	五七六、二四六									一四六
	〇、八四									

總計	種苗切	崖堤	堰工	筋固	根伏	粗朶	苗木植	積木植	施積苗	行中諸
	六九、五九九 米	二六、〇〇一 方米	三七九 米	八、九七一 方米	五二	八二二 本	七二七、〇九二 米	四三四		
五三、五六六	一七、九三一 円	二、六二五	一、〇一六	一、三四六	七四	一三八	一一、四八八	一〇三	一八、八四五	
	六、〇六〇 米		二六 方米	二、九〇五 米			四一、六〇〇 本			
六、六〇八	二、〇四九 円		五五	三八七			九一〇	三、二〇七	六、六〇八	
	七五、六五九 米	二六、〇〇一 方米	四〇五 米	一一、八七六 米	五二	八二二 本	七五八、六九二 米	四三四		
六〇、一七四	一九、九八〇 円	二、六二五	一、〇七一	一、七三三	七四	一三八	一一、三九八	一〇三	三三、〇五二	
〇・六三										

第三 大谷川流域砂防工事 (利根川支川 鬼怒川小支)

(東京土木出張所)

緒言

本工事ハ大正六年度ヨリ同十八年度ニ至ル十三箇年度繼續事業トシテ毎年度三萬圓總工費三十九萬圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ六年度ニ於テハ施工ノ運ビニ至ラズ翌七年度ヨリ始メテ工事ヲ施行セリ其後八年度ニ於テ工費二萬四千圓ヲ増額セラレ尙十一年度以降年割額ヲ六萬圓ニ増額セラレタルヲ以テ結局六十五萬四千圓朽木縣負擔三分ノ一ヲ以テ施工スルコトナリシガ其後年割額ヲ變更シ且施工年限二箇年度ヲ延長シ大正二十年度迄ニ施工スルコトナレリ其施工區域ハ朽木縣上都賀郡日光町大谷川及其支流稻荷川ニシテ先ヅ後者ヨリ施工ヲ開始セリ

河狀竝計畫ノ大要

稻荷川ハ鬼怒川支流大谷川ノ小支ニシテ其源ヲ日光町ノ北部女峰山及赤薙山ニ發シ流下スルニ從ヒ大小幾多ノ溪流ヲ合セ神橋下流約三百米ノ箇所ニ於テ大谷川ト合流スル急勾配ノ河川ナリ其流域面積九方畝、流路延長八千五百五十六米、平均水面勾配十分ノ一強ニシテ川口ニ於テモ尙十三分ノ一ノ急勾配ヲ示セリ流域内山地ハ地質軟弱、地勢急峻、林相粗ナルニ加ヘ屢々豪雨アルヲ以テ山地ハ歲ト共ニ崩壞ノ度ヲ増シ出水ノ際ハ多量ノ土石ヲ流下シ時ニ土石流ヲ形成シテ大サ數十粒ノ大轉石ヲ押流ス事アリ是等ノ土石ハ下流川幅廣キ箇所ニ堆積スルヲ以テ川床ニハ大轉石横タハリ流身變動シ亂流ハ兩岸ヲ浸蝕崩

壞シテ盛ニ土石ヲ生産シ治水上大ノ障害ヲ起シツツアリ實ニ本邦稀ニ見ル荒廢河川ナリトス故ニ本川ニ對シ徹底的ニ砂防工事ヲ施行セントセバ多額ノ工費ヲ要スルヲ以テ先ヅ既定工費ノ範圍内ニテ緊急缺クベカラザル工事ヲ施行スルコトトシ本川中流部ニ十數箇所ノ堰堤ヲ築設シ川床ノ低下ヲ防グト同時ニ流下土石ヲ扞止シ川口附近ニ於テハ大谷、稻荷ノ兩川ニ數箇所ノ床固ヲ設ケ流身ノ匡正ヲ圖ラントス

施工狀況

本工事ハ大正七年度起工以來前年度迄ニ堰堤工事十三箇所、副堰堤一箇所、堰堤増補五箇所及床固三箇所ヲ施工シ内第十二、十三ノ兩堰堤及第一、第二、第三ノ各床固ヲ除クノ外全部ヲ竣功セシメタリ

本年度ニ於テハ前記未竣功工事第二床固ハ(休工)ヲ續工セル外新タニ日向堰堤工ヲ起工シタレドモ何レモ未竣功ニ終レリ今本年度施工ノ概況ヲ述ベシニ

第十二堰堤ハ前年度迄ニ築立ヲ竣ヘタレドモ本年八月ノ出水ニ因リ前法下端以下砂礫及岩盤浸蝕セラレタルヲ以テ設計ヲ變更シ該箇所ニ築立ヲ補足シ九分九厘通竣功セシメ前年度起工ニ係ル第十三堰堤ハ主トシテ築立ヲ施工シ六分通竣功セシメタリ又第一床固ハ前年度迄ニ過半竣功シ本年度ハ築立ヲ續工シタレドモ僅ニ一少部ヲ殘シ未竣功ニ終レリ第三床固ハ前年度ノ起工ニ係リ本年度ニ於テハ掘鑿ノ全部及築立ヲ施工シ六分通り竣功セシメタリ

尙本年度起工ニ係ル日向堰堤ハ上流川口ヨリ五千百三十五米ノ位置ニ築設スルモノニシテ高十五米、長六十米、築立々積四千二百四十粒ニシテ七月起工二分通竣功セリ

本年度ノ竣功額ハ五萬三千四十一圓ニシテ起工以來ノ累計ハ三十九萬三千九十二圓トナリ之ヲ總工費六十五萬四千圓ニ比スレバ五分九厘ノ割合ニ當ル其工事竣功表ヲ左ニ掲グ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事	未竣功 未竣功	二二六、二六〇 ^四	未竣功 未竣功	三九、二〇八 ^四	未竣功 未竣功	二七五、四六八 ^四	〇・五九
堰堤	三	三二、二六七	三	七、一三三	三	三九、四〇〇	
床固費		二、二六三		二六四		二、五二七	
測量費		二二、七八〇		六九六		二三、四七六	
器械費		八、八〇七				八、八〇七	
營繕費		三七、二八		五、四七四		四二、六〇二	
施行中諸費		五四六		二六六		八一二	
共濟組合給與金							
總計		三四〇、〇五一		五三、〇四一		三九三、〇九二	

第四 千曲川流域砂防工事 (信濃川上流)

(新瀉土木出張所)

緒言

本工事ハ大正七年度ノ創業ニ係リ五箇年度繼續事業トシ工費豫算三十一萬四千百圓ニテ長野縣下千曲川及同左支犀川兩流域ニ於テ急施ヲ要スル溪流ニ砂防工ヲ施スモノニシテ著手以來工事ノ進捗ニ努メ大正九、十兩年度ノ如キハ豫期以上ノ工程ヲ舉ゲ得タリシニ因リ追加工事ヲ企テ工費三萬四千五百圓ヲ増額シ工費豫算三十四萬八千六百圓(内長野縣負擔額十一萬六千二百圓)ヲ以テ同十一年度ニ結了セシモ尙引續キ急施ノ箇所多キガ爲メ工費四十萬八千圓ヲ以テ同十二年度ヨリ同二十年度迄九箇年度繼續事業トシテ續行スル事トナレリ總工費豫算七十五萬六千六百圓(内長野縣負擔額二十五萬二千二百圓)ナリ

施工狀況

本年度ニ於テハ前年度ト同様横湯川、八代澤、木澤ノ三箇所ニ施行ス當地ハ何レモ山間ノ僻地ニシテ人口稀薄、住民ハ主トシテ農蠶、伐木製炭等ヲ業トシ其餘暇ヲ求メテ勞働ニ從事スルモノ多キガ爲メ常ニ勞力ハ拂底ヲ招クト共ニ材料ノ供給モ亦不如意ナルト降雨、積雪等ニ依リ施工期間ヲ短縮セラレ不尠障害ヲ被レリ然レドモ本年ハ住民ノ外ニ多數鮮人ヲ使役セシニ依リ豫期ノ成績ヲ舉グルコトヲ得タリ今其施工ノ概要ヲ左ニ述ベン

横湯川ハ前年度ヨリ引續ケル石堰堤二箇所及之レガ附屬護岸法先捨石ヲ竣功セシメ斷崖法切工一千四

百四十六方米、山腹石積工七百四方米、筋工、積苗工、水路張石工ノ一部ヲ竣功セシメタリ
 木澤ハ本年度六月七日ノ豪雨ニ依リ各堰堤ハ水通竝兩袖ヲ溢流セラレ多少ノ被害ハ免レザル状態トナ
 リシヲ以テ之ニ鑑ミ水通ヲ深クシ兩袖ハ混凝土ニテ被覆スルコトトシ補修工四箇所ヲ竣功セシメ二箇
 所ハ翌年度ニ繰越セリ

八代澤モ亦木澤ト同様ノ被害状態ナルニ依リ補修工ヲ施シ二箇所ヲ竣功セリ
 岡田川、女鳥羽川及薄川ハ本年度モ亦専ラ山地ノ動靜ヲ監視セリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ三萬九千六百四圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ四十八萬二千八百七圓ナ
 リ之ヲ總工費豫算額七十五萬六千六百圓ニ比スレバ約六割四分ノ竣功ナリ其工事竣功表ヲ示セバ左ノ
 如シ但シ退職手當四十六圓五十錢ハ表中竣功高ニ含マズ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功額		合		計額	竣功歩合
	數	金額	數	金額	數	金額		
横湯川		一三三、五二〇		一六、九九三			一四九、五一三	〇・九五
木澤		三九、九五八		九、〇七二			四九、〇三〇	〇・九〇
八代澤		一六、五四一		三、四九九			二〇、〇四〇	
岡田川		九、〇一八					九、〇一八	
女鳥羽川		九〇、三九八					九〇、三九八	
薄川		八九、七三八					八九、七三八	一・〇〇
材料運搬費		二、一〇五		五四八			二、六五三	
小計		三八〇、二七八		三〇、一三二			四一〇、三九〇	
船舶及機械費		六、九二九		一、九七七			八、九〇六	

施行中諸費	總計
五五、九九六	四四三、二〇三
七五、一五	三九、六〇四
六三、五一二	四八二、八〇七
—	〇・六四

本工事は、千曲川流域砂防工事の一部として、昭和二十一年四月に開始された。当初は、千曲川下流の砂防工事として計画されたが、その後、千曲川中流の砂防工事として計画された。本工事は、千曲川中流の砂防工事として計画された。

本工事は、千曲川中流の砂防工事として計画された。当初は、千曲川下流の砂防工事として計画されたが、その後、千曲川中流の砂防工事として計画された。本工事は、千曲川中流の砂防工事として計画された。

本工事は、千曲川中流の砂防工事として計画された。当初は、千曲川下流の砂防工事として計画されたが、その後、千曲川中流の砂防工事として計画された。本工事は、千曲川中流の砂防工事として計画された。

本工事は、千曲川中流の砂防工事として計画された。当初は、千曲川下流の砂防工事として計画されたが、その後、千曲川中流の砂防工事として計画された。本工事は、千曲川中流の砂防工事として計画された。

第五 富士川流域砂防工事

（東京土木出張所）

緒言

本工事ハ明治四十四年度ヨリ大正十八年度ニ至ル十九箇年度繼續事業トシ毎年度工費七萬五千圓總工費百四十二萬五千圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ其後既定工費ヲ百四十萬一千圓ニ改メ同時ニ年割額ヲモ變更シ且施行年限ヲ二箇年度延長シ大正二十年度迄ニ施行スルコトトナレリ其區域ハ富士川支流笛吹川小支日川筋及上流釜無川支流御勅使川筋ニ施行スルモノトス

河狀並計畫ノ大要

日川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡ト北都留郡トノ境界ナル大菩薩嶺（二千五十九米）ニ發シ流域面積百八方糎、流路延長二十八糎ニシテ同郡勝沼町ノ下流約四糎ノ箇所ニテ笛吹川ニ合流スル急勾配ノ河川ナリ水源ヨリ勝沼町地先祝橋迄二十一糎ノ區間ハ山間部ニ屬シ兩岸概ネ岩盤ヲ露出シ河幅狹ク水面勾配急ニシテ下流ニ於テモ尙約三十分ノ一ナリトス祝橋以下河口ニ至ル六糎ノ區間ハ平地部ニ屬シ河幅廣ク水面勾配四十分ノ一以下ナルヲ以テ上流ヨリ流下セル土砂石礫ハ此部内ニ堆積シ水流ハ亂流シテ輕鬆ナル兩岸ヲ衝キ漸次河幅ヲ擴大セントスル傾向アリ明治四十年八月山梨縣下ニ大水害ノ起リシ際ハ本川流域山地ニ數百箇所ノ崩壞ヲ生ジ多量ノ土砂ヲ流下シ強大ナル土石流ヲ形成シ勝沼町地先ニ於テハ重量十噸以上ノ大轉石スラ移動シ亂流ハ兩岸ノ高地ヲ崩壞シ沿川各地ニ甚大ナル損害ヲ與ヘタリ

依テ先ヅ祝橋上流一籽一下流一籽九計三籽ノ區間ノ左右兩岸ニ多數ノ制水ヲ施設スルノ外法線内ノ淺濶ヲ行ヒ水路ヲ一定シ河岸ノ崩壞ヲ防止シ尙上流十數箇所ニ堰堤ヲ築造シ土石ノ流下ヲ扞止スルモノトス

御勅使川ハ駒ヶ嶽ヨリ南ニ連亘スル山脈中辻山(二千五百八十五米)大崖頭山(二千百八十六米)等ノ連峰ヲ分水界トシトノコヤ峠附近ヨリ其主流ヲ發シ流路延長十九籽ニシテ釜無川ニ合流スル急勾配ナル河川ニシテ流域面積八十五方籽ナリ

水源ヨリ中巨摩郡源村大字駒場地先迄約十二籽ノ區間部ニハ兩岸概ネ岩盤ヲ露出シ河幅狹ク水面勾配急ニシテ下流ニ於テモ尙三十分ノ一ニ過ギズ之レヨリ以下河口ニ至ル七籽ノ區間ハ平地部ニ屬シ河幅急激ニ擴ガリ其甚シキニ至リテハ七百米ニ及ビ上流ヨリ流下スル多量ノ土石ヲ此部分ニ堆積シ河床ハ沿岸ノ田畑ヨリ遙ニ高ク水流ハ亂流シテ屢堤防ヲ破壞シ沿川各地ニ多大ノ損害ヲ與ヘタリ然レバ古來汎濫暴漲舉グルニ暇アラズ縣下ニ於ケル難治第一ノ荒廢河川ナリトス

河狀如斯ナルヲ以テ山間部幹支川ノ適當ノ位置ニ數箇所ノ堰堤ヲ築設シ直接ニ土石ノ流下ヲ扞止スルト同時ニ河床ノ低下岸腹ノ決壞ヲ防止セントス

施工狀況

本工事ハ明治四十四年度ヨリ著手シ大正五年度迄ハ主トシテ日川筋勝沼町以下ヲ施工シ此期間ニ制水七十四箇所護岸一箇所堰堤一箇所及低水路掘鑿約二十四萬立米ヲ完成セリ其結果水流ハ一定ノ法線内ニ集リ河床ハ漸次低下シ約三十二ヘクタールノ石河原ハ豐饒ナル田畑ト化スルニ至リ極メテ良好ナル

結果ヲ收ムルヲ得タリ依テ同川ノ工事ハ一時之ヲ打切り其後ハ修繕工事ニ止メタリシガ大正九年度ニ至リ曩ニ施工セル區域ノ上流ニ於テ鶴瀬、駒飼、横吹、長垣ノ各本堰堤ヲ起工シ前年度迄ニ全部竣功セシメタリ

又勅使川筋ハ大正五年度ヨリ中巨摩郡蘆安村及源村地先ニ於テ工事ヲ施工シ前年度迄ニ蘆安、源、御庵澤、桃木、桃木上流、藤尾、沓澤ノ各堰堤及源床固、源堰堤増設工事ヲ竣功セシメタリ今本年度施工ノ概況ヲ述ブレバ

日川筋ノ矢方平堰堤ハ前年度ノ起工ニ係リ五分通り竣功シ引續キ本年度ニ至リ二千五百三立米ノ築立ヲ終リ九月十五日ヲ以テ竣功シタリ

水野田堰堤ハ矢方平堰堤ノ下流四百五十米門井澤ノ合流點ノ下流ニ位シ高十米、築立々積二千五百五立米ニシテ十月一日起工シ二分通り竣功セリ

左岸第二十三號制水ハ大正十二年ノ洪水ニ依リ下流部ノ根固用木工沈床流失セルヲ以テ其一部ニ粗石混凝土七十二立米ノ根固工ヲ施設シタリ

鶴瀬堰堤水叩保護工事ハ前庭保護ノ爲メ捨石ヲ施工セシモノニシテ八十三方米ノ捨石ヲ行ヒ九割ノ工程ヲ見タリ

御勅使川筋ニ於テハ前年度築立ヲ了セシ沓澤上流堰堤ハ今年度ノ洪水ニテ充分ナル貯砂ヲ得全部竣功セリ

蘆安堰堤増設工事ハ前年度ノ起工ニシテ一分通り竣功シ今年度ニ於テハ舊堰堤ノ水通シ高三米六ノ築立ヲ了セシヲ以テ此上更ニ高九米五、厚五米八乃至二米六ノ拱形堰堤ヲ増設スルコトトシ今年度内高四米

七、起工五分通り以上ノ未竣功ニ終レリ

七迄約五分通施工シ未竣功ニ終レリ
 本年度工事竣功高ハ五萬二千八十圓ニシテ起工以來ノ累計ハ百五萬七千二百二十二圓トナレリ而シテ總
 工費百四十萬一千圓ニ比スレバ七割六分ノ竣功ナリ左ニ工事竣功表ヲ掲グ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
本工事	二五八、六五九 粒	六七、二五八 円	一 箇所	一、三四四 円	二五八、六五九 粒	六七、二五八 円		
浚渫費	七四	二、三三七	一	一、〇二七	七五	二、三三七		
堰堤費	一四	五、四八〇	一	四、〇二七	一四	五、四八〇		
用地費		二、一八三				二、一八三		
測量費		七、八三八		一七〇		八、〇〇八		
器械費		三、六九四		八九七		三、七五九		
營繕費		一、二五六		三〇七		一、五六一		
施行中諸費		九、八〇四		七、九九一		一〇、七九五		
共濟組合給與金		五九〇		三四四		九三四		
總計		一、〇〇五、〇四二		五二、〇八〇		一、〇五七、一三二		〇・七六

第六 神通川流域砂防工事

（新潟土木出張所）

緒言

本工事ハ大正八年度ノ創業ニ係リ十一箇年度繼續事業トシ工費二十七萬五千九百三十九圓ニシテ神通川上流岐阜縣下宮川及高原川流域ニ於テ急施ヲ要スル溪流ニ砂防工ヲ施行スルモノニシテ著手以來工事ノ進捗ニ努メ大正九十兩年度ノ如キハ豫期以上ノ功程ヲ擧ゲ得タリシニ依リ追加工事ヲ企テ工費一萬八千九百圓ノ増額ヲ仰ギ總工費豫算二十九萬四千八百三十九圓（内岐阜、富山兩縣負擔額九萬八千二百七十四圓）ヲ以テ同十八年度迄ニ竣功セシムル豫定ナリ

施工狀況

本年度モ亦高原川筋六郎谷ノ一箇所ヲ施工セシノミナリ當地ハ山間ノ僻地ナレドモ他ノ砂防地ニ比シ氣候稍溫和且人口稠密、材料ノ供給ニ便ナリ本年ハ冬期ヲ除キ天候順調ナリシヲ以テ意外ニ工程進ミタリ

六郎谷ハ前年度施工箇所ニ引續キ上流ニ石堰八箇所ヲ築設シ以テ溪床ヲ固メ尙山腹石積工、芝萱筋植工、積芝工、苗木植付工等ヲ施シ山腹ノ整正ニ努メ其凹凸甚シキ箇所ハ法切ニ著手シ年度内ニ於テ積芝工ノ一部ヲ除キ他ハ竣功セリ

桑谷及小豆澤ハ本年度モ亦山地ノ動靜ヲ監視セリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ一萬六千八百九十二圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ十七萬八千三百五十一圓ナリ之ヲ總工費豫算二十九萬四千八百三十九圓ニ比スレバ約六割一分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功歩合
	數	金額	數	金額	數	金額		
桑谷、小豆澤		四九、七七八		四九、七七八		四九、七七八	一〇〇	百分
本工事六郎谷		八五、三八七		一三、八二五		九九、二一二		
小計		一三五、一六五		一三、八二五		一八四、九九〇		
器械費		四、〇一九		一三五		四、一五四		
施行中諸費		二二、二七五		二、九三二		二五、二〇七		
總計		一六一、四五九		一六、八九二		一七八、三五一	〇・六一	

第四章 港灣改良工事

第一 關門海峽改良工事

(下關土木出張所)

緒言

本工事ハ關門海峽整理ノ第一期工事トシテ當初一千二百萬圓ノ工費ヲ以テ明治四十三年度ニ起工シ十箇年度間ニ竣功セシムル豫定ナリシモ財政上ノ都合ニ依リ繼續費トセズ同年度以降大正四年度ニ至ル迄ハ年々所要ノ豫算額ヲ要求シ工事ヲ施行シ來リ其累計額三百七十四萬圓ニ達セシガ同五年度ニ至リ四百三十六萬圓ノ豫算ヲ以テ同年度以降同十二年度ニ至ル八箇年度ノ繼續事業ト定メ以上豫算額合計八百十萬圓ノ外大正八年度ニ於テ海底電線移設費三十六萬圓及同年度以降同十一年度迄ニ物價騰貴ニ因ル増加額百九十萬圓ヲ追加シ一千三十六萬圓トナリ同十二年度ニ至リ更ニ豫算總額ヲ一千三百七十六萬圓ニ増額シ工期ヲ同十五年度迄延長シ超エテ同十四年度ニ至リ事業繰延ノ爲メ更ニ工期二箇年度ヲ延長シ竣功期限ヲ同十七年度トセリ

港狀並計畫ノ大要

關門海峽ハ本邦ニ於テ最モ須要ナル航路ノ一ナレドモ幅員狹隘不規則ニシテ且潮流強ク然モ岩礁諸所ニ散在スルヲ以テ航海者ノ常ニ最モ困難ヲ感ズル所ナリ加之輓近通航船舶ノ増加及船型ノ増大ハ益其

困難ノ度ヲ高メ且一面關門兩港ニ於ケル泊地モ亦陝隘ヲ感ズルコト切ナルノミナラズ尙内外貿易ノ發展ニ伴ヒ益々之ガ改良ノ急ヲ促スニ至レリ本海峽ハ將來ヲ慮リ充分ナル計畫ヲ立テ之ガ改善ヲ圖ラムニハ海峽内ノ航路ヲ水深六尋以上ニ浚渫シテ其幅員ヲ少クトモ三鏈乃至五鏈トシ關門兩港内トモ夫々五尋乃至六尋ノ水深ヲ保タシメ又岸壁其他港灣トシテノ設備ヲ完フスル要アルベキモ其工費ハ頗ル多額ニ上ルベク且一舉是等ノ工事ヲ遂行スルノ必要ナカルベキニ依リ先以テ第一期トシテ本工事ヲ起シ他ハ漸ヲ追テ施行スルコトトセリ

本工事ハ周防灘ヨリ六連島ニ通ズル航路ノ改良及海峽内泊地ノ擴張ヲ施行セントスルモノニシテ航路ノ改良ニ在テハ海峽東口部埼沖ヨリ西口塵寄洲ニ至ル十一湮間ヲ幅員二鏈半乃至五鏈半平均四鏈ニ規定シ水深五尋半ヲ保タシムル爲メ浚渫及除礁工事ヲ施行シ又周防灘ヨリ部埼沖ニ至ル通路約二湮間ハ幅員三鏈水深五尋半ニ浚渫セントス又泊地ニ關シテハ門司前面ニ於テ水深五尋半以上ノ水面積四十萬坪ヲ得下關側ニ在テハ停車場前面ニ於テ若干ノ浚渫ヲ施シ十萬坪ノ水面ヲ得ンガ爲メ浚渫工事ヲ施行スルモノトス

施工況狀

本工事ハ起工以來既ニ十六箇年度ノ星霜ヲ經テ工事ノ大體ハ既ニ竣功シ全然未著手ノ箇所トシテハ相當尨大ナル部埼沖アルノミニシテ他ハ法線附近ニ點々殘存セル區域ナリトス本年度ノ事業ハ

土砂浚渫

坪數 六萬三千六百四十七立坪

施行箇所 門司港、下關沖、大里沿岸

碎岩 坪數 三萬四千八百四十五立坪

施行箇所 金伏群礁、與次兵衛瀨(尼ヶ瀨)、彦島沿岸、高瀨六連出

碎岩浚渫 坪數 三萬三千三百七立坪

施行箇所 碎岩施行箇所ニ同ジ

ニシテ各箇所別ニ工事ノ概況ヲ摘記スレバ左ノ如シ

門司港ハ大正八年度迄ニ干潮面位下二十八尺乃至三十尺ニ浚了シ九年度ヨリ更ニ之ヲ三十三尺ニ浚渫中ニシテ本年度ニ於テハ第二區東方部門司稅關倉庫沖ヲ長期ニ互リ浚渫シ七萬坪ノ廣大ナル區域ヲ浚了セリ

下關市ニ於ケル岬町沖ハ下關側法線ニ沿ヒ帶狀ヲ爲シ航路内ニ存スル砂洲ニシテ本年度ニ於テ初メテ著工シ土質細砂ニシテ作業容易ナル爲メ功程極メテ良好ナリシモ工事ノ都合上短期間作業ヲ爲シ得タルニ過ギズ浚渫面積ハ約三千坪ナリ

大里沿岸ハ尼ヶ瀨ヲ中心トシ大里測法線ニ沿ヒ東西ニ繋ガル狹長ナル帶狀區域ニシテ尼ヶ瀨以東ハ大正十二年度ニ於テ面積約一萬一千坪ニ互リ硬土盤ニ碎岩船ヲ作業セシメテ大部分ヲ既定深度ニ達スル迄破碎シタルモ未ダ浚渫スルニ至ラズ本年度ハ尼ヶ瀨以西ノ區域中未著手箇所面積二萬餘坪ノ浚渫ヲ施行シ此方面ノ浚渫ヲ了セリ

金伏群礁ハ前年度迄ニ大部分浚渫シ唯纔ニ面積五百坪ニ滿タザル金伏挂燈立標跡ノ中央一小部分ヲ殘スノミニシテ大正十三年十月水深十八尺内外迄浚渫セル際内田汽船株式會社所有汽船大正丸擱坐大破シ爾來月ヲ閱スルコト十六、同十五年一月下旬漸ク之ガ解體除却ヲ終リタルヲ以テ二月上旬直ニ除礁ニ

著手シ本年度ニ於テ最淺部水深二十一尺ニ達セシメタリ

與次兵衛瀨（尼ヶ瀨）ハ大里沿岸ノ中間ニ位セル與次兵衛瀨殘礁ニシテ前年度迄ニ大部分竣功シ殘部モ亦相當ノ深ニ除岩シタルガ岩質頗ル堅ク工程遅々トシテ容易ニ進マズ本年度モ引續キ長期ニ互リ銳意未竣功部分ノ鑽孔爆破ニ努メタル後尙碎岩船ヲ用ヒテ碎岩ヲ行ヒ次ニ竣漂ヲ施行シ漸ク二十七尺乃至三十二尺ノ深ニ達セシメタリ

彦島沿岸ハ彦島側法線ニ沿ヘル山底ノ鼻ヨリ大山ノ鼻ニ至ル間ノ區域ニシテ鳴瀨、俎瀨其他ノ岩盤或ハ硬土盤處々ニ點在セシニ依リ其土砂及軟粘土ニ屬スル部分ハ浚漂船ヲ用ヒテ直接浚漂シ岩盤及硬土盤ハ碎岩船ヲ以テ破碎シタル後浚漂ヲ施シ前年度迄ニ於テ其大部分ヲ竣功セシメ本年度ハ俎瀨ノ殘礁ニ作業シ銳意進工ニ努メタルモ施行容易ナラザルニ依リ其竣功面積ハ一萬餘坪ヲ出デズ

高瀨ハ本年度ニ於テ未竣功區域ノ全部ヲ殆ド既定深度ニ達スル迄碎岩シタルモ其一部ハ竣了ノ運ビニ至ラザリキ

六連出ノ本年度ニ於ケル作業區域ハ一部細砂ノ箇所ヲ除キ硬粘土及岩盤ニ屬スル部分ナルヲ以テ此部分ニハ碎岩船ヲ使用シテ破碎ノ上其半量ヲ浚漂シ細砂ノ部分ヲ併セ合計六千餘坪ノ區域ヲ竣了セリ
本工事本年度ニ於ケル竣功高ハ六十五萬七千七百十九圓事務費及現在物品代價ヲ除クニシテ起工以來本年度迄ノ累計一千百四十五萬二千六百四十九圓（同上）ヲ算シ既定工事豫算高一千三百一十一萬二千十一圓ニ對シ八割七分強ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ碎岩及碎岩浚漂竣功歩合ノ特ニ大ナルハ土砂浚漂區域中ノ硬土盤ニ碎岩船ヲ使用シ之ヲ碎岩トシテ整理シタルニ由ル又表中*ハ浚漂工事ニ依リ直接埋立地ニ投棄シタル坪數、△ハ評價品見積價額ナリトス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		步竣功合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚土	一、五五四、七四九	三、八八八、九六三	六三、六四七	三〇三、七三六	一、六一八、三九六	四、一九二、六九四	〇・七四
砂浚	二七五、八四二	二、三九一、四二二	三三、八四五	一四二、八三四	一、六一八、三九六	三、〇〇〇、九二四	〇・七一
碎岩	二九〇、八三五	一、七五、六八六	三三、三〇七	一〇二、六七九	一、六一八、三九六	一、九三三、三六六	〇・七一
埋立及護岸費	三九五、〇五三	九七四、七四一	一四、八七〇	五七、九七六	三三、三〇七	一、〇七七、六六七	一・一六
內 彥島埋立	三七八、〇六一	五八、三六八	一、〇〇〇	一五、二三八	三三、三〇七	一、〇七七、六六七	一・一六
內 其他埋立	一六七、〇九七	三九一、三七一	一、〇〇〇	四、八七〇	三三、三〇七	三九、〇六三	〇・九一
防波堤及護岸其他	三七七、五七八	一、七五、六八六	七、三二〇	一四、八七〇	三三、三〇七	三九、〇六三	〇・九一
船舶及機械費	二七、九六二	四、七四一		一、〇〇〇	三三、三〇七	三九、〇六三	〇・九一
測量及檢潮費	八二、八六八	六、七四一		一、〇〇〇	三三、三〇七	三九、〇六三	〇・九一
施行中雜費	四四、六八一	一、八二〇、六八九		一、〇〇〇	三三、三〇七	三九、〇六三	〇・九一
營繕費		一、〇三三、三〇六		三、二四、一八七	三三、三〇七	一、〇三三、三〇六	〇・九一
共濟組合給與金		一、二六、八五九		二、五三、四	三三、三〇七	一、二六、八五九	〇・九一
海底電線移設費		一、八、九九七		二、九二、二	三三、三〇七	一、八、九九七	〇・九一
臨時手当當		四三、四〇九		七、九〇六	三三、三〇七	四三、四〇九	〇・九一
總計		一、〇七、九四〇、九三〇		六五、七、七一九	一、一、四、五二、六四九	一、一、四、五二、六四九	〇・八七

第二 鹽釜港修築工事

(仙臺土木出張所)

緒言

本工事ハ大正元年十一月宮城縣ニ於テ修築工事施行ノ認可ヲ得テ起業シタルモノニシテ總工費三百四十五萬圓ヲ以テ大正三年度ヨリ工事實施中ナリシガ同六年度ヨリ本省ニ於テ直接施行スル事トナリ即チ同年度ヨリ豫算額二百九十三萬三千圓ヲ以テ同十一年度迄ノ繼續事業トシ施行中ノ處同十一年度ニ道路費ノ内ヘ三萬圓増額シ又歐洲大戰亂以來物價騰貴ノ影響ヲ受ケ工費ニ不足ヲ來セルニ依リ同十二年度ニ二百五十萬圓ノ増額ヲ行ヒ竣功年度ヲ同十八年度ニ延長セシガ同十二年九月帝都及其附近ニ未曾有ノ大震災起レルガ爲メ國庫財政ノ都合上更ニ一箇年度ヲ繰延ベ竣功期限ヲ同十九年度ト決定セリ

港狀並計畫ノ大要

本港ハ仙臺市ノ東方約十五軒七分松島灣ノ西南隅ニ位シ西北南ノ三面ハ殆ド丘陵ヲ以テ圍繞セラレ僅カニ東方松島灣ニ面ス港内水面狹ク市街地小ナリト雖モ本港ハ古來水陸交通ノ衝ニ當リ鐵道運河ノ便ヲ有シ水陸ノ聯絡稍良好ナリトス港内四時平穩ナルモ水深頗ル淺ク又松島灣ハ背後ニ山脈ヲ負ヒ島嶼前面ニ連リ常ニ風波ノ虞無キモ灣内淺クシテ大船ヲ入ルルニ至ラズ灣ト外海トヲ連絡スル水道四アリ其主要ナルモノヲ代ケ崎水道トス其東北約一軒九ニ石濱錨地アリ水深大ニシテ巨船ノ碇泊ニ適ス今修築工事ノ大體ヲ記述セバ石濱錨地ノ入口ヲ港口ト爲シ其左右ニ南北防波堤ヲ築キ以テ大洋ヨリ來

ル風浪ニ對シ代ヶ崎以東ノ外港水面ヲ掩護シ同錨地ノ碇泊及航行ヲ安全ナラシムルニ在リシガ外洋ニ於ケル防波堤ノ築造ハ施工容易ナラザルト築港ノ將來トニ鑑ミ寧ロ内港ノ充實ヲ圖ルノ利ナルヲ認メ大正十三年度ニ於テ既定計畫ノ變更實施ト共ニ之レガ築造ヲ中止セリ航路ハ港口ヨリ殆ンド一直線ニ代ヶ崎ニ至リ少シク折レテ内港泊地ニ達セシム其延長五千六百米ニシテ幅員(底幅九十一米、水深最大干潮面位下六米七トス

内港泊地ハ埋立地ニ面シテ水面積約三十三萬一千方米ヲ有シ之ヲ最大干潮面位下七米六ト四米六トノ水深ニ浚渫ス埋立地ハ現在鐵道用地ノ東方ニ面積五十二萬九千六百方米ヲ築造スルモノニシテ其高ハ朔望平均滿潮面位上一米七(最大干潮面位上三米七)トス其東方ニ濕渠、舥溜及貯木場ヲ設ク

埋立地ノ沿岸西方ハ魚類處理場、上屋倉庫敷地ニ充テ其東方ニハ薪炭、木材等ノ荷揚場ヲ設ケ鐵道ノ連絡ヲ期スルト共ニ埋立地ニハ一條ノ水路ヲ導キ各工場敷地へ水運ノ便ヲ圖ルモノトス其幅十八米乃至五十五米トス

埋立地ノ道路ハ幅九米乃至十八米トシ縱横ニ築設シ以テ交通ノ便ヲ圖ルモノトス
要スルニ本計畫ハ新ニ五十二萬九千六百方米ノ市街地及倉庫地ヲ埋築シ延長約二千米ノ荷揚場ヲ建設シテ一箇年四十萬餘噸ノ貨物ヲ處理シ得ベカラシメ而シテ内港ニ出入シ得ル船舶ハ三千噸級迄ニ止メ石濱錨地ハ三千噸級以上ノ碇繫場トシテ使用セントスルニ在リ

施行狀況

本港工事ハ大正六年内務省所管ニ移リテヨリ既ニ九箇年ヲ閱シ爾來工事ノ進行シタルモノ多シ今其概

要ヲ列記センニ浚渫工事ハ航路船溜及代ヶ崎水道狹窄部ノ擴張等ヲ通ジテ最大干潮面位下四米六ノ深度ヲ得ルニ至レリ而シテ本年度ニ於テ施行セルハ代ヶ崎附近航路ニ横ハル暗礁(俗稱一ツ根)ノ除却及航路船溜トス埋立工事ハ既ニ八分通り竣功ヲ告ゲシヲ以テ本年度ニ於テハ其殘工事並局部ノ整理ヲ爲セリ護岸工事ノ前年度迄竣功セルハ多賀城村地先ノ鐵筋混凝土枰材組立沈下長九十一米ニシテ本年度ニ於テハ鹽釜町尾島地内鐵筋混凝土壁組立及方塊沈下ノ竣功部分ニ對シ陸上物揚場ノ場所詰混凝土幅三米六、長百五十一米ヲ施行セルノミ道路工事ハ埋立地域ニ四通スル道路ノ築造ナルガ前年度迄竣功セルハ長七百八十二米ニシテ本年度ニ於テハ鹽釜町舊市街ト埋立地トヲ連絡スベキ道路長四百十四米ヲ施行シ防砂堤工事ハ代ヶ崎水道ヨリ内港へ漂砂ノ侵入防遏ニ供フルモノナルガ本年度迄馬放島ト地藏島間ヲ封鎖セル百三十六米ヲ含ム延長四百二十七米ヲ竣功シ又埋立地内ノ運河並貞山堀ニ通ズル水路ノ掘鑿モ豫定ノ如ク竣功セル部分多シ此他花淵岬ノ防波堤ハ前年度ニ於テ計畫變更ヲ行ヒ築造ヲ中止シ航路標識ハ地藏島ニ燈臺一個、鹽釜町山手ニ竿燈二本ヲ設置シ先年縣へ引繼ギ利用サレツツアリ斯ノ如ク鹽釜築港ニ於ケル諸般ノ工事ハ漸次進捗セルト同時ニ三千噸級船舶ノ繫船岸壁築造ノ準備ニ步ヲ進メツツアルナリ

本港本年度ノ竣功總額ハ二十五萬三千四百八十六圓起工以來ノ累計三百二十八萬五千九百八十三圓ニシテ事業費總豫算額五百十九萬七千二百圓ニ對シ約六割三分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
浚渫費	二、四二〇、九三六 <small>粒</small>	四七六、五三八 <small>円</small>	三四六、八九二 <small>粒</small>	五九、三七五 <small>円</small>	二、七六七、八二八 <small>粒</small>	五三五、九一三 <small>円</small>
竣功歩合					〇・六六 <small>割分</small>	

總計	共濟組合給與金	施行中諸費	營繕費	船舶及機械費	用地費	材料製造及採取費	雜工事費	護岸費	道路費	航路標識費	防波堤費	本埋立費
										三	四	一、九六五、八二三
三、〇三二、四九七	九、〇六一	三六一、二四七	四三、六四六	七五七、八五〇	四九、二八三	二七二、〇六九	一九一、七七九	三七、七三三	五六、二九〇	八、二一四	二一、〇九〇	七四七、六九七
												七七、五九五
二五三、四八六	四、二二八	三一、九八七	一、二六二	六八、四〇九	二、二一八	三、三三九	五二、一五六	一、五〇九	三、一二〇			二五、八八三
												二、〇四三、四一八
										三	四	五四、一七三
三、二八五、九八三	一三、二八九	三九三、二三四	四四、九〇八	八二六、二五九	五一、五〇一	二七五、四〇八	二四三、九三五	三九、二四二	五九、四一〇	八、二一四	二一、〇九〇	七七三、五八〇
〇、六三												〇、九七

第三 新潟港修築工事

（新潟土木出張所）

緒言

本事業ハ新潟市ノ起業ニシテ信濃川改修河口工事ニ接續セル港内ノ設備ヲ完全ニシ三千噸級船舶ノ繫留ニ便セシムルノ計畫ヲ樹テ市ニ於テ大正四年度ヨリ施行中ノ處同六年七月ヨリ明治三十年法律第三十七號第一條ニ依リ五箇年度繼續事業トシテ工費百九萬二千八百四十八圓（事務費ヲ除ク）ヲ以テ本省ニ於テ直接施行スルコトトナリ銳意工事ノ進捗ヲ圖リシモ時局ノ影響ヲ受ケ豫算額ニ不足ヲ生ジ同十年四月百六萬六千七百七圓（事務費ヲ除ク）ノ増額ヲ受クルト共ニ施工期限ヲ同十三年度迄繰延ベラレシガ同十二年九月一日關東大震災ノ爲メ其十一月ニ至リ更ニ一箇年度ヲ延長シ總工費豫算二百十五萬八千九百五十五圓ヲ以テ同十四年度ニ竣功セシムル豫定トナリ同十四年六月二百十七萬四千九百三十六圓二十二錢ニ變更増額セリ是ヨリ先同十年四月市ハ時局ノ影響ニ依リ財界ノ打撃ヲ被ムルヤ本事業ニ對スル一切ノ權利ヲ新潟縣ニ移管セシヲ以テ今ハ縣ノ起業トナレリ

港狀並計畫ノ大要

本港ハ信濃川河口ニ位スル河港ニシテ越後平野ノ咽喉ニ衝リ信越、磐越、越後、羽越ノ各線及近ク完成セントスル上越ノ諸鐵道ニ依リテ各地ト聯絡シ尙西比利亞、滿洲、朝鮮ヲ控ヘ我國中部及北陸ノ貨物集散ニ任ズベキ日本海沿岸ノ一要港ナリ然ルニ本港ハ夙ニ帝國五港ノ一ニ列スト雖モ河流ノ變遷ト土砂ノ流下

トニ依リ河口ハ淺ク小型船舶ノ外ハ港内ニ出入スルヲ得ズ又外海ハ船舶ノ碇繫並荷役ニ頗ル不便ニシテ經濟上ノ損失亦鮮カラズ從テ本港ノ發展ヲ阻害スルコト甚シ政府ハ明治四十年信濃川改修(大津分水工事及河口改修工事)ノ工ヲ起シ近ク其竣功ヲ見ントス爾來河口ノ水深ハ概ネ六米六トナリ船舶ノ出入安全ナルニ至ルベキヲ以テ此秋ニ際シ内港ノ設備ヲ完全ニシ水陸ノ聯絡ヲ遺憾無カラシメ以テ港灣ノ運用ヲ充分ナラシメントスルモノナリ本工事ハ信濃川河口改修工事ニ接續シテ港内ヲ水深七米六、五米五、三米ニ浚(面積七十六萬三千六百三十六方米)シ三千噸級以下ノ船舶ノ出入ニ便シ右岸栗ノ木川ト新川トノ間ニ幅平均百七十五米、延長八百三十米、面積十四萬五千四百五十四方米五ノ埋立ヲ爲シ其護岸ハ水深三米ノ物揚場トシ其中央及北部ノ二箇所ヨリ埠頭ヲ突出セシム北埠頭ハ新川ニ沿ヒ之ト並行シテ築設シ長四百五十四米五、幅百二十七米、面積五萬七千八百五十一方米ニシテ其護岸ハ南岸延長四百五十四米五ノ内先端二百七十二米七ヲ水深七米六ノ岸壁トシ残り百八十一米八及頭部ヲ水深三米ノ物揚場トス中央埠頭ハ埋立地ノ中央部ヨリ北埠頭ニ並行シテ築設シ長三百十八米、幅百九米、面積三萬四千七百十方米ニシテ北埠頭ト相對シテ幅員二百十二米ノ船渠ヲ擁シ頭部及北岸ハ水深七米六、南岸ハ水深五米五ノ岸壁トシ北岸ニハ上屋二棟、南岸ニハ上屋一棟ヲ建設シ其前後ニハ軌道ヲ敷設シ以テ水陸ノ聯絡ニ便ナラシム埋立地總面積ハ二十三萬八千十六方米ナリ

施工狀況

本年度ニ於テ施工セルハ浚、埋立、物揚場、護岸、繫船岸、道路、上屋、繫船浮標及其他ノ雜工事ノ外仙臺鐵道局ニ委託セル鐵道工事ナリトス今其施工ノ概要ヲ左ニ述ベシ

浚渫工事ハ唧筒式浚渫船大阪丸、浦賀丸及、バケット式浚渫船第五號榛名號ヲ使用セルモ此中大阪丸ハ八月以降、浦賀丸ハ十月以降、榛名號ハ九月十六日以降各々年度末マデ本工事ニ從事シタルモノナリ而シテ浚渫土砂ハ大阪丸ニ於テハ九月、十月、十一月ノ三箇月中ハ排砂管ヲ用ヒテ直チニ埋立區域内ニ排出セシメ其他ハ浦賀丸ト等シク自走ニ依リ第五號榛名號ハ曳船及ビ土運船ニ依リ河口外ノ深所ニ投棄セリ尙第五號榛名號ハ主トシテ北埠頭中央埠頭附近ニ殘存セル沈床若クハ細泥ノ固結セル淺瀬ノ除却ニ從事セリ浚渫總土量ハ三十九萬二千九百三十六立米ニシテ工費五萬九千五百十五圓餘ヲ費セリ一立米當リ十五錢一厘ナリトス因ニ本工事ハ中央埠頭上流通稱萬代島附近ニ於テ土量約百五十六萬六千立米ヲ殘セルモ此ヲ豫定ノ如ク浚渫スルトキハ現今ノ場合信濃川流砂ノ影響ヲ受ケ港内水深ノ維持困難ナルヲ以テ大正十五年三月三十一日附ヲ以テ浚渫區域變更ノ認可ヲ得テ浚渫セリ

埋立工事ハ浚渫土砂ヲ利用シ先ヅ排砂管ニ依リ地域内ニ排出セシメ此ヲ均シ眞土ヲ以テ其上ヲ蓋ヒ砂ノ飛散ヲ防グモノニシテ前年度迄ニ北埠頭及ビ右岸埋立地ハ全部完成シ中央埠頭モ地均シヲ除キ半バ埋立ヲ了セルヲ以テ本年度ニ於テハ九月、十月、十一月ノ三箇月間大阪丸ヲ就業セシメ其後地均シニ從事シテ三月末ヲ以テ竣功セリ利用土砂四萬七千二百二十五立米ニシテ地均シ面積三萬三千方米此工費二千九百七十六圓ナリトス

物揚場護岸工事ハ前年度迄ニ甲護岸第二ノ鋪混凝土繫船柱ノ一部ヲ殘シテ殆ンド完成シ本年度早々竣功ノ豫定ナリシモ繫船岸工事笠石材料置場ニ利用セル關係上工事ヲ休止シ九月ニ至リ著手シ同月ヲ以テ全ク竣功セリ竣功延長四百二十九米、工事費五千五百九十五圓ナリ

繫船岸工事ハ中央埠頭南岸水深五米五、繫船岸工事ハ前年度末迄ニ殆ンド竣功シ僅カニ全體ノ一分弱ヲ

之レニ接續スル西岸水深七米五、繫船岸工事トノ關係上本年度ニ繰越セルガ其竣功ニ伴ヒ本工事モ十一月十四日ヲ以テ竣功セリ中央埠頭北岸竝西岸水深七米五、繫船岸工事ハ既ニ南岸五米五、繫船岸工事ノ進捗ニ依リ河流ハ之レニ遮ラルルノ結果潜水作業ヲ容易ナラシメ工事全ク順調ニ進ミタリ此中西岸ハ大正十二年度著手セルモ前年度ニ於テハ南岸五米五、繫船岸工事トノ關係上之レニ續ケル箇所約九米ノ方塊積ヲ了シタルママ工事ノ都合上一時打チ切り専ラ北岸工事ニ從事シ居タルモ本年度始メヨリ再ビ著手シ十一月末日ヲ以テ竣功セリ又北岸ハ前年度末ニ於テ全工期ノ四分ヲ殘シタリシガ前記ノ如ク施行中何等ノ障害モ無ク西岸ト共ニ十一月末日ニ竣功セリ本年度ニ於テ使用セル繫船岸工事費ハ水深五米五繫船岸ニ於テ三千八十二圓、水深七米五繫船岸ニ於テ五萬八千七百二十八圓、合計六萬一千八百十圓ナリトス

道路工事ハ北埠頭ニハ幅十八米、延長六百三十二米二、中央埠頭ニハ幅十八米、延長四百九十八米四ノ幹線道路又右岸埋立地ニハ幅二十二米、延長八百八米七ノ幹線道路及幅十四米五、延長六百八十三米五竝幅十一米、延長一千二百五十三米四ノ補助道路ヲ築造スルモノニシテ新潟市關屋ニ在ル新潟硫酸株式會社ヨリ生ズル鑛灰(硫黃鑛殘滓)ヲ工業船又ハ川舟ニ依リ運搬シ之レヲ厚十糎ニ敷均シ其上ニ砂利ヲ厚六糎ニ撒布セルモノニシテ大正十四年四月四日著手シ十五年三月二十八日ヲ以テ竣功セリ其總面積五萬八千二百五十一方米ニシテ工費一萬三千九百四十圓(外ニ別設計採取ノ砂利代八千九百九十一圓)ヲ使用セルヲ以テ一方米當リ砂利代ヲ含ミ三十八錢ナリトス

上屋工事ハ北埠頭水深七米五、繫船岸ニ沿ヒ鐵造平屋建(桁行八十六米二、梁間二十五米四、二千二百二十二方米)ノモノ一棟建設シタリ而シテ其新築工事中基礎工事排水工事竝床及石下地形工事ハ之ヲ直營施工

シ其他石材工事、鐵材工事、荷摺工事、屋根及ビ羽目工事、樋工事、建具工事、塗師工事、避雷設備工事並アスファルト、混凝土塗布工事ハ時期設備其他ノ關係上請負ニ付スルヲ利便且得策ト認メタルガ故ニ一般競入札ノ結果三萬八千五百五十圓（但シ鐵材ハ當所ヨリ交附此價額三萬四千四百九十七圓）ヲ以テ新潟市流作場木戸新平ニ請負ハセタリ、直營工事ハ大正十四年四月一日著手セルモ請負工事ノ前後ニ於テ之ト相伴ヒ施工スルモノナレバ請負工事遲延ノ結果多少ノ影響ヲ受ケタルモ大體ニ於テ順調ニ進ミ同年十月二十六日竣功セリ直營工事費一萬一千六百四十一圓（外ニ別設計採取ノ砂利代金一千八百四十圓）ナリトス請負工事ハ同年三月八日ヨリ現寸圖作製ノ後市内數箇所ノ工場ニ於テ各部ノ加工製作ヲ始メタルモ漸ク六月十三日現場ニ於テ柱建込ミニ著手スルニ至レリ其後工事ノ進ムニ從ヒ構造特種ナルト數箇所ノ工場ニテ製作セル爲メ種々ノ手違ト錯誤トヲ生ジ豫定期限九月三十日ニハ竣功スルニ至ラズ一箇月延期シ十月三十日ヲ以テ竣功セリ

繫船浮標設置工事ハ港内ノ整理上且船舶ヲ安全ニ碇繫セシメンガ爲ニ大阪製鎖所製作ニ係ル浮力四噸獨樂型浮標二個ヲ水深七米五ノ浚渫區域内二百五十米ヲ隔テテ設置セルモノニシテ同十五年三月二十日ニ著手シ同二十八日ヲ以テ竣功シ工費八千三百二圓ヲ要シタリ其他雜工事中下水工事ハ北埠頭鐵道上屋、排水用溜楸ノ内道路側兩端ニ在ルモノヨリ通船川へ排水セシメンガ爲メニ内徑零米二四土管ヲ混凝土ヲ以テ包被シ三分ノ一ノ勾配ヲ保タシメ延長九十米ノモノ二箇所、計百八十米ヲ敷設セルモノニシテ同十四年十一月一日著手十二月十四日竣功セリ

混凝土床工事ハ船舶荷役ニ便センガ爲メニ北埠頭鐵造上屋ノ周圍ヲ（其他ノ所ハ將來上屋建設ノ際ニ施工セラルベシ）混凝土ヲ以テ鋪裝セリ先ヅ割石及砂利ヲ厚零米三ニ搗固メテ基礎ヲ造リ其上ニ厚零米二

ノ混凝土ヲ施シタリ其面積二千七十四米五ニシテ大正十四年十一月十七日著手シ同十五年三月二十八日竣功セリ

繫船柱ハ船舶碇繫用トシテ北埠頭三箇所中央埠頭七箇所ニ於テ何レモ岸壁面ヨリ九米一ヲ隔テ岸壁兩端及上屋建設地ノ中間ニ混凝土基礎ヲ施シ其上ニ鑄鐵製繫船柱ヲ建設シタリ大正十四年十二月三日著手シ同十五年三月二十八日竣功ス

柴工沈床ハ北埠頭水深七米五、繫船岸先端附近ノ水流ノ關係上著シク掘リ去ラレ岸壁基礎ヲ危クスル傾向アルヲ以テ之ヲ防止センガ爲メニ二百方米ノ柴工沈床ヲ沈下セシメタリ大正十五年二月一日著手シ同年三月二十八日ヲ以テ竣功セリ

踏切道工事ハ仙臺鐵道局ニ依託セル鐵道工事以外ニ北埠頭上屋道路側出入口(五箇所)ト北埠頭幹線道路トノ間ニ施設セルモノニシテ凡テ鐵道省ノ規定ニ準ジ大正十五年三月二十二日著手シ同二十八日竣功セシメタリ

砂利採取ハ道路、上屋、下水混凝土床、繫船柱ノ諸工事ニ使用スル爲メ搔込砂利三千六百五十四立米一、洗砂利九百七立米ヲ阿賀野川筋ヨリ川舟ニ依リ採取運搬セリ

砂採取ハ上屋、下水、混凝土床、繫船柱ノ諸工事ニ使用スル爲メ工場地先ノ川洲ヨリ四百五十四立米ヲ採取セリ

前掲下水工事以下ノ雜工事ニ要シタル工費ハ合計二萬四千三百九十四圓ニシテ埋立道路、上屋、繫船浮標ノ諸工事ヲ合シタル雜工事費總額ハ六萬一千二百五十五圓ナリ

鐵道工事中省線沼垂驛ヨリ北埠頭ニ通ズル鐵道工事ハ沼垂驛トノ連絡上鐵道省ニ委託スルヲ利便ナリ

ト認メタルヲ以テ之レヲ仙臺鐵道局ニ委託シ同局新津保線事務所ノ手ニ依リ大正十五年二月二十五日著手同年三月三十一日竣功セリ此總哩數八十一鎖五十節（北埠頭ニ於テハ複線トス）ニシテ其工費總額二萬十六圓餘ヲ費セリ此他ニ軌條及ビ附屬品一哩分一萬四千八百圓ハ大正十年年度購入濟ナリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ三十七萬八千四百五十三圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ二百十七萬五百六十八圓ニシテ之ヲ總工費豫算二百十七萬四千九百三十六圓二十二錢（大正十四年六月五日內務省發會第二百九號ノ內ヲ以テ變更增額）ヨリ差引クトキハ四千三百六十八圓二十二錢ヲ殘シ全部竣功ヲ告グルニ至レリ今其工事竣功表ヲ示セバ左ノ如シ但シ退職手當三百七十四圓八十錢ハ本表竣功高ニ包含セズ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本繫船岸費	米 二六九	六六五、九五	米 四八九	六一、八一〇	米 七五八	七二七、七六一	劃分
物揚場護岸費	六二一	一六八、〇二四	四二九	五、五九五	一、〇四〇	一七三、六一九	
浚渫費	一、四二五、〇四八	二一五、五四三	三九二、九三六	五九、五一五	一、八一七、九八四	二七五、〇五八	
工事雜費		四五、四六五		一七二、四八六		二一七、九五一	
用地費		二、七五六		二五		二、七八一	
船舶及機械費		五一、〇一四		四一、九五七		五五二、九七一	
施行中諸費		一八三、三六二		三七、〇六五		二二〇、四二七	
總計		一、七九二、一一五		三七八、四五三		二、一七〇、五六八	一〇〇

第四 神戸港修築工事

(神戸土木出張所)

緒言

神戸港ハ本邦重要貿易港ノ一ニシテ其發展駿々トシテ止マザルモノアリ曩ニ政府ハ本港修築計畫ヲ定メ對外貿易ノ一部ハ明治三十九年以來神戸税關海陸聯絡設備トシテ大藏省ニ於テ起工シ翌四十年之ヲ擴張シテ小野濱前面ニ繫船突堤四條ヲ築設シテ上屋其他ノ陸上設備ニ及ボシ爾來年ヲ經テ其竣功部分ハ大正二年以來税關ニ於テ其利用ヲ開始シ舊來ノ面目一新シタリト雖モ歐洲大戰ニ於ケル本港對外貿易ノ發展ハ更ニ現計畫ノ擴張ヲ促シ且港内ノ靜穩ヲ期スベキ防波堤ノ築造及對内貿易設備等ニ至リテハ一日モ忽諸ニ附スベカラザルモノアリ茲ニ於テ乎神戸市ハ切リニ之ガ急施ヲ要望シ政府ニ向テ經費ノ一部ヲ負擔センコトヲ稟請スルニ至レリ則チ政府ハ之ヲ採納シ總工費(當初二千七百十萬圓)ヲ豫算シ大正八年度以降同二十二年度ニ至ル(元十箇年度ノ工期ノ處第一次繰延二箇年度第二次繰延三箇年度前後五箇年度ヲ延長サレ大正二十二年迄十五箇年度ノ工期ニ變更)十五箇年度ノ繼續事業トシテ小野濱及海岸通地先ニ於ケル外國貿易設備ヲ初メトシ兵庫地先及國産波止場附近ニ於ケル内國貿易設備並沖合防波堤ノ築造等將來本港ノ發展ニ資スベキ施設ノ完備ヲ期セントス其工費豫算ヲ計上スレバ左記ノ如シ

種別	大藏省施行並同省ヨリ引繼豫算	當初豫算	追加豫算	現豫算	摘
外國貿易設備費	—	11,000,000 円	1,140,000 円	11,140,000 円	負擔歩合(國庫二分ノ一)

種別	大藏省施行並同省ヨリ引繼豫算	當初豫算	追加豫算	現豫算	摘要
内國貿易設備費	△× 二、九二〇、〇〇〇 二、七五〇、〇〇〇	九、三〇〇、〇〇〇 六、八〇〇、〇〇〇	一、四一三、四七八 三、一〇一、五〇一	一〇、七一三、四七八 一四、六七一、五〇一	負擔歩合（國庫 三分ノ一、神戸市 三分ノ二、全部國費但シ「×」ハ大藏省施行額「△」ハ引繼額）
防波堤費					
總計	四、六七〇、〇〇〇	二七、一〇〇、〇〇〇	五、七七八、二八二	三七、五四八、二八二	内俸給及事務費二百三十七萬九千六百八十一圓ヲ包含ス

港狀竝計畫ノ大要

神戸港ハ北緯三十四度四十一分東徑百三十五度十一分、攝津國ノ西南ニ位シ兵庫、神戸ノ兩灣ヲ以テ形成セラレ其經界ハ從來ノ北東脇ノ濱海岸ニ建設シタル立標ト南西和田岬ニ建設シタル立標トヲ以テ表示シ港内ノ面積約三百萬坪ナリシガ大正十三年三月一日勅令第四十七號ヲ以テ北東新在家町ノ南角ヨリ南十五度西ニ引キタル一線ト南西和田岬ヨリ北八十四度三十四分東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界ト爲シタル區域内ニ擴張セラレタルヲ以テ此水面積ハ約六百萬坪ヲ算スルニ至レル外海岸線ノ延長ハ約四千七百八十間ナリトス而シテ港内ヲ二區ニ分チ第一區ハ舊湊川尻南端ニ建設シタル頭部三角形二基ノ紅色塗立標ヲ見透シタル一直線ノ北方一圓トシ第二區ハ前記ノ南方一圓トス其第一區ノ極東部ト第二區ノ極南部トヲ軍艦ノ碇泊所ニ其他ヲ商船ノ碇繫所ニ充ツ又雜船及小型船等ハ第一區及第二區ノ沿岸一帯ニ繫留セシム

本工事ノ計畫中外國貿易設備ニ對シテハ濱邊通地先ニ於テ面積七萬九千六百坪、海岸通地先ニ於テ面積一萬三千九百四十坪ヲ低水面上十一尺ニ埋立テ而シテ濱邊通地先ニハ水深三十三尺乃至四十尺ノ繫船

岸壁延長一千四百三十間ヲ築造シテ二萬噸級以下ノ汽船繫留ニ適セシメ又濱邊通及海岸通ニ於テハ水深九尺及十二尺物揚場延長一千四百九十二間ヲ築造スルモノトス
内國貿易設備ニ對シテハ海岸通地先ニ於テ面積一萬八千二百五十三坪、兵庫地先ニ於テ面積八萬一千六百坪ヲ低水面上十一尺ヲ埋立テ之ニ水深十八尺乃至三十尺、繫船岸壁延長一千七百四十二間ヲ築造シ以テ八千噸級以下ノ汽船繫留ノ便ニ供スル外水深九尺及十二尺、物揚場延長一千三百五十間ヲ築造シ尙現在ノ鐵道棧橋ヲモ改築スルモノトス

上記計畫中改良ヲ施シタルモノハ濱邊通ニ於ケル第五突堤ノ幅員ヲ八十間ニ擴大シ南側上屋ノ中間ニ幅員二十間ノ倉庫敷地ヲ設ケ貨物荷捌上倉庫ト上屋トノ聯絡ヲ近接迅速ナラシメ常時上屋内ノ貨物掃盡ニ利便ヲ考慮シタルト第六突堤ノ幅員ヲ九十間トシ其中央ニ幅員三十間、長二百二十五間ノ水路ヲ設ケ其兩岸ヲ物揚場ニ充テ一面本船荷役ノ傍ラ上屋ノ背後ニ舢舨荷役ヲ併行シ得ベキ嶄新ナル設備ヲ施シ水路運送貨物荷捌上多大ナル便ヲ企圖セリ

沖合ニ於ケル防波堤ハ南及東ノ二堤ヨリ成リ之ニ假防波堤ヲ加ヘ總延長三千六百間以上ニ達ス而シテ南堤ハ半島堤ヲ合シテ延長八百六十間餘、東堤ハ其一、其二及既成堤六百三十二間大藏省施工ヲ合シテ延長約二千二百間ニシテ假防波場ハ延長六百間ナリ今其法線ヲ記スレバ大要左記ノ如シ
南堤ハ港界ヲ表示スル和田岬立標ヨリ東微北ニ走ル一線上ニ於テ陸岸ヨリ百五十間隔テタル位置ヲ以テ起點トシ東西ニ延長六百七十間餘ヲ築造シ其終端七尋以上ノ箇所ニ於テ東堤ノ頭部トノ間ニ百五十間ノ港門ヲ設置ス又陸地ト起點トノ間ニ副門ヲ存シ仍ホ西方ニ半島堤ヲ合シ延長約百九十間ノ堤ヲ築キ以テ陸岸ニ達セシム

東堤ハ一直線ニ北微西ニ延長約八百三十間餘ヲ走り既成防波堤トノ間ニ幅員五十間ノ東副門ヲ存置ス之ヲ東堤ノ二トス而シテ東堤ノ一ハ既成防波堤ノ東端ヨリ東方ニ曲線ヲ描テ走ルコト二百八十九間餘之ヨリ一直線ヲ以テ磁針方位南八十度東ニ約四百四十二間延長シ尙其終端ヨリ北四十七度東ノ方向ニ於テ百五十間ノ第二港門ヲ設ケ夫ヨリ北ニ向テ延長六百間ノ假防波堤ヲ築造スル計畫ナルヲ以テ此堤ヲ以テ抱擁スル水面積ハ約三百萬坪ヲ算ス就中舢舨及小蒸汽船ノ繫碇場ニ通ズル船溜水面積ハ濱邊通約一萬四千三百坪、米利堅波止場附近約五萬八千六百坪、國產波止場附近約一萬五千六百坪、兵庫新川沖約五萬七千四百坪ナルヲ以テ合計約十四萬六千坪ニ達スルナリ

前記諸計畫ヲ更ニ表記スレバ左ノ如シ

種	別	位置	干潮 水面 深位	面積又ハ延長	摘	要
埋 築	外國貿易設備	海岸通地先	13,940	西遊園地及第二波止場前面 此土量四萬九千二百立坪		
		濱邊通地先	79,600	濱邊通前面 此土量六十七萬一千立坪		
	小	兵庫地先	81,600	兵庫地先前面 此土量五十六萬五千四百五十五立坪		
		海岸通地先	18,253	此土量八萬三千九百五立坪		
	外國貿易設備	濱邊通地先	99,853	第二波止場前面及國產波止場 前土量八萬三千九百五立坪		
		計	193,393			
	外國貿易設備	濱邊通地先	40			
		計	113,000			
	外國貿易設備	同	33			
		計	1,110,070			
兵庫地先	同	1,430,070				
	計	310,000				
					大小船舶十五隻縦繫	

種	別	位	置	下干 ノ潮 水面 深位	面積又ハ延長	摘	要
棧	假防波堤				六〇〇・〇〇	堤頭二箇所三十間ヲ含ム	
橋	小				三、六五六・八二		
鐵道棧橋					一、二二五平方尺 長七五〇尺	内五百間平方尺改築 六百二十五平方尺擴張	
		計					

施工狀況

本年度ノ施工狀況ヲ便宜大別シテ外國貿易設備内國貿易設備防波堤築造及材料採取、材料製造ノ各項ニ分類シ仍ホ必要ニ應ジ更ニ之ヲ細別シテ以下順次概要ヲ記述セントス

(イ) 外國貿易設備

一 岸壁工事

基礎掘鑿ハ濱邊通突堤築造法線ニ於ケル鐵筋混凝土函据付位置ニ相當スル基礎ヲ構成スル爲メ現在ノ地盤上層ニ於ケル軟泥ヲ硬質地層ニ達スルマデ掘鑿排除スルモノニシテ、プリストマン式浚渫船大輪田丸、同第二、第三浚渫船及吸揚式唧筒船敏馬號ヲ運用シ之ニ所要ノ土運船及曳船ヲ配屬セシメ前年度ニ引續キ第五突堤水深三十三尺部延長三十六間、第六突堤水深三十三尺部延長六十七間ヲ掘鑿シテ土量五千四百一立坪ヲ得内四千五百五十三立坪ハ濱邊通地先ノ下埋ニ八百四十八立坪ハ兵庫地先ノ下埋ニ利用シ直接工費二萬七千四百四十五圓ヲ支出シタルヲ以テ平均一立坪當ハ五圓二錢五厘ナリ但シ該工費ニハ第五突堤水深三十三尺部ニ於ケル軟泥排除ニ要シタル工費百九十九圓ヲ包含セリ

函据付ノ本年度ハ濱邊通第一突堤ニ於テ水深三十三尺部ノ填充五間ヲ施工シ同四十尺部ニ於テ基礎床

拵五十二間函据付五十九間(三個)同填充八十六間、填充材料ニハ別設計採取砂礫七百七十六立坪及別設計製造混凝土十七萬一千五百六十五才ヲ使用シ同第五突堤ニ於テハ基礎床拵八十間、函据付七十八間(函四個)填充二十七間ヲ施工シテ砂礫六百五十五立坪及混凝土一萬九千四百十九才ヲ使用シ同第六突堤ニ於テハ基礎床拵三十三間、函据付三十二間(函二個)及填充十八間、此材料砂礫三百七立坪、混凝土一萬三千八百三十才ヲ使用シタル外濱邊通第一突堤接續部整理トシテ在來ノ捨石六百三立坪、方塊六百八十九個ヲ除却セリ以上ノ直接工費四萬二千六百一圓ヲ支出シタリ

二 物揚場築造

本年度ハ海岸通突堤東側水深十二尺物揚場ニ於テ基礎捨石二十五間、荷重据付百二十七間、方塊沈積二十七間(方塊百十三個使用)裏詰十四間、濱邊通地先ニ水深九尺物揚場ニ於テ石垣二十三間、同所水深十二尺物揚場ニ於テ基礎捨石三十三間、荷重据置三十三間、方塊沈積十七間(方塊六十四個使用)及石垣裏詰十六間ヲ施工シテ直接工費三萬六千九百九十一圓ヲ支出シタリ

三 米利堅波止場増築

本工事ハ大正十一年六月ノ起工ニシテ前年度迄ニ其大部分ヲ完成シ僅ニ路面ノ上塗工ト防舷材取付ノ小部分ヲ繰越シタリシガ本年度之ヲ續行シテ七月末日ヲ以テ竣功スルニ至レリ本年ノ直接工費三百二十一圓ニシテ此竣功累計ハ直接工費十一萬四千九百九十八圓ナリ之ニ別設計採取ノ材料一萬一千七百六十八圓、同製造品ノ使用代三萬六百三圓ヲ算スルヲ以テ合計十五萬六千五百六十九圓ナリトス

四 船溜防波堤築造

本工事ハ船溜ニ供スル爲メ海岸通地先ニ延長百間ノ防波堤ヲ築造スル計畫ニテ大正十年七月起工シ

前年度マデニ約八割強ノ工期ノ儘ニテ經費ノ都合上前年度ハ中止シ本年度之ヲ續行シテ石垣延長八九間、中詰百九十六立坪、階段七箇所、防舷材四十二間ヲ施工シタルヲ以テ約九割以上ノ工期ニ達ス本年度ノ直接工費ハ一萬八千八百十一圓ニシテ竣功累計ハ十三萬二百七十七圓ナリ

五 埋築工事

濱邊通第一突堤ノ下埋ニハ鋤鏈式浚渫船茅渚丸ヲ運用シテ港内ヲ浚渫シ土量一萬二千八百八十坪ヲ埋築シ直接工費一萬四千三百二圓ヲ支出シタルヲ以テ一立坪當ハ一圓十七錢四厘ニ相當シ右ノ外突堤基礎掘鑿ヨリ生ジタル土量四千五百五十三坪、修船臺築造箇所ノ基礎掘鑿ヨリ生ジタル土量一千二百九十九坪ヲ合シタル總土量ハ一萬八千三十二立坪ナリ

同所上埋ニハ唧筒式浚渫船和泉丸ヲ運用シテ縣下武庫川尻ヨリ採砂シタル土量九千六百六坪ニシテ工費二萬三千六百四十七圓ヲ支出シタルヲ以テ一立坪當ハ二圓四十六錢ナリ

埋立地ノ地均ハ六千四百四十七面坪ヲ處理シ工費二千九百八十三圓ヲ支出シタルヲ以テ此一面坪當ハ四十六錢二厘ナリ

右ノ外附帶工事トシテ施行シタル埋立地下水管敷設費四百一十一圓ヲ算スルヲ以テ直接工費ハ合計四萬一千三百四十三圓ナリ

以上外國貿易設備ニ屬スル本年度ノ直接工費ハ十六萬七千二百十二圓ニシテ此竣功累計百五十二萬二千八十六圓ヲ算シ之ニ別設計採取材料ノ使用高七萬一千八百四十二圓及同製造品ノ使用高七十萬七千五百圓ヲ合スルトキハ累計二百三十萬一千六百二十八圓ニ達スルヲ以テ計畫工費ニ對シ約二割ノ步通竣功ナリトス

(ロ) 内國貿易設備

一 岸壁工事

基礎掘鑿、兵庫突堤築造法線ニ於ケル鐵筋混凝土函据付位置ニ相當スル基礎ヲ構成スル爲メ現在ノ地盤ト上層ノ軟泥ヲ硬質地層ニ達スルマデ掘鑿排除スルモノニシテ「プリストマン」式竣漂船大輪田丸及鋤鏈式竣漂船茅渚丸ヲ運用シ第一突堤水深二十四尺部百七間ヲ掘鑿シテ土量八千七百五坪ヲ得内二千三百二十二坪ハ兵庫下埋ヘ六千三百八十三坪第二突堤下埋ヘ利用シ直接工費一萬三千六百七十一圓ヲ支出シタルヲ以テ平均一坪當ハ一圓五十七錢ナリ又同第二突堤水深二十四尺部ニ於テハ四十三間ヲ掘鑿シテ土量二千二百五十三坪ヲ得之ヲ同堤ノ下埋ニ利用シテ直接工費二千七百六圓ヲ支出セルヲ以テ此一坪當ハ一圓二十錢同三十尺部ニテハ六十二間ヲ掘鑿シテ土量三千三百四十七坪ヲ得之ヲ同所ノ埋立ニ利用シ直接工費四千八百九十九圓ヲ支出シタルヲ以テ一坪當ハ一圓四十六錢ナリ尙外ニ水深三十尺部ニ於ケル軟泥排除費二千五百五十五圓ヲ支出シタルヲ以テ直接總支出額ハ二萬三千四百三十圓、土量一萬四千三百五坪ナルヲ以テ此平均坪當ハ一圓六十三錢ナリ

函据付ノ兵庫第一突堤水深二十四尺部ニ於テ別設計採取砂礫一千四百六十四立坪ヲ埋戻シニ使用シ基礎床均二十六間ヲ施工シ同所ニ函一個延長十九間八分ヲ沈置シ同填充十九間八分ニ對シ混凝土一萬一千三十才及別設計採取砂礫百二十八立坪ヲ使用セリ又第二突堤水深二十八尺部ニ於テハ延長六十九間ニ對シ砂礫一千四百五十立坪ヲ埋戻ニ使用シテ基礎床拵ヲ構成シ函六個ヲ沈置シテ延長八十二間ニ及ビ之レガ填充ニハ混凝土十萬三千八百五十二才及砂礫七百九十六坪ヲ使用シテ延長百二十七間ヲ完成シ又水深三十尺部ニ於テハ砂礫八千五百五十六坪ヲ埋戻ニ使用シテ基礎床拵延長百七十六間ヲ施工シ

次テ函八個七分延長百七十間ヲ沈置シテ之レガ填充ニハ砂礫一千二百九十八坪、混凝土九萬五千五百二十八才ヲ使用シテ延長百三十八間ヲ完成シ此直接工費六萬二千四百十五圓ヲ支出シタリ

二 物揚場築造

兵庫地先水深九尺丙物揚場ニ於テハ基礎捨石二間、石垣五間、同九尺、丁戊物揚場ニ於テハ捨石一間、石垣十五間、同十二尺甲揚場ニ於テハ捨石二間、荷重据置六間、方塊沈積四十三間、石垣十四間、同十二尺乙丙物揚場ニ於テハ捨石二間、荷重三十四間、方塊沈積四十五間、石垣四十七間ヲ施工シテ直接工費四萬三千七百六十一圓ヲ支出シタリ

三 埋築工事

本年度ハ兵庫地先ノ下埋ニ於テ五萬七千五百三十坪同上埋ニ於テ三萬三千三百三十八坪、合計九萬八千六百六十八坪ヲ埋築シ直接工費十四萬六千四百四圓ヲ要シタルヲ以テ一坪當平均ハ一圓六十一錢ナリ右ノ内下埋ニハ鋤鏈式浚漑船茅渟丸及「プリストマン」式浚漑船大輪田丸ヲ運用シタル港内浚漑土量四萬一千三百八十坪工費四萬八千三百四十三圓、坪當一圓六十錢又構造物基礎掘鑿ヨリ生ジタル利用土砂一萬五千百五十三坪ノ外別設計採取砂礫九百九十七坪、計五萬七千五百三十坪ヲ埋築ス又上埋ニハ唧筒式浚漑船洞海丸並和泉丸ヲ運用シ洞海丸ハ主トシテ加古川尻ヨリ採砂シ主部埋立ニ九千六百四十三坪、第二突堤ヘ四千五百二十九坪、計一萬四千七百七十二坪ヲ埋築シタル直接工費五萬五千五百六十八圓ヲ支出シタルヲ以テ平均一坪當ハ三圓二十一錢又和泉丸ハ專ラ武庫川尻ヨリ採砂シ主部埋立ニ一萬七千六百五十八坪、第二突堤ヘ一千五百八坪、計一萬九千六百六十六坪ヲ埋築シタル直接工費四萬二千四百五十五圓ナルヲ以テ平均一坪當ハ二圓二十一錢、此走航距離洞海丸ハ約二十五哩、和泉丸ハ約八哩六ナリ本年度本工

事施工ノ爲メ直接支出シタル工費ハ別設計整理ニ屬スル所要曳船ノ運轉費二千八百八十圓ヲ合シテ十四萬八千五百四十六圓ナリ

又同理立地表ノ地均面積三千六百四十八坪ヲ施工シテ工費二千六十七圓ヲ要シタルガ故ニ一面坪當ハ五十六錢六厘ナリ

上記ノ外締切堤五間ヲ築造シタル工費八百三十四圓ノ外武庫川尻ニ於ケル採砂場ノ補強土留四十間、在來砂堤補強八十四間(工事施工費二千八十七圓ヲ算スルヲ以テ本項ニ屬スル直接工費ハ十五萬三千五百三十四圓ナリ

假護岸計畫延長百三十五間ノ處前年度マデ百三十一間ヲ完成シ本年度十間ヲ築造シテ工費一千二百十七圓ヲ支出セルヲ以テ間口當ハ百二十一圓七十錢ナリ此累計工費別設計採取材料ノ使用價額二萬三千七百二圓ヲ加ヘ合計八萬七千九十四圓ニテ延長百四十一間ヲ築造シタルヲ以テ此累計間口當ハ六百十七圓六十八錢ナリ

本年度内國貿易設備工事施行ノ爲メ支出シタル直接工費ハ二十六萬九百二十七圓、竣功累計百二十五萬六千六百九十九圓ヲ算シ之ニ別設計採取材料使用價額二十四萬五千六十一圓及同製造品ノ使用價額七十六萬十三圓ヲ合スルトキハ累計二百二十六萬一千七百七十三圓ニ達スルヲ以テ本項ノ總工費ニ對シ二割二分五厘ノ步通竣功ナリトス

(ハ) 防波堤築造

南堤ハ現計畫延長半島堤及屈曲部ヲ合シ八百六十間餘ノ處陸岸ヨリ百五十間隔テタル箇所ヲ起點ニ頭部二箇所、三十間ヲ合セ東西ニ延長六百七十間餘ノ築造ニ對シ大正六年九月起工爾來施工中ノ處前年度

マデニ約九割ノ功程ヲ舉ゲ本年度ハ其殘部タル即幹部基礎工事ニ於テ荷重九間床約二十五間餘ヲ又同函据付工事ニ對シテハ函五個延長四十三間餘同填充ニハ混塊土六萬二千九百十七才ト小方塊十個トヲ使用シテ延長六十二間七分ヲ施工シ同函根固工ニテハ方塊二百三十二個ヲ使用シテ延長四十一間ヲ施工シ本年一月末日ヲ以テ本堤ノ竣功ヲ告グルニ至レリ本年度ノ直接工費ハ一萬一千四百四十一圓ニシテ此累計百八十六萬三千百九圓ヲ算スルノ外別設計採取品ノ使用價額二十三萬二百十七圓同製造品ノ使用價額百十六萬一千六百五十六圓ヲ合スルトキハ三百二十五萬四千九百八十二圓ニ達シ其施工延長六百四十間七四五ナルヲ以テ間口當ハ五千八十圓ナリ

南堤ノ頭部二箇所三十間ニ對シテハ大正十一年十二月ヨリ起工シ前年度基礎捨石ヲ完成シタルノ外荷重据置二十七間上部床均十二間ヲ施工シタル殘工事ヲ續行シテ荷重三間上部床約十八間ヲ完成セシメタル上函据付填充及根固工ヲ施シテ同十五年一月竣功スルニ至レリ本年度ノ直接工費ハ一萬二千百四十七圓ニシテ此累計九萬七千二百二十六圓ヲ算スルノ外別設計採取品ノ使用價額七萬六千百三圓ヲ合スルトキハ二十一萬八千九百七十二圓ニ達スルヲ以テ間口當ハ平均七千二百九十九圓ナリ

東堤ノ二ノ基礎工事ニテハ捨石百八十間荷重据置百六十五間及上部床均百二十四間ヲ施工シタル外函一個延長八間ヲ据付ケ尙函根固工ニテハ六間ヲ施工シテ方塊二十四個ヲ使用セリ同堤ノ頭部一箇所十五間ニ對シテハ前年度マデ施工未済ニ係ル基礎工事ニ於ケル上部床約十五間ヲ施工シタルノ外函二個延長十五間ノ据付ヲ了シ及函根固工トシテ方塊百三十八個ヲ使用シ延長十二間ヲ完成セシメ殘餘ハ翌年度へ繰越スニ至レリ本年度ノ直接工費ハ二十二萬七千七百七十九圓ニシテ東南兩堤ノ施工費ハ二十五萬一千二百九十七圓ナリ

(二) 材料採取

直營採取ニ係ル材料ハ割石、砂礫、砂利、礫及砂ノ五種ニシテ前年同様割石ハ兵庫縣下淡路國岩屋町宇鶴崎海岸ヨリ人力及爆藥ヲ使用シテ採取シ之ヲ運搬船ニ積込ミ曳船ニテ神戸港内所要場所ニ海路片道約十二海浬ノ間ヲ輸送シタルモノニシテ本年度ノ採取量ハ割石六千七百二立坪、工費六萬六千二百七十一圓、坪當九圓八十八錢八厘、砂礫二萬四千九百五十坪、工費八萬一千四百八十六圓、坪當三圓二十六錢六厘、砂利及礫ハ兵庫縣下加古川筋ヨリ人力採集高砂港口マデ小舟運搬船ニ積込ミ曳船ヲ介シ神戸港マデ海路片道約二十八浬ノ間ヲ輸送シテ所定ノ置場ニ陸揚ヲ爲シタルモノニシテ本年度ノ採取量ハ砂利五千九百五十三坪、礫二百一坪、工費九萬二千二百六十四圓、坪當十四圓九十九錢二厘、砂ハ混凝土用清砂ナルヲ以テ特ニ兵庫縣下武庫川尻ヲ選ミ唧筒式浚渫船和泉丸ヲ運用シテ採集自航神戸港ニ輸送ヲ遂ゲ所定ノ置場ニ藏置シタルモノニシテ本年度ノ採集量ハ二千八百三十五坪、工費七千七百六十七圓、坪當二圓七十四錢ナリ右ノ外石材採取設備及同補修費トシテ七千五百二圓ヲ算スルヲ以テ本年度ノ直接工費ハ二十五萬五千二百九十圓ナリ

(ホ) 材料製造

製造材料ハ、鐵筋混凝土函ヲ主トシ各種ノ方塊並函内填充用混凝土ノ三種ニシテ以下項ヲ別チテ其概要ヲ記述セントス

一 鐵筋混凝土函製造

本年度ノ製造高ハ岸壁用水深四十尺函二個、同三十三尺函五個、同三十尺函九個、三八、同二十八尺函二個、同二十四尺函二個及第六突堤根元異型函二個ノ外防波堤用函幹部二個、幹部及頭部用異型函五個、計二十九

個三八ニ及ビ此混凝土容積五十六萬三千七百七十才餘、直接工費四十三萬六千四十四圓ヲ支出シタルヲ以テ平均一個當ハ一萬四千八百圓ニシテ就中一個當ノ最高ハ二萬四千圓、最低ハ三千四百圓ナリ（混凝土一才當三十八錢八厘）

二 方塊製造

本年度ハ各種ヲ通ジテ八百四個ヲ製造ス此混凝土容積十九萬一千三百四十四才、直接工費五萬一千二百六十圓ヲ支出シタルヲ以テ一個平均當ハ六十三圓ニシテ就中其最高ハ百九圓、最低ハ四十六圓ナリ（混凝土一才當三十二錢六厘）

三 混凝土製造

鐵筋混凝土函内填充用トシテ本年度ハ五十四萬才ヲ製造シ此直接工費十萬一千六百四十二圓ヲ支出シタルガ故ニ一才當ハ十八錢八厘ナリ
以上ノ製造ニハ多量ノ直營採取ニ係ル砂利及砂ヲ使用スルモノナルヲ以テ之ヲ概算スルニ函ノ製造ニハ施工費ニ對スル約一割方塊製造ニハ同二割八分、混凝土製造ニハ三割八分ニ相當スル價額ヲ伴フ計算ナリ

(へ) 雜件

一 船舶機械修理製作

本年度機械工場ニ於ケル直營施行費ハ十二萬二千五百八十一圓、其他二三工場ニ於テ輕易ナルモノヲ施行シタル費用ハ合計一萬三千三百四十一圓ヲ算スルノ外請負施行ニ係ルモノ十七萬二千九百三十四圓ナルガ故ニ本年度ノ支出高ハ三十萬八千八百五十六圓ナリ

二 營繕工事

直營施行ニ屬スルモノハ濱邊通地先ニ前年來著手シタル函製造用砂利置場ニ溝渠築造ノ殘工事ヲ施行シ尙同地先ニ修搬臺一基ヲ築造シタル外避電設備及電力架空線路ノ變更ヲ施シテ此直接工費計一萬六千八百八十九圓ヲ算スルノ外既設物件ノ修理費請負施行額一萬六千三百八十八圓ヲ合シタル本年度ノ直接工費ハ三萬二千五百七十七圓ナリ

三 雜工事

武庫川尻ニ於ケル採砂場ノ深淺測量ニ二百七十圓、セメント、火山灰等ノ材料試驗費六千七百七十二圓、埋立外七工場ノ工場雜費二萬五千六百四十六圓、船舶機械ノ不就役ニ對スル管守費ニ三千四百三十三圓、本所直屬ノ發動機船「走水」ノ運轉費ニ三千五百七十五圓ヲ支出シタルノ外工事外諸費即チ諸給與、惠與、死傷手当等ノ費用ヲ積算スルトキハ八萬九千五百三十一圓ヲ算スルヲ以テ本年度雜費ニ屬スル支出高ハ十二萬八千六百二十七圓ヲ算スルニ至レリ(假護岸築造費ハ別ニ計上シタルヲ以テ之ヲ加算セズ)

四 共濟組合給與

本年度同組合ニ對シ國庫ヨリ支出シタル給與額ハ九千八十四圓ニシテ其組合員ノ掛金ハ總額一萬四千四百七十五圓ナリ

本年度本港修築工事ノ竣功高ハ百九十七萬四千三百九十八圓ニシテ竣功累計額ハ一千九百六萬一千二百二十五圓(現在物品代二十七萬二千四百二十圓ヲ含マズ)ニ達ス之ヲ總工費三千五百十六萬八千六百一圓ニ對比スルトキハ約五割四分強ノ竣功歩合ナリトス其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「×」ハ材料費ノ項ニ掲ゲタル金額中ヨリ各工事ニ使用シタル材料代ヲ轉記シタルモノ「△」ハ同材料費ノ項ニ掲ゲタル金額

中ヨリ各工事ニ使用シタル製造品ノ代金ヲ轉記シタルモノナリ

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩功
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
國外貿易物揚場築造	110.617	113,877		331	110.617	114,208	1.00
米利堅波止場増築		30,603				30,603	1.00
船溜防波堤築造	237.910	57,765	27.638	41,343	265.548	99,108	0.93
埋切堤築造	221	83,727			221	83,727	0.26
假護岸築造	140	61,479			140	61,479	0.85
國內貿易物揚場築造		1,355,074		167,212		1,522,286	0.20
岸壁築造		466,376		241,638		708,014	0.29
埋切堤築造		119,550		62,415		181,965	0.29
物揚場築造		353,310		284,705		638,015	0.29
埋切堤築造		445,749		43,761		489,510	0.60
假護岸築造		102,314		19,445		121,759	0.60
國內貿易物揚場築造		287,759		152,640		440,399	0.23
埋切堤築造		100,241		32,702		132,943	0.23
假護岸築造		80,887		834		81,721	1.00
小計	131	232,705	10	11,117	141	243,822	1.00
國外貿易物揚場築造		995,772		260,927		1,256,699	0.23
埋切堤築造		455,624		304,389		760,013	0.23
假護岸築造		184,817		23,587		208,404	0.23
國內貿易物揚場築造		1,194,917		118,993		1,313,910	0.24
埋切堤築造		186,676		27,708		214,384	0.24
假護岸築造		410,610		31,055		441,665	0.24
小計		2,327,786		442,669		2,770,455	0.24
防波堤							
南防波堤							
東防波堤ノ二							

總計	材料費	臨時手当費	共濟組合給與金	施行中諸費	營業繕費	用地費	船舶及機械費	築造費	
								小計	既設東防波堤
									六三二
△×	×			×	×		×	△×	
一七、〇八六、八二七 二、〇四〇、六七八	三、一五五、六六九 三二一、五四八			九七五、二九三 六、六〇七	九五二、一八三 二五、一四三		五、七六四、七二六 二〇二	一、四八三、三八九 三、八三五、四三六 一、三三五、四七〇 一、一八八、六七六	
△×	×			×	×		×	△×	
一 六九七、四三九 二四六、八一〇 八、一〇八	八一五、八二〇 九三、八七三			九、〇八四 二二八、六二七	三二、七七七 一、三九二		三〇八、八七六 九〇	二五二、二九五 一、八八〇、五九九 一、五〇二、九八八	
△×	×			×	×		×	△×	
一九、〇六一、二二五 二、七三六、四八七	三、九七一、四八九 四一五、四二一			二二、三九九 六、六〇七	九八四、七六〇 二六、五三五		六、〇七三、五八二 二九二	一、四八三、三八九 四、〇八六、七三一 一、二六八、九七四	
〇・五四				〇・二二	一・九四		〇・三三	〇・四三	一・〇〇

第五 横濱港修築工事

（横濱土木出張所）

緒言

横濱港ハ元横濱村ト稱スル一漁村ニ過ギザリシモ安政六年六月開港以來其内外貿易ハ累年増進長足ノ進歩ヲ爲シ神戸港ト相對峙シテ帝國ノ二大門戸タリ然レバ政府ハ本港發展ノ趨勢ニ順應シテ明治二十年以來漸次防波堤、馴導堤及鐵棧橋ノ築造港内ノ浚渫海面ノ埋立、岸壁、物揚場ノ築造、上屋、倉庫、鐵道、道路、橋梁、起重機、其他ノ陸上設備竝防波堤ノ修繕、棧橋ノ改築等ヲ施行シ大正九年度迄ニ工費總計大約一千八百萬圓（内横濱市負擔額二百七十萬圓）ヲ支出シテ大ニ本港貿易ノ増進ニ資スル所アリ港灣トシテノ設備稍々見ルベキモノアリト雖モ駭々トシテ止マラザル本港ノ發展ハ早クモ是レガ不備陝隘ヲ告グルニ至レリ

茲ニ於テカ政府ハ本港修築ノ必要ヲ認メ大正十年度ヨリ所謂第三期擴張工事ヲ施行スルニ至レリ然ルニ偶大正十二年九月一日ノ大震災ニ際會シ明治二十二年以來巨額ノ工費ヲ投ジ之ガ完成ニ三十餘年ヲ費シタル港灣設備ハ一朝ニシテ殆ント全部ヲ破壊セラレ港灣ノ能力一時ニ滅絶シ其慘憺タル情況驚歎スベキモノアリ茲ニ政府ハ震災直後應急假設工事ヲ施設シテ水陸聯絡ノ便ヲ圖リ同時ニ防波堤、岸壁、護岸、橋梁等ニ於ケル被害ノ狀況ヲ調査シ之ガ復舊ノ計畫ヲ樹テ大正十二年十月二十一日ヲ以テ復舊工事ノ施行ヲ開始シ當所ヲシテ其任ニ當ラシムルニ至レリ

横濱港第三期擴張工事計畫ハ大正十年度ヨリ同十九年度ニ互ル十箇年度ノ繼續事業トシテ工事ノ施行

中ナリシガ震災復舊工事施行ノ爲メ年度割豫算亦隨テ相當ノ變更ヲ爲サザルベカラザルニ至リ同十二年
 度ニ於テ政府ノ責任支出ニ依リ復舊工事ノ一部ヲ應急施行シ同十三年度ニ於テ議會解散ノ結果同年
 七月迄更ニ責任支出ニ依リ復舊工事及第三期計畫ニ屬スル工事ノ一部ヲ施行シ而シテ八月以降ハ左ノ
 二大工事ヲ併セ横濱港復舊及修築費ノ費目ニ於テ實施スルコトナレリ
 一、第三期計畫ノ内大正十三年七月迄ニ施行シタルモノヲ除キ同年八月以降引繼キ施行スベキ工事
 一、震災復舊工事ノ内大正十二年度及同十三年度(四月ヨリ七月迄四箇月分)ニ於テ責任支出ニ依リ施行シ
 タル部分ノ残工事

而シテ當所ニ於テ施行スル復舊工事ハ大藏省ニ於テ施行スル陸上設備ノ復舊工事ヲ除外セルモノニシ
 テ其豫算ハ九百二十五萬五千五百四十六圓ナリ之ヲ年度別ニ示ストキハ大正十二年度ハ責任支出二百
 五十萬圓追加責任支出三十二萬六千七百七十一圓合計二百八十二萬六千七百七十一圓同十三年度ハ責
 任支出百九十五萬圓(十三年七月迄ノ分)年度割豫算同八月以降(二百七十五萬圓合計四百七十萬圓)同十四
 年度ハ百七十二萬八千七百七十五萬圓ナリ今修築費ヲ併合シタル年割額ヲ示セバ左ノ如シ

年 度	舊第三期 畫		責 任 支 出		新 計 畫		合 計
	計	同上施行濟	第三期分	震災復舊費	第三期分	震災復舊費	
大正十 年度	1,000,000.00 円	1,000,000.00 円					
同 十 一 年度	1,000,000.00 円	1,000,000.00 円					
同 十 二 年度	1,100,000.00 円	878,775.00 円	70,000.00 円	2,500,000.00 円 退加 三二六,七七一			
同十三年度(七月分迄)			70,000.00 円	1,950,000.00 円			
小 計	3,100,000.00 円	2,878,775.00 円	70,000.00 円	4,776,771.00 円			

年 度	舊第三期 畫		同上施行濟		責任支出		新計		合 計
	計	畫	計	畫	第三期分	震災復舊費	第三期分	震災復舊費	
大正十三年度(八月份以後)	一、一〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	二、三三〇、〇〇〇	〇	二、三三〇、〇〇〇
同十四年度	一、一五五、七五〇	〇	〇	〇	〇	〇	七、七七一、二二五	〇	二、九八〇、〇〇〇
同十五年度	一、二二五、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	二、五〇〇、〇〇〇	〇	二、五〇〇、〇〇〇
同十六年度	一、二二五、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	一、八〇〇、〇〇〇	〇	一、八〇〇、〇〇〇
同十七年度	一、二二五、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	一、八〇〇、〇〇〇	〇	一、八〇〇、〇〇〇
同十八年度	一、八〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	一、六〇〇、〇〇〇	〇	一、六〇〇、〇〇〇
同十九年度	二、二四四、二五〇	〇	〇	〇	〇	〇	一、〇、五〇〇、一、二二五	〇	一、〇、五〇〇、一、二二五
小計	一〇、三五〇、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	四、四七八、七七五	〇	一四、九八〇、〇〇〇
累計	一三、四五〇、〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	四、七七六、七七二	〇	一四、九八〇、〇〇〇

更ニ工事費及事務費ヲ分割スルトキハ次ノ如シ

年 度	當 初 年 度		割 額		改 定 年 度		割 額	
	工事費	事務費	計	合	工事費	事務費	計	合
大正十一年度	九四〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇	〇
同十二年度	一、〇四〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	〇	〇	〇	〇
同十三年度	一、〇四〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	二、八四七、一五五	〇	一、三二八、四四五	二、九八〇、〇〇〇
同十四年度	一、一四〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇	二、三四五、〇〇〇	〇	一、五五〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇
同十五年度	一、四三三、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	二、三六五、〇〇〇	〇	一、三五〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇

累計	同十六年度	同十七年度	同十八年度	同十九年度
一、四三〇、〇〇〇	一、七三〇、〇〇〇	一、七三〇、〇〇〇	一、七三〇、〇〇〇	一、三八〇、〇〇〇
七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇
一、五〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、四五〇、〇〇〇
一、七一〇、〇〇〇	一、七二〇、〇〇〇	一、七二〇、〇〇〇	一、七二〇、〇〇〇	一、五一〇、〇〇〇
九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇
一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇
一、四、九八〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇
一、二、八〇〇、〇〇〇	六五〇、〇〇〇	一、三、四五〇、〇〇〇	一、四、二九七、一五五	七八二、八四五

如斯ニシテ舊第三期修築工事豫算ハ大正十三年七月ヲ以テ之ヲ打切り同年八月以降ノ分ハ震災復舊工
 事ト併セ新ニ年度割豫算ヲ編製シタルモ工事ハ當初ノ計畫ニ基キ毫モ變更スルコトナク引續キ之ヲ遂
 行シ以テ同十九年度ニ至リ竣成セシムルモノトス又震災復舊工事ノ殘部即チ護岸工事ノ一部及棧橋工
 事ハ同十四年十一月三十日ヲ以テ全部ノ竣功ヲ見タリ

修築工事計畫ノ概要

一 外國貿易設備

埋立ハ北防波堤内外ニ互リ面積三十三萬四千五百三十三方米ヲ朔望平均干潮面上三米八ニ埋築スルモ
 ノニシテ延長約一千五百二十米、其幅員三百十二米一一、二百五十一米及百五十米ノ三段ヨリ成リ且神奈
 川寄海岸ニ平行シテ港内側ニ小突堤ヲ築設ス
 岸壁及物揚場ハ前記埋設地ノ港内ニ面スル部分ニハ總テ外航路船ヲ繫留シ得ベキ大岸壁ヲ築造シ船溜
 ニ面スル部分ハ水深六米六及二米七ノ岸壁及斜面物揚場トシ解船ノ荷役ニ供ス其他ノ沿岸ハ之ヲ護岸
 トス其内譯左ノ如シ

出入ニ便ス

聯絡橋梁ハ埋立地ト千若町トノ間ニ徑間三十六米二連幅員三十二米(鐵道及公道ヲ合セ)ノ橋梁ヲ架設ス而シテ其有効高ヲ朔望平均滿潮面上五米トス

一 内國貿易設備

埋立ハ表高島町地先ニ於テ面積六萬二千二百三十八方米、山内町地先ニ於テ同四萬九千九百一十一方米合計面積十一萬二千四百四十九方米ヲ朔望方均干潮面上三米四八ニ埋築ス

岸壁及物揚場ハ各埋立地ノ前面ニ何レモ朔望平均干潮面下水深七米三ノ岸壁ヲ築造シ三千噸級汽船ノ接岸荷役ニ供シ其他ノ沿岸ハ水深二米七ノ岸壁及物揚場竝護岸トス其内譯左ノ如シ

名	繫船岸		物揚場		場		護		總計
	岸壁	小計	岸壁	小計	同	斜	同	小計	
稱	表高島町地先		表高島町地先		山内町地先		山内町地先		
所在	山内町地先		山内町地先		山内町地先		山内町地先		
有効延長	米		米		米		米		米
	六四八	四二三	一〇七一	四二二	三三九	四六	二二七	二二七	
繫留船隻數	三千噸級		同		同		同		八
	五	三	八	三	八	三	八	三	
	七三	七三	二七	二七	二七	二七	二七	二七	一九〇九

荷役能力ハ繫船岸及物揚場一箇年一米當夫々五百五十噸及四百四十噸トシテ合計一箇年九十萬七千噸ヲ扱フコトヲ得ベシ

舢船溜ハ表高島町地先埋立地ノ背面ト在來海岸トノ間ハ其沿岸ヲ舢船ノ荷役ニ供スルト共ニ舢船ノ船溜ニ充テ山内町地先埋立地ト淺野造船所埋立地トノ間ハ幅員七八米五一ノ水面ヲ存置シ以テ埋立地舢船荷役ノ便ヲ計ラントス但シ該水面タル地盤ノ關係上潛函製造工場用地トシテ他ニ求ムルヲ得ザル好適ノ箇所ナルヲ以テ本修築工事施行中ハ假ニ其一部ヲ埋築シ存置水面ノ幅員ヲ三五米ニ止メントス
 浚渫計畫ハ岸壁ノ水深其他各設備ト相俟テ港内ヲ數區ニ分割シ其水深ヲ七米三乃至十二米トシ且港外ニ於テ幅員二百二十米、長一千八百米ノ航路ヲ水深十二米ニ浚渫ス其他舢船溜等ノ浚渫ハ聯絡橋梁ノ南北ニ於ケル部分ヲ水深三米六、其他ハ之ヲ水深二米七トス而シテ大正十年度以降同十二年八月末日迄ニ於テ面積二百三萬三千三百方米此浚渫土量九十三萬五千九百三十立米ノ竣功ヲ見シガ同年十二月港内實測ノ結果既成部分ニ變更ヲ來シ面積百萬二千八百方米此土量六十五萬九千二百立米トナル即チ同十三年度以降浚渫スベキ面積ハ三百二十萬二百方米ニシテ之ガ浚渫土量ハ五百八十三萬八百立米トス
 浮標ハ近時大型船舶ノ出入激增シ大型汽船繫留用ノモノ増設ノ必要ヲ痛切ニ感ズルヲ以テ當初設計ノ設置數量ヲ左記ノ通り變更ス

種別	當初設計	變更設計	種別	當初設計	變更設計
一萬噸級	二個	七個	三千噸級	二個	七個
五千噸級	四個	四個	合計	一八	一八

修築工事施行狀況

本工事ハ大正十二年八月末日迄ニ於テ浚渫工事、埋立工事及工場設備竝造函船渠築造工事等孰レモ豫期ノ如ク進捗シ其他各種ノ機械類モ略整備シタルヲ以テ將ニ是ヨリ岸壁築造工事ニ著手セントスルノ運ビニ至リシガ不幸同年九月一日ノ大地震ニ際會シ復舊工事施行ノ爲メ一時本工事ヲ中止シタルモ昨年度ニ於テ復舊工事ノ大部分完成セルヲ以テ曩ニ設置セシ横濱港復舊第一工場及同第二工場ヲ廢シ(横濱港復舊第三工場ハ別途復舊工事ニ從事シ同十四年十一月三十日棧橋工事ノ竣功ヲ俟テ廢止ス)新ニ横濱港修築第一工場、同第二工場ヲ設ケ本年度當初ヨリ本工事ニ著手セリ而シテ本年度施行シタル主ナル工事ハ浚渫、埋立及ビ岸壁、物揚場築造工事竝造函船渠築造工事等ニシテ左ニ順次施行狀況ヲ記述セントス

一 岸壁及護岸工事

(イ) 外部護岸築造工事ハ外國貿易設備地ノ一部北水堤外ニ在ル延長六百四十六米三七ノ護岸ヲ築造スルモノニシテ大正十四年六月工事ニ著手シ其約八割七分ヲ竣功セリ而シテ此工法ハ基礎ニハ浚渫土丹ヲ利用シ干潮面下零米三五ニ達セシメ方塊ヲ二段積トシ上部ハ場所詰混凝土ヲ施工セリ又根固ニハ舊防波堤取除ヨリ得タル混凝土塊片ヲ用ヒ裏込ニハ浚渫土丹ヲ利用セリ

(ロ) 三米岸壁及三米物揚場工事ハ其總延長前者ハ五百六十三米〇三、後者ハ三百七十五米ニシテ北端外部護岸側ヨリ著手シ延長五十九米(上部工事ヲ除ク)ヲ竣功セリ而シテ此工法ハ「ブリストマン」式浚渫船ニ依リ根據ヲ爲シ土質柔軟ナル箇所ハ相當ノ地質迄掘リ下ゲ浚渫工事ニ依リ得タル砂土丹ヲ以テ埋戻シ然ル後割石、目潰砂利及袋詰混凝土ヲ使用シテ基礎均ヲ爲シ扶壁體ヲ据付ケ前面根固ニハ水中混凝土

土ヲ以テシ裏込ニハ浚渫土丹ヲ利用セリ

(ハ) 舊防波堤取除工事ハ外國貿易設備用埋立地陸地沿三米岸壁工事施行ノ爲メ北水堤根元ニ於ケル在來ノ解船航路ハ航行禁止ノ己ム無キニ至リタル爲メ之ガ代用トシテ本工事ヲ施行シタルモノニシテ本年度ニ於テ其工程約八割ヲ進捗セリ

(ニ) 三米扶壁體及方塊製造工事ハ前述ノ三米岸壁及同物揚場ニ使用シタル扶壁體竝外部護岸ニ用ヒタル方塊ハ第二工場山内町埋立地内ニ其設備ヲ施シ大正十四年十二月二日ヨリ製作工事ニ著手ス扶壁體ハ幅三米五、長四米九、高五米〇五、正面壁厚零米二五、側壁厚零米二、底部厚零米三ノL型ニシテ混凝土ノ配合ハ一、二、四ナリ其容積ハ十七米六ニシテ重量四十六噸ナリ混凝土施工後五日目ニテ型枠ヲ取外シ二十日目ニテ五十噸起重機船ニテ鈎上ゲ百五十噸積鐵船ニ受ケ現場ニ運搬ス本年度末迄ニ十九個ヲ製作セリ

方塊ヲ製造スル爲メ假護岸法線ヨリ陸側十五尺ヲ中心トシテ幅七尺、長百三十尺、高四尺五寸ノ鍋トロ用陸棧橋ヲ設ケ十封度軌條ヲ複線トシ棧橋ノ兩側ニ長六尺五寸、幅六尺、厚一寸ノ木製方塊臺ヲ一尺五寸ノ間隔ニ十六臺宛列ベ棧橋ノ一端ニ混凝土混合機、オースチン型十一S七馬力半電動機付一臺ヲ幅三尺、長十二尺、高七尺ノ臺ノ上部ニ据付ケ方塊臺ノ上ニ五厘厚鐵板製四枚一組ヲ「ボールト」締ト爲シタル型枠ヲ配置シ混凝土ノ剝レヲ良クスル爲メ其内面ニ石鹼水ヲ塗布ス而シテ之ガ塗布量ハ十八立入一罐ニテ二十五面坪乃至三十面坪トス

方塊ノ大サハ幅四尺五寸、長六尺、高四尺五寸ニシテ混凝土混合機一回練七才五分トシ一日平均八個、總計二百九十七個ヲ製作セリ而シテ混凝土施工後五日目ニテ型枠ヲ取外シ十日目ニテ起重機船ニテ鈎

上ゲ運搬船ニ受ケ現場へ運搬ス

二 浚渫工事

七隻ノ浚渫船浮島丸(鋤簾式)龍神(搔揚式)及二號、四號、五號、六號、七號以上ブリストマン式ヲ使用シ水深十一米、十米、九米、七米三及三米ノ區域ヲ浚渫セリ此浚渫土量六十七萬五千四百三立米ナリ而シテ此浚渫土砂ハ底開土運船及傳馬船ニ搭載シ外國貿易用埋立地ノ一部又ハ港外沖合ニ投棄シ尙埋立用唧筒船ニ供給セリ碎岩工事ハ浚渫ノ一部トシテ施工シタルモノニシテ「ロブニッツ」碎岩船一隻ヲ使用シ海底ノ土丹岩盤ヲ破碎セルモノニシテ此碎岩量二萬四千九百八十一立米トス

三 埋立工事

外國貿易設備地ノ一部タル北水堤外埋立第一區域面積三萬六千方米ノ八割及第二區域八萬九千方米ノ五分ヲ竣功セリ而シテ此工法ハ北ハ外部護岸築造工事ニ依リ其他ハ浚渫土丹岩ヲ利用シテ土留堤ヲ築造シ東側ハ波浪ニ耐ユル爲メ上部ハ古方塊ヲ用ヒ根固ニハ古混凝土塊片ヲ使用セリ此埋立ノ中干潮面下ハ概ネ底開土運船及傳馬船ニ依リ土砂ヲ捨込ミ干潮面上ハ唧筒船龍王ヲ以テ其前面ニ投棄セル浚渫土砂ヲ排送セリ其土量三十三萬五千四百九十一立米トス

四 造函船渠築造及工場設備工事

外國貿易用埋立地岸壁ハ全部大形混凝土「ゲート」ヲ物揚場及護岸ハL型扶壁體ヲ使用スル爲メ山内町地先埋立地ニ造函船渠及諸種ノ工場設備ヲ施行セリ以下順ヲ追フテ之ヲ説明セン

(イ) 専用鐵道高島驛構内側線ニ並行シテ専用側線ヲ設ケ更ニ之ヨリ分岐シ鐵橋ヲ架シ山内町ニ渡リ七鎖ノ曲線ヲ以テ埋立地ニ引込ミ之ヨリ六線ニ分岐シ材料運搬ニ便ナラシム貨車引込用トシテ十三噸汽

入渠セシムルコトヲ得船渠扉ハ中型最新式ノ鋼製扉船ニシテ中央空氣室以外ハ全部シングルスキントシ高十二米七五幅四米八八上部長十五米五五下部長一米八九吃水七米九九總重量二百噸トス渠室ノ排水ニハ容量ノ大ナル唧筒ヲ設ケ三、四時間ニテ排水スルヲ普通トスレドモ本船渠ハ利用ノ目的竝性質上急速ノ排水ヲ要セザルガ故ニ干潮面位下約十二時間ニテ排水ヲ爲ス目的ニテ十八吋渦卷唧筒(高壓百馬力電動機直結)ヲ備ヘ尙平常ノ湧水排出用ニハ七馬力半電動機直結五吋タービン唧筒ヲ設ケ注水ニハ唧筒室ト反對側ノ扉當側壁内ニ設ケシ斷面一米五×零米八ノ暗渠トシ入口ニスルイス弁ヲ備ヘ約二時間ニテ渠室内ヲ充滿セシムルモノトス側壁ノ下半部ハ土丹岩ヲ切取リ横七十五米間隔縱一米間隔ニ徑一吋長五呎内外ノ穴ヲ穿チ徑二分ノ一吋「ボール」トシテ入レ「モルタル」ニテ埋込ミ是等ヲ控トシテ川崎鐵網ヲ張リ厚平均零米一五ノ混凝土ヲ以テ被覆セリ此土丹層ノ間ニ多數ノ砂層ヲ有シ多少ノ湧水ヲ見タルヲ以テ混凝土裏面ニ完全ナル水拔工ヲ施シ側壁ノ水壓ニテ押出サレザル様充分ノ注意ヲ爲シ尙表面ハ全部セメントガン仕上ト爲セリ側壁ノ上半部ハ埋立地ノ土砂ノ部分ナルヲ以テ基礎ハ土丹岩ニ切込メル擁壁トシテ下部厚一米上部厚零米四トシ尙踏面ハ幅零米八厚零米三ト爲シ鐵筋ヲ入レ約三米毎ニ補強ノ爲メ二本宛ノ控工(徑一吋四分ノ一丸鐵ニピターターセメント塗布セルモノ)ヲ施行シ接手ニハ厚五厘ノ銅板ヲ入レ「アスファルト」ヲ填充シ裏込ハ土丹塊ヲ用ヒ粘土ニテ完全ナル目詰ヲ爲シ水密ト強力トヲ保證ス尙此側壁ノ裏面ニ集マレル水ノ水位上昇ノ危險ヲ防止スル目的ニテ上部側壁裏面ニ約五米内外ノ土丹岩層上ニ盲暗渠ヲ設ケ渠室ヲ一周シ唧筒室側ノ「タンク」ニ導キ五吋排水唧筒ニテ適度ニ排水セシムル事トセリ船渠ノ前方及北方ハ海側ニ面シ殊ニ北面ハ船溜ト爲スモノナルヲ以テ鐵筋混凝土扶壁護岸工事ヲ施セリ北護岸ハ水深干潮面下一米八トシ前面東

南護岸ハ水深三米トシ孰レモ基礎ハ土丹岩迄切下ゲ其安全ヲ期セリ附屬設備トシテ船渠ノ周圍ニ三噸鈞アーム九十呎ヲ有スル「ガイデリック、クレイン」三基竝アーム五十五呎ヲ有スルモノ一基ヲ据ヘ船渠内ノ必要部ノ總テノ點ニ型枠材料其他ヲ到達セシムルヲ得ルモノトス又高百三十五呎ランザム會社製混凝土捲揚塔及「シユート」ヲ設ケ下部地下室ニハ二十一立呎練「レツクス混合機」ヲ据付ケ船渠工事用ニ利用スルト共ニ將來ノ「ケーソン」工事用ノ混凝土ヲ一日百二十立米練出スルコトヲ得ベシ本船渠ハ大正十二年度ニ著手締切工ヲ了シ掘鑿工事ニ從事中同年九月一日ノ震災ニ遭遇シ全部埋沒セシモ横濱港復舊工事ニ全カヲ注グ爲メ一時工事ヲ中止シ更ニ同十四年四月起工セルモノナリ浚渫工事ハ同年四月二日ヨリ著手セルモノニシテ締切工事ヲ施工スルニ先立チ唧筒船龍王ヲシテ沈澱土砂ヲ浚渫セシメ尙「ブリストマン」ヲ以テ一部ノ浚渫ヲ爲セリ其本年度出來高歩合ハ三分トス締切工事ハ沈澱土砂ヲ大略浚渫セル後同年四月十一日ヨリ工事ニ著手ス總延長百十六米ニシテ矢板ヲ二列ニ打込（幅三米）天端高ヲ平均干潮面上二米五トシテ内部ニハ浚渫粘土ヲ填充シ水密ヲ期シ尙波浪ノ浸入ヲ防グ爲メ方塊（長六呎×四呎五吋×四呎五吋）ヲ以テ上置キヲ爲シ矢板根固メトシテ兩外側ニ方塊破片及土丹ヲ用ヒタリ而シテ使用矢板ハ總延長ノ内六十米ハ英國ブリテイシユ、ステールパイピング會社製造ノ鐵製矢板長二十七呎、幅十二吋ヲ用ヒ十米ハ木製長二十五呎、幅八寸、厚三寸ノモノヲ用ヒ殘部ノ四十六米ハ大正十二年度ニ施行セル部分ヲ修理シ使用セリ本工事ハ同十四年七月十五日竣功セリ

掘鑿工事ハ締切竝排水後（二十馬力電動機直結八吋渦卷唧筒ヲ使用）直ニ著手シ土丹岩ハ「カトリック」火藥ヲ使用シテ爆破シ土砂ト共ニ人力掘鑿ヲ爲ス主トシテ「ドコーピル」ヲ使用シ二條ノ斜路ヲ設ケ二十

馬力電動捲揚機二臺ニ依テ鐵製五勺積土運車ヲ操縱セシメ一日二百乃至五百立米ヲ掘鑿セリ此總十量ハ四萬九十五立米ニシテ内土丹岩ハ二萬二千七十四立米、土砂ハ一萬八千二十一立米ナリ而シテ一立米當工費土丹岩ハ約一圓七十五錢、土砂ハ約一圓二十一錢ヲ要セリ

造函船渠ノ混凝土工事ハ同年三月三十一日工事ニ著手ス本船渠築造箇所ノ土質ノ朔望平均干潮面下二米乃至一米以下ハ土丹層ナルガ爲メ掘鑿工事ノ干潮面下三米ニ達スルヤ下部ノ進行ヲ待タズシテ直ニ上部混凝土ノ型枠ヲ組立テ工事ノ進捗ヲ圖レリ壁ノ接手ハ約十五米間隔ニ伸縮接手ヲ設ケ又、ガイデリック、クレインノ基礎附近ハ特ニ龜裂ヲ豫防スル爲メ接手ヲ設ケ各接手ニハ「 \square 」型ノ銅板又ハ亞鉛板(幅一呎、厚十六分ノ一吋)ヲ挿入シ以テ密水ヲ期セシメ尙地震等ニ際シ安定ヲ期スル爲メ裏側ニ徑一吋四分ノ一ノ丸鐵及アンカー混凝土ヲ施シ丸鐵ニハ防腐ノ目的ニテ「ピタスセメント」ヲ塗抹セリ朔望平均干潮面下三米以下ハ土丹層ナレドモ滲透水多量ニ在リシヲ以テ五米間隔ニ幅零米二、深零米二ノ大サニ土丹ノ法面ヲ穿チ之ニ徑八分以下ノ砂利ヲ填充シ船渠床周圍ノ排水溝ニ向ツテ之レヲ導キ尙縱溝ノ中間ハ勾配ヲ付シタル横溝ヲ以テ連絡セシメタリ側壁ハ朔望平均干潮面下二米以下勾配三分五厘、厚零米一五トシ約一米間隔ニ土丹層ニ向ツテ深サ五呎、徑一吋ノ穴ヲ穿チ(空氣壓搾機及ドリルヲ使用セリ)之ニ「モルタル」ヲ注入シ長五呎、徑二分ノ一吋鐵筋ノ先端ヲ二ツ折ト爲シ植込ミ川崎製「クリンプ」ヲ張り尙土丹ト混凝土トノ附著ヲ良好ナラシムル爲メ豫メ土丹面ニ「モルタル」放射ヲ施セリ伸縮接手ハ約十五米ヲ隔テ幅ハ一吋トシ之ニ「アスファルト」ヲ注入セリ而シテ本年度ノ出來高歩合ハ九分五厘トス

理立工事ハ同年十二月二十五日著手シ同十五年三月十三日竣功セルモノニシテ前述ノ如ク掘鑿工事

ノ竣功セザル内ニ上部混凝土(側壁)ヲ築造セルヲ以テ下層掘鑿土ヲ直チニ埋立工ニ利用シ以テ經濟ヲ圖ルコトトセリ

船渠裏詰ハ同十四年十月四日ニ著手シ特ニ密水ヲ要スルヲ以テ土丹岩ト粘土トヲ交互ニ入レ蛸搗ヲ爲シ粘土ヲ以テ完全ニ土丹ノ目詰ト爲シ密水ニシテ且支持力大ナル裏詰ト爲セリ而シテ土丹ハ下層掘鑿土ヲ利用シ粘土ハ震災前ニ船渠南側ニ埋立セルモノヲ使用セリ尙船渠周圍ノ裏詰ノ外廻リニハ口徑八寸ノ土管ヲ五百分ノ一勾配ニ伏設シ之ガ周圍ニ砂利ヲ卷キ以テ側壁裏面ニ集ル漏水ヲ排除シ壓力ヲ減ズル様施行セリ而シテ本年度出來高歩合ハ九分トス

扉船ハ同年十月九日請負入札ニ附シ浦賀船渠株式會社ニ製作セシメタルモノニシテ該工場ニ於テ總テノ部分ノ製作ヲ了シ之ヲ山内町迄運搬シ同十五年三月一日ヨリ本船渠ノ完成セル箇所ニテ組立ニ著手シ約五分通りノ進捗ヲ見タリ

唧筒室ハ平家建十八坪、高七尺六寸五分ニシテ同十五年三月二十八日著手ス外側ハ全部川崎製鐵網ヲ用ヒ「モルタル」張トシ家根ハ淺野スレート張リトス鋼結構ハ唧筒地下室内ノ各機械器具等ノ重量大ナルモノヲ揚卸シノ際使用スルノ裝置トス本年度ハ準備ノミニシテ出來高ヲ示スニ足ラズ

(ホ)

扶壁體製作設備ハ良好ナル地盤ニ設ケラルル擁壁ノ耐震安定ニ關スル研究ノ結果I型擁壁ノ最モ安定ナルヲ知レルヲ以テ岸壁用「ケイソン」モI型ニ近キ型式ニ變更シ物揚場及護岸用ニハII型壁體ヲ陸上海岸ニテ製作シ起重機船ヲ以テ運搬シ現場ニ据付ケヲ爲ス事トセリ然ルニ起重機船ハ最大能力五十噸ヲ有スルヲ以テ一個四十六噸ヲ有スル扶壁體ヲ製作スルコトトシテ之ガ製作設備ヲ施行セリ而シテ一箇月平均十六個ヲ製作スル目的ヲ以テ扶壁體臺十三基竝鋼製型枠四組ヲ設ケ之ガ混凝土工ヲ

爲ス爲メ高百二十尺、混凝土塔竝ランザム社製、シユートヲ備ヘ十四立方尺練ランザム混合機ヲ据付ケタリ尙型枠組立取外シ用トシテ十噸、ロコモチブクレインヲ製作臺ニ平行シテ移動セシムル事トス扶壁體臺ハ長六米、幅五米ニシテ杭打基礎上ニ混凝土ヲ施シ盤木ヲ置キ敷板ヲ張り厚五厘ノ鐵板ヲ被覆シ起重機船ニテ釣上グル場合ノ粘著力ヲ輕減セリ本工事ハ同十四年四月二十一日ニ著手シ同十五年三月三十一日竣功セリ

(ヘ) 動力設備ハ汽罐車及、ロコモチブクレインノ外總テ電力ヲ使用スルコトトシ變電所ヲ設ケ三十キロワット變壓器三臺及五キロワット變壓器一臺ヲ以テ混凝土混合機運轉、混凝土捲揚、掘鑿土砂捲揚、ガイドリツク、クレーン運轉、排水、空氣壓搾、電燈等ニ使用シ勞力ヲ節約シ工費ノ經濟ニカム

(ト) 假護岸工事ハ震災ニ依リ崩壞セル埋立地ノ護岸ヲ修理シ工場トシテ舢舨、起重機船等ヲ自由ニ繫船セシムルヲ得セシムルモノニシテ本工事ハ大正十四年十二月十日之ヲ竣功セリ

五 船舶及機械修理製作

本年度ニ於ケル工事ハ船舶及機械ノ修理、製作及復舊工事竝修築工事用工業材料ノ製作トス然シテ船舶機械ノ修理製作ハ主トシテ直營ヲ以テ施行シタルモ工事ノ都合上其一部ヲ請負ニ附シタリ左ニ本年度功程額内譯ヲ掲ゲ

種 別	船舶機械購入	生産材料	備入料	請負費	借料	合計
船舶機械購入製作及据付修理	七二、九二九 円	一五、二五三 円	一一、八九八 円	五二、五二二 円	一一、九三八 円	九九、〇八〇 円
借料		一一九、四四三 円	九三、六六九 円			二六五、六一四 円
						一一二、九三八 円

本港ニ於ケル工事ハ其工程ノ約二割八分ノ竣功ヲ見タリ左ニ本年度ノ竣功額及數量ヲ示ス

種別	船舶機械購入	生産材料	備入料	請負費	借料	合計
盜難ニ依ル控除額	円	二三四	円	円	円	円
總計	七二、九二九	一三四、七一九	一〇五、五六七	五二、五二二	一二、五二二	三七七、六六五

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及護岸費	粒	二、〇八五	粒	九二、一三八	粒	九四、二二三	〇・〇二
埋立費	二一四、七七七	四三、〇一四	三三五、四九一	三六、〇六七	五五〇、二六八	七九、〇八一	〇・一三
浚渫費	一、一九、六一三	三六七、八九三	六七五、四〇三	一五八、六六〇	一、七九五、〇一六	五二六、五五三	〇・四〇
防波堤費	七個	一八三、六二八	四、三七五	四、三七五	七個	四、三七五	〇・〇一
繫船浮標費		一、七三五、四七〇		一七四、三四八		一、九〇九、八一八	〇・四五
船舶及機械費		三三四、六五〇		四三四、四六四		七六九、一一四	〇・七六
施行中諸費		二、一八二		七、五四四		九、七二六	〇・六〇
共濟組合給與金							
總計		二、六六八、九二二		九〇七、五九六		三、五七六、五一八	〇・二八

第六 門司港修築工事

(下關土木出張所)

緒言

本工事ハ總豫算五百二十五萬圓(内門司市負擔八十七萬五千圓)ヲ以テ大正八年度ヨリ同十五年度ニ至ル八箇年度ノ繼續事業トシテ施行ノ計畫ナリシモ大正十二年度ニ至リ豫算ノ關係上竣功期ヲ同十七年度迄繰延べ同十四年度ニ於テ更ニ工期一箇年度ヲ延長シ竣功期限ヲ同十八年度トスルコトナレリ

港狀並計畫ノ大要

門司港ハ夙ニ世界交通ノ要衝ニ當リ船舶出入ノ頻繁ナルコト實ニ本邦諸港ノ首位ヲ占ム之ヲ以テ同港ノ貿易ハ年々堅實ニ發達シ加フルニ關門海峽整理工事ノ進捗ト北九州工業ノ勃興トハ益本港ノ眞價ヲ發揮セシムルニ至リタリト雖モ繫船及荷役ノ設備ニ至テハ何等見ルベキモノ無ク貨物ノ殆ント全部ハ沖荷役ニ依リ處分セララルル狀況ナルヲ以テ海陸聯絡ノ設備ヲ完成スルハ寔ニ焦眉ノ急ニ屬ス是本工事ノ因テ起リシ所以ナリ今計畫ノ大要ヲ記スレバ左ノ如シ

白木崎ヨリ北東ニ向ヒ幅五十間延長七百二十間ヲ平均最大干潮面上十三尺五寸ニ埋築シ其前面ニハ水深三十三尺ノ繫船壁ヲ築造シ以テ外國貿易用ニ充ツ

現在第一船溜ノ陸舌ヲ撤去シ之ニ代フルニ沖合五十間ノ箇所ニ岸壁兼用ノ防波堤ヲ築キ其外側ニ水深二十四尺ノ岸壁ヲ設ケ中國通定期船二隻若クハ三千噸級船一隻ノ繫留ニ便シ内側ハ水深十二尺ト爲シ

大型船ノ使用ニ供シ船溜内ハ其一部ヲ埋立テ物揚場トシ既成税關埋立地ト共ニ鐵道ノ聯絡ヲ圖ラムトス其他護岸ノ水深ハ八尺トス

前記防波堤ト外國貿易用埋立地トノ間ニ介在スル延長百七十五間ヲ以テ鐵道省關門聯絡船及公私汽艇用ノ繫留棧橋設置箇所ニ充テ尙其沿岸幅十間ヲ埋築シ之ヲ道路敷ニ充ツ而シテ護岸ハ總テ水深八尺ヲ保タシム

白木崎以南外國貿易用埋立地ニ接シテ現在海岸ニ竝行シ沖合幅五十間、長四百六十間ヲ埋立テ在來ノ貯炭場ヲ此處ニ移轉シ其前面ニ水深十二尺ノ岸壁ヲ築キ石炭ノ荷役ニ供セムトス
前記新貯炭場西南端鐵道省埋立豫定地ノ前面ニ方リ十二尺岸壁見透シ延長線内ニ長三百七十間ノ防波堤ヲ築造シ以テ船溜ノ碇泊ニ便ナラシメムトス

施工狀況

前年度迄ニ第一號岸壁(石炭取扱所)ハ其内部埋立ト共ニ殆ムト完了セルヲ以テ本年度ニ於テハ專ラ第二號岸壁(外國貿易部)ノ築造及同所内部ノ埋立ヲ施行セリ其概況左ノ如シ
函製作工事ハ岩壁用ノ鐵筋混凝土函ヲ製作スル工事ニシテ本年度ニ於テハ三十三尺岸壁用函ノミヲ製作セリ其數十二個ニシテ起工以來ノ累計ハ五十三個ニ達シ本岸壁用函ノ約八割ヲ完成セリ
第一號岸壁工事ハ石炭取扱區域ニ於ケル延長百六十間、水深十二尺ノ岸壁築造工事ニシテ前年度迄ニ殆ント竣功シ本年度ニ於テハ上部笠石ノ殘部分ヲ施工セシノミニテ假船入場出入口約二十間ヲ殘スノミトナレリ本年度末ニ於ケル竣功歩合ハ九割五分ナリ

第二號岸壁工事ハ外國貿易部ニ於ケル延長七百二十間、水深三十三尺ノ岸壁築造工事ニシテ前年度迄ニ岸壁ノ主體タル混凝土函三十九個、延長約四百十間ノ据付ヲ了リ本年度ニ於テハ基礎床掘ヲ竣成セシメ混凝土函十二個、延長百二十六間ヲ据付タル外頂部混凝土其他上部諸工事ヲ施行セリ本年度末ニ於ケル竣功歩合約七割ニ達ス

埋立工事ハ各岸壁内部ノ埋立ヲ施工スルモノニシテ前年度迄ニ石炭取扱區域ハ假船入場ヲ除クノ外全部外國貿易部ハ東端約百間ヲ竣成シ西端約百四十間ヲ殆ンド竣成セシメタルガ本年度ニ於テハ專ラ外國貿易部西端既成埋立地ニ接續シテ中央部ニ向ヒ施工セリ其土量一萬二千六百二十餘立坪ニシテ起工以來ノ累計ハ約十五萬七千八百四十立坪ヲ算シ約四割三分ノ竣功ニ當レリ

其他工事に用諸機械ノ運轉、雜石、砂利、砂ノ直營採取及採石場護岸修繕等ノ雜工事ヲ施行セリ
 本年度竣功高ハ三十二萬一千三百十圓(事務費及現在物品代價ヲ除ク)ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ三百五十七萬九千五十四圓(同上)ヲ算シ工費總豫算四百九十三萬五千三百二十圓ニ對シ約七割三分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「△」ハ評價品見積價額ニシテ岸壁及防波堤竣功金額中ニハ函工場設備費、型枠費及雜石、砂利、砂ノ採取費並工事に用諸機械運轉費等ヲ含ミ竣功數量ハ完成高ト部分竣功高ニ竣功歩合ヲ乘ジタル高トノ和ヲ計上ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
函製作	四二個	六五八・五	一・九個	七・五	五三・〇個	七三〇・〇	〇七七
床掘	四二個	六五八・五	一・九個	七・五	五三・〇個	七三〇・〇	一〇〇〇

種別		前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	
拾石	地	四五・二四		一五四・五		六〇七・九		〇・八三
	函据付	四〇〇・五		一四三・四		五四三・九		〇・七五
拾石	地	三九・〇		一一・〇		五一・〇		〇・七四
	函据付	三三・七〇		一一・七五		四九四・五		〇・六八
函内土砂填充	函内土砂填充	二六二・五				二六二・五		〇・三六
	函顶部混凝土	三五五・三		六三・〇		四一八・三		〇・五七
裏込	裏込	三三一・五		六・〇		三三七・五		〇・四六
	階	一・〇				一・〇		一・〇〇
笠	笠	一〇七・三		一三〇・二		二三七・五		〇・三三
	防舷	九・〇				九・〇		〇・一三
繫船柱	繫船柱	八・〇		一・〇		一八・〇		〇・三二
	梯	一・六				一・六		〇・八〇
函塊製作	函塊製作	八六・〇				八六・〇		〇・八四
	方塊製作	一〇二・〇				一〇二・〇		〇・八四
床掘	床掘	四六〇・〇				四六〇・〇		〇・八八
	捨石	四四〇・〇				四四〇・〇		〇・八四
地据付	地据付	四四〇・〇				四四〇・〇		〇・八四
	函据付	八六・〇				八六・〇		〇・八四
方塊据付	方塊据付	一〇二・〇				一〇二・〇		〇・八四
	函内混凝土填充	四三〇・〇				四三〇・〇		〇・八三
函内土砂填充	函内土砂填充	四二五・〇				四二五・〇		〇・八三
	費		二、二九、九一八・五		二、四七、〇七九・四		二、三七六、二六四・九	

岸	壁	階	筓	梯	I型塊据付	方塊据付	床掘	尺捨	地形	I型塊据付	方塊据付	裏	笠	防波堤(捨石)	埋立費	浚渫費(浚渫)	船舶及機械費	營繕費	施行中諸費	共濟組合給與金	臨時手當	
函頂部混凝土	裏	階	筓	梯	I型塊据付	方塊据付	床掘	尺捨	地形	I型塊据付	方塊据付	裏	笠	防波堤(捨石)	埋立費	浚渫費(浚渫)	船舶及機械費	營繕費	施行中諸費	共濟組合給與金	臨時手當	
四二五・六	四二八・〇	一・〇	三八七・五	〇・八	六六・〇	七二・〇	六一・二	五一・〇	五一・〇	六六・〇	七二・〇	五一・〇	四二・一	五四・三	一四五・二 一五〇・〇 一五〇・〇	三九五・〇	七四一・一 一一五・三 一一五・二 五〇・二	一六二・三 六〇・八 五・二	一六二・三 六〇・八 五・二	一六二・三 六〇・八 五・二	一六二・三 六〇・八 五・二	一六二・三 六〇・八 五・二
〇・八一	〇・八二	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八	〇・七八

第四章 港灣改良工事 (門司港修築工事)

種 別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合 計		步竣 合功
	數 量	金 額	數 量	金 額	數 量	金 額	
總 計	—	△ 三二五八、二〇四 三四、七一三 円	—	△ 三二一、三二〇 二、五三五 円	—	△ 三五七九、五一四 三七、二四八 円	〇七三 期分

第七 長崎港修築工事

(下關土木出張所)

緒言

本工事ハ長崎市ノ事業ヲ内務大臣ニ於テ直接施行スルモノニシテ當初ハ總工費百五十萬圓内七十五萬圓ハ國庫ノ補助ニ屬シ大正九年度ヨリ同十一年度ニ至ル三箇年度ノ繼續事業ナリシガ同十一年度ニ於テ元船町地先岸壁及埋立費九十萬圓ヲ追加シ工期ヲ二箇年度延長シテ同十三年度迄トシ更ニ同十二年度ニ於テ港口大會根ノ除礁費九萬圓ヲ追加シ内六萬圓ハ國庫ヨリ補助スルコトトナレリ次テ本年度ニ於テ事業線延ノ爲メ工期二箇年度ヲ延長シ現在ニ於ケル總工費豫算ヲ二百四十九萬圓トシ竣功年度ハ同十五年度ナリトス而シテ同十五年度ニ於テ元船町岸壁及埋立費九十萬圓ノ半額四十五萬圓ハ國庫ヨリ補助スルコトトナレリ

港狀並計畫ノ大要

本港ハ九州ノ西岸ニ位シ地形深ク東北方ニ彎入シ四時風浪穩ニシテ我國ニ於ケル天然無比ノ良港ナリト雖モ内外通商貿易ノ發達ハ次第ニ出入船舶ノ増加ト共ニ船型ノ増大ヲ來シ到底天然ノ形勝ノミニニ委スベカラザルニ至リ明治三十年度ヨリ同三十七年度ニ互リ國費ノ補助ヲ得テ港内ヲ浚渫スルト同時ニ沿岸ヲ理築整理シ港灣トシテ稍其面目ヲ一新セリト雖モ水陸聯絡ノ設備ニ至テハ殆ンド之ヲ缺キ泊地亦狹小ニシテ輓近商工業ノ急激ナル發展ノ爲メ出入貨物増加シ殊ニ歐洲大戰ノ結果支那南洋方面トノ

航通漸次頻繁ヲ加フルニ至リ到底從來ノ設備ヲ以テ甘ンズベカラザルニ至レリ是本計畫ノ因テ起リシ所以ニシテ今計畫ノ大要ヲ記セバ左ノ如シ

出島沿岸長二百三十間、幅平均二十五間ヲ干潮面上十四尺ニ埋立テ其前面ニ水深三十尺ノ岸壁ヲ築造シ八千噸級汽船二隻又ハ五千噸級汽船三隻ノ接岸ニ便セシメ兩側面ニハ二十九間二分宛ノ斜面積揚場ヲ設クルモノトス

元船町沿岸長三百間、幅平均二十七間ヲ干潮面上十四尺ニ埋立テ其前面ニ水深九尺及六尺ノ岸壁ヲ築造シ小型汽艇及帆船ノ接岸荷役ニ便セシム

港内第一區内ニ於テ面積約十萬坪ヲ水深三十尺ニ浚渫シ同水深以上ノ水面積三十萬坪ヲ約四十萬坪ニ擴大セントス

港内第三區内ニ存在スル大曾根岩礁ヲ水深三十六尺ニ碎岩浚渫シ航行船舶ノ出入ヲ安全ナラシム埋立地上ニ施行スベキ鐵道其他ノ諸設備ハ凡テ後日ノ經營ニ俟ツモノトス

施工狀況

出島岸壁及埋立工事竝大曾根除礁工事ハ前年度中竣功ヲ告ゲタルヲ以テ本年度内ニ於テ施行シタル工事ハ元船町岸壁及埋立浚渫工事等ニシテ其施工狀況左ノ如シ

元船町岸壁工事ハ九尺岸壁、六尺岸壁、三尺岸壁及護岸ノ四區部ニ分チ之ヲ施行スルモノニシテ九尺岸壁用函ノ製作ハ前年度迄ニ完成シ本年度ニ於テハ九尺岸壁及六尺岸壁ノ各二種ニ互リテ施行シ年度末ニ於ケル九尺岸壁竣功間數ヲ床掘、基礎、捨砂、捨石、地形均、函据付、函内填充礫及混凝土ハ各二百十四間、裏込ニ

百間、基礎沈定二百二間、石垣百二十八間、張石四十二間ニシテ九尺岸壁ノ全計畫ニ對シ約九割五分ノ竣功高トナリ六尺岸壁ハ床掘基礎捨砂各七十七間ヲ竣成シ其他捨石地形均、基礎沈定方塊積、石垣等ノ竣功ヲ併セ竣功高約三割四分トナレリ。

浚渫工事ハ前年度ニ引續キ鋤鏈式浚渫船玉浪丸及附屬曳船並土運船ヲ使用セシモ浚渫區域内ニ硬土盤ヲ發見シタルヲ以テ十二月ヨリ搔揚式浚渫船錦江號ヲ使用シ硬土盤ノ浚渫ヲ施行セリ而シテ兩船ヲ併セテ年度内ノ浚渫三萬一千六百九十七坪ニ達シ、累計七萬二千二百二十九坪一合、全量ニ對シ約八割四分ノ竣功ヲ示セリ。

埋立工事ハ前年度中ニ出島埋立ヲ完成シ本年度ハ元船町第一區埋立ノ爲メ自走唧筒船木曾川丸ヲ使用スルノ外唧筒船彦島號ヲ下關ヨリ回航シ自五月至八月ノ四箇月間吸揚作業ニ就事セシガ七月末岸壁ノ一部移動スルニ及ビ一旦作業ヲ中止シ彦島號ヲ下關へ返還シ更ニ二月ヨリ木曾川丸ヲ以テ土砂採取及吸揚ニ就業セシメ尙第一ブリストマン浚渫船ノ補助等ニ依リ年度内ノ埋立土坪一萬七千九百五十三坪五合、累計二萬二千七百二十八坪七合ニシテ全量ニ對シ四割三分ノ竣功ナリ。

第一區埋立作業中七月二十五日午後第一區岸壁ハ約六十間弓形ニ摺動セリ依テ種々調査ノ結果之レガ主ナル原因ハ海底地盤ノ豫想以上ニ軟弱ナルト又之ガ誘因ハ埋立地面積ニ比シ唧筒船能力ノ過大ナリシコトヲ確メ得タレバ直ニ復舊及岸壁補強工事ニ著手シ岸壁復舊後引續キ埋立工事ヲ施行セリ。

其他工事用方塊製作、砂利、砂、雜石等ノ採取、小管工場復舊等ノ雜工事ヲ施行セリ。

本年度内竣功高ハ二十三萬一千七百四十六圓(事務費及現在物品代價ヲ除ク)ニシテ起工以來本年度迄ノ累計二百萬二千六十九圓(同上)ヲ算シ工費總豫算二百三十二萬七千二百圓ニ對シ八割六分ノ竣功ナリ其

工事竣功表ハ左ノ如シ表中「△」ハ評價品見積價額ニシテ岸壁及護岸竣功金額中ニハ函工場設備費型枠費、出島工場設備費、基礎試驗工事費及雜石、砂利、砂等ノ採取費ヲ含ム又竣功數量ハ完成高ト部分竣功高ニ竣功歩合ヲ乘ジタル高トノ和ヲ計上ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合		計	竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
兩製	三五間				三五間		一〇〇	劃分
床掘	二二四間				二二四間		一〇〇	
基礎捨砂	二二四〇				二二四〇		一〇〇	
同補充捨砂					二二四〇		一〇〇	
同捨石			一七七〇		一七七〇		〇・八三	
同捨石			三〇五		三〇五		一〇〇	
捨石均付	一八三・五		三〇五		二一四・〇		一〇〇	
地据	一九〇・〇		二四〇		二一四・〇		一〇〇	
函基礎沈定	一七〇・一		三一・九		二〇二・〇		〇・九四	
函内填充混凝土	一七九・六		三四・四		二一四・〇		一〇〇	
函内填充礫	一七九・六		三四・四		二一四・〇		一〇〇	
裏込石	一五〇・〇		五〇・〇		二〇〇・〇		〇・九三	
張石	二〇〇		二二・〇		四二・〇		〇・七二	
石垣	八八・〇		四〇・〇		一二八・〇		〇・七二	
繫船柱			五		五		〇・四五	
元船九尺岸壁修理							一〇〇	
方塊製作	二〇五間	九一八、四六三・五七門	一二間	六四、七九九・六六門	二一七間	九八三、〇六六・一門	〇・九三	

總計	岸費														
	同床掘	同補捨砂	同捨石	六尺地均	岸方塊積	壁基礎沈定	裏込石垣	出島三十尺岸壁	出島埋立	埋立元船埋立	浚深除主砂浚深	船舶及機械費	營繕費	施行中諸費	共濟組合給與金
	七七〇	七七〇		五・五	五・五	二・〇	五・五	二・二	二・八	二・八	二・二	二・二	二・二	二・二	二・二
	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	六〇〇	六〇〇	六〇〇	三・四・五	二九・五	一七・二	八・五	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三	三・三
	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	七・七〇	七・七〇	七・七〇	四〇・〇	三五・〇	一九・〇	一四・〇	五・五	二・八	二・八	二・二	二・二	二・二	二・二	二・二
	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	〇・九四	〇・九四	〇・七三	〇・四九	〇・四三	〇・二三	〇・一七	〇・〇七	〇・〇五	〇・〇五	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四	〇・〇四

第八 清水港修築工事

（横濱土木出張所）

緒言

本港ハ近時港勢ノ發展顯著ナルニモ拘ラズ其設備頗ル不完全ニシテ貨物取扱上ノ不利不便尠カラズ之レガ改修ハ急務ニ屬ス茲ヲ以テ静岡縣ハ本港修築ノ計畫ヲ樹テ大正十年度以降同十五年度ニ至ル六箇年度繼續事業トシテ總工費五百五十萬圓ヲ計上シ其二分ノ一ヲ國庫補助トシ同時ニ明治三十年法律第三十七條ニ依リ國ニ於テ事業直接施行ノ義ヲ申請シ來リタルヲ以テ是ガ豫算ヲ第四十四帝國議會ニ提出シ其協賛ヲ得タリ

亞テ大正十一年静岡縣ハ追加工事トシテ清水港内三保村地先ノ海面十五萬四千六百餘坪ニ係ル埋立費六十七萬七千圓ノ縣費支辨ヲ以テ施行ノ義ヲ申請シ來リ是亦第四十五議會ノ協賛ヲ得テ施行スルコトトナレリ尙大正十三年度鐵道省ハ省用炭陸揚設備ノ不備ナル所以ヲ以テ縣ト協議ノ上巴川河口以南ノ埋立地一萬七百九十坪ヲ讓リ受ケ其前面ニ繫船岸ヲ築造シ尙其前面二萬面坪ヲ浚渫スルノ計畫ヲ樹テ此施行方ヲ内務省ニ委託セリ工費四十八萬二千二百圓ナリ

是等清水港修築工事ハ大正十五年度ヲ以テ竣功ノ豫定ナリシガ偶政府ノ財政緊縮ニ方リ同十七年度迄即チ二箇年度ノ延期トナリタリ

港灣狀況

清水港ノ沿革ヲ記述スレバ本港ハ本邦東海岸駿河灣内ニ在リテ太平洋航路ノ樞要地ニ方リ横濱、神戸兩港ノ間ニ介在シ東海道鐵道ニ沿ヒ能ク海陸ノ連絡ヲ保ツコトヲ得ベク其地形トシテハ三保半島ニ圍繞セラレ港内廣濶波浪常ニ平穩ニシテ水深ク海底ノ地質ハ泥砂ニシテ船舶ノ錨定極メテ安全ナル天然ノ良港ナリ

本港ハ元和元年徳川家豊臣氏ト兵ヲ交ユルニ及ビ艦船ヲ本港ヨリ大坂ニ廻航シ兵器食料ヲ送レルヤ當時町民最モ輸送ニ勗ム功ニ因リ徳川氏保護政策ノ恩惠ヲ享ケ夙ニ海運ノ隆盛ヲ來シ爾來沿岸貿易港トシテハ有數ノ港灣ナリシガ明治二十九年ニ至リ開港外外國貿易港ニ關スル規定發布セララルヤ港ノ有志者機ヲ失フベカラズト爲シ蹶起相協力シテ縣會ト共ニ政府ニ建議スル所アリ遂ニ其望ヲ達シ明治三十年六月開港外外國貿易港ニ指定セララルニ至リ踰エテ同三十二年八月更ニ開港場ニ指定セラレタリ既往ニ於ケル清水港修築工事ヲ視ルニ本港ニ於ケル從來ノ設備トシテ見ルベキモノ無シト雖モ明治十一年中ノ築造ニ係ル清水波止場在リ舊問屋即チ當時ノ回漕業者ノ發意ニ基キ完成セルモノナリ其後同四十三年度ヨリ大正二年度ニ至ル四箇年度間ニ亘リ工費總額三十萬七千八百六十二圓ヲ以テ縣ニ於テ修築工事ヲ實施セリ其大要ヲ擧グレバ清水波止場ノ西北ニ當リ海岸ニ沿ヒ水面約一萬八千五百坪ノ船入場ヲ設ケ水深千潮面下七尺ニ浚渫シ延長三百四十八間ノ物揚場ヲ築造シ又從來ノ江尻船入場ニモ延長百三十間ヲ埋設シ水深七尺トシ清水船入場ヨリ江尻船入場ニ至ル海岸ニ沿ヒ總面積五萬一千六十一坪ノ埋立ヲ施行セリ

今港勢ヲ概説スルニ明治四十二年ヨリ大正十四年ニ至ル間ノ輸出入貨物統計表ノ噸量ヲ調査スレバ左表ノ如シ

年次	外國貿易	内國貿易	合計
明治四十二年	四八、八四〇 <small>噸</small>	二六四、二五四 <small>噸</small>	三一三、〇九四 <small>噸</small>
同四十四年	五六、六五九	二六八、三〇九	三二四、九六八
同四十四年	六五、五二六	二九七、二二二	三六二、七三八
大正元年	六二、〇三五	二六一、〇二九	三三三、〇六四
同二年	五七、五一二	三二〇、六〇六	三六八、一一八
同三年	七七、五九九	二八四、一五一	三六一、七五〇
同四年	六二、三一四	二九三、八四九	三五六、一六三
同五年	九五、一五一	三一一、一五六	四〇六、三〇七
同六年	一一四、九三六	三五二、〇八八	四六七、〇二四
同七年	一一一、二七六	三七四、六六三	四八五、九三九
同八年	九二、二二三	五四九、〇五三	六四一、二七六
同九年	七九、一三〇	八五一、二六二	九三〇、三九二
同十年	一三一、二一四	四五七、二五五	五八八、四六九
同十一年	一五二、四六九	四六八、一六三	六二〇、六三二
同十二年	二〇〇、七七五	六六〇、〇一五	八六〇、七九〇
同十三年	二二九、六八七	八七二、二六三	一一〇一、九五〇
同十四年	四三四、五三五	八六八、四一〇	一二〇二、九四五

右ノ如ク本港ノ内外貿易ハ年ヲ逐フテ發展シ集散貨物ノ増加ニ伴ヒ船舶ノ出入亦漸次増加セリ今船舶ノ出入港ヲ調査スレバ

年 度	入 港		出 港		合 計	
	隻 數	噸 數	隻 數	噸 數	隻 數	噸 數
大 正 六 年	八三	二三五、二九八	七三	二二三、九八四	一五六	四五九、二八二
同 七 年	八四	二二四、九七三	六七	二一八、二九九	一五一	四四三、二七二
同 八 年	一二九	三六四、四一二	一一九	三四九、五一五	二四八	七一三、九二七
同 九 年	一二三	四二〇、一六六	一一〇	四〇四、〇七八	二三三	八二四、二四四
同 十 一 年	一五〇	五七八、二一九	一三七	五六三、七五三	二八七	一、一四一、九七二
同 十 二 年	一八五	八四一、六八八	一七〇	七六四、二九九	三五五	一、六〇五、九八七
同 十 三 年	一七七	八九四、九八〇	一六四	八五八、六五九	三四一	一、七五三、六三九
同 十 四 年	一九一	九三四、四六五	一九〇	八九〇、七七九	三八一	一、八一四、二四四
同 十 五 年	二一六	九六八、〇一六	二一〇	九五七、二六八	四二六	一、九二五、二八四

又縣下ノ産業狀況ヲ視ルニ富士、駿東地方ノ製紙、紡績、静岡市ノ製茶、濱松市ノ木綿織物ヲ主トシ縣下各地方ノ工業製産額大正十一年ニハ一億八千四百萬圓ヲ算セリ而シテ本港ハ漁業港トシ又木材港トシテ共ニ本邦屈指ト稱セラレ(大正十四年度木材輸入百八十萬餘石)且近時豊富ナル縣下發電力ノ計畫ハ五十餘馬力ニ達シ本港附近各種工業ノ勃興ヲ促スノ傾向ヲ有シ加フルニ近ク富士身延ノ中央線連絡ハ甲信二州ノ物資ヲ本港ニ吸收スルニ至ルベク本港ノ將來益々發展スルノ機運ヲ示シ來レリ翻ツテ本港ニ於ケル設備ヲ視ルニ清水船渠及舊船渠ノ物揚場延長四百九十三間ニ達スト雖モ其設備不完全ニシテ充分ノ利用ヲ爲スコト能ハズ而シテ本港ニ入港スル外國汽船ハ主ニ米國航路ノ大汽船ニシテ滯船期間ノ短縮ハ切實ニ其必要ヲ感ズルニ拘ラズ常ニ遠キ沖合ニ碇泊シ到底荷役ノ敏活ヲ期スル能ハズ貨物取扱上常ニ不利、不便ナルコト甚大ナリ其他ノ入港船舶ニ於テモ同様ノ狀態ニ在ルヲ以テ今日ノ儘ニテハ近時

内外貿易發展ノ趨勢ニ順應スル能ハズ茲ニ本修築ノ成立ヲ見ルニ至レリ

修築計畫ノ大要

清水波止場ト巴川トノ間其延長三百四十間ノ沿岸ヲ幅六十間ニ埋立テ港灣設備地ニ供ス其前面ニハ岸壁朔望平均干潮面下水深三十五尺ノモノ百十間同二十八尺ノモノ百間同二十四尺ノモノ三十間ヲ築造シ其前面ヲ水深三十尺二十八尺二十四尺ニ浚渫シ二萬噸級ノ汽船一隻八千噸級ノ汽船一隻三千噸級ノ汽船二隻ノ同時接岸荷役ニ便セントス

巴川以南ノ沿岸其延長五百七十間（巴川倚リ二百間ハ物揚場三百七十間ハ護岸）幅平均百四十間ヲ埋立テ港灣設備地及工業用地ニ供セントス

三保村地先ノ海面十五萬四千六百坪ヲ埋立テ商業用地トシテ港灣ノ利用發展ニ資スルモノナリ

浚渫ノ箇所及水深ハ差當リ三十五尺岸壁前面及航路幅百八十間乃至二百五十間ヲ水深三十尺ニ二十八尺岸壁前面幅百八十間ヲ二十八尺ニ二十四尺岸壁前面幅百八十間ヲ水深二十四尺ニ浚渫ス而シテ漁船ノ船溜ニ便センガ爲メ巴川下流清水町湊橋以下海ニ至ル延長五百間ヲ幅二十間水深六尺ニ浚渫ス以上ハ原計畫ノ大要ナルモ大正十四年十二月三日ヲ以テ其一部ノ計畫及修築費豫算内譯ヲ左ノ如ク變更セリ

原設計ニ於ケル巴川以南ノ物揚場延長二百間ノ内鐵道省委託ニ據ル岸壁工事ヲ施行ノ爲メ延長百四十七間二分九厘ヲ減ズ

原設計ニ於ケル護岸ハ將來ノ利用ヲ考慮シ大部分ヲ水深九尺ノ物揚場ニ變更セリ

原設計ニ於ケル浚渫區域ノ内巴川前面ノ幅員百三十間(二百三十六米)ハ將來航行船舶ノ安全ヲ期スル爲メ幅員百八十間(三百二十七米)ニ變更ス而シテ浚渫幅員變更ノ結果三保辨天地先ノ土地約一千七百六十坪ヲ買收セントス今新舊修築費豫算ヲ對照表示スレバ次ノ如シ

種別	豫算高	
	舊	新
岸壁及護岸費	一、四四六、一四〇	一、二一九、四七五
埋立費	六三三、一九五	五〇六、一七九
工浚渫費	一、五七〇、〇〇〇	八一三、三三〇
船舶及機械費	一、六二〇、五〇〇	二、四四八、二六七
營繕費	一〇〇、〇〇〇	一五三、九五九
用地費	三〇四、九〇〇	三八三、四五二
費用	一一二、二六五	一五二、五六二
施行中諸費	—	二四、八七六
共濟組合給與金	五、七八七、〇〇〇	五、七〇二、一〇〇
小計	三九〇、〇〇〇	四七四、九〇〇
事務費	—	—
總計	六、一七七、〇〇〇	六、一七七、〇〇〇

鐵道省委託工事ハ巴川河口以南ノ埋立地一萬七百九十坪ノ前面ニ水深二十四尺ノ繫船岸ヲ築造シ尙其前面約二萬面坪(約百三十間平方)ヲ浚渫スルモノニシテ總工事費四十八萬二千二百圓ナリ工事費豫算内譯ヲ示セバ左ノ如シ

施工狀況

岸壁及護岸費	二五三、六二〇 <small>円</small>	營繕費	一〇、〇〇〇 <small>円</small>
浚渫費	九八、二八〇	施行中諸費	四八、〇〇〇
船舶及機械費	七二、三〇〇	合計	四八二、二〇〇

岸壁及護岸工事中岸壁工事ハ大函十八個ヲ製作進水シ内五函ハ丙岸壁用(二十四尺)九函ハ乙岸壁用(二十八尺)殘リ四函(二十四尺)ハ鐵道省岸壁用トシ夫々進定位置ニ沈設ス護岸工事ハ小函四十六個ヲ製作進水シ二個ヲ不二見地先甲物揚場第一號用、二十四個ヲ同第二號用、殘リ二十個ハ三保地先貝島西護岸用トシテ夫々所定位置ニ沈設ス

乙物揚場工事ハ僅カニ護岸工ノ一小部ヲ殘シテ殆ド竣功セリ此工費二十一萬六千八百十九圓ナリ埋立工事ハ三保地先九萬六千四百九十九立米不二見地先二十二萬一千七百九十二立米ノ埋立ヲ施セリ此工費五萬二百四十圓ナリ其外浚渫工事ニ依リテ受新田地先六萬四千三十八立米、不二見地先一萬五千七百二十八立米ノ埋立ヲ爲セリ

浚渫工事ハ四隻ノ浚渫船即チ椿號、菖蒲號、富士號以上バケツト式草薙、唧筒式及第三號、第四號ノ、ブリストマン式浚渫船二隻ヲ使用シ航路及岸壁附近ノ浚渫ヲ行フ土砂運搬ハ曳船小蒸汽船四隻、石油發動機船三隻、百二十立米積土運船七隻、四十二立米積土運船二隻、二十四立米積土運船四隻、同甲板積土運船三隻ヲ使用ス此土量百三萬四千七百三十三立米ニシテ工費十七萬九千七百八十九圓ヲ要セリ(内土量七萬四千四十八立米工費一萬一千九百九十四圓ハ鐵道省負擔額ナリ)浚渫土砂ハ其一部ヲ當所諸工事竝横濱

港修築工事等ニ利用シ又ハ民間ニ讓渡シ他ハ受新田地先、清開地先、不二見地先、三保地先並港界外沖合ニ
 投棄セリ

營繕工事ハ見張小屋三棟ヲ新設シ、浚渫工場見張所ヲ水産試驗場構内ヨリ新船渠ノ北部ニ移轉セリ其他
 進水工事起重機基礎修理、函警電燈延長、見張所電話移轉、見張所電燈新設等ヲ合シテ此等ノ工費一千七百
 五十圓ナリ

船舶機械修理製作ハ事務所及機械工場所要諸機械ノ製作及浚渫船六隻、汽船五隻、發動機船六隻、土運船十
 六隻、雜船六十四隻、其他諸機械ノ修理ヲ爲セリ此工費二十一萬八千六百十二圓ナリ(内四萬九千九百八十
 六圓ハ鐵道省負擔額ナリ)其他不二見排水路工事ハ約其六分通リヲ竣功セリ
 前述ノ如ク本年度ノ諸工事ハ概ネ所期ノ如ク進捗シ總工費七十八萬九千九百六十五圓ヲ要セリ本年度
 購入又ハ製造ヲ註文シタル主ナル船舶及機械類左ノ如シ

名	稱	員	數	金	額	製	造	所	名	摘	要
材	料				二、九五〇	鈴	木	與	平	清水港修築事務所扱	清水港修築事務所扱
マ	ニ				二、九八五	三	寶	商	事		
ラ	網				二、八三七	土	橋	留	吉		
	上				三、三四二	商	店	商	店		
同	上				二、三五八					清水機械工場扱	清水機械工場扱
其	他										
同	上										
合	計				一四、四七二						

本年度本港修築工事竣功額ハ三百八十四萬五千八百七十一圓ニシテ總工費五百七十萬二千百圓ニ比ス

第九 下關港修築工事

(下關土木出張所)

緒言

本工事ハ總豫算三百六十一萬圓(内下關市負擔百八十萬五千圓)ヲ以テ大正十年年度ヨリ同十六年度ニ至ル七箇年度ノ繼續事業トシテ施行ノ計畫ナリシモ同十二年度ニ至リ豫算ノ關係上竣功期ヲ同十七年度迄繰延ベ同十四年度ニ於テ更ニ工期ヲ一箇年延長シ竣功期限ヲ同十八年度トスルコトナレリ

港狀竝計畫ノ大要

下關港ハ本邦西部ノ要港ニシテ古來段盛ヲ極ムト雖モ水深淺ク泊地陝隘ニシテ大船巨舶ヲ容ルルニ足ラズ殊ニ水陸聯絡設備ニ至テハ一部鐵道構内沿岸ヲ除キ殆ド之ヲ闕キ輓近内外貿易ノ急激ナル發達ニ伴フ出入船舶ノ増加ト船型ノ増大ハ最早天然ノ形勝ノミニ依ルヲ容サザルニ至レリ然レドモ時運ノ趨勢ト財政ノ狀態トハ未ダ遽ニ大計畫ノ施設ヲ容ルル能ハザルベキヲ以テ暫ク之ヲ他日ニ譲リ先以テ焦眉ノ急ニ應スル程度ニ於テ修築工事ヲ施サントス其計畫ノ大要左ノ如シ

停車場以東ニ屬スル部分ハ内外貿易用ニ充ツルモノニシテ其東端ハ內務省ノ埋立地ニ接續シ現在海岸ニ沿ヒ幅三十間内外ヲ干潮面上十二尺五寸ニ埋立テ其前面ニハ東端ヨリ干潮面下九尺岸壁長百十七間、十八尺岸壁長百二十五間、二十四尺岸壁長三百二十八間ヲ築造シ二十四尺岸壁ノ西端延長線ニ沿ヒ長六十五間ノ防波堤ヲ設ケ其内部ヲ船溜ニ充テ現在海岸ニ沿ヒ十二尺岸壁長百八間、六尺岸壁長二百二十五

間ヲ築設スルモノトス

停車場以西ニ屬スル部分ハ漁港ニ充ツルモノニシテ下關驛西端貨車航送船發著場ノ地方護岸ニ接續シ中間ニ於テ幅六十間内外ヲ干潮面上十二尺五寸ニ修築シ其前面二十八尺岸壁長百八十九間、東側ニ護岸長九十七間五分、西側ニ九尺岸壁長七十六間及護岸長十六間五分ヲ築造スルモノトス

埋築面積總計四萬一千六百坪ニシテ内東部二萬五千餘坪、西部一萬六千五百餘坪ナリ而シテ埋築上ニ施設スベキ倉庫、上屋、鐵道、道路、其他ノ諸設備ハ總テ後日ノ經營ニ俟ツモノトス

岸壁ノ前面ハ總テ岸壁深ト同深ニ浚渫シ尙西部埋立地前面ニ横ハレル淺洲ハ干潮面下十尺ニ同所ト停車場トノ間ニ介在スル淺瀬ハ同十八尺ニ浚渫スルモノトス

施工狀況

本年度ハ前年度ニ引續キ岸壁埋立及浚渫工事ヲ施行セリ其概況左ノ如シ

函製作工事ハ岸壁用鐵筋混凝土函ノ製作工事トシテ當初ハ專ラ十八尺岸壁用函ノミヲ作製セシモ前年度ヨリ二十四尺岸壁函ヲモ併セ施行セリ本年度ニ於テハ十八尺岸壁函六個、二十四尺岸壁函十個ヲ製作シ累計夫々二十九個及十三個ニ達シ前者ハ竣了シ後者ハ約四割二分ノ竣功トナレリ

岸壁工事ハ岸壁及護岸築造工事トシテ當初西部十八尺岸壁ニ著手シ漸次東部ニ及ボシタルガ本年度ニ於テハ西部ノ殘部分及東部ノ主要部ニ施工セリ其狀況次ノ如シ

西部十八尺岸壁ハ前年度迄ニ大部分ヲ竣功シ本年度ニ於テハ東端竹崎護岸ニ接スル部分ノ殘工事ヲ施行シ竣功歩合約九割八分ニ達セリ

西部九尺岸壁ハ前年度迄ニ主體ヲ完了シ本年度ニ於テハ岸壁裏込及防舷材取付ヲ了シ壁前面ノ捨石及其地均ヲ殘スノミトナレリ

西部竹崎及今浦護岸ハ間知石積ニシテ岸壁ニ接續スル部分ハ方塊ヲ使用調節スル設計ニシテ前年度迄ニ竹崎護岸ノ過半及今浦護岸ノ一部ヲ施行シ本年度ニ於テハ竹崎護岸ノ殘部及今浦護岸ノ方塊積大部分ヲ了リ年度末ニ於ケル竣功歩合ハ前者約九割五分、後者五割ニ達セリ

東部十八尺岸壁ハ前年度迄ニ混凝土函六個、延長六十三間ヲ据付ケ上部諸工事モ相伴フテ進工シ本年度ニ於テハ函据付同内部混凝土填充及頂部混凝土等ヲ竣功セシメ只僅ニ裏込防舷材及繫船柱等ヲ殘スノミトナリ約九割五分ノ竣功ヲ見ルニ至レリ

東部二十四尺岸壁ハ前年度迄ニ混凝土函三個、延長約三十二間ノ据付ヲ終リ本年度ニ於テハ同十個、延長約百五間ヲ据付タル外頂部混凝土其他上部諸工事ヲ施行シ本年度迄ニ本岸壁ノ約三割六分ヲ竣功セシメタリ

東部九尺岸壁ハ前年度ニ於テ一部基礎床掘ヲ施行セシ儘ニシテ其他十二尺岸壁、六尺岸壁及防波堤ハ未ダ著工ノ運ビニ至ラズ

埋立工事ハ既定區域ノ埋立ヲ施行スルモノニシテ當初西部ノ埋立ニ著手シ次テ本部ニ施工シタルガ前年度迄ニ前者ノ大半及後者ノ一部ヲ施行セリ

本年度ニ於テハ兩工區何レモ功程大ニ進捗シ西部埋立地ハ殆ド竣成シ東部埋立地ハ二十四尺岸壁裏長約六十五間、十八尺岸壁裏長約三十五間、延長約百間ノ埋築ヲ完了シ現ニ海運業者ニ於テ利用サレツツアリ年度末ニ於ケル竣功歩合ハ約四割ニ當ル

浚渫工事ハ既定區域ニ施行スルモノニシテ當初西部埋立地前面ノ浚渫ニ著手シ次テ停車場東端船溜内竝東部二十四尺及十八尺岸壁前面ニ施行セリ而シテ前年度迄ニ西部各箇所ハ大部分浚了シ只僅ニ彦島埋立地前面ニ横ハレル淺洲ノ一部及同所ト停車場間ニ介在スル小淺瀬ノ殘存スルノミトナリ東部ハ十八尺及二十四尺岸壁前面幅三十間餘ト船溜内ノ一部ヲ浚了セリ本年度ニ於テハ「プリストマン式浚渫船」ノミヲ使用シ前記彦島埋立地前面ノ淺洲ニ施行シ土量約四千六百立坪ヲ浚渫シ年度末ニ於ケル竣功歩合ハ約四割六分ニ達セリ

其他下水工用諸機械ノ運轉及雜石、砂利、砂等ノ直營採取ヲ施行セリ

本港修築工事ノ本年度ニ於ケル竣功高ハ三十三萬五千七百七圓事務費及現在物品代價ヲ除クニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ百六十萬三千七百十七圓（同上）ヲ算シ工費總豫算三百三十六萬三千百圓ニ對シ四割八分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「●」ハ下關市及民間ヨリ搬入投棄シタル坪數「△」ハ評價品見積價額ニシテ岸壁及防波堤竣功金額中ニハ函工場設備費、型枠費及雜石、砂利、砂等ノ採取費竝工用諸機械ノ運轉費等ヲ含ミ竣功數量ハ完成高ト部分竣功高ニ竣功歩合ヲ乘ジタル高トノ和ヲ計上ス

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
函製 方塊製 方掘作 床掘作 捨石均 地均形	一七・〇 一〇二・〇 間 一八九・〇 一八五・九 一七・二		六・〇 〇・六 間 		一七・〇 一〇二・〇 間 一八九・〇 一八六・五 一七・二		一〇〇 一〇〇 一〇〇 九九 九四

壁 岸																					
壁 岸 尺 八 十 部 東										壁 岸 尺 八											
捨	床	函	笠	繫	防	裏	頂	同	函	地	捨	床	函	繫	防	裏	頂	同	函	方	函
		製		船	舷		部	土	內	形			製	船	舷		部	土	內	塊	据
石	掘	作	石	柱	材	込	土	充	充	据	均	石	掘	作	柱	材	込	土	充	付	付
四二・四	一二七・〇	三三〇	三〇〇			一八・〇	二六・三		五六・五	六三・九	八〇・〇	一三〇・〇	六一	一一〇	四〇	一五四・二	一七一・八	六二・〇	一七八・五	八二・〇	一七〇
一二七・九	六〇・〇	一〇三	五〇・一	五・四	一七・〇	三七・〇	八六・二	五五・〇	七一・九	六〇	六三・二	五〇・〇	五・九	三〇	三二〇	六・八	一〇・五	九九・〇	二〇・〇		一七〇
一七〇・三	一八七・〇	一三三・三	五〇・一	五・四	一七・〇	五五・〇	一一二・五	五五・〇	二二八・四	一一〇	二二七・一	一三〇・〇	一三〇・〇	一四・〇	三六〇	一六一・〇	一八二・三	一六一・〇	一七八・五	一〇三・〇	一七〇
〇・五二	〇・五七	〇・四三	〇・三九	〇・四二	〇・四六	〇・四二	〇・八七	〇・四二	〇・九九	一・〇〇	〇・九八	一・〇〇	一・〇〇	〇・七四	〇・九七	〇・九五	〇・九六	一・〇〇	〇・九〇	一・〇〇	一・〇〇

第四章 港灣改良工事 (下關港修築工事)

總計	共濟組合給與金	施行中諸費	營業繕械費	船舶及機械費	浚渫費	埋立費	岸護崎竹				岸護浦今		
							裏石	方塊据	地形	捨石	方塊据	地塊据	捨石
					五四、七五〇	二五、〇〇〇	六四、〇〇〇	一、二八〇	五、四〇〇	七、一五〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇
△	一、二六八、六一〇	七三、二二一	九、九八四	四三三、五三六	一一二、五八二	二二、二四八	三三、〇〇〇	二、二〇〇	四、九〇〇	二、五〇〇	一、七〇〇	〇、九〇〇	〇、三六〇
					四、五九四	一〇、六六五	三三、〇〇〇	三、二〇〇	四、九〇〇	二、五〇〇	一、七〇〇	〇、九〇〇	〇、三六〇
△	三三三、一〇七	二、二九二	一、四四一	七、二〇九	八、〇九六	四、五二五	三、三〇〇	三、二〇〇	四、九〇〇	二、五〇〇	一、七〇〇	〇、九〇〇	〇、三六〇
					五九、三四四	一三、〇六五	九七、五〇〇	一、六〇〇	四、九〇〇	九、七〇〇	五、〇〇〇	一、七〇〇	〇、三六〇
△	一、六〇三、七一七	七、〇八一	一〇、一二五	五、二二五	一、三〇、六七八	六、七、六七一	九七、五〇〇	一、六〇〇	四、九〇〇	九、七〇〇	五、〇〇〇	一、七〇〇	〇、三六〇
					一、五五二	五、三三〇	九七、五〇〇	一、六〇〇	四、九〇〇	九、七〇〇	五、〇〇〇	一、七〇〇	〇、三六〇
△	一、三、九八七	七、〇八一	一〇、一二五	五、二二五	一、三〇、六七八	六、七、六七一	九七、五〇〇	一、六〇〇	四、九〇〇	九、七〇〇	五、〇〇〇	一、七〇〇	〇、三六〇
					〇、四六	〇、三九	一、〇〇	〇、八二	〇、九八	〇、九九	一、〇〇	〇、七七	〇、三六
〇	四八				〇、四六	〇、三九	一、〇〇	〇、八二	〇、九八	〇、九九	一、〇〇	〇、七七	〇、三六

第一〇 敦賀港修築工事

（名古屋土木出張所）

緒言

本工事ハ總工費三百四十萬圓（内工事費三百十九萬圓、事務費二十一萬圓）ヲ以テ大正十一年度ヨリ同十八年度ニ至ル八箇年度繼續事業ナリシモ同十二年十一月一箇年度ノ繰延ヲ受ケタルヲ以テ大正十九年度迄ニ竣功セシムルコトナレリ

港狀並計畫ノ大要

本港ハ古來北海ノ要衝ニ方リ其地勢東南西ノ三方ハ連山圍繞シ獨リ北方ノ一面ノミ廣ク日本海ニ通ジ港内廣濶ニシテ水深ク良ク大船巨舶ノ碇繫ニ便ナルモ尙此地方ニ最モ多キ偏北風ニ對シ安全ナル能ハザルヲ以テ曩ニ金ヶ崎突堤ヲ延長シ港内ノ浚渫、埋立、棧橋等當面ノ急ニ應ズル施設ヲ爲セシモ歐洲大戰勃發シタル結果軍事上將タ經濟上愈重要ノ地位ヲ占ムルニ至リタルノミナラズ貨客ノ激增ニ依リ到底從來ノ設備ヲ以テ甘ンズベカラザルニ至レリ是本計畫ノ因テ以テ起レル所以ナリ其計畫ノ大要ヲ記セバ左ノ如シ

既設防波堤ト同一方向ニ三百五十一米ヲ延長シ笹ノ川見透線以東ノ水面ヲ掩護セシム

既設棧橋ノ西北方ニ接續シテ幅平均五十五米、長百六十四米ヲ埋立テ前面ニ水深八米五岸壁ヲ築設シ六千噸級汽船一隻ノ接岸荷役ニ供ス

筈ノ川右岸ヨリ長約三百四十五米幅九十一米ノ繫船突堤ヲ築造シ其内側ニ水深八米五岸壁百六十四米竝七米三岸壁五十四米ヲ築キ六千噸級汽船一隻又ハ三千噸級汽船二隻ノ接岸荷役ニ供ス該突堤ト兒屋ノ川口トノ間約長四百九十米幅七十三米ヲ埋立テ其前面ニ水深七米三岸壁三百九米ヲ築造シテ三千噸級汽船二隻ノ接岸荷役ニ供シ其他ノ箇所ハ護岸施工ノ計畫ナリシガ由來當港ニハ接岸荷役ヲ爲サシメ得ル岸壁ニ乏シキノミナラズ該區間ハ七米三岸壁ニ接續セルヲ以テ殆ト同額ノ工費ニテ二千噸級ノ船舶ヲモ自由ニ接岸荷役セシメ得ル利アルヲ以テ兒屋ノ川口ヨリ二百米間ニ五米四五岸壁ヲ施工スル事トセリ

岸壁ニ伴ヒ港内ノ水深モ之ニ相應セシムル様浚渫ヲ施シ以テ水深七米三以上ノ水面約三十三萬方米ヲ得ルモノトス是等ノ浚渫土砂ハ全部埋立ニ利用スル見込ニシテ埋立總土量約六十萬立米ニシテ埋立面積約七萬五千方米ナリ

施工狀況

本年度ニ於テ施行セシ工事ハ採石、護岸、埋立、函製造、防波堤等ニシテ左ニ其概要ヲ記述スベシ
第三種岸壁工事ハ兒屋ノ川口左岸全長二百米ニ互ル五米四五岸壁工事ニシテ大正十三年十一月ノ起工ニ係リ本年度内二六米函十五個ヲ据付ケ累計十八個延長百六十二米ノ据付ヲ了セリ而シテ是等据付ケタル函ノ内部ハ前半ハ混凝土、後半ハ土砂ヲ以テ填充スルモノニシテ背後裏込及頂部混凝土工ト共ニ函据付ニ伴ヒテ進工セリ此工費二萬二千六百八十六圓ナリ
第一種岸壁工事ハ既設棧橋西方八米五〇岸壁工事ニシテ大正十四年十二月起工シ本年度内ニ於テハ僅

ニ函据付基礎ニ著手セルノミニシテ工費二千八百六十六圓ヲ支出セリ
 函製造工事ハ岸壁護岸及防波堤用函ヲ製造スル工事ニシテ前年度ヨリ引續キ施行シ本年度内ニ六米函
 十七個ヲ製作シ此工費二萬九百五十七圓ニシテ第三種岸壁用六米函累計二十二個ヲ完了セリ而シテ第
 一種岸壁（水深八米五）用九米五函ハ大正十四年七月其工ヲ起シ型枠二臺ヲ製作シ之ヲ使用シテ函一個ヲ
 製造セリ此工費三萬七千五百九十圓ナリ

函設備工事ハ岸壁護岸及防波堤用函製造ニ充テング爲メ大正十四年五月起工シ進水臺一臺製作臺二臺
 竝製作用電動諸機械ノ基礎工事等ヲ施行セルモノニシテ此工費二萬六千九百九十八圓ヲ要セリ

兒屋ノ川口取付護岸ハ大正十五年二月起工シ方塊百五十一立米ヲ製造セリ此工費一千八百二十四圓ナ
 リ

防波堤工事ハ大正十四年八月起工シ地質調査ヲ行ヒ既設防波堤頭部ヨリ捨石ニ著手セリ本年度ニ於ケ
 ル捨石數量四千七百四十八立米ニシテ工費一千九百五十八圓ナリ

埋立工事ハ各種岸壁護岸内部ノ埋立全部ヲ施行セントスルモノニシテ大正十三年八月工ヲ起シ既設棧
 橋西方及第三種岸壁背部埋立ヲ施工シ本年度内ニ二萬五千三百九十一立米ノ埋立ヲ了シ工事費一萬七
 千三百九圓ヲ要セリ而シテ埋立土砂ハ主トシテ浚渫船ニ依リ豫定浚渫區域ヲ浚渫セルモノニシテ一部
 ハ採石場不用土砂及笹ノ川以西濱地ヨリ掘鑿セル土砂ヲ機關車ニテ運搬使用セリ

採石工事中割石ハ敦賀港ヨリ海上二湮半ヲ距ツル沓採石場ヨリ採取シ之ヲ運搬船ニ受ケ曳船ヲ介シテ
 當港ニ曳行シ所要工事ニ配付スルモノニシテ本年度ニ於テ八千九百九十八立米ヲ採取シ内七千九百三十
 立米ヲ使用シタリ此工費三萬三千七百一圓ヲ要セリ

砂及砂利ハ直營採取シ本年度内ニ砂二千二百五十五立米、砂利三千百八十四立米ヲ採取シ工費八千三百二圓ヲ要セリ

此外兒屋ノ川口左岸突堤ノ除却函設備除去石材積出用埠頭ノ補修假護岸及地均防波堤用埋戻砂積出棧橋第一號惡水路敷設等ノ工事ヲ施行セリ

本港修築工事ニ於ケル本年度竣功高ハ三十一萬二千二百四十一圓(事務費ヲ除ク)ニシテ起工以來本年度迄ノ累計六十九萬六千九百六十二圓トナリ之ヲ總豫算三百十九萬圓ニ比スレバ約二割二分ノ竣功ニ當ル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ岸壁及護岸費中ニハ函製作及設備費砂、砂利採取費、採石費ノ一部ヲ含ム又表中「×」ハ直營採取砂及砂利代價、「△」ハ製作品價額、「○」ハ無償品見積價額ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
第一種岸壁	一	〇	一	〇	二	〇
第二種岸壁	二七	〇△×	一三五	〇△×	一六一	〇△×
第三種岸壁	九	〇	一三六	〇	一四五	〇
第四種岸壁	一五	〇	九七	〇	一一二	〇
第五種岸壁	二七	〇	一三五	〇	一六一	〇
第六種岸壁	五〇	〇	一四〇	〇	一九〇	〇
第七種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第八種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第九種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第十種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第十一種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第十二種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第十三種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第十四種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第十五種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第十六種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第十七種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第十八種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第十九種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第二十種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第二十一種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第二十二種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第二十三種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第二十四種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第二十五種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第二十六種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第二十七種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第二十八種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第二十九種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第三十種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第三十一種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第三十二種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第三十三種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第三十四種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第三十五種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第三十六種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第三十七種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第三十八種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第三十九種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第四十種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第四十一種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第四十二種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第四十三種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第四十四種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第四十五種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第四十六種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第四十七種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第四十八種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第四十九種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第五十種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第五十一種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第五十二種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第五十三種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第五十四種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第五十五種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第五十六種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第五十七種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第五十八種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第五十九種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第六十種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第六十一種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第六十二種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第六十三種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第六十四種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第六十五種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第六十六種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第六十七種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第六十八種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第六十九種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第七十種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第七十一種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第七十二種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第七十三種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第七十四種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第七十五種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第七十六種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第七十七種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第七十八種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第七十九種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第八十種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第八十一種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第八十二種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第八十三種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第八十四種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第八十五種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第八十六種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第八十七種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第八十八種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第八十九種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第九十種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第九十一種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第九十二種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第九十三種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第九十四種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第九十五種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第九十六種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第九十七種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第九十八種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第九十九種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇
第一百種岸壁	四五	〇	一四五	〇	一九〇	〇

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		歩合功
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
防波堤	一九、六七二 粒	二四、五三二	二五、三九一 粒	一七、三〇九	四五、〇六三 粒	三三、八四一	〇・〇八
埋立		九四六		一八、五六一		一八、五六一	〇・〇四
雜工事		二六〇		一五三		四一三	
船舶及機械費		一九九、三〇二		八五、二七五		二八四、五七七	
測量及檢潮費		三、一〇五		五〇一		三、六〇六	
營繕費		二、三三三・五二		三、七三七		六、〇七〇	
施行中諸費		七六、五五七		四〇、六一一		一一七、一六八	
共濟組合給與金		二、三八八		一、八七八		四、二六六	
總計		〇△X 三八四、七二一 三、〇四九 六、二九九		〇△X 三、二二二 八、二四一 九、六九三 五、三三三		〇△X 六、九六六 一、二九〇 一、五九四 二、四二二	〇・一一

第一一 高松港修築工事

(神戸土木出張所)

緒言

本港ハ香川縣ノ中央部高松市ノ海岸北緯三十四度二十一分東經百三十四度二分ニ位シ地勢南ニ肥沃ナル讃岐平野ヲ控ヘ屋島山海中ニ突出シ西方ニ王越半島ヲ望ミ前面ハ女木、男木ノ兩島相連リテ港北ヲ扼ス而シテ北東及北西ハ海路ノ深度大船巨舶ノ航行ニ適シ岡山縣宇野港ヲ距ルコト僅ニ十一哩、四國四縣中最モ形勝ノ地位ヲ占ムル内海ノ要港タリ

高松市ハ今ヲ去ル三百年前即チ寛永年間ヨリ松平氏が生駒氏ニ代リテ居城ト爲シタル地ニシテ當時之ヲ玉藻城ト稱シ附近一帶ノ海岸ヲ玉藻浦ト呼ベリ船舶出入ノ地ハ地勢上自ラ東濱、堀川及西濱ノ三港ニ分タレ東濱港ハ商船ノ出入ニ充テ西濱港ハ漁業者ノ專用ニ供シ堀川港ハ藩船ノ繫留場タリシガ維新後是等ヲ高松港ト稱スルニ至レリ明治三十年七月縣費ノ補助ヲ得高松市ニ於テ修築工事ヲ起シ工費二萬八千餘圓ヲ投ジテ西濱港ノ東堀川港ニ於テ水面積約八萬坪ヲ包擁スル東西二條ノ防波堤ヲ築造シ兼テ港内主要部ノ浚渫、堀川港及沿岸ノ埋築、棧橋ノ築設等ヲ企テ同三十七年九月之ヲ完成シ以テ現在ノ本港ヲ形成セリ

爾來時勢ノ推移ニ伴ヒ年ト共ニ貨客船舶ノ出入著シク増加シ殊ニ宇野港トノ間ニ船車連絡ノ設備成リ貨車航送ノ實施セラレシ以來東港ノ利用上ニ一新紀元ヲ劃シ更ニ擴張ノ必要生ジタルガ故ニ大正八年香川縣ニ於テハ港灣調査會ヲ設置シ之ガ調査ヲ進メ越テ同十年六月ニハ内務省ニ於テ本港ヲ第二種港

灣ニ編入シ尋テ第四十五回帝國議會ノ協賛ヲ經テ本港ノ改修計畫全ク樹立セラレ即チ大正十一年度ヨリ同十六年度(當初年限ハ十五年度迄五箇年度)ニ至ル六箇年度ノ香川縣營繼續事業トシテ工費總額二百二十萬圓(内俸給及事務費ヲ含ム)ヲ豫算シ其半額ヲ國庫ヨリ補助ヲ得且同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ基キ内務大臣ニ於テ本事業ヲ直接施行スルニ至レリ

港狀並計畫ノ大要

現今ニ於ケル高松港ノ狀態ハ東西兩防波堤ヲ以テ限ラレタル區域内ナリト雖モ從來ノ所謂高松港ナルモノハ東濱港及西濱港、其他ヲ包含スルモノニシテ其東端ニ位スル杣場川ハ水深最モ淺ク大潮時干潮ニ於テハ全部川底ヲ露出シ一部ハ貯木場ニ充ツルモ一般船舶ノ出入多カラズ東濱港ハ帆船ノ出入頻繁ニシテ主トシテ農産物及肥料類ノ集散ニ利用セラレ中川港ハ水面積極メテ狹ク小船ノ修理及繫留場ニ充ツルニ過ギズ此東西兩防波堤ヲ以テ圍マレタル現在高松港ノ東半部ハ水深淺ク荷役ノ設備ヲ缺キ剩ヘ陸上ハ舊城趾ニ遮ラレテ運輸交通上ノ不便尠カラズ西半部ニハ縣營、棧橋並鐵道、棧橋、貨物航送ノ設備、共同荷役場、坂出地方專賣局高松出張所等在リ港内ハ大小船舶常ニ輻湊ヲ極ムルニ反シ西濱港ハ單ニ漁船溜ニ過ギザルナリ

本港々外東西二方ハ所謂遠淺ニシテ港口ヨリ沖合ハ急ニ水深ヲ加フ而シテ海底ハ概シテ僅少ノ粘土ヲ含ム細砂ニシテ岩盤無キヲ以テ錨碇浚渫或ハ構造物ノ基礎トシテハ強チ憂フベキ土質ニ非ラザルノミナラズ土砂ノ移動モ亦大ナラズ波浪平靜ニシテ潮流速度ハ毎時二哩ヲ超ヘズ潮位ハ大潮平均干満ノ差約八尺、四季降雨少ナク氣候溫暖ニシテ夏季稀ニ暴風ノ襲來スルコトアリト雖モ永年ノ記録ニ徵スルニ

北々東風三十五米ハ其最大風速ニシテ冬季ニ在リテハ西南西ニ強風多シトス
新設北防波堤延長四百四十間ニシテ舊東防波堤東部ヲ起點トシ東濱地先計畫埋立地前面ニ併行シテ築
造シ又新設東防波堤ハ延長三百九十間ニシテ柚場川口右岸ヨリ北方ニ向ヒテ前者ノ東端トノ間ニ幅員
四十間ノ副港口ヲ存置シ現在ノ東防波堤ハ全部之ヲ撤去シ又中川港ノ港口北東隅ヨリ突出スル突堤ハ
其先端ヨリ二十間ヲ除却シ尙東濱港内ノ突堤二箇所ハ之ヲ除却スルモノトス
埋立ハ玉藻町地先ニ於テ幅員二十間面積約四千七百五坪ヲ平均干潮面上五尺ニ埋立(棧橋附近ハ適當ノ
附近ニ埋立)テ又下横地先ニ於テ面積約五千坪八重垣新地々先ニ於テ面積約八千坪ヲ埋立テ荷揚場、倉庫、
道路及鐵道ノ敷地ニ供シ埋立ノ前面ハ水深六尺ノ物揚揚護岸トシ其他ハ總テ水深三尺ノ護岸トス
浚渫ハ港内ノ主要部分水面積四萬餘坪ヲ最干潮面以下十八尺ニ浚渫シ一千五百噸級汽船ノ碇繫場ニ供
シ尙港内ヲ各適當ノ水深ニ浚渫ス此浚渫面積約十四萬坪土量約二十三萬坪トス
新設棧橋ハ其根元ヲ現在棧橋ノ位置ヨリ東方六十間ノ地點ニ定メ港口ノ中心ニ向ツテ築設シ其南側ヲ
利用スルコトヲ得セシメ而シテ現在棧橋ハ新設棧橋ノ位置ヨリ六十間東方ニ移轉スルモノトス

施工狀況

本工事ハ起工以來第四次ノ年度ニ屬シ前年度迄ニ約五割ノ功程ヲ進メ殘餘僅ニ二箇年度ナルヲ以テ本
年度ハ豫算内ニ於テ極力其進捗ニ努力シタリ即チ本年度ニ施行シタル主ナル工事ハ港内ノ浚渫ニ次テ
玉藻町地先ノ埋立東北兩防波堤ノ築造、下横町、玉藻町及八重垣地先ノ護岸築造及棧橋築造ニ著手シタル
ノ外在來防波堤取除等本港計畫主要工事ノ全般ニ互リタルヲ以テ計畫遂行上將來ヲ豫見スル事ヲ得ル

域ニ達シタリ以下其概要ヲ記述セントス

護岸ハ前年度ニ引續キ下横町九尺護岸ニ於テ石垣ノ殘工事ヲ施行シテ之ヲ完成シ同六尺護岸同八重垣地先九尺護岸ニ於テハ前年度施行シタル捨石ノ補充及床均並石垣ノ裏詰ヲ爲シ同六尺護岸ニ於テハ基礎捨石荷重据置及方塊沈積共各七十一間ヲ施工シタル外玉藻町九尺護岸ニテハ基礎捨石二十一間方塊沈積三十九間、石垣三十一間、階段三箇所、物揚場二百三十九間及橋臺九間ノ完成ヲ告ゲ直接工費五萬六千七百圓ヲ支出シタリ

埋立ハ港内浚渫土砂ヲ利用シテ玉藻町地先ニ七千八百五十五立坪ヲ埋築シ直接工費五千八百十二圓ヲ要シタルヲ以テ一立坪當ハ七十四錢ナリ

防波堤ハ東堤ニ於テ基礎二十二間、石垣二百十四間、階段三箇所ヲ又北堤ニ於テハ基礎百二十四間、荷重据置百三十七間、石垣二百九十一間ヲ完成シテ直接工費七萬五千二百十九圓ヲ支出シタリ

浚渫ハ計畫土量二十三萬立坪ニ對シ前年度迄ニ八萬四千八十八立坪則チ約三割五分ヲ完成セシメ引續キ本年度ハ水深六尺部、十二尺部、十五尺部及二十一尺部ノ浚渫ニ對シ、プリストマン式浚渫船二隻、唧筒式香東丸、鋤鏈式同香西丸ヲ運用シテ土量五萬五千四百二立坪ヲ浚渫シ内七千八百五十五立坪ハ玉藻町地先ノ修築ニ利用シ二萬三千七百七十立坪ハ縣營埋築地ニ投棄シ殘二萬三千七百七十七立坪ハ港外投棄ニ屬シ工費四萬七千八百三十三圓ヲ要シタルヲ以テ平均一立坪當ハ八十六錢三厘ナリ、功程土量ノ内一千八百二十二立坪ハ、プリストマン式浚渫船ニテ一千九百立坪ハ、唧筒船ニテ五萬一千六百八十立坪ハ、鋤鏈式浚渫船香西丸ノ功程ナリ

防波堤取除ハ計畫高總延長三百三十二間ニ對シ前年度迄ニ百二十間ヲ本年度ハ八十七間ノ除却ニ對シ

工費九千百九十七圓ヲ要シタルヲ以テ間口當ハ百五圓七十一錢ナリ之ガ除却方法ハ基線一尺以上ハ人力ニテ夫レ以下ハ、ブリストマン式浚渫船ヲ運用セリ而シテ除却ヨリ割石六百四十七坪、礫八百六十坪、間知石一萬四千六百五十三個、切石三十四個及繫船柱六本ヲ得之ヲ防波堤其他ノ諸工事ニ利用セリ

棧橋ハ長約百間、幅六間五百二十八面坪一條ニ對シ鐵筋混凝土浮函五個ヲ連結スル計畫ニシテ本年十二月一日ヨリ浮函長十六間、幅六間、高八尺五寸ノモノ五個ヲ要スル内二個ノ製造ニ著手年度内約九分通ヲ完成シテ工費一萬八千七百九十五圓ヲ支出シ尙浮函繫留裝置五箇所分ニ對シ九百九十四圓ヲ要シタルヲ以テ本年度ノ本工事直接工費ハ一萬九千七百八十九圓ナリ

船舶機械費ハ主トシテ修繕費ニ屬シ直營ニテ小修繕ヲ施シタルモノ五千九百八圓ヲ算シ請負施行ニテハ一萬一千六百三十八圓ヲ支出シ機械購入六千九十二圓、同修繕三百九十七圓ヲ支出シタル外棧橋用浮函型枠一組ヲ直營ニテ製作シ工費六千五百九十三圓ヲ要シタルヲ以テ本年度ハ合計三萬六百二十七圓ニ達シタリ

營繕費ニ於テハ浮函製造場設備工事ノ一萬四千七百九十九圓ヲ主ナル支出トシ砂利置場移轉ニ百二十三圓ヲ要シ尙請負施行費四百七十九圓ヲ算スルヲ以テ合計一萬五千四百二圓ノ支出ナリ

雜工事ニ於テハ玉藻町地先ノ石垣百八十圓ヲ除却シテ工費六百三十九圓ヲ要シ之ヨリ礫二十七立坪間知石六千四百個、切石百五十八個ヲ得テ他ノ築造工事ニ利用シ又前年度來ヨリ施工中ノ玉藻町暗渠工事ノ殘部ヲ完成セシメ工費五十九圓ヲ支出シタルヲ以テ本年度ノ支出ハ計六百九十八圓ナリ雜費所屬工事ハ「セメント」火山灰及石炭ノ品質試驗費ニ九百四十七圓、事務所雜費ニ一千八百三十三圓、發動機船運轉費ニ二千五百七十七圓及土運船ノ廻航費八十一圓ヲ要シタル外工事外支出一萬九百七十一圓ヲ算スル

第四章 港灣改良工事（高松港修築工事）

總計	材料	
	採取內譯 砂	利費
	七五	二三八
×	九八六	三、一四三
一、〇〇六、七四〇 二、七九〇	二、一五七	八六八
	三七四	四九四
×	三、八八六	一〇、六〇七
二八九、四五七 一〇、五五六	六、七二一	一、一〇六
	四四九	六五七
×	四、八七二	一三、七五〇
一、二九六、一九七 一三、三四六	八、八七八	
〇・六三		

第一二 境港修築工事

(大阪土木出張所)

緒言

本工事ハ總豫算百八十萬圓(内工費百六十九萬百圓、事務費十萬九千九百圓)ニシテ其半額ハ國庫ノ補助ニ屬シ大正十一年度ヨリ同十六年度ニ至ル六箇年度間ノ繼續事業ナリシガ同十二年九月關東大震火災ノ影響ヲ受ケ工期ヲ二箇年度延長シ同十八年度迄ニ竣功セシムルコトナレリ其工事ハ鳥取縣ノ企業ニ係ルモノナルガ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行スルモノトス

港狀竝計畫ノ大要

境港ハ日本海ニ於ケル樞要港灣ニシテ山陰唯一ノ天然良港タリ殊ニ朝鮮及西比利亞方面トノ通商貿易上至便ノ位置ニ在リト雖モ港口常ニ砂洲ノ爲メ閉塞セラレ水陸ノ聯絡亦不完全ナルヲ以テ從來之レガ利用ヲ完フスル事能ハズ先キニ明治三十七年物揚場トシテ市街沿岸一千四百十八米ニ平均幅三米六四ヲ修築セシモ唯小船舶繫留ニ適スルニ過ギズ爾後明治四十一年航路維持ノ爲メ長一千四百五十四米五ノ捨石堤ヲ施シ同時ニ航路ヲ浚渫セシモ其效果完カラズ然ルニ輓近出入船舶ノ増加ト船形ノ増大ハ最早現狀ニ委スルヲ許サザルニ至レリ殊ニ近來山陰線全通ノ爲メ本港ハ益重要ノ地位ヲ占ムルニ至リ之レガ修築ハ一日モ緩フスベカラザルニ至レリ今其計畫ノ大要ヲ記セバ次ノ如シ

埋立ハ停車場地先ニ於テ長四百十八米、幅三十六米内外ノ水面ヲ干潮面上一米五ニ埋立ツルモノトス

岸壁トシテハ埋立地ノ前面ニ干潮面下六米四岸壁二百七十三米、同五米五岸壁九十一米ヲ設ケ一千噸級乃至二千噸級ノ船舶四隻ヲシテ同時ニ繫留ノ用ニ供シ其他ノ沿岸五十四米ニハ物揚場及護岸ヲ設ク防波堤ハ御臺場鼻ヨリ南方二百十八米ノ海岸ニ起リ東方ニ向ヒ延長八百三十六米ニ至リ直角ニ北折シテ延長三百八十二米ニシテ舊捨石堤ニ連續セシメ且該堤ヲ利用増築シ更ニ其尖端ヲ延長シテ一千七百米ニ至リ七米三ノ水深ニ達セシム其延長二千九百十八米ナリトス
浚渫ハ埋立地前面ノ水面約十九萬八千三百四十七方米ヲ浚渫シ船舶繫留ノ用ニ供シ之レニ通ズル航路トシテ延長四千三百六十四米ノ間幅九十二米乃至百八十二米ヲ干潮面下六米四乃至七米三ニ浚渫スルモノトス此浚渫總面積約三十八萬三千四百七十一方米、土量百二萬九千立米ナリ

施工狀況

本年度ニ於ケル施行工事ハ前年度ニ引續キ防波堤ノ基礎捨石工事ト浚渫工事トヲ主トシ十二噸吊起重機船ヲ運轉シテ防波堤基礎上ニ混凝土方塊ノ疊積ニモ著手セリ而シテ前年度迄ハ曳船用トシテ汽艇壽丸及長濱丸ノ二隻ヲ使用セシモ本年七月ヨリ第三多賀丸ヲモ使用スル事トセリ其他方塊工場設備工事、方塊製造工事等ヲ施行セルガ其狀況ハ左ノ如シ
防波堤工事ハ前年度ニ引續キC幹部起點ヨリ約六百五十米ノ箇所竝AB幹部全體ニ互リ捨石ヲ施行シ又C幹部起點三十米ノ箇所ヨリ三百米ノ區間ハ上部混凝土方塊ノ疊積ヲ了シ尙B幹部終點附近五十米ノ箇所ニ混凝土方塊ノ疊積中ナリ本年度ニ於ケル捨石數量ハ二萬二千七百七立米五ニシテ内五百五十三立米ハ購入ニ係ル石材ナリ又混凝土方塊使用數量ハ一千六百十六立米ナリ

浚渫工事ハ唧筒式浚渫船櫻島丸ヲ運轉シテ前年度ヨリ浚渫ニ著手セシ八束郡森山村大字福浦地先航路中急施ヲ要セシ部分ヲ水深約五米ニ浚渫シ一部ノ通路ヲ開キ更ニ同大字玉井地先ニ於テ常ニ船舶ノ出入ニ困難ヲ感ゼル航路狹少部分ノ浚渫ニ著手シ年度内ニ於テ航路ノ中幅員約四十米ヲ限度トシテ水深約五米五ニ浚渫ヲ了セリ之レガ爲メ從來外海ニ一度假泊シテ多數ノ人夫ヲ使役シ上荷ヲ解船ニ移積シ吃水ヲ淺クシ辛フジテ入港シ居タル船舶モ殆ンド是等ノ手數ヲ省略シ其儘入港シ得ルニ至レリ而シテ本年度浚渫土量ハ十四萬七千三百九十五立米ナリ

採石工事ハ前年度ニ於テ記載セシ如ク島根縣八束郡森山村大字玉井地内ニ於テ直營ニテ雜石ヲ採取スルモノニシテ本年度モ亦主トシテ防波堤基礎捨石ニ使用スル石材ノ採取ニ努メ年度内ニ於ケル採石數量ハ二萬二千百三十一立米三ナリ

方塊工場設備工事ハ前年度迄ニ殆ンド工事ヲ完成シ單ニ方塊搬出用線路及棧橋ノ幾部ヲ殘セルノミナリシガ本年度ニ於テ其殘部ヲ施行シ全部ヲ竣功セリ

方塊製造工事ニ在テハ防波堤方塊疊積ノ工事進捗ニ伴ヒ之レニ要スル方塊ノ送出及積込ヲ行ヒ尙方塊製造用ノセメント一萬五千七百袋火山灰一千七百五十七呎ヲ購入シ砂利ハ三千五百立米ノ採取運搬ヲ契約セリ而シテ年度内ニ七百三十二立米九二ノ採取運搬ヲ了セシモ方塊ノ製造ニ著手スルニ至ラザリシナリ

其他防波堤工事ノ進捗ニ伴ヒ直營採石ノミニテハ捨石ニ不足ヲ生ゼシニ依リ之レガ補足ノ爲メ雜割石一千五百立米ヲ民間ヨリ購入スル事トシ年度内ニ於テ五百五十三立米ヲ購入セリ

本年度本港修築工事竣功高ハ十六萬八千四百七十圓ニシテ起工以來ノ累計五十九萬三千四百五十四圓

ナリ即チ總豫算(事務費ヲ除ク)百六十九萬百圓ノ約三割五分ニ當レリ其工事竣功高ハ左表ノ如シ但シ「△」ハ直營採石砂見積價額「△」ハ製作品見積價額「○」ハ無償品見積價額ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合		計	竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
本岸壁及防波堤費	粒	○△×	粒	○△×	粒	○△×	一八二、二五八、八〇〇	〇・一一
工事浚	一八、三四〇	二六、二四六	一四七、三九五	三三、〇一六	二六五、七三五	五九、二六二	〇・一四	
船舶及機械費		二一六、九五八		三六、四五二		二五三、四一〇		
施行中諸費		六六、一九三		三二、三三一		九八、五二四		
總計		四二四、九八四		一六八、四七〇		五九三、四五四	〇・三五	

第一三 今治港修築工事

（神戸土木出張所）

緒言

本工事ハ元今治町ノ企業ニ屬シ大正三年度ニ其起源ヲ發シ爾來幾多ノ曲折ヲ經テ同九年二月今治町ニ於テ隣郷日吉村ヲ併合シ市制施行地ニ指定セラレタル時ヲ以テ本事業ヲ今治市經營ニ移サル當時其工期ヲ同九年度ヨリ同十二年度ニ至ル四箇年度ノ繼續事業トシテ工費八十一萬圓ヲ計上シ港内ノ浚渫及埋立ヲ主トシ兼テ棧橋及防波堤ヲ築造スル計畫ナリシガ今治市ニ於テハ該計畫中最モ速成ヲ要スル防波堤ノ築造ヲ起工シ（本堤ハ全部今治市ニ於テ施行濟著々工事ヲ進メタリ

然ルニ本港ニ於ケル最近發展ノ趨勢ハ現計畫ノ擴張ヲ促スト共ニ一部計畫ノ變更ヲ要スルモノ在リタルヲ以テ之ヲ更正追補シテ更ニ工期ヲ同十二年度以降同二十一度迄當初計畫ハ大正十二年度ヨリ同十九年度迄八箇年度ノ處財政ノ都合上同二十一年度迄二箇年度延長ニ至ル十箇年度ノ今治市營繼續事業トシテ工費豫算三百萬圓（内俸給及事務費十八萬三千圓ヲ含ム）ニ改訂シ其半額ハ國庫ヨリ補助ヲ得且同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ基キ内務大臣ニ於テ直接本事業ヲ施行スルニ至レリ

港狀及計畫ノ大要

今治港ハ北緯三十四度三分四十五秒、東經百三十五度五秒、伊豫國ノ北海岸ニ瀕シ高繩半島ノ東南ニ方リテ自然ノ灣形ヲ爲シ前面ニハ來島海峽ヲ擁シテ瀬戸内海ノ咽喉ヲ扼ス其位置恰モ阪神關門ノ中間ニ在

ルヲ以テ古來ヨリ東西航路ノ要衝ヲ占ム東ハ燧洋ニ直面シテ遙ニ四坂島ヲ望ミ北ハ大島及三大島等比々點綴シ南ハ總社川ヲ境トシテ立花村ニ接ス而シテ港界ハ天保山ノ突堤基點ヲ中心トシテ一海涇ノ半徑ヲ有スル圓圈ヲ以テ畫シ此面積約百萬坪(內防波堤內約六萬五千坪)ヲ算ス氣候溫和ニシテ常ニ波浪少ナク港内ノ水深ハ概ネ最大干潮面下約四十尺トス此附近ハ干滿潮位ノ差瀨戶内海中最モ著シキ地方ニシテ最高最低潮位ノ差十三尺五寸、大潮時平均潮位ノ差十一尺五寸、小潮時平均潮位ノ差四尺五寸ナルモノ如シ而シテ沿岸ハ比較的急勾配ナルヲ以テ水深裕ニシテ時々潮流ノ急ナルモノ在リト雖モ大船巨船ノ碇繫ニ難カラズ仍ホ其風位ニ關シテハ西風、西北風及南北風ニ對シテハ些ノ影響無シト雖モ一朝東風ノ襲來スルニ於テハ港内忽チ激浪奔騰シテ船舶ノ出入碇繫共ニ危險ナリ然レドモ最近東防波堤ノ完成ニ依リテ著シク港内ハ靜穩ニ歸シ此杞憂ヲ一掃スルコトヲ得ルニ至レリ

交通ハ本港ヨリ僅ニ二時間餘ニシテ中國尾道港ニ達スルコトヲ得ルヲ以テ船舶ノ出入、貨客ノ集散、比較的繁ク將來國鐵伊豫線ノ全通スルニ於テハ四國及南九州ノ旅客ハ必ズヤ今治尾道線ニ據リテ山陽線ニ連絡スベク然ルトキハ彼ノ高松、宇野線ニ據ルニ比シ阪神地方ニ到達スル時間ヲ節スルコト必然ナルベシ

當地方ノ發達ハ主トシテ製織業ニ起原シ今ヨリ約三百年前中御門天皇ノ御宇柳瀬義達ガ地方産業振興ヲ圖リ細民婦女子ニ勸奨シテ白木綿ヲ製織セシメタルニ起因ス爾來斯業ハ一進一退明治年間ニ至リテ全ク不況ニ陥リタリシモ同十七、八年ノ頃故矢野七三郎氏奮然意ヲ決シ當時流行セシ「紀州ネル」ノ製織ニ著眼シ自ラ產地ニ到リテ其製織法ヲ習得シ歸來之ヲ細民婦女子ニ授ケ其悲境ヲ救濟シタル以來斯業ハ益々堅實ナル發達ヲ遂ゲ現時「伊豫ネル」ノ名稱ハ織物界ニ於テ頗ル重キヲ加ヘ販路モ亦海外ニ發展スル

ノ盛況ヲ爲スニ至レリ故ニ此地ハ古來商業地ヲ以テ其名ヲ知ラレ夙ニ松山市ヲ凌駕シ最近ニ於ケル發達ハ一轉シテ商工業地ト目サレ人口約三萬五千ヲ有シ市街頗ル殷賑ヲ極ム今ヤ今治市ハ機業地トシテ本邦屈指ノ地ト稱セラレ從テ船舶ノ出入、貨物ノ吞吐、旅客ノ交通頓ニ増加シ此趨勢ヲ以テ進ムトキハ四國四縣中其首位ヲ占ムルノ期強チ遠キニ非ラザルベク而シテ本港ハ大正十一年二月開港場トナリ次第第二種港灣ニ指定セラレタルヲ以テ見ルモ港灣設備ノ必要蓋シ目睫ノ間ニ迫レルモノト謂フベシ本工事ハ今治市ニ於テ大正九年度ヨリ同十二年度ニ至ル繼續事業トシテ棧橋、防波堤、築造及浚渫、埋立等ノ工事施行中ノ處該計畫ヲ左記ノ如ク變更及擴張スルモノトス

船入場ハ天保山ニ於ケル防波堤根元ヨリ南東ニ向ツテ百間之ヨリ略南西ニ向ツテ一線ヲ畫シ尙之ニ連續シテ内港ノ周圍ニ物揚場又ハ護岸ヲ築キ住吉町附近ヲ掘鑿シテ在來ノ内港入口幅員五十間ヲ八十間ニ取擴メ一面中洲ヲ掘鑿除却ノ上現在ノ船溜幅二十五間ヲ平均四十六間トシ内港水面積現在約五千坪ヲ一萬六千七百坪ニ擴張シテ干潮面下九尺ノ水深ヲ保タシメ以テ帆船小蒸汽船ノ繫留荷役ノ用ニ供ス

浚渫工事ハ元今治地先前面ニ於テ防波堤トノ間ニ介在セル港内水面積三萬七千二百七十坪ノ内水深大ナル沖合部一萬六千餘坪ヲ干潮面下二十一尺ニ浚渫シ三千噸級汽船ノ出入ニ便ナラシメ尙殘餘ノ水面ハ同十八尺以上ニ其他ハ同五尺ニ浚渫シ更ニ内港部ハ同九尺ニ浚渫若クハ掘鑿スルモノニシテ此總土量十四萬二千三百二十四立坪トス但シ陸地ニシテ掘鑿ノ上海面トナル部分ノ面積ハ八千七百餘坪ナリ埋立ハ港内ノ浚渫掘鑿ヨリ生ジタル土砂ノ一部ヲ以テ大字藏敷地先東側沿岸ニ面積二萬二千八百三十坪ノ埋立ヲ爲シ以テ倉庫、上屋及臨港鐵道ノ敷地ニ充テ又元今治地先ニハ海岸ニ併行シテ護岸ヲ築造シ其内方ノ面積五千六百六十坪ヲ埋立テ更ニ内港部ニ於テ大手通惠比須町及新町地先ニ面積四千三十餘

坪ヲ埋築スルモノトス此總土量ハ六萬四千八百八十二立坪ナリ
岸壁及物揚場及護岸トシテハ天保山地先ニ三千噸汽船一隻、一千噸級汽船二隻ヲ同時ニ繫留シ得ベキ長
百二十間、水深干潮面下二十一尺及十八尺ノ岸壁ヲ築造シテ將來敷設セラレベキ臨港鐵道トノ聯絡ニ便
センガ爲メ内港周圍ニ水深九尺ノ斜面物揚場延長五百五十間餘ヲ設ケ其他元今治地先海岸長三百三十
間及藏敷埋立地先海岸長五百間竝内港ノ一部ニ互リ總延長一千五百間餘ノ護岸工事ヲ施行スルモノト
ス
浮棧橋ハ元今治地先ニ縱型棧橋ヲ三箇所ニ配置シ其長各四十間、幅各五間、但シ浮函長三十間、幅五間、此面
積百五十坪トシ之ヲ約四十間ヲ隔テ橢形ニ併行突出セシメ小型汽船及一千噸級船舶ノ碇繫荷役竝旅客
ノ乗降ニ供スルモノトス

施工狀況

本年度ノ施工ハ港内ノ浚渫元今治地先ノ埋立竝護岸築造ヲ初メトシ第二、第三縱棧橋築造工事ノ橋臺二
箇所ヲ完成セシメ直營ニテ割石砂利ヲ採取シ尙年度初期ニ於テ大字新町地内ニ於ケル用地ヲ買收シ兼
テ地上物件ノ移轉ヲ完了シタリ以下其概要ヲ記述スベシ
浚渫ハ元今治地先ニ於ケル港内東方部ヲ「ブリストマン」式浚渫船第一號及第二號ノ二隻ヲ運用シテ干潮
面下十八尺ノ水深保持ノ目的ニテ施工シ土量二萬五千二十立坪ヲ浚渫シ内一千百五十七立坪ヲ元今治
地先埋立ニ利用シ二萬三千八百六十三立坪ハ之ヲ港外ニ投棄セリ此工費三萬四千八百九十八圓ヲ要シ
タルヲ以テ一立坪當リハ一圓三十錢四厘ナリ

埋立ハ元今治地先ニ於ケル護岸背面ノ埋築ニシテ浚渫土砂ノ利用ニ屬ス前年來ノ繼續ニシテ本年度ハ下埋ニ三百八十九立坪、上埋ニ七百六十八立坪、計一千百二十五立坪ノ功程ナリ而シテ下埋ニハ浚渫土砂ヲ土運船ニ受ケ運搬シタルモノヲ其儘搔キ落シタルヲ以テ工費ヲ要セザルモ上埋ハ之ヲ更ニ擔ヒ揚ゲタルガ故ニ之ニ對シ工費一千五百二十五圓ヲ要シタルヲ以テ此一立坪當リハ一圓九十八錢五厘更ニ全土量ニ對シテハ一圓三十一錢八厘ナリ

護岸ハ天保山ヨリ突出セル既設東防波堤ト相對シ元今治地先ノ海岸一帶ヲ干潮面上十五尺ニ埋立テ其沿岸ノ擁護ヲ兼ネ一面舢舨ノ繫留シ得ベキ計畫ニシテ其總延長三百三十間ノ内東方ヨリ約百七十間ニ對シ大正十二年十二月一日ヨリ著手シ爾來引續キ施工中ノ處一連ノ橫棧橋ヲ二條ノ縱棧橋ニ變更ノ結果本護岸ニモ設計變更ヲ要シ本年度ハ基礎荷重及方塊沈積共各三十五間、上部壁體三十二間及所要方塊百四十八個ヲ製造シテ實施ノ都合上爾餘ハ打切り之ヲ竣功セシメタリ此直接工費ハ九千五百七十八圓ナリ〔棧橋ハ第二、第三縱棧橋ノ橋臺二箇所ヲ築造スルモノニシテ大正十三年十二月ヨリ起工シ前年中各一箇所分ト所要方塊六十六個ヲ製造シタリシガ本年度同一箇所分即チ基礎荷重及方塊沈積ト所要方塊八十四個ヲ製造シテ之ヲ完成セシメタリ此直接工費ハ七千五百五十八圓ナリ

用地買收ハ前年度ヨリ繼續シテ大字新町地内ノ用地竝地上物件ノ移轉等何レモ順調ニ進捗シテ大正十四年六月中全部ヲ完了スルニ至レリ此支出金用地費四萬三千八百七十五圓ニシテ物件移轉費一萬一千百五十五圓、合計五萬五千二十九圓ナリ

材料採取中割石ハ今治港ヲ距ル海上約二湮半ノ地點立山採石場ヨリ爆藥及人力ヲ以テ採取シ運搬船ニ積込ミ曳船ヲ介シテ今治港ニ曳航シ之ヲ各所要工事ニ配給シタルモノニシテ本年度四百九十六坪五八

ヲ採取ノ上輸送ヲ遂ゲ且全部使用セリ此工費五千八百八十三圓ナルヲ以テ一立坪當リハ十一圓八十四錢七厘ナリ

砂利ハ總社川ヨリ人力ニテ採取陸上シ之ヲ牛馬車ニテ藏敷地内ノ置場へ運搬セリ本年度ノ採取ハ百六十二坪二合ニシテ工費一千九百十三圓ヲ要シタルヲ以テ一立坪當リハ十一圓七十九錢六厘ナリ

砂ハ「ブリストマン」式浚渫船ニテ港内適宜ノ箇所ヨリ採取陸揚ゲセリ本年度ハ五十九坪一五ヲ採取シテ工費七十九圓ヲ要シタルヲ以テ一立坪當リハ一圓三十四錢三厘ナリ

雜件ニ係ル船舶及機械費トシテハ本港專屬ノ機械工場無キヲ以テ常時生ズル小修繕ヲ直營ニテ施工シ以テ運用上遺憾無キヲ期シタリ此直接工費四千二百三十二圓此外請負施工竝購入七千九百八十八圓ヲ算スルヲ以テ本年度ノ支出高ハ一萬二千二百二十圓ナリ

營繕費ハ直營ニテハ方塊製造場ノ模様替ヲ爲シ之ニ伴ヒ「セメント」小屋及「ミキサ」小屋ヲ移轉シ在來ノ方塊積出棧橋ノ不要ニ屬シタル一部ノ除却ヲ行ヒ尙請負ニテ建物ノ移轉ヲ爲シタル工費百十一圓ヲ合シ計四百八十四圓ヲ支出シタリ

其他ノ工事外ノ事務所雜費二千三百七十七圓現場監督用發動機船ノ運轉費七百二十八圓天保山ニ埋立テ土砂ノ流出ヲ防禦スル爲假締切堤十六間ヲ築造シタル工費二百五十八圓港内ノ地質調査費一千百二十六圓「セメント」二十萬疋火山灰三萬疋ノ試驗費二百七圓ヲ支出シタル外工事外諸費計一萬一千八百二圓ヲ要シタルヲ以テ本年度雜費ニ屬スル支出合計ハ一萬六千四百九十八圓ナリ

以上本港修築ニ係ル本年度ノ竣功高ハ十四萬六千三百八圓ニシテ其累計額四十二萬五千五百八十八圓ニ達ス之ヲ總工費二百八十一萬七千圓ニ對比スルトキハ一割五分ノ功程ナリ其竣功表即チ左ノ如シ但シ「×」ハ直

第四章 港灣改良工事（今治港修築工事）
營採取材料代ナリ

種別	前年度迄竣功高		本年度迄竣功高		合計		歩功合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本浚	三五、八七八 <small>立坪</small>	五四、〇〇三 四	二五、〇二〇 <small>立坪</small>	三四、八九八 四	六〇、八九八 <small>立坪</small>	八八、九〇一 四	〇・三一
工埋	二四、六七三	三、三九四	一、一五七	一、五二五	二五、八三〇	四、九一九	〇・〇七
事護		九四、九六〇		七、五五八		一〇二、五一八	〇・四四
船及		五、八六六		三、一七八		九、〇四四	〇・二二
營繕		四、五〇一		四、九五〇		九、〇四四	〇・二二
用地		一七、七三七		四、九五〇		二二、六八七	〇・二二
施行中諸費		一九、〇一〇		一、二二〇		二〇、二三〇	〇・二二
費用		五、五一〇		四、八四八		一〇、三五八	〇・三三
共濟組合給與金		四、一〇三		五五、〇三〇		五九、一三三	〇・〇七
材料費		二二、七〇八		一六、四九八		三九、二〇六	一・〇九
砂割	一、六〇三	九八一	四九七	六四一	二、一〇〇	一、六二二	〇・二七
砂利	六三一	一五、六一四	一六二	五、八八三	七九三	二一、四九七	
總計	二六九	四、五九九	五九	七九	三二八	五三八	
總計		二七三、七五〇 二二三、六一三 三		一四六、三〇八 八、一三六 八		四二〇、〇五八 三一、七四九 九	〇・一五

第一四 鹿兒島港修築工事

(下關土木出張所)

緒言

本工事ハ鹿兒島縣ノ事業ヲ内務大臣ニ於テ直接施行スルモノニシテ總工費三百萬圓、内半額ハ國庫ノ補助ニ屬シ、大正十二年度ヨリ同十八年度ニ至ル七箇年度ノ繼續事業トシテ施工ノ計畫ナリシモ同十四年度ニ於テ事業繰延ノ爲メ竣功期限ヲ同二十一年度迄延長スルコトナレリ

港狀及計畫ノ大要

本港ハ九州南部ノ重要港灣ニシテ其背面地域ニ鹿兒島、宮崎ノ二縣ヲ加ヘ沖繩、大島、其他南海諸島ニ至ル唯一ノ港灣ナリ

本港ハ舊藩政時代ヨリ夙ニ港灣ヲ修築シ三五郎波止、新波止、一丁臺場等ノ防波堤ヲ築設シテ北東及南東ノ激浪ヲ防ギ船舶ノ碇繫ニ利便セシモ爾來歲月ノ經過ニ從ヒ港内漸ク埋沒シ船舶ノ出入ニ困難ヲ感ズルニ至リタルヲ以テ更ニ明治三十三年度ヨリ同三十八年度ニ互リ縣費八十五萬圓ヲ投ジ大ニ港内ノ浚渫ヲ行ヒ船舶ノ碇繫、貨物ノ集散ニ多大ノ便宜ヲ得稍々面目ヲ新ニセリト雖モ輓近内外通商貿易ノ發達ハ出入船舶ノ増加ト船型ノ増大ヲ來シ殊ニ沖繩、大島諸島ノ開發ト本港背面地域ノ鐵路ノ延長ト相俟チ本港將來ノ貿易額ノ激増ヲ來スベキヲ以テ本港ノ現狀ニテハ到底其使命ヲ完フスル能ハズ之レ本計畫ノ起リシ所以ニシテ其計畫ノ大要左ノ如シ

岸壁ハ辨天島臺場ノ一部ヲ取除キ錦江橋ヨリ同臺場ノ南東端ニ長二百十間水深干潮面下二十四尺ノモ
 ノヲ設ケ三千噸級船舶二隻ノ同時繫留ノ用ニ供シ尙其南西ノ側ニ延長百間水深干潮面下九尺ノ岸壁ヲ
 設ケ二百噸内外ノ船舶繫留ノ用ニ供ス

埋立ノ前記二十四尺及九尺兩岸壁ノ間面積約六千坪ヲ埋築シ上屋、倉庫、其他ノ敷地ニ供ス
 掘鑿及浚渫ハ辨天臺場新波止及洲崎町埋立地ノ各一部ヲ掘鑿シ生産町前面港内約二萬五千坪ヲ水深干
 潮面下二十四尺ニ住吉町船溜約五千坪ヲ水深干潮面下九尺ニ洲崎町埋立地一部掘鑿箇所ハ水深干潮面
 下七尺ニ浚渫ス

棧橋ハ現在ノ汐見町地先ノ棧橋ヲ住吉町地先ニ移轉シ尙新ニ小川町地先ニ一個ヲ設ク
 尙必要ニ應ジ防波ノ爲メ將來一丁臺場ノ南端ヲ延長セントス

施工狀況

本年度ニ於テハ昨年外國ヨリ到着シタル搔揚式浚渫機ヲ据付クベキ船體ノ建造及其据付ヲ完成シ著工
 シ得ル運ビニ至リタルモ偶修築計畫變更ノ議起リ年度内ニ決定ヲ見ズ從ツテ未ダ工事ニ著手スルニ至
 ラズ

本年度竣功高ハ二十九萬七千五百九十八圓（事務費及現在物品代價ヲ除ク）ニシテ創業以來本年度迄ノ累
 計ハ三十二萬八百九十二圓（同上）ヲ算シ工費總豫算二百八十萬五千六百圓ニ對シ一割一分強ノ竣功ナリ
 其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「△」ハ評價品見積價額ナリ

第四章 港灣改良工事 (鹿兒島港修築工事)

種別	前年度迄竣工高		本年度竣工高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費		五、七六五 <small>円</small>		二九三、八〇一 <small>円</small>		二九九、五六六 <small>円</small>	
營繕費		一、三七四五		一六八		一三、七四六	
施行中諸費		三、七六五		三、七三六		七、五〇一	
共濟組合給與金		一九		六〇		七九	
總計		二三、二九四		二九七、五九八 一六八八		三二〇、八九三 一六八八	〇・二

第一五 小松島港修築工事

(神戸土木出張所)

緒言

本港ハ明治四十四年度ヨリ徳島縣ニ於テ港灣修築ニ關スル調査ヲ開始シ大正二年度ニ至リテ工費十四萬四千六百餘圓ヲ投ジ工期四箇年度ヲ以テ内港部ノ整理修築ヲ遂行シ次テ同六年度ヨリ同十年度ニ互リテ更ニ工費十九萬九千四百餘圓ヲ以テ港口ヲ扼スル南北兩突堤ヲ増築シタル外海底ノ浚渫ヲ施シタル結果現ニ一千噸級ノ汽船ノ出入ヲ容易ナラシメタリト雖モ最近同港發展ノ趨勢ハ尙進ンデ現設備ノ擴張ヲ促スヤ急ナリ茲ニ於テカ徳島縣ハ本港將來ノ發展ニ資スベキ新計畫ヲ樹テ更ニ總工費三百二十萬二千圓(内俸給及事務費十九萬一千圓ヲ含ム)ヲ豫想シ其半額ハ國庫ヨリ補助ヲ得同十二年度ヨリ同二十一年度ニ至ル十箇年度ノ縣營繼續事業(當初ハ大正十二年度ヨリ同十九年度迄八箇年度ノ工期ナリシガ財政ノ都合上二箇年度延長)トシ且同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ基キ内務大臣ニ於テ直接本事業ヲ施行スルニ至レリ

港狀並計畫ノ大要

本港ハ四國ノ東部北緯三十四度東經百三十四度三十六分ニ位シ阪神兩港トノ聯絡ヲ初メ夙ニ本邦沿岸各地トノ交通開ケ四國東岸唯一ノ重要港灣ナリ而シテ本港ノ外港部タル小松島灣ハ北東ニ向ツテ展開シ北西東山岬ト東方和田鼻トハ相對峙シテ港口ヲ扼シ其幅員約一千五百間ヲ有ス灣内水深クシテ大船

巨船ノ出入碇泊ニ適シ天然ノ良灣ヲ形成スレドモ其内港部ハ僅ニ神代瀬川河口ヲ利用スルニ過ギザルヲ以テ深度不充分ニシテ海陸聯絡設備整ハズ小型船舶ニシテ尙且出入自由ナラザルノ憾アリ然レドモ近時商工業ノ著シキ發展ハ出入船舶及貨客ノ増加ヲ來シ現在ノ内港設備ニテハ既ニ陝隘ヲ告ゲ到底時代ノ趨勢ニ順應スル能ハズ加フルニ近キ將來阿土鐵道完備ノ曉ハ愈々本港ハ四國ノ東門ヲ司リ本州トノ聯絡ハ益重要ナル地位ヲ占ムルニ至ルベキヲ以テ之ガ修築ノ擴張ハ本港ノ最モ急務トスル處ナリ即チ計畫ノ大要ヲ左ニ記述スベシ

防波堤ハ現在港外北東突堤部ヨリ長九十一米ヲ施設シ又東方ハ長五百八十米ヲ築造シ港内幅員二百七十三米ヲ保タシム此港門ハ將來必要アルトキハ之ヲ百八十米ニ短縮シ北防波堤ヲ更ニ約九十一米ヲ増築スルモノトス而シテ此兩防波堤ニ依リ包擁セララル水面積ハ約六十四萬一千三百方米トス

岸壁ハ現在繫船岸ノ北側ナル池沼及耕地ヲ浚渫シテ凹字形ノ船溜ニ設ケ其周圍ニ岸壁ヲ築造ス船溜ハ東部入口ニ於テ幅員百二十七米西部ニ於テ九十一米トシ岸壁ハ入口ニ近キ北側百二十七米南側百二十九米ハ千潮面下六米四ニ其奥北側十一米南側九十二米ハ五米五ニ築造シ其兩側ニ二千五百噸級汽船二隻、一千五百噸級汽船二隻ヲ繫留シ得ベカラシメ尙凹字形ノ前面南方ノ岸壁ハ帆船又ハ小型汽船繫留ノ便ニ供スル爲メ水深三米ニ築造ス

浚渫及掘鑿ハ港内約三十九萬六千七千方米ヲ千潮面下六米四ニ浚渫シ又現在港内南隅ノ田面約一萬四千九百方米ヲ水深千潮面下二米五ニ掘鑿シ漁船ノ繫留場ニ充ツルモノトス

埋立ハ岸壁左右ノ耕地ヲ埋立テ工場敷地トシテ工事完成後ハ鐵道敷地上屋及倉庫等ノ敷地ニ充テントス

施工狀況

本年度ハ浚渫工事ヲ主トシ其土砂利用ノ目的ヲ以テ一部埋立工事ヲ施行シ兼ネテ割石採取ニ關スル準備及構造物築設ノ位置ニ對シ耐荷力試験ヲ施シタル外用地買收ニ關スル基礎調査ヲ進メタリ以下其概要ヲ記述スベシ

浚渫ハ港内浚渫計畫ノ一部ヲ朔望平均干潮面下五米ニ浚渫シ土砂十萬三千四百三立米ノ内三千二百三十立米ヲ埋立ニ利用シ十萬百七十二立米七ハ之ヲ港外ニ投棄シタリ所要船舶ハ鋤鏈式浚渫船第一安治川丸ヲ運用シ土運船ニ積ミ込ミ曳船ヲ介シテ處理セリ此工費三萬五千三百五十四圓餘ヲ要シタルヲ以テ十立米當リハ三圓四十一錢九厘ナリ

埋立ハ前年度ニ繼續シテ沿岸埋立計畫ノ一部ヲ朔望平均干潮面上三米ニ埋立テ材料置場及道路開設ニ供スルモノニシテ浚渫土砂三千二百三十立米三ヲ利用埋築セリ主トシテ「ドコーピール」ヲ使用シ人力ニテ運搬ス此工費四千二百二十六圓ニシテ十立米當リハ十三圓八錢ナリ

準備工トシテハ耐荷力試験ハ防波堤岸壁及物揚場築造位置十九箇所ニ對シ地質ノ調査及耐荷力試験ヲ施工シ石材採取用地ニ火藥類假貯藏所設置ノ爲メ同地ニ山地切取り地形工事ヲ施シ一面割石採取ノ前提トシテ石山ノ表土取除工事等ヲ進メ兼テ用地買收準備トシテ計畫法線ノ表示用地ノ測定及公簿ノ調査校合等ニ著手セリ

船舶機械ハ其主要ナルモノハ借入品ナルヲ以テ本年度ハ鋼製六十立米積底開土運船二隻ノ建造計畫ヲ樹テ之ヲ請負ニ付シ年度内之ヲ納受セリ

要スルニ本港ハ起工後第三次ノ年度ニ該當スルモ今ヤ尙準備時代ノ觀在リテ其程度半バニモ達セザルノ憾アリ是レ蓋シ豫算年割ノ關係上事情已ムヲ得ザル所ナラン乎
 以上諸工事ヲ施行シタル本年度ノ竣功高ハ九萬七千八百八圓ニシテ竣功累計ハ十六萬八千五百八十七圓ナルヲ以テ總工費三百一萬一千圓ニ對比スルトキハ約零割六分ノ竣功歩合ナリ即チ左表ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本港浚深費	三六、九一八	一四、五六〇	一〇三、四〇三	三五、三五四	一四〇、三二一	四九、九一四	〇・一一一
工事立費	五、五五五	三、三六九	三、三三〇	四、二二六	八、七八五	七、五九五	〇・〇〇九
用地費	四、七七七	五、七三五			四、七七七	五、七三五	〇・〇〇四
船舶及機械費		二四、六六八		四八、五八六		七三、二五四	〇・一七
施行中諸費		一六、三〇一		八、〇三〇		二四、三三一	〇・二六
營繕費		二、〇三三		一五四		二、一八七	〇・一一
測量及檢潮費		三、五七五		三三六		三、九一一	〇・一四
共濟組合給與費		五三八		六九七		一、二三五	〇・三三
材料費				四二五		四二五	
總計		七〇、七七九		九七、八〇八		一六八、五八七	〇・〇六

第一六 伏木港修築工事

（新潟土木出張所）

緒言

本港ハ富山縣ノ南西隅庄川ノ河口ニ位シ古ヨリ裏日本ニ於ケル良港ノ一トシテ其名高ク維新後益發展ノ域ニ至リ舊來ノ設備ニテハ荷役ノ困難ヲ感ジ遂ニ明治三十三年度ニ政府ハ同港ニ注入スル庄川ノ改修工事ヲ施行スルト共ニ現今ノ如ク庄川ト分離セシメテ一面棧橋、繫船岸、突堤、浚渫等ノ諸工事ヲ施シ以テ港内設備ヲ完備シ三千噸級ノ船舶ハ優ニ出入シ得ラレ昔日ノ僻ヲ一新セリ然ルニ近時港勢大ニ進ミ近港ナル新潟、七尾、敦賀等ノ諸港ヲ凌駕シ既往ノ設備ニテハ將來港灣ノ使命ヲ全フスルヲ得ザルベキニ依リ富山縣ハ更ニ擴張計畫ヲ企テ政府ニ稟請セシ處明治三十年法律第三十七號第一條ニ依リ大正十三年度ヨリ大正二十四年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシ工費豫算四百六十六萬九千圓（事務費ヲ除ク）ヲ以テ大正十三年十一月一日ヨリ直接施行スルコトナレリ

港狀並計畫ノ大要

本港ハ富山灣ノ中樞ヲ占メ小矢部川ノ水運ヲ利用シ舊庄川ノ河口ニ發達セル港市ニシテ海岸ヨリ三百六十三米六ヲ隔テ水深六米夫ヨリ海底緩ニシテ約一千八百十八米ヲ離レ水深十五米乃至十八米、新湊方面ハ三百六十三米六ノ沖ニテ二十一米以上四十五米五ノ水深ヲ保ツ又庄川河口約二千三百六十三米六ノ所ハ俗稱藍甕ト稱シ水深三百三米以上ニ達スル深所ヲ有ス小矢部川ハ源ヲ加賀國境大門山ノ東麓

ニ發シ北流十數里ノ間東西兩礦波郡ノ平野ヲ貫流シ幾多ノ細流支川ヲ合セ本港ニ注グ其水量豐富且浚流ナルヲ以テ舟楫ノ便良ク本川左右沿岸庄川以西高岡以北ノ貨物ヲ蒐集スル自然ノ良港ヲ爲スヲ以テ寛文年間幕府ハ内國ニ十三港ヲ指定セル時本港モ又其一ニ列セラル夫ヨリ後天保弘化年間ニ佐渡ニ次デ大阪ト共ニ開航シ益々港灣ノ眞價ヲ認メラレタリ明治八年三菱會社ノ汽船入港ヲ始メトシ九州新寮ノ汽船亦毎月寄港シ逐年發展ヲ促シ東京大阪下關北海道ノ各港沿海州薩哈噠朝鮮等ト通航シ船舶ノ出入頻繁トナリシモ本港ハ庄川ノ河口ニ位シ年々同川ヨリ流出スル土砂ノ爲メ河口埋塞セラレ僅ニ百噸内外ノ船舶ヲ繋グノミナリキ然ルニ同三十三年度庄川改修工事ヲ施行スルニ方リ本港ノ修築ヲ爲シ庄川ト小矢部川トヲ分離シ土砂ノ流入ヲ防ギ港口ニ防波堤ヲ内港ニ岸壁ヲ築造シ水深維持上浚濶ヲ施ス等港灣ノ設備ニ意ヲ注ゲリ復富山縣ハ橫棧橋上屋ノ建設軌條ノ敷設ヲ爲シ中越線ト連絡ヲ保チ荷役ニ便ナラシメ本港面目ノ一新ニ努力セシヲ以テ船舶及貨物ノ出入激増シ大正元年ニ二十六萬五千噸ニ過ギザリシガ爾來逐年多キヲ加ヘ大正十年ニハ七十萬噸ニ及ビ其增加率ハ毎年一割二厘ニ相當セリ而シテ今後如何ナル率ヲ以テ増加スベキカハ素ヨリ推定スルコト頗ル困難ナリト雖モ本計畫ニ於テハ飛越鐵道ノ完成縣内諸工業ノ發達及新潟敦賀ノ二港ニ於ケル擴築工事竣功後本港ガ受クベキ影響等ヲ考察シ增加率ヲ八分ニ算定セリ即チ大正十年ニ於ケル輸出入貨物合計七十萬噸ヲ標準トシテ今後八分ノ増加ヲ示スモノトセバ大正二十年ニハ百五十一萬餘噸ニ達スベキヲ以テ本計畫ニ於テハ百五十萬噸ヲ基礎トシ之ニ應ズル設備ヲ爲スモノニシテ伏木河口ヨリ國有鐵道中越線小矢部川鐵橋間ヲ内港區域トシ水深ノ増加ヲ圖リ船舶繫留區域ヲ擴大シ繫船岸延長増加ノ目的ヲ以テ船渠ノ新設棧橋及繫船壁ノ増築ヲ爲シ接岸荷役能率ノ増進ヲ圖ラントス

防波堤ノ擴築トシテハ左岸ニ於ケル現在ノ防波堤ヲ三十六米延長シ其根元三十六米ヲ改築ス而シテ右岸防波堤ハ之ヲ九十一米擴築シ左岸防波堤トノ間ニ港口幅員百五十四米五ヲ存セシメ以テ港口ニ生ズル土砂ノ堆積ヲ防ギ且右岸新湊海岸ヨリ移動シ來レル土砂ノ侵入ヲ防止スルモノトス

横棧橋ノ増設ハ左岸伏木港地先防波堤根元附近ヨリ現在横棧橋ニ至ル間ニ水深八米五ノ横棧橋長百四十五米五、同七米八ノ横棧橋長百九米及右岸新湊町地先渡船場上流ニ於テハ水深八米五ノ横棧橋長百四十五米五、ヲ新設シ其後方ニハ上屋倉庫ノ建設軌條ノ敷設及道路築造等ニ必要ナル地積ヲ存セシムルモノトス船渠ノ新設ハ右新湊町六渡寺地内縣有貯木場ヲ利用シ入口ニ於テ幅員百九米、後方ニ於テ幅員九十一米、奥行二百十八米ノ船渠ヲ新設シ其兩岸ニ水深七米、延長各二百十八米ノ繫船壁ヲ築造シ接岸船ノ便ニ供シ其奥ニハ延長百三十六米ノ物揚場ノ後方ニハ上屋倉庫ノ建設、軌條ノ敷設及道路ノ築造等ニ必要ナル地積ヲ存セシムルモノトス尙以上ノ外伏木橋上流右岸舊庄川落口附近ヨリ國有鐵道中越線小矢部川鐵橋ニ至ル間ニ於テ各入口幅百九米、奥行二百五十四米五及三百二十七米入竝口幅百二十七米、奥行二百十八米ノ三船渠ヲ新設シ左岸鐵道橋下流ニ於テモ入口幅九十米、奥行百九米ノ船渠ヲ新設スルモノトス而シテ此等船渠ハ總テ假工事ヲ爲スニ止メ專ラ木材置場ニ供シ將來港ノ發展ニ裨ヒ其周圍ヲ繫船壁ニ改造スルモノトス

浚渫ハ港口ヨリ上流約六百三十六米、四迄ヲ水深八米五ニ夫ヨリ上流九十一米迄ヲ七米八ニ其上流二百七十二米七ヲ七米ニ新湊町地内新設船渠ヲ八米五ニ浚渫シ伏木港上流ニ新設ノ四船渠ハ之ヲ水深一米ニ浚渫スルモノトス

埋立ハ新湊町六渡寺地先右岸防波堤ヨリ庄川左岸ニ至ル間約六萬六千百十五立米ヲ浚渫ニ依リ生ジタ

ル土砂ヲ利用シ埋築スルモノトス

施工狀況

本工事ハ著手以來日尙淺ク本年度施行セルハ單ニ浚渫工事ノミ而シテ本年度ニ於テハ今後本工事施行ニ際シ必要ナル實測圖ヲ得ンガ爲メ修築計畫區域内一圓ノ平面測量竝小矢部川城光橋ヨリ河口ニ至ル間及河口附近海岸ノ深淺測量ヲ爲セリ尙此外本年四月一日伏木町ニ土地收用事務所ヲ設ケ諸般ノ調査ヲ爲シ其結了ヲ俟チテ買收移轉等ヲ實施セリ今其施工ノ概要ヲ左ニ述ベン

浚渫工事ハ前年度ニ引續キ自走ポンプ式カッター付浚渫船神通丸ヲ使用シ河口ヨリ上流既設縣營棧橋ニ至ル區間即チ主トシテ水深八米五浚渫區域内ニ生ゼル淺瀬數箇所ニ亘リ之ヲ豫定ノ深八米五ニ浚渫シタルモ目下ノ場合ハ現在ノ水深六米八ヲ維持スル程度以上餘リニ多クヲ望ムコト能ハズシテ同一箇所ヲ數回繰返ヘシ浚渫シテ後初メテ豫定ノ深サニ達スベキモノト思ハザルベカラズ而シテ本年度ニ於テハ神通丸ハ七月二十一日ヨリ作業ヲ休止シ同二十三日伏木港發新瀉ニ廻航シ信濃川河口機械工場ニ於テ修理ヲ加ヘ九月二十四日伏木ニ歸港同二十六日ヨリ作業ヲ始メタルヲ以テ此間全ク休業セリ本年度就業日數百九十二日浚渫土量十九萬三千九百九十九立米ニシテ工費二萬四千五百五十八圓餘ヲ費セリ一立米當リ十二錢七厘弱ナリトス

土地買收ハ伏木町、湊町、新湊町、中伏木、中伏木新、六渡寺各地内ノ調査ヲ爲シ大正十五年二月其一部九百十五方米六ノ買收ト物件移轉トヲ施行シ經費二萬九千五百六十五圓ヲ支出セリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ十萬六千二百二十八圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ十二萬六千七百八十

三圓ナリ之ヲ總工費豫算四百六十六萬九千圓ニ比スレバ零割三分ノ竣功ナリ今其工事竣功表ヲ示セバ左ノ如シ

種別	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
浚渫費	六五、六七二 <small>粒</small>	八、七〇九 <small>円</small>	六八〇、五三五 <small>粒</small>	二四、五五八 <small>円</small>	七四六、二〇六 <small>粒</small>	三三、二六七 <small>円</small>	〇・一九 <small>割分</small>
用地費				二九、五六五		二九、五六五	
船舶及機械費		六、九五三		二七、八四六		三四、七九九	
施行中諸費		四、八九三		二四、二五九		二九、一五二	
總計		二〇、五五五		一〇六、二二八		一二六、七八三	〇・〇三

第五章 復舊工事

第一 相模川外四河川流域震災復舊砂防工事 (東京土木出張所)

緒言

本工事ハ大正十三年度ヨリ同二十二年度ニ至ル十箇年度繼續事業ニシテ總工費四百九十八萬六千八百七十一圓(内事業費四百五十五萬圓、事務費四十三萬六千八百七十一圓)ヲ以テ施行スルモノトス本工事費ハ震災府縣ニ於テ其負擔ニ耐ヘザルヲ以テ全部之ヲ國庫支辨トセリ

河狀並計畫ノ大要

相模川流域中工事ヲ施行セントスル區域ハ支流道志川、中津川、桂川及笹子川トス道志川ハ源ヲ甲斐山伏峠ニ發シ道志丹澤兩山塊ノ溪間ヲ北東ニ貫流シ山梨、神奈川ノ縣界ニ於テ丹澤山塊ノ盟主蛭ヶ嶽(標高一千六百七十三米)ヨリ發スル大支流神ノ川ヲ合セ以下蛇行シテ津久井郡三澤村地先ニ至リ相模川ニ合流ス流域面積百四十四方籽、流路延長四十三籽在リ流域内山地ハ御坂層及石英閃綠岩ヨリ成リ地勢急峻ニシテ林相良好ナラズ震災ニ因ル山地ノ崩壞ハ右岸ナル丹澤山塊ニ於テ甚シク殊ニ神ノ川流域山地ノ如キハ其面積ノ約三割ヲ崩壞ニ歸セシメタリ本川ハ横濱市水道ノ水源地ニ當リ市ニ對シ極メテ密接ナル關係ニ在リ然ルニ震災以來河水濁甚シク之ガ沈澄ニ市ハ多大ノ經費ヲ費シツツ在リ其復舊ハ一日モ

猶豫スベキニ非ラザルナリ本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費八十萬圓ヲ以テ本流ニ五箇所、支流神ノ川ニ四箇所、同室久保澤ニ二箇所、同西ノ澤、井口澤、横山澤、此間澤、大群澤、椿澤及三ヶ瀬澤ニ各一箇所、合計十八箇所ノ堰堤竝三ヶ瀬澤ニ二箇所ノ床固ヲ設置スルモノトス中津川ハ其上流ニ於テ大支流早戸川ヲ分岐ス本流ハ源ヲ丹澤山、塔ヶ嶽、大山等ニ發シ流路延長十五軒、宮ヶ瀬村落合ニ於テ早戸川ト合ス合流以奥ノ流域面積五十三方軒在リ流域内山地ハ從來森林密茂シ殆ンド崩壊無ク常ニ清澄ニシテ各所ニ深澤ヲ形成シツツアリシガ一朝大震災ニ會スルヤ全山到ル所大崩壊ヲ生ジ土石及倒木ハ河流ヲ堰キ宮ヶ瀬部落附近ニ於テハ一時間以上流水ヲ見ザリシト謂ヘリ而シテ十二年九月十五日ノ出水ハ再ビ多量ノ土石及流木ヲ下流ニ押送シ或ハ家屋ヲ流シ田畑ヲ埋メ河床ノ增高ハ下流ニ於テ二米、中流ニ於テ五米ニ達セリ早戸川ハ源ヲ蛭ヶ嶽、丹澤山等ニ發シ流路延長十二軒、流域面積三十七方軒在リ流域山地ノ大部分ハ鳥屋村々有林ニ屬シ官行造林ニ據リ年々杉及扁柏ヲ植栽シツツ在リシガ大震災ニ因リ崩壊最モ甚シク三方軒六ノ村有林中約其四割タル一方軒五ヲ崩壊ニ歸セシメタリ本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費六十萬圓ヲ以テ本流ニ七箇所、早戸川ニ八箇所、合計十五箇所ノ堰堤ヲ築設シ土石ノ流下ヲ防止セントスルモノニシテ本流ニ於テハ早戸川合流點上流二軒ヨリ七軒五ニ至ル區間ニ主トシテ施工ヲ爲シ早戸川ニ於テハ川口ヨリ上流二軒六ノ地點ヨリ始マリ其上流七軒ノ區間ニ六箇所ヲ尙支流宮ヶ瀬、金澤及水澤ニ各一箇所ヲ築設スルコトトセリ

桂川流域中崩壊最モ甚シキハ鹿留川及小佐野川トス鹿留川ハ源ヲ道志山塊皆形山ヲ發シ流路延長十一軒、東桂村落合ニ於テ桂川ニ注グ急流河川ニシテ流域面積三十八方軒アリ地質ハ支流倉見澤以奥石英閃綠岩、下流ハ凝灰岩トス大震災ニ因ル山地ノ崩壊ハ激甚ニシテ九月十五日ノ出水ニ際シテハ土石及倒木

ノ流出著シク大野ヨリ門原ニ至ル約二籽ノ區間ハ土石流ノ爲メ沿岸ノ耕地荒廢シ家屋流失シ從來十米ニ過ギザリシ川幅ハ一躍百米乃至五百米トナリ流身一定セズ今尙耕地ヲ脅シツツアリ本川砂防計畫ノ大要ハ工費二十二萬圓ヲ以テ鹿留川ニ五箇所、小佐野川ニ一箇所ノ堰堤ヲ築設セントスルモノニシテ鹿留川ニ於テハ大野部落ヨリ上流ノ本流ニ四箇所、支流倉見澤ニ一箇所ノ堰堤ヲ築設シ土石ノ流出ヲ防止シ以テ耕地ノ安全ヲ期セントス

笹子川ハ源ヲ笹子峠ニ發シ東南流シ追分ニ至リ狩谷澤ヲ合セテ東流シ笹子、初狩、廣里ノ諸村ヲ經テ大月ノ西部ニ於テ桂川ニ合流ス流域面積九十四方籽流路延長十五籽アリ震災ニ因ル崩壞ハ右岸ニ多ク就中右支柳澤辰己澤及庭洞澤ヨリ押出セル土石ハ九月十五日ノ出水ニ際シ中央線ノ鐵路ヲ埋メ汽車不通二日間ニ及ベリ本川砂防ノ計畫ハ本工事費五萬圓ヲ以テ辰己澤及庭洞澤ニ各四箇所ノ小堰堤ヲ築設シ流下土石ヲ扞止シ以テ鐵道ノ完全ヲ計ラントス

酒匂川ハ源ヲ丹澤山塊及富士山ニ發シ上流ニ於テ河内川及鮎澤川ノ二大支流ニ分岐ス工事施行區域ハ河内川及鮎澤川支流野澤川流域トス河内川ハ源ヲ中部及西部丹澤山塊ニ發シ上流ニ於テ玄倉、中世附ノ三川ニ分岐ス流域面積百七十二方籽アリ流域内山地ハ御坂層及石英閃綠岩ヨリ成リ之ヲ覆フニ火山灰ヲ以テス玄倉川ハ源ヲ蛭ヶ嶽、丹澤山、塔ヶ嶽等ニ發シ流路延長十七籽ニシテ中川ト共ニ河内川ニ合流ス流域面積四十六方籽アリ河床勾配ハ合流口附近ニ於テ約五十分ノ一トス中川ハ源ヲ大群山加入道其他ニ發シ流路延長十三籽ニシテ河内川ニ合流ス流域面積四十二方籽アリ世附川ハ源ヲ西丹澤山塊ニ發シ流路延長十四籽ニシテ河内川ニ合流ス流域面積六十七方籽アリ震災ニ因ル河内川流域山地ノ崩壞ハ極メテ甚シク震災地方第一位ニ在リ就中玄倉川水源山地ノ如キハ全山殆ンド崩壞シ盡シ慘憺タル光景ヲ

呈セリ而シテ震災直後九月十五日ノ出水ニハ多量ノ崩落土石ト倒木トハ山津浪ト成リテ下流ニ流下シ來リ沿岸各地ニ甚大ナル損害ヲ被ラシメタリ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費七十三萬圓ヲ以テ本支流適當ノ地點ニ大小十五箇所ノ堰堤ヲ築設シ河床ノ侵蝕ヲ防止スルト共ニ流下土石ノ扞止ヲ圖ラントス然レドモ以上ノ工事ハ此大面積ノ流域ト崩壞トニ對シテハ極メテ少量ニ過ギ其目的ヲ達スルコト困難ナリ依テ竣功後ハ更ニ數倍ノ追加工事ヲ必要トスルモノナリ

野澤川ハ源ヲ湯船山(標高一千四十二米)山伏山其他ニ發シ流路延長七粍小山町ニ於テ鮎澤川ニ合流スル小河川ナリ流域面積十四方粍アリ流域内山地ハ御坂層ヨリ成リ其上層ハ厚ク火山灰ヲ以テ被覆セラレ震災ニ因ル崩壞ハ相當激甚ナルモ地勢竝河床勾配緩ナルヲ以テ其被害ハ河内川流域ニ比シ遙ニ輕シ本川砂防計畫ノ大要ノ大要ハ本工事費十二萬圓ヲ以テ本流及支流湯船澤、小野畑澤竝柵澤ニ合計七箇所ノ堰堤ヲ築設スルモノニシテ之ニ依リ本川ノ荒廢ハ大體ニ於テ防止セラルベシ

早川ハ源ヲ箱根火山ノ火口原湖タル蘆ノ湖ニ發シ仙石原ヲ灌漑シ銚子ノ口ニテ一瀉絶壁ヲ下リ宮城火口原ニ入り底倉ニテ蛇骨川ヲ合セ東部外輪山タル明星淺間ノ兩山間ヲ過ギ湯本ニ於テ須雲川火口瀨ト合シ小田原町ノ南方ニテ相模灘ニ注グ急流河川ナリ流域面積百六方粍ヲ有シ流域内最高地點ハ中央火口岳神山ノ絶巔高一千四百三十八米トス而シテ蘆ノ湖ヨリ海ニ至ル流路延長二十二粍河床勾配ハ平均三十分ノ一トス流域内山地ヲ構成スル基岩ハ安山岩ニシテ外見上熔岩ト集塊岩ト在リ地質極メテ脆弱ニシテ容易ニ風化侵蝕ノ作用ヲ受ク地勢ハ一般ニ急峻ニシテ林相ハ粗ニ未立木地多シ震災前流域山地ハ崩壞少ク土石ノ流出亦著シカラザリシガ震災ニ因リ傾斜急ナル山腹ハ到ル處大崩壞ヲ爲シ山容ヲ一

變セシメタリ就中須雲川右岸ノ崩壞ハ最モ甚シク丹澤山壞ノ大崩壞ニ比スベキモノアリ本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費六十五萬圓ヲ以テ本流ニ六箇所、支流須雲川及蛇骨川ニ各一箇所、同常盤澤及大澤ニ各二箇所合計十二箇所ノ堰堤ヲ築造シ多量ノ流下土石ヲ貯溜スルノ外河床ヲ高メテ兩岸崩壞ノ増大ヲ防ギ以テ山腹工事ヲ容易ナラシメ且國道ノ安全ヲ期セントス

堰堤中大平臺上流堰堤ハ五河川流域中最大且最高ノモノニシテ高三十米、長四十二米、築立々積一萬立米、工費二十四萬圓ニシテ貯砂量五十萬立米ニ達シ出山堰堤(高二十米、長四十三米、築立々積五千五百立米)及觀音坂堰堤(須雲川高六十米、長六十米、築立々積七千五百立米)ト相俟テ早川治水ノ死命ヲ制ス計畫遂行ノ曉ニ於テハ河狀大ニ改マリ塔ノ澤以下ノ沿川ハ甚シキ水害ニ禍セラルルコト無カルベク上流ニ於テハ水流緩トナリ侵蝕作用歇ミ昔日ノ狂暴ヲ見ザルニ至ルベシ然リト雖モ工事ノ完全ヲ期セント欲セバ本流ニ對シ追加工事ヲ施行スルハ勿論各支流ニ對シ多數ノ堰堤ヲ築設セザルベカラズ花水川ハ源ヲ東部及中部丹澤山塊ニ發シ其上流部ニ於テ玉鈴、金目、葛葉及水無ノ五川ニ分岐シ下流ニ至リ諸川各合流シテ花水川トナリ大磯町ニ於テ海ニ注グ流域面積二百二十萬軒アリ玉川ハ源ヲ大山ニ發シ東流ス流域山地ハ地勢急峻ナルヲ以テ震災ニ因リ山腹ニハ無數ノ崩壞ヲ生ジ震災直後ノ豪雨ニ際シテハ土石流ヲ形成シ下流部落ニ甚大ナル損害ヲ與ヘ尙今後危險ノ状態ニ在ル家屋十數戸アリ鈴川ハ源ヲ大山(標高一千二百四十六米)ニ發シ南東流ス震災ニ因リ傾斜急ナル水源山地ニハ大面積ノ崩壞ヲ生ジ九月十五日ノ暴風雨ニハ多量ノ崩落土石ト倒木トハ山津浪トナリテ大山町ヲ襲ヒ其大半ヲ倒潰セリ爾來一年町民ハ復舊ニ努力シツツ在リシガ大正十三年九月暴風雨襲來シ山腹ハ益々崩壞ヲ増大シ又々多量ノ土石ヲ流下シテ前年ノ慘禍ヲ繰返スニ至レリ金目川ハ源ヲ大山ノ支峯タル春嶽ニ發シ南流ス震災直後ノ出水ニハ土

石流蓑毛彎曲部ノ堤防ヲ決潰シテ部落ニ侵入シ多大ノ損害ヲ與ヘタリ葛葉川ハ源ヲ三ノ塔山(標高一千二百六米)ニ發シ南流ス震災直後ノ出水ニ因リ土石流ハ入角彎曲部ヲ突破シテ耕地ヲ冒シ廣大ナル耕地ヲ不毛ニ歸セシメ人家ヲ流シ人畜ヲ死傷セシメタリ然ルニ大正十三年九月ノ豪雨ハ又々外量ノ土石ヲ流下シテ其被害前年ニ倍シ將來被害ハ益々増大セントスル狀勢ニ在リ水無川ハ源ヲ塔ヶ嶽(標高一千一百十米)ニ發シ南流後南東流シ秦野町ノ南部ヲ過グ花水川ノ最大支流ニシテ字大倉ニテ山間部ヲ離ルルヤ流水ハ廣大ナル河原地ニ滲透シ其姿ヲ失ヒ荒廢最モ甚シ然リト雖モ沿岸低地ニ人家無キヲ以テ大被害無カリシハ幸ナリキ花水川ノ水源山地ハ地震ノ方向ニ直角ナリシト其地勢急峻ナルトニ因リ震災ニ際シテハ大崩壞ヲ爲シ崩落土石及倒木ハ豪雨ニ會シ一時ニ溪谷ヲ下リシガ上流部ハ河積ノ極メテ陝隘ナリシヲ以テ之ヲ流過スルヲ得ズ遂ニ沿岸ノ地ヲ其狂暴ノ手ニ委スルニ至リシナリ事態斯如ナルヲ以テ直ニ本川ニ大堰堤ヲ築設シ土石ノ流下ヲ扞止セザルベカラズ依テ本工事費二十八萬圓ヲ以テ玉川及水無川ニ各一箇所、金目川及葛葉川ニ各二箇所、鈴川ニ十箇所、合計十六箇所ノ堰堤ヲ築設シ其目的ヲ達セントスルモ右ノ程度ニテハ其效果充分ナラズ更ニ増補工事ヲ施行スルノ要アリトス

多摩川ハ源ヲ秩父連峰標高二千米内外ノ地ニ發シテ東流シ拜島村ニテ秋川、日野町ニテ淺川ノ二大支流ヲ合セ下流ハ東京、神奈川兩府縣ノ境界ヲ爲シテ海ニ注グ砂防工事ヲ施行セントスル流域ハ全部秩父古生層ニ屬シ地勢急峻ナレドモ土地豐饒ニシテ森林ノ生長良好ナリ而シテ本川ハ東京市水道ノ水源地ナルヲ以テ市ハ水源涵養ノ目的ニテ山林ヲ買收シ又ハ借入レ其經營ニ努力スレドモ大消費地タル市ニ遠カラザル關係上他ノ森林ハ濫伐セラレ山地ハ極度ニ荒廢シ甚ダ寒心スベキ狀況ヲ呈スルニ至レリ依テ東京府ニ於テハ大正七年度以來本川流域ノ砂防工事ニ著手シ同十二年度迄繼續施行セリ震災ニ因ル山

地ノ崩壊ハ他ノ四箇川流域ニ比シ遙ニ輕キモ山地到ル處ニ龜裂アリ將來益々崩壊面積ヲ増大スルノ虞アリ殊ニ東京市上水道ニ對シ重大ナル關係アルヲ以テ其砂防ハ一日モ忽諸ニ附シ難シ本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費五十五萬圓ヲ以テ青梅町以奥多摩川本流々域四百五十七方糎、五百市以奥秋川流域百四十一方糎及八王子以奥淺川流域百三方糎合計七百一方糎ノ流域内河川適當ノ箇所ニ五十六箇所ノ堰堤ヲ築設シ川床ノ侵蝕ヲ防グト共ニ土石ノ流下ヲ扞止シ尙崩壊ノ増大ヲ防止シ且ツ將來行ハルベキ山腹工事ノ基礎タラシメントス

施行狀況

本工事ハ前年度ノ創業ニ係リ同年度ニハ道志川、桂川、河内川、花水川及多摩川ノ六獨立工場ニ於テ各分擔河川流域ノ工事ヲ施行シタルガ本年度ハ新ニ中津川、笹子川、鮎澤川及小菅川ノ四獨立工場ヲ設置シ都合十工場ニ於テ施工ヲ爲セリ而シテ年度内ニ施行セル工事ハ堰堤三十五箇所ニシテ其設計大要及竣功高左ノ如シ

相	本流	支流	小支	小々支	名稱	設計		前年度竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
						高	長	築積立	工費	築積立	工費	築積立	工費	
道志川			横山澤		横山澤堰堤	一五	三一	一、一六九	二八、七〇〇	四二九	一一、九一四	一、三〇五	二七、一五一	一、〇〇〇
神ノ川			小瀬戸堰堤		小瀬戸堰堤	一五	三二	二、〇七七	四六、五〇〇		二、一三三	八六五	三〇、〇六一	〇・六五
			大瀬戸堰堤		大瀬戸堰堤	一六	三三	二、六八一	六三、三〇〇		一八、〇七六	五七一	一八、〇七六	〇・二九
			此間澤堰堤		此間澤堰堤	一六	二三	一、三三八	二九、五〇〇		九〇六	九〇六	一六、六七七	〇・五七

多摩川											花木川			小						
秋川			日原川				入澤川				小	金目川			鈴川	小				
養澤川			保久保澤				計	計	計	計		計	計	計	計					
養澤第三堰堤	養澤第二堰堤	養澤第一堰堤	澤入堰堤	日向薙堰堤	大指堰堤	前山堰堤					大久保堰堤					七鞍堰堤	下鞍堰堤	瀬石堰堤	大藏堰堤	春嶽堰堤
四	四	三	六	六	六	七	六	六	六	六	八									
一五	一九	一四	二一	一九	二一	二九	二二	三六	四三	三四	三三									
一五二	一五二	六一	二九五	二七二	二六五	四四五	三〇六	五七六	六九〇	四八七	五〇九	二、六八四	一、四四七	九六九	二六八	一八、六三二				
二、五八四	二、五八四	一、二〇〇	五、〇九〇	四、四二〇	四、三五〇	七、八二〇	五、一五〇	一〇、九八〇	一二、八〇〇	八、六五〇	八、七九〇	五八、九〇〇	二七、八〇〇	二四、一〇〇	七、〇〇〇	四二〇、七〇〇				
		三六			一八三		一一一	四六二	一五〇		三二五	一一六			一一六	一、六八八				
	四八七	八九九			三、三一五		二、九七五	九、〇一六	五、三〇二	三一〇	五、五四一	三、〇二九			三、〇二九	三二、九八七				
一四四	一一八	一三	二九五	二七二	八二	六〇	一八五	一一四	五四〇	四八七	三七	一、四八九	六六七	六六四	一五八	四、〇九一				
二、五八三	一、七三一	一八二	四、九一一	三、九二四	九六二	二、二二七	二、一七五	一、九五〇	七、三五七	八、一七四	一、〇五九	二八、一六七	一一、五七二	一三、五三五	三、〇六〇	六四、八二〇				
一四四	一一八	四九	二九五	二七二	二六五	六〇	三〇六	五七六	六九〇	四八七	三六二	一、六〇五	六六七	六六四	二七四	五、七七九				
二、五八三	二、二一八	一、〇八一	四、九一二	三、九二四	四、二七七	二、二二七	五、一五〇	一〇、九六六	一二、六五九	八、四八四	六、六〇〇	三、一九六	一一、五七二	一三、五三五	六、〇八九	九七、八〇七				
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	〇・二八	一〇〇	一〇〇	一〇〇	〇・九八	〇・六八	〇・五三	〇・四二	一〇〇	一〇〇	〇・二三				

第二 橫濱港震災復舊工事

(橫濱土木出張所)

緒言

本工事ハ別項第四章中橫濱港修築工事ニ於テ説述セルガ如ク大正十二年九月一日ノ大震災ニ際會シ多年巨費ヲ投ジテ完成ヲ見タル岸壁、棧橋、防波堤、締切工等殆ンド港灣諸設備ノ一朝ニシテ悉ク破壊セラレタルヲ以テ震災直後應急假設工事ニ引續キ之ガ復舊ノ計畫ヲ樹立シ橫濱港復舊及修築工事トシテ第三期修築工事ト共ニ復舊工事ヲモ施行シ大正十四年度迄ニ急速完成ヲ期セントスルニ在リ其震災復舊費ニ要スル總豫算額ハ九百二十五萬五千五百四拾六圓(事務費ヲ含ム)ナリトス

復舊工事計畫概要並施工狀況

震災復舊工事計畫概要ハ既ニ前年度年報ニ詳述シタルガ如ク前年度迄ニ於テ既ニ本工事ノ大部分ヲ完成シタレバ本年度ハ單ニ棧橋及護岸ノ殘存工事ヲ施行シタルニ過ギズ左ニ施行狀況ヲ記述セントス

一 棧橋復舊工事

棧橋ノ震害ハ全長二百七十二間ノ内主體二百二間ノ側部ヲ危ク殘シ他ハ全部挫折陷落シ陸接部ハ沈下シ護岸ハ倒塌セリ然レ共震災直後ニ於テ殘存部ガ大船ノ繫留ニ支障無キヲ確メ得タルヲ以テ直ニ兩側殘存部ノ接續床張聯絡木橋ノ架設震災直後ニ於テハ一時舟橋ヲ設ク防衝材ノ修理等應急工事ヲ施シ避難民ノ輸送船及一般外航客船ノ接岸繫留ニ供スルコトヲ得タリ

斯ノ如ク棧橋ハ本港唯一ノ接岸繫留場タリシヲ以テ其復舊工事ハ新港岸壁竣功後ニ讓リ專ラ殘骸ノ取片付ヲ爲シ同十三年二月ヨリ愈本工事ニ著手セリ

一 計畫ノ概要 兩側殘存部ハ其橋脚ノ傾斜棧橋基部ニ於テハ僅少ナルモ先端ニ至リ其度ヲ増シ先端ニ於ケル兩側混凝土橋脚三箇所ハ其傾斜八度乃至二十五度ニ及ビ危險ノ状態ニ在リシヲ以テ之ヲ除去スル爲メ棧橋本體ヲシテ約三十七間陸地ニ接近セシムルコトトセリ即チ本體ハ其延長ニ變化無ク聯絡橋ニ於テ其長サヲ短縮ス之ガ爲メ棧橋基部ニ於テ新ニ左右各二箇所ニ鐵筋混凝土橋脚ヲ築造シ在來ノ繫船用獨立橋脚左右各一箇所ト共ニ延長約三十七間タラシメタリ又中央部ハ全ク修理ノ見込無キヲ以テ破損物ヲ除去シ全部新造スルコトトセリ而シテ新棧橋ノ構造ハ耐力地質工費及工事期間等ヲ考慮シ大體舊構造ニ倣ヒ尙一層強固ナラシメンコトヲ期セリ即チ中央部舊鐵柱ハ鑄鐵圓筒ニシテ螺旋沓(徑五呎)帶金物等ハ鑄鐵材ヲ使用シ綾鍔ハ直徑一吋半丸鋼ヲ使用シアリタルヲ改メ新鐵柱ハ徑七吋丸鋼トシ螺旋沓(徑六呎)柱冠金物帶金物等ハ總テ鑄鋼ヲ使用シ綾鍔ハ徑二吋丸鋼トス又床構ハ舊棧橋中央部ニ於テハ木材ヲ使用シ在リタルヲ全部鋼桁ヲ以テ組立テ床ハ鐵筋混凝土床版厚五寸ヲ施工セリ鋼桁ハ鐵柱頭部柱冠金物上ニ高十八吋ノ工形鋼ヲ横列ニ架シ縱桁ハ十二吋工形鋼トス更ニ床版ヲ支持スル爲メ七吋工形鋼ヲ配シ床版ノ支持間隔ヲ五呎ナラシム兩側部ニ於テハ在來使用シ在リタル二十四吋鈹桁ヲ修理シ十二吋及七吋工形鋼ト共ニ縱横ニ橋脚ヲ連ネ床版ヲ支持ス兩側部ト中央部トヲ結合スル鋼桁ハ其間隔ニ應ジ八吋乃至十二吋工形鋼ヲ使用ス又捻込ヲ要スベキ鐵柱橋脚ハ總數六百八十五箇所ニシテ内百六箇所ハ古鐵柱(徑六吋及六吋半丸鋼)ヲ使用ス橋脚ノ位置ハ海底土中ニ殘存スル在來ノ螺旋沓ヲ避ケ其中間ニ捻込ミ忒々距離ハ縱横十五呎ヲ標準トス

鐵柱ノ根入ハ在來ノモノヨリ三、四尺深クシ二十五尺乃至二十八尺トス而シテ兩側殘存部ニ於ケル鐵筋
混凝土橋脚ハ破損セル上部ヲ取去リ傾斜ノ儘鐵筋混凝土ニ依リテ頑丈ニ補強シ傾斜セル鐵柱ハ之ヲ垂
直ニ引起シ頭部ヲ揃ヘ鋼桁ヲ架設ス新設混凝土橋脚ハ大體在來ノモノト同様ナルガ基礎杭ニハ長四十
五尺、末口七寸ノ松丸太及一尺二寸角米松材長三十尺ヲ使用シ一層支持力ヲ大ナラシメ杳ハ各柱ニ徑十
一呎、高十一呎ノ中空函ヲ使用シ在リタルヲ改メ内外ハ柱ヲ通ジテ幅十呎、長二十七呎、高十呎ノ無底函ヲ
用ヒ以テ橋脚ノ橫張リニ對スル抵抗力ヲ增加セシム、鐵柱橋脚相互及混凝土橋脚トノ間ハ綾構材ニ依リ
テ結合シ鋼桁及床版ト共ニ各橋脚ヲ連ネテ一體ト爲シ全體トシテノ強度ヲ發揮セシム船舶繫留ニ對シ
テハ各混凝土橋脚ニ防舷ヲ取付ケ繫船柱ヲ配シ棧橋突端ニハ防衝工ヲ設ケテ棧橋頭部ノ保護ニ充ツ
二施工狀況 棧橋工事ニ於テハ前述ノ如ク先ヅ破損物ヲ除去シテ建設セザルベカラズ又中央部ハ全部
改造ヲ要シ兩側部ハ上部修理ノ爲メ床版ノ取除ヲ要ス一方新設スベキ混凝土橋脚在リ又舊鐵柱其他鐵
材ノ内使用ニ堪ヘルモノハ引揚ゲ修理加工シ極力之ガ利用ニ努メ以テ工費ノ節約ヲ圖レリ從テ此等破
損物ト新造物トノ關係、中央部ト兩側部トノ關係、材料ノ準備、諸機械ノ能力其他ヲ考慮シ工事施行ノ順序
ヲ定ムルコトハ最モ重要ニシテ之ガ適否ハ工程及工事ノ難易ニ影響スル所甚大ニシテ當事者ノ頗ル苦
心セル所ナリキ而シテ捻込ミヲ要スベキ鐵柱ハ計畫概要ニ述ベタル如ク總數六百八十五本ニシテ之ヲ
七箇月ニテ竣功セシムルニハ一箇月平均九十八本トナルガ故ニ之ヲ標準トシテ諸工事ノ施工位置及順
序ヲ定メタリ前年度ニ於テハ著手後日尙淺ク破損物取除ノ六十%、混凝土床取除七十五%、鐵柱橋脚工二
十九%、鋼桁架渡十六%ヲ施工シタルノミニシテ他ハ準備中ナリシガ本年度ニ於テ混凝土橋脚補修及新
設床版、防舷工其他ノ工事ヲ加ヘ同十四年九月末日ニ到リ殆ント竣功シ棧橋主體及聯絡橋ノ復舊ヲ完成

セリ

茲ニ於テ繫船停止ヲ解キ船舶ノ便ヲ圖ルト共ニ突端ニ於ケル障害物取除及防衝工等ヲ施行シ同年十一月三十日ヲ以テ全工事ノ竣功ヲ告ゲタリ此工費百九十四萬九千三百三十八圓、延長二百二十九間八七トス

一 岸壁及護岸工事

象ノ鼻護岸ハ棧橋基部ニ於ケル波除堤ニシテ震災ニ依リ沈下セル爲メ上部ニ補修工事ヲ施スモノナリ而シテ前年度ニ於テ基礎工及場所詰混凝土壁體ヲ施工シ本年度ハ主トシテ浚渫及後方混凝土スラブ敷詰ヲ施行セリ此工費一萬一千八百三十五圓、延長七十八間六ニシテ大正十四年十二月五日竣功セリ

五號護岸波除堤築造工事ハ棧橋接屬地東側水面小蒸汽船繫留場トシテ港内外碇泊船ノ海陸連絡ノ衝ニ方リ港内重要ノ地點ナルモ波除堤無キ爲メ風波ノ場合之ヲ利用スルコトヲ得ズ一般使用者ノ夙ニ痛感スル處ナリ茲ヲ以テ復舊工事ノ豫算内ニ於テ之ガ築造ヲ計畫シ大正十三年二月工事ニ著手シ同十四年七月竣功セリ此工費二萬五百八十圓、延長六十間ナリ

願レハ大正十二年九月一日ノ劇震ニ因リテ壞滅ニ歸シタル横濱港ノ港灣設備モ同年十月二十一日復舊工事ニ著手後僅々二箇年一箇月即チ同十四年十一月三十日ヲ以テ茲ニ全工事ノ竣功ヲ告ゲタリ左ニ主要工事及金額數量ヲ揚グ

種	岸壁及護岸費	別	竣功額數	量	摘要
防波堤費		一號岸壁復舊	三八、四〇四	六六・〇	
		二號岸壁復舊	二二、八二五	六一・〇	
		三號岸壁復舊	三三二、〇八〇	七六・〇	
		四號岸壁復舊	五三〇、三七〇	一一四・二	
		五號岸壁復舊	二三八、九二八	六三・五	
		六號岸壁復舊	五一、四四一	一一四・〇	
		七號岸壁復舊	三六七、三五三	九四・一	
		八號岸壁復舊	二八二、四三六	八〇・二	
		九、十、十一號岸壁復舊	一、二九七、九〇二	二二四・六	橫棧橋(九號岸壁百七間)
		十二、十三號岸壁復舊	三二九、三九一	一〇八・二	(十、十一號岸壁百十七間六分)
		五十間及六十間海壁	七九、八六一	一三六・〇	十二號岸壁 五十一間三分
		揚場	一三〇、六三七	三四九・七	十三號岸壁 五十六間九分
		護岸	一五三、八八二	四五四・五	
		雜工事	七三、四一〇		
		小計	三、九一八、九二〇		
	東水堤、本堤復舊		二六三、九三四	五〇〇・〇	
	北水堤、本堤復舊		一六六、六〇二	三〇〇・〇	

種 別		竣功金高	數 量	摘 要
種	小計	四三〇、五三六 円		
	萬國橋橋臺復舊	二〇、二九一	一臺	
橋 梁 費	新港橋復舊	三一、四三四	一	
	小計	五一、七二五	二	
棧 橋	復舊費	一、九四九、三三七	二二九・八七 期	(棧橋本體 二百三間二分三厘 連絡橋 二十六間二分四厘)
	港內海掃費	二七、二六四	一一、〇九五三〇 坪	
船 舶 及 機 械 費	船類	五六七、一九四		
	型 桙	一七五、一〇〇		
	機 械 器 具	三五六、六五二		
	修 繕	五三五、五一九		
	小計	一、六三四、四六五		
	工 場 設 備	一五六、三〇八		
雜 費	工 建 設	七〇〇、二二六		
	諸 事 物	一六六、五二六		
	雜 費	二四六、一七五		
	小計	一一一三、二二九		

第五章 復舊工事 (橫濱港震災復舊工事)

總計	事務費	合計 (事業費)	共濟組合給與金	小計
八、九九六、三八一	三二五、六四八	八、六七〇、七三三	一九、二五一	六三九、二五一

第三 利根、渡良瀬兩川水害復舊工事

(東京土木出張所)

緒言

本工事ハ大正十四年八月中旬ニ於ケル稀有ノ出水ニ依リ利根川、本川筋、派川、江戸川及渡良瀬川ノ被害ヲ復舊スル工事ニシテ大正十四、十五兩年度ニ於テ工費豫算五十九萬圓(内利根川改修工復舊二十萬圓、渡良瀬川改修工復舊七萬圓、利根、渡良瀬兩川維持工復舊三十二萬圓)ヲ以テ施行スルモノトス
今兩川ニ於ケル出水竝被害ノ狀況ヲ記述スベシ

大正十四年八月十二日天候俄ニ險惡トナリ翌十三日北東ノ風勢加ハルト共ニ強雨ヲ齎ラシ同十四日ヨリ風向東南ニ變更スルニ及ビ益々其勢ヲ逞フシ間歇的豪雨トナリ連續シテ十六日ニ至レリ之ガ爲メ各河川ハ急激ニ増水シ十七日ニ至リ一大洪水ト變ジ渡良瀬川ハ大正十一年八月ノ高水位、古河六米一四(明治四十三年以來ノ大洪水)ヨリ高キコト約十糎ニ及ビ利根川本川筋栗橋以下ニ於テハ計畫高水位ニ垂ントシ下流佐原附近ニ於テハ明治四十三年ノ大洪水位ニ比シ尙約一米ノ高位ヲ示シ派川、江戸川筋ハ關宿ニ於テ零位以上四米七二トナレリ而シテ其最大洪水流量ハ栗橋ニ於テ四千七百九十每秒立米、目吹ニ於テ三千三百六十立米ニ達シ濁流ハ滔々トシテ堤外ニ漲リ矢ノ如キ水勢ハ兩岸ニ激衝シ之レガ爲メ護岸ノ破損崩壞、制水ノ沈下流失等頻出シ其危險言フベカラズ加フルニ同月下旬再ビ出水ヲ見タレバ一層其被害ヲ擴大セリ之ヲ各川別ニ擧グレバ利根川本川筋第三期部内ハ上流芝根村以下下流稻戸井村ニ至ル十四箇町村地先ニ於テ三十箇所、延長五千五十米、其下流第二期部内ハ布佐、市川ノ狹窄部以下佐原町ニ至

ル間ニ於テ六町村地先十一箇所延長一千六百二十米、派川江戶川ハ五霞村以下下流行徳迄ノ間ニ於テ十
六町村地先三十九箇所延長四千三百八十米ニ達シ渡良瀬川ハ上流部岩井以下及思川上流間中地先竝赤
麻周圍堤等ニ於テ二十二箇所延長三千二百八十米竝築堤二箇所ナリトス是等被害箇所ハ直ニ修補スル
ニ非ザレバ惹テ堤防ノ崩壞ヲ招キ其慘害ノ程度揣リ知ルベカラザルヲ以テ第五十一議會ノ協賛ヲ經テ
當年度ヨリ施行スルコトトナレリ左ニ本年度各川期別ニ施行ノ狀況ヲ略述スベシ

施工狀況

本工事ハ極メテ急施ヲ要スルヲ以テ何レモ可及的速成ニ努メ豫定ノ進行ヲ圖レリ即チ第二期部内ニ在
リテハ木下、安食滑河及佐原ノ各町地先護岸ノ内破損最モ甚シキモノ四箇所ヲ施工シ延長三百八十米ヲ
竣成シ制水ハ小貝川落口附近ニ於テ右岸布佐制水流失シ流路亂レ航路ヲ閉塞スル虞アルヲ以テ之ガ修
補ニ著手シ外ニ布川及安食二箇所ヲ施工シ護岸及制水工費三萬六千三百四十三圓ヲ支出セリ
第三期部内ニ於テハ大震災直後緊急止ムヲ得ザル大破損箇所ヲ復舊セシモ小破損箇所ニ至リテハ其數
夥シク修補ノ遑無カリシヲ以テ如斯箇所ハ勢ヒ破損シ易ク加フルニ八月末再度ノ出水ニテ更ニ破損ノ
程度ヲ高メタリ本年度ニ於テハ仁手、永樂、川俣、大箇野、利島、二川ノ各村地先護岸中舊石張、沈床等大破セル
モノ六箇所延長二千四百五十五米ヲ復舊シ内仁手村及永樂村兩地先ハ急流部ニ屬シ沈床ハ完全ナル根固
トナラザルヲ以テ換フルニ短キ鐵筋材合掌杵ヲ數箇所ニ設置セリ
制水修補ハ栗橋、木間、ヶ瀬、稻戶井各町村地先三箇所最モ急ヲ要シ且耐久力等ノ關係ニ依リ主トシテ杭打
上置ヲ以テシ延長六百六米ヲ施工シ護岸及制水工費八萬二千百九十三圓ヲ支出セリ

江戸川部内ハ其被害關宿以下下流行徳迄殆ント全川ニ互リ内最モ被害ノ大ナルヲ豊岡、寶珠花、富多馬橋、八木郷ノ各村地先護岸竝松戸、金町、市川ノ各町地先制水ナリトス是等ハ堤防其他ノ工作物ニ影響ヲ及ボスコト大ナルヲ以テ直ニ工事ニ著手シ上記ノ外年度内關宿梅郷、市川、行徳ノ各町村地先護岸竝梅郷、三輪、野江、新川馬橋、明村、八木郷、行徳ノ各町村地先制水ヲ復舊シ計護岸九箇所延長一千五百二十米、制水十三箇所延長四百八十一米ヲ施工シ工費合計八萬二千九十四圓ヲ支出セリ

渡良瀬川上流部ニ於テハ岩井、福富、鵜木、上野田、早川田、西岡等ノ屈曲部竝流勢堤脚ニ接スル箇所ハ激流ノ爲メ護岸工ノ基礎沈床破損又ハ流失シタル箇所尠ナカラザルヲ以テ基礎ニハ主トシテ粗朶沈床ヲ施工シ法面ハ箇所ニ依リ鐵線蛇籠工ヲ施行セリ又右岸毛野村岩井地先ハ對岸神明地先屈曲部ト共ニ相當防禦ヲ必要ト認メ新ニ水刳工トシテ新舊沈床ヲ挾ミ五箇所ニ鐵筋混凝土工方角枠ヲ設置シテ其安全ヲ圖レリ又思川筋上流部ハ穗積村間中地先沈床工ノ前面破損流失セシヲ以テ更ニ粗朶沈床工ヲ補足セリ斯クテ年度内護岸制水七箇所延長九百二十五米ヲ施工シ工費二萬七千七百二十七圓ヲ支出セリ

下流部(維持區域内)ニ於テハ海老瀬村間耕地先舊川締切部二箇所及部屋村帶刀地先堤防敷ハ何レモ地盤不良ノ爲メ堤内ニ滲透湧水シ且堤表ノ一部洗ヒ掘ラレシヲ以テ其堤外脚ニ相當犬走リヲ附シ且其前面ニ法先杭打、柵工ヲ施シ赤麻、笠場ノ溪間締切堤ハ廣漠タル赤麻沼ニ面シ激浪ニ洗ハレ漸次護岸工ヲ破損シ其法面ヲ侵蝕セシヲ以テ先ヅ石張ニ依リ法面ヲ修補シ前者ハ法先杭柵工ヲ施シ其背面ヲ埋立テ犬走ヲ附セリ又藤岡新川低水路下流部護岸ハ洗掘破壞シタル箇所アルヲ以テ其川床ハ低水路幅ノ粗朶沈床ヲ五箇所ニ沈設シテ床止ト爲シ亦法石張蛇籠工ノ破損ヲ復舊セリ

斯クテ年度内護岸制水五箇所延長八百四十五米ヲ施工シ工費二萬四千五百二十三圓ヲ支出シ堤防二箇所

所ヲ修補シ工費二千五百九十八圓ヲ支出セリ
 上記各水害復舊ニ要スル工費ハ江戸川筋ハ利根川改修工復舊費ヨリ利根第二期同第三期、並渡良瀬川下
 流部ハ利根、渡良瀬兩川維持工復舊費ヨリ渡良瀬川上流部ハ渡良澤川改修工復舊費ヨリ各支出スルモノ
 トス本年度總竣功額ハ二十七萬九千二百二十二圓ニシテ之ヲ總工費五十九萬圓ニ比スレバ四割七分ニ當
 ル此内利根、渡良瀬兩川維持工復舊ニ係ル本年度竣功額ヲ表示スレバ次ノ如シ

種別	利根川第二期		利根川第三期		渡良瀬川下流部		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本築堤費	—	—	—	—	—	—	—	—	—
工事護岸水費	三八〇米	三六、三四三	二、七五一米	八二、一九三	四、五五五米	二、五九八	四、五五五	二、五九八	—
船舶及機械費	—	—	—	—	八四五	二四、五二三	三、九七六	一四三、〇五九	—
施行中諸費	—	—	—	—	—	—	—	—	—
共濟組合給與金	—	一六六	—	七、四二四	—	—	—	—	—
總計	—	三九、八八〇	—	八九、九〇四	—	二九、九一三	—	一五九、六九七	〇・五〇

又利根川、渡良瀬川、各改修工復舊ニ係ル本年度竣功額ヲ表示スレバ左ノ如シ

種別	利根川改修工復舊(江戸川)		渡良瀬川改修工復舊(渡良瀬川上流部)		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
本工事護岸制水費	二、〇〇一	八二、〇九四	九二五	二七、七二七	二、九二六	一〇九、八二一
船舶及機械費	—	九〇〇	—	三九九	—	一、二九九

種別	利根川改修工復舊(江戸川)		渡良瀬川改修工復舊(渡良瀬川上流部)		合計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
施行中諸費	—	六、二七二 円	—	一、七三五 円	—	八、〇〇七 円
共済組合給與金	—	二二五	—	七三	—	二九八
總計	—	八九、四九一	—	二九、九三四	—	一一九、四二五
竣功歩合	—	〇・四五 割分	—	〇・四三 割分	—	〇・四四 割分

大正十四年度直轄工事報

(終)

昭和二年二月十八日印刷

昭和二年二月二十二日發行

内務省 土木局

印刷者 高橋 郡 一 郎

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社 秀英舍

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

電話牛込自一五一〇至一五一五番